

木津川市
高齢者実態調査等
結果報告書

令和5年3月
木津川市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査目的	1
2 実施要領	1
3 報告書の見方	3
II. 市民向け調査結果	5
1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	5
1 調査対象者属性	5
2 家族や生活状況について	7
3 からだを動かすことについて	14
4 食べることについて	23
5 毎日の生活について	28
6 地域での活動について	36
7 たすけあいについて	48
8 健康について	56
9 認知症について	63
10 その他	68
11 意見・要望	97
12 生活機能評価等に関する分析	98
2. 在宅介護実態調査	110
1 調査対象者属性	110
2 調査対象者本人について	112
3 主な介護者について	132
4 介護者の就労について	139
5 主な介護者以外の介護者について	143

Ⅲ. 事業所向け調査結果	145
1. 介護人材実態調査	145
2. 居所変更実態調査	152
3. 在宅生活改善調査	155
4. 介護サービス事業所調査	163
1 事業所について	163
2 職員の確保について	167
3 研修や資格に関することについて	175
4 事業所等の運営に関することについて	179
5. 介護支援専門員調査	187
1 回答者属性	187
2 勤務状況について	189
3 介護支援専門員としての業務について	191
4 意見・要望	205

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、「第 10 次木津川市高齢者福祉計画・第 9 期木津川市介護保険事業計画（令和 6 年度～令和 8 年度）」の策定にあたり、市民の現在の心身の状況や、介護保険制度・高齢者福祉サービスに対する考えや意向などを把握するとともに、効果的な介護予防施策や取組の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

2 実施要領

〔1〕市民向け調査




	調査区分	
	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
(1) 調査対象	令和 4 年 1 月 1 日現在で、要介護認定（要介護 1～5）を受けていない 65 歳以上の市民（無作為抽出）	令和元年 11 月 1 日以降に介護保険の更新申請又は区分変更申請等を行い、認定調査を受けた在宅の市民（無作為抽出）
(2) 調査期間	令和 4 年 1 月 2 日（金）～1 月 23 日（金）	
(3) 調査方法	郵送配布、郵送回収	
(4) 配布数	2, 000 件	1, 000 件
(5) 有効回収数 [有効回収率]	1, 260 件 [63. 0%]	540 件 [54. 0%]

I. 調査の概要

[2] 事業所向け調査

	調査区分				
	介護人材 実態調査	居所変更 実態調査	在宅生活 改善調査	介護サービス 事業所調査	介護支援 専門員調査
(1) 調査対象	市内の介護サービス事業所				
訪問系	○			○	
施設・居住系	○	○		○	
通所系	○			○	
小規模多機能型 居宅介護			○	○	
居宅介護支援 事業所			○	○	○
	※介護サービス事業所調査は、単独の調査ではなく、介護人材実態調査・在宅生活改善調査に含めて調査。				
(2) 調査期間	令和5年2月3日(金)～2月17日(金)				
(3) 調査方法	メール送信、メール・FAX・郵送にて回収				
(4) 対象事業所数	総数100件				
	81件	25件	22件	100件	-
(5) 有効回収数 [有効回収率]	70件 [70.0%]				
	56件 [69.1%]	14件 [56.0%]	19件 [86.4%]	72件 [72.0%]	40件

3 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合これ以外の場合は、特に断りがない限り、単数回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問です。
- (5) 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- (6) 表中の  は一番目に多い割合の項目、 は二番目に多い割合の項目、 は三番目に多い割合の項目を示しています。

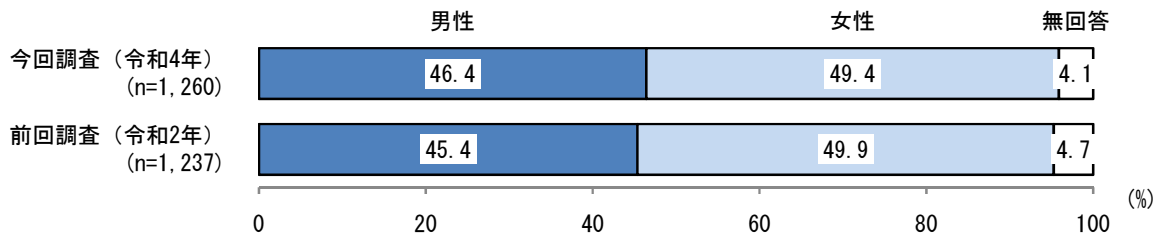
Ⅱ. 市民向け調査結果

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 調査対象者属性

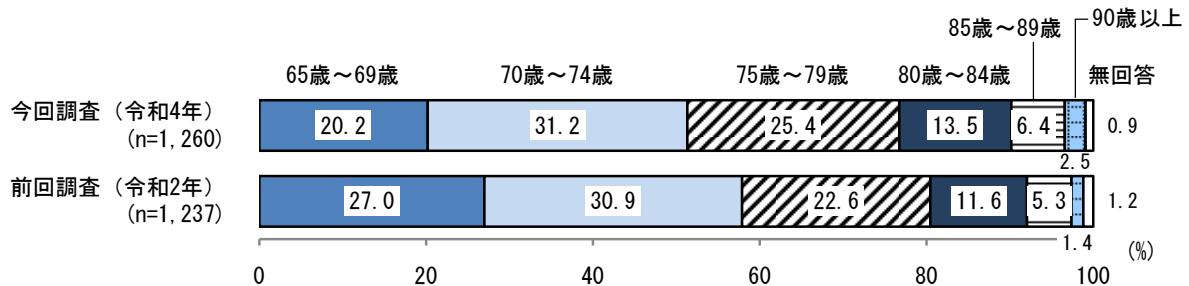
〔1〕性別

調査対象者の性別は、「男性」が46.4%、「女性」が49.4%となっています。

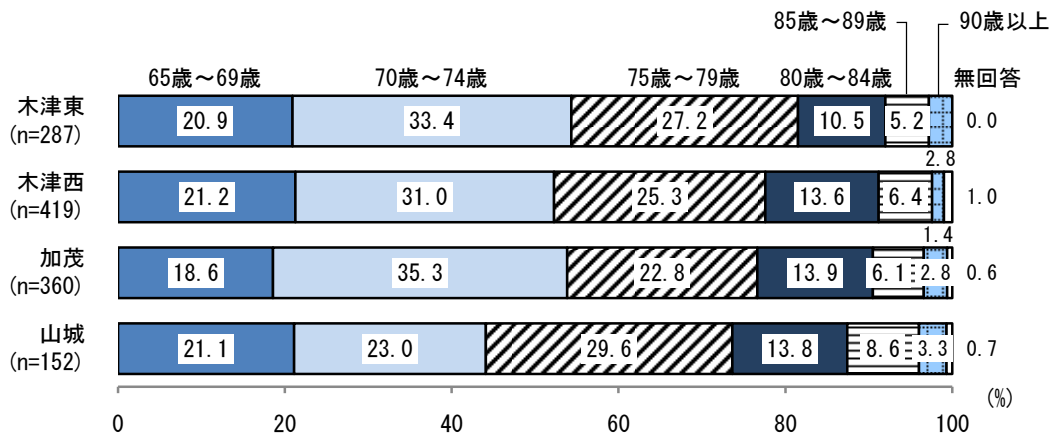


〔2〕年齢

調査対象者の年齢は、「70～74歳」が31.2%と最も多く、65～74歳の前期高齢者は合計51.4%、75歳以上の後期高齢者は合計47.8%で、前回調査に比べて後期高齢者の割合が6.9ポイント増加しています。

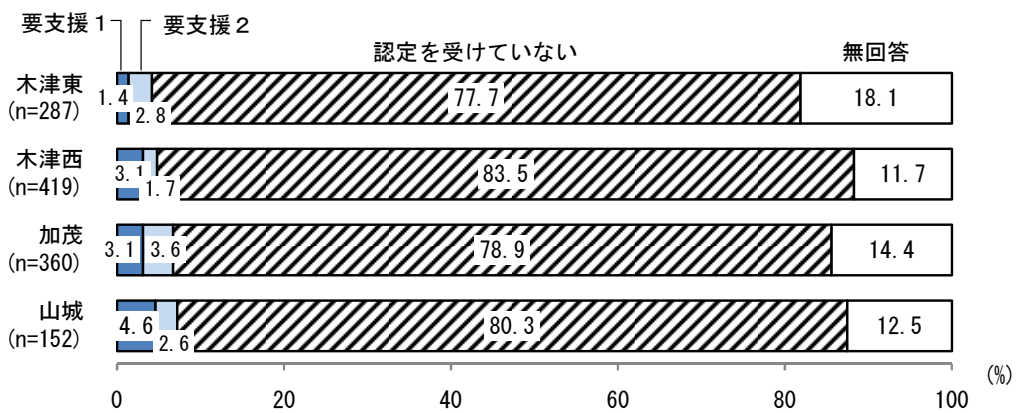
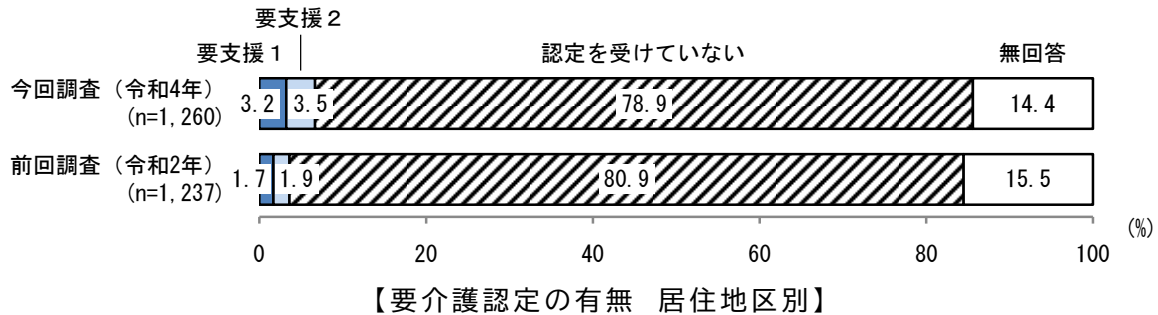


【年齢 居住地区別】



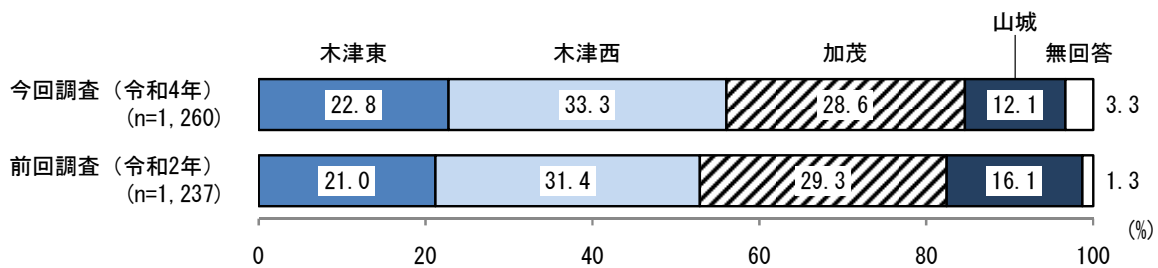
〔3〕要介護認定の有無

要介護認定の有無は、「認定を受けていない」が 78.9%、「要支援 1」が 3.2%、「要支援 2」が 3.5%で、要支援認定者は合計 6.7%となっています。前回調査に比べて、要支援認定者の割合が 3.1 ポイント増加しています。



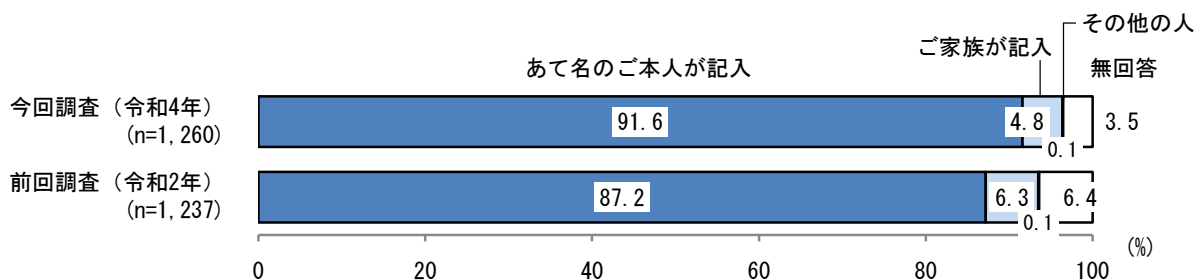
〔4〕居住地区

居住地区は、「木津西地区」が 33.3%と最も多く、次いで、「加茂地区」が 28.6%、「木津東地区」が 22.8%、「山城地区」が 12.1%となっています。



〔5〕調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」が 91.6%と多く、「ご家族が記入」が 4.8%となっています。



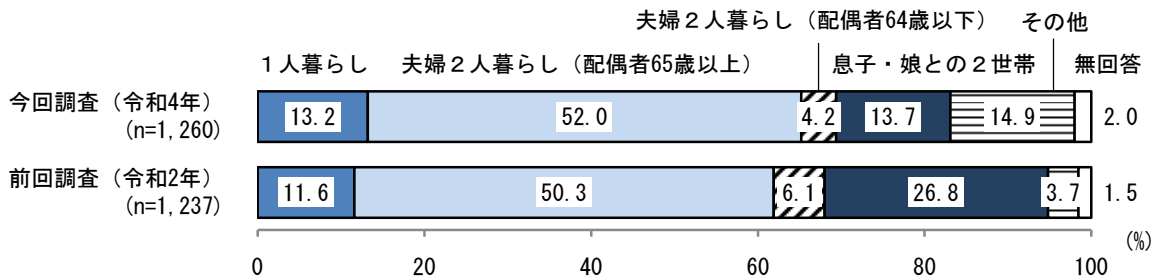
2 家族や生活状況について

[1] 家族構成

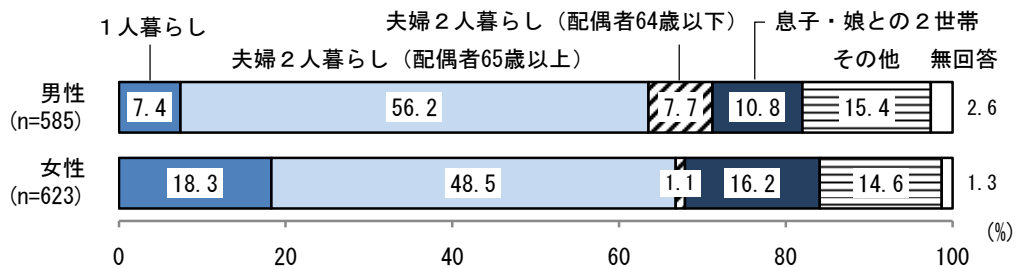
問1(1) 家族構成をお教えてください

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が52.0%と最も多く、次いで、「息子・娘との2世帯」が13.7%、「1人暮らし」が13.2%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が4.2%となっています。前回調査に比べて、「1人暮らし」が1.6ポイント、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が1.7ポイント増加しています。

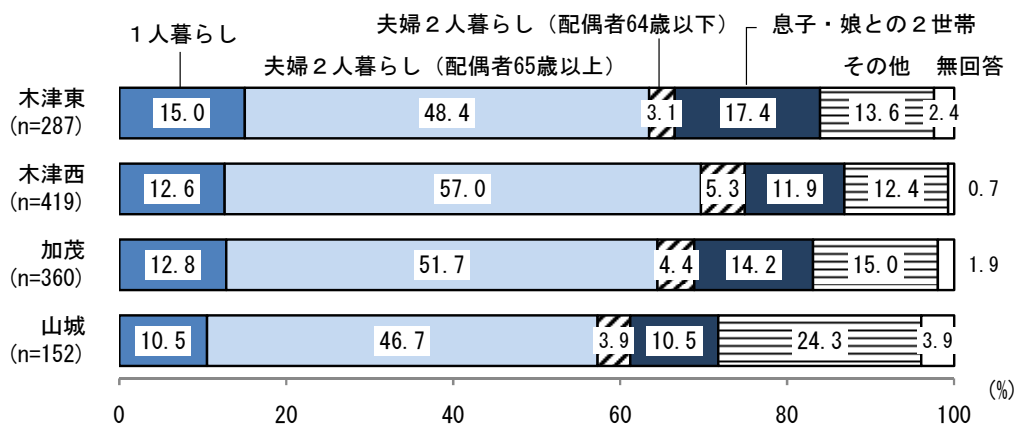
性別にみると、女性では「1人暮らし」が18.3%、「息子・娘との2世帯」が16.2%と男性に比べて多くなっています。また、居住地区別にみると、木津東地区で「1人暮らし」が15.0%、「息子・娘との2世帯」が17.4%と他の地区に比べて多くなっています。



【家族構成 性別】



【家族構成 居住地区別】

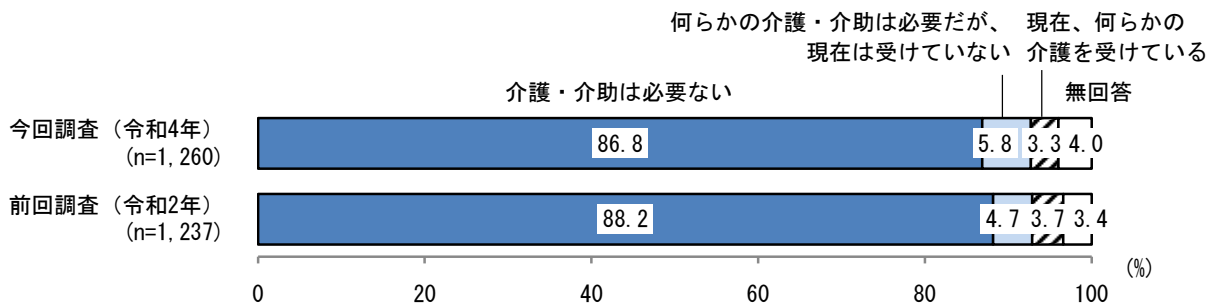


〔2〕介護・介助の必要性

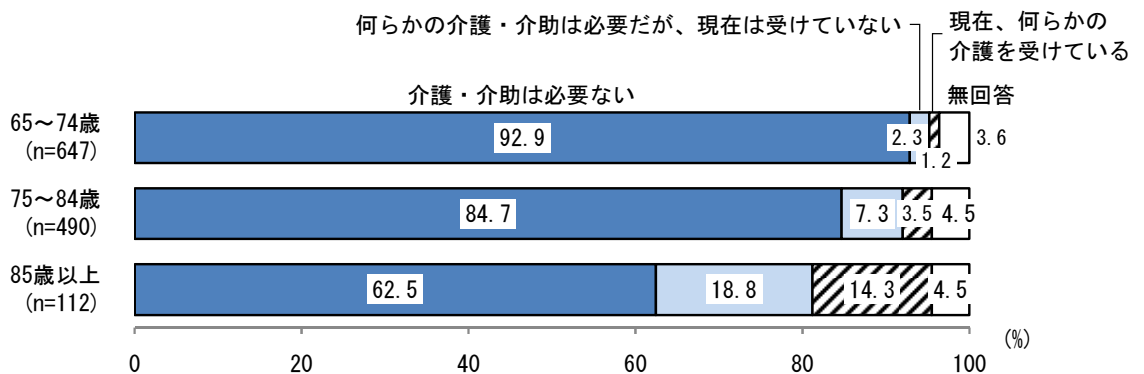
問1(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

介護・介助の必要性は、「介護・介助は必要ない」が 86.8%で、介護・介助の必要な人は合計 9.1%となっています。

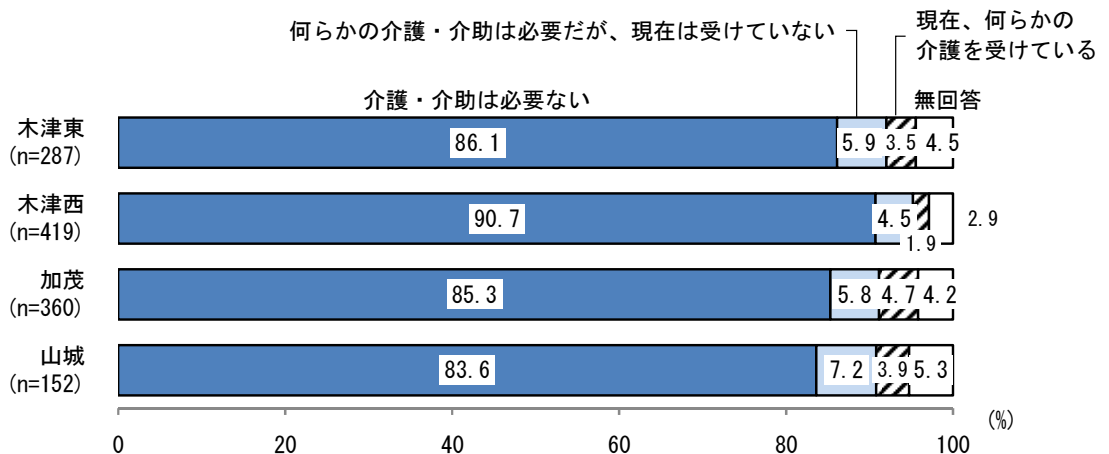
年齢別にみると、介護・介助の必要な人は 75～84 歳で 10.8%、85 歳以上で 33.1%と年齢が上がるにつれて多くなっています。また、居住地区別にみると、介護・介助の必要な人は木津西地区では 6.4%と少なくなっています。



【介護・介助の必要性 年齢別】



【介護・介助の必要性 居住地区別】



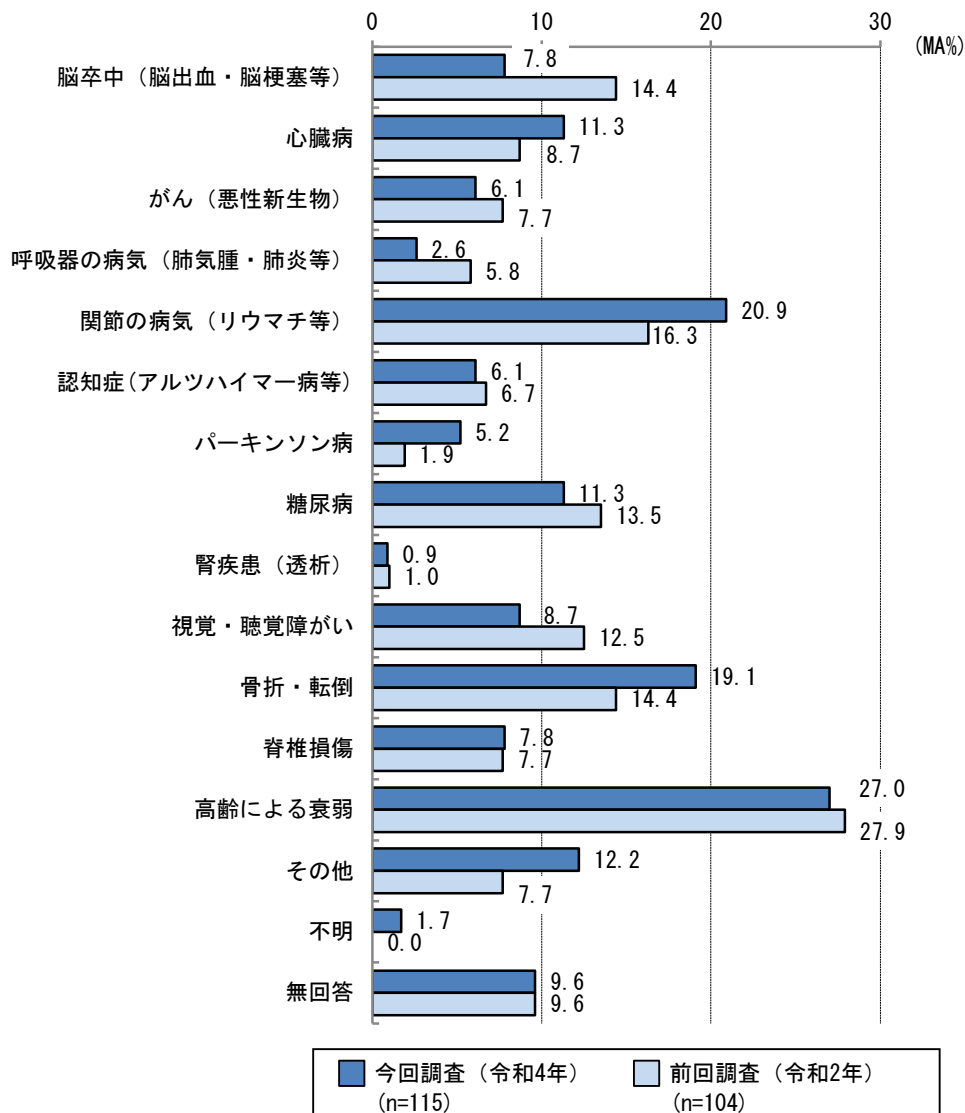
〔3〕介護・介助が必要になった主な原因

【問1(2)で「2.」または「3.」(介護・介助が必要)と回答した方】

問1(2)① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」が 27.0%と最も多く、次いで「関節の病気(リウマチ等)」が 20.9%、「骨折・転倒」が 19.1%となっています。前回調査に比べて、「骨折・転倒」が 4.7 ポイント、「関節の病気(リウマチ等)」が 4.6 ポイント増加し、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が 6.6 ポイント減少しています。

性別にみると、全体的に男性の数値が高く、とくに「認知症(アルツハイマー病等)」、「パーキンソン病」(いずれも男性 10.2%、女性 1.9%) で差が大きくなっています。年齢別にみると、65～84 歳までは「関節の病気(リウマチ等)」が 2 割前後で最も多くなっていますが、85 歳以上では「高齢による衰弱」が 51.4%と最も多く、「骨折・転倒」も 27.0%と多くなっています。また、認定状況別にみると、要支援認定を受けている人では、「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」が一般高齢者に比べて多くなっています。



Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【介護・介助が必要になった主な原因 性別、年齢別、認定状況別】

(MA%)

		n	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器の病 気(肺炎腫・肺炎等)	関節の病 気(リウマチ等)	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキン ソン病	糖尿病	腎疾患 (透析)	視覚・聴 覚障がい	骨折・転 倒	脊椎損 傷	高齢に よる衰 弱	その他	不明	無回 答
全体		115 100	9 7.8	13 11.3	7 6.1	3 2.6	24 20.9	7 6.1	6 5.2	13 11.3	1 0.9	10 8.7	22 19.1	9 7.8	31 27.0	14 12.2	2 1.7	11 9.6
性別	男性	49 100	4 8.2	6 12.2	4 8.2	3 6.1	10 20.4	5 10.2	5 10.2	7 14.3	1 2.0	6 12.2	8 16.3	4 8.2	11 22.4	3 6	1 2.0	6 12.2
	女性	54 100	3 5.6	5 9.3	3 5.6	0	10 18.5	1 1.9	1 1.9	5 9.3	0	4 7.4	10 18.5	3 5.6	16 29.6	10 19	1 1.9	5 9.3
年齢別	65~74歳	23 100	1.0 4.3	2.0 8.7	2.0 8.7	1.0 4.3	4.0 17.4	1.0 4.3	4.0 17.4	3.0 13.0	0	1.0 4.3	4.0 17.4	2.0 8.7	2.0 8.7	2 8.7	1.0 4.3	2.0 8.7
	75~84歳	53 100	6.0 11.3	5.0 9.4	4.0 7.5	0	12.0 22.6	5.0 9.4	2.0 3.8	7.0 13.2	1.0 1.9	6.0 11.3	8.0 15.1	3.0 5.7	9.0 17.0	8 15.1	1.0 1.9	5.0 9.4
	85歳以上	37 100	2.0 5.4	6.0 16.2	1.0 2.7	2.0 5.4	8.0 21.6	0	0	3.0 8.1	0	3.0 8.1	10.0 27.0	3.0 8.1	19.0 51.4	4 10.8	0	4.0 10.8
認定有無別	一般高齢者	45 100	2 4.4	5 11.1	3 6.7	2 4.4	9 20.0	3 6.7	3 6.7	7 15.6	1 2.2	4 8.9	4 8.9	2 4.4	8 17.8	7 16	1 2.2	9 20.0
	要支援1、2	48 100	4 8.3	6 12.5	2 4.2	1 2.1	11 22.9	2 4.2	3 6.3	4 8.3	0	5 10.4	12 25.0	4 8.3	15 31.3	7 15	0	0

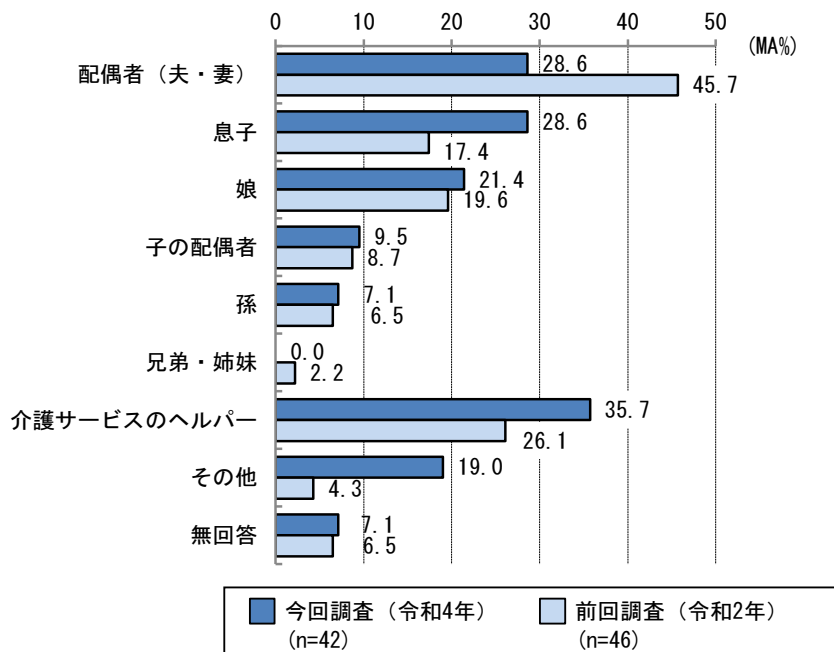
[4]主な介護者

【問1(2)で「3.」(介護・介助を受けている)と回答した方】

問1(2)② 主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

主な介護者は、「介護サービスのヘルパー」が 35.7%と最も多く、次いで、「配偶者(夫・妻)」、「息子」がそれぞれ 28.6%、「娘」が 21.4%となっています。前回調査に比べて、「介護サービスのヘルパー」が 9.6 ポイント増加し、「配偶者(夫・妻)」が 17.1%減少しています。

性別にみると、男性は「配偶者(夫・妻)」(40.0%)、女性は「息子」、「介護サービスのヘルパー」(それぞれ 33.3%) が最も多くなっています。年齢別にみると、84 歳以下では「配偶者(夫・妻)」と「介護サービスのヘルパー」が 4~5 割でおよそ半々となっていますが、85 歳以上では「息子」(37.5%)、「娘」(31.3%) が多くなっています。また、認定状況別にみると、要支援認定を受けている人では、「介護サービスのヘルパー」(44.4%) が最も多く、一般高齢者では「配偶者(夫・妻)」(45.5%) が最も多くなっています。



【主な介護者 性別、年齢別、認定状況別】

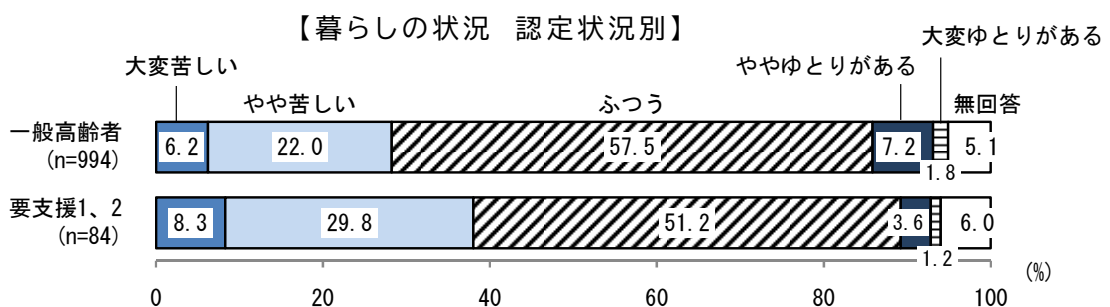
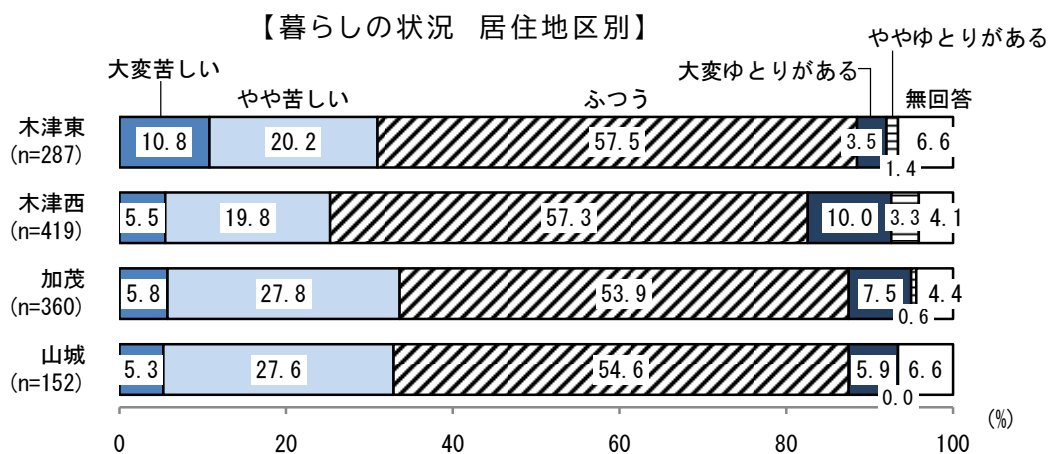
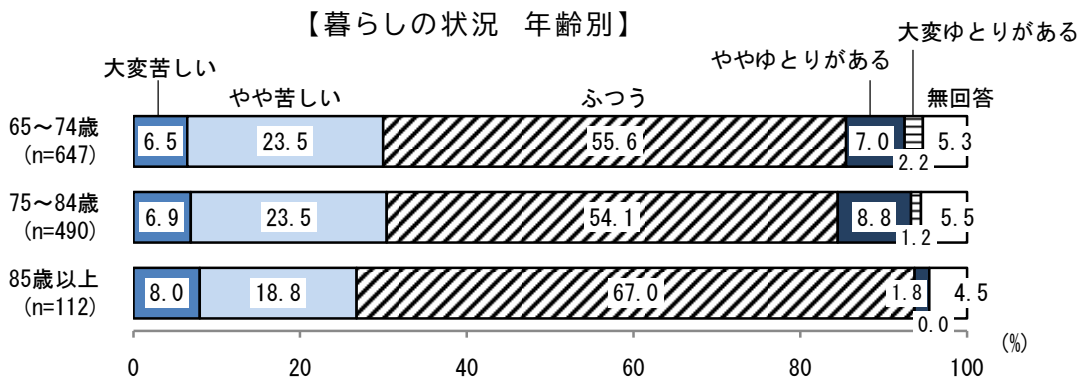
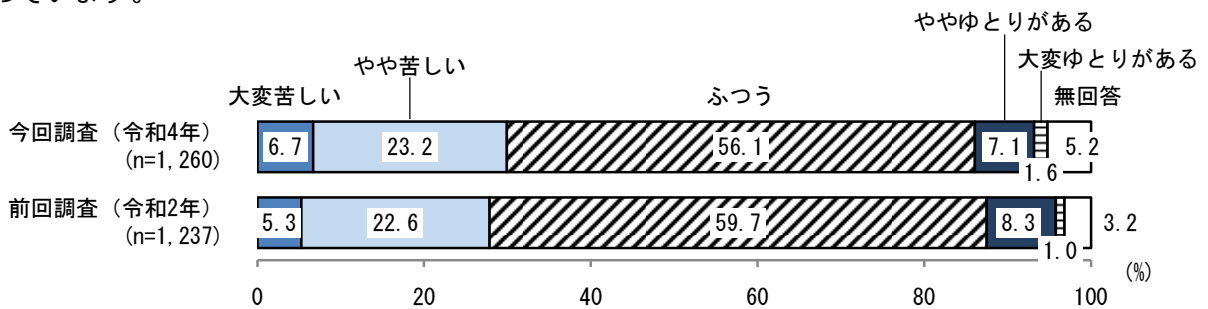
		n	妻配 偶者 (夫・ 妻)	息 子	娘	子 の 配 偶 者	孫	兄 弟 ・ 姉 妹	の 介 護 サ ー バ ー の ヘル パー	そ の 他	無 回 答
全体		42	12	12	9	4	3	0	15	8	3
		100	28.6	28.6	21.4	9.5	7.1	0	35.7	19.0	7.1
性別	男性	20	8	5	3	2	1	0	7	3	1
	100	40.0	25.0	15.0	10.0	5.0	0	35.0	15.0	5.0	
年齢別	女性	18	3	6	4	2	2	0	6	5	2
	100	16.7	33.3	22.2	11.1	11.1	0	33.3	27.8	11.1	
	65~74歳	8	4	0	1	0	1	0	4	1	0
100	50.0	0	12.5	0	12.5	0	50.0	12.5	0		
75~84歳	17	7	5	3	1	1	0	8	3	1	
100	41.2	29.4	17.6	5.9	5.9	0	47.1	17.6	5.9		
85歳以上	16	1	6	5	3	1	0	3	4	2	
100	6.3	37.5	31.3	18.8	6.3	0	18.8	25.0	12.5		
認定有無別	一般高齢者	11	5	2	2	0	2	0	1	0	1
	100	45.5	18.2	18.2	0	18.2	0	9.1	0	9.1	
要支援1,2	27	6	8	7	3	1	0	12	8	1	
100	22.2	29.6	25.9	11.1	3.7	0	44.4	29.6	3.7		

〔5〕暮らしの状況

問1(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

現在の暮らしの状況は、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が合計 29.9%、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』が合計 8.7%となっています。

年齢別にみると、85歳以上では『苦しい』が26.8%と他の年齢層より少なくなっていますが、『ゆとりがある』も1.8%と少なくなっています。居住地区別にみると、木津西地区では『苦しい』が25.3%と他の地区より少なく、『ゆとりがある』が13.3%と他の地区より多くなっています。また、認定状況別にみると、要支援認定を受けている人では『苦しい』が38.1%と多くなっています。

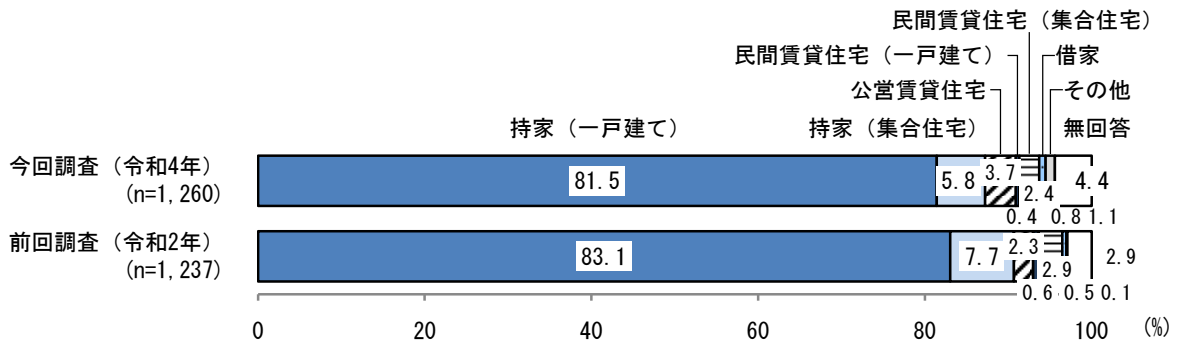


[6]住居形態

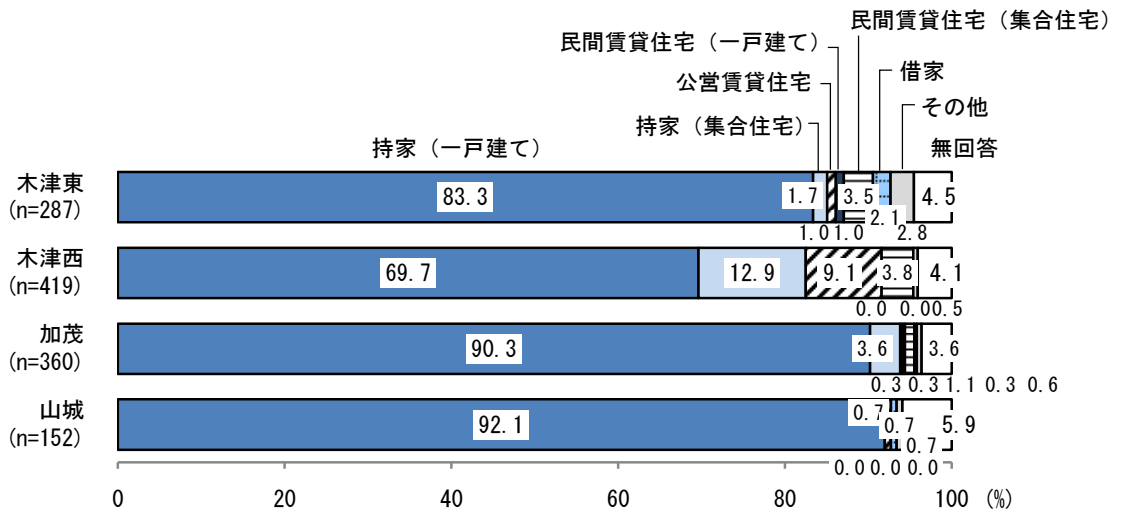
問1(4) お住まいは一人建て、または集合住宅のどちらですか

住居形態は、「持家（一人建て）」が 81.5%と最も多く、次いで、「持家（集合住宅）」が 5.8%となっています。

居住地区別にみると、木津西地区では「持家（集合住宅）」（12.9%）や「公営賃貸住宅」（9.1%）の割合が多くなっています。



【住居形態 居住地区別】

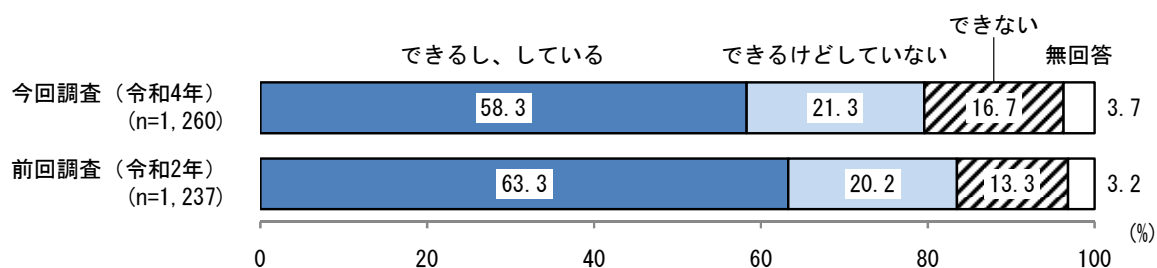


3 からだを動かすことについて

[1] 運動機能の状況

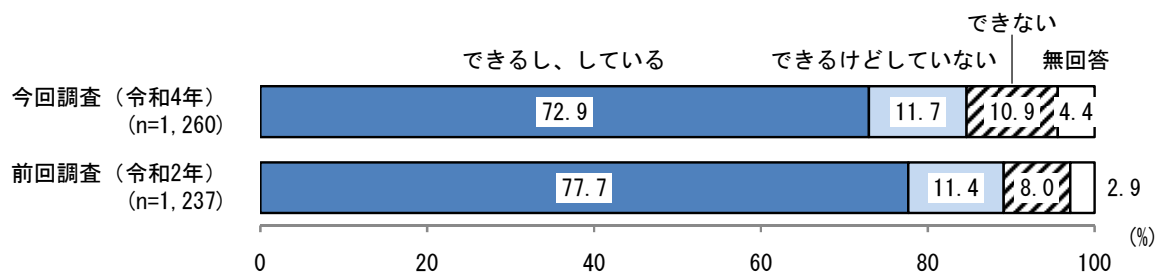
問2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が 58.3%と多くなっています。前回調査に比べて、「できるし、している」が 5.0 ポイント減少しています。



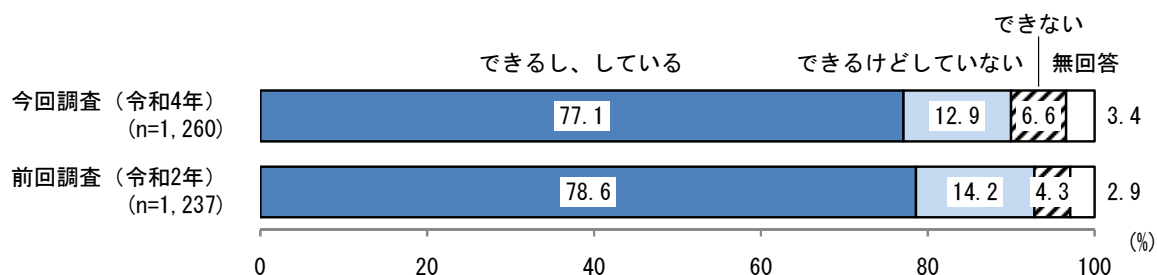
問2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

椅子から何にもつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が 72.9%と多くなっています。前回調査に比べて、「できるし、している」が 4.8 ポイント減少しています。



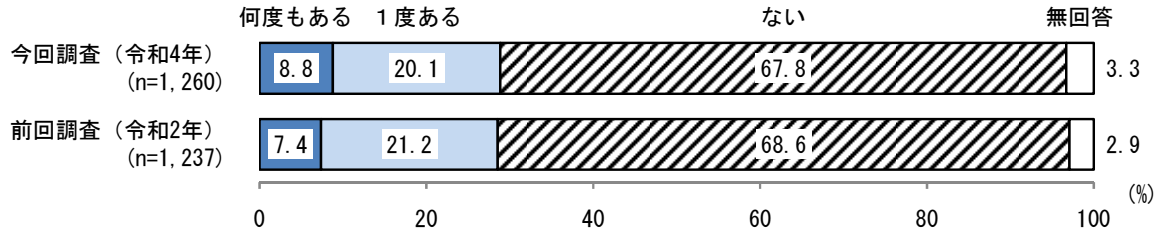
問2(3) 15分位続けて歩いていますか

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が 77.1%と多くなっています。前回調査に比べて、「できない」が 2.3 ポイント増加しています。



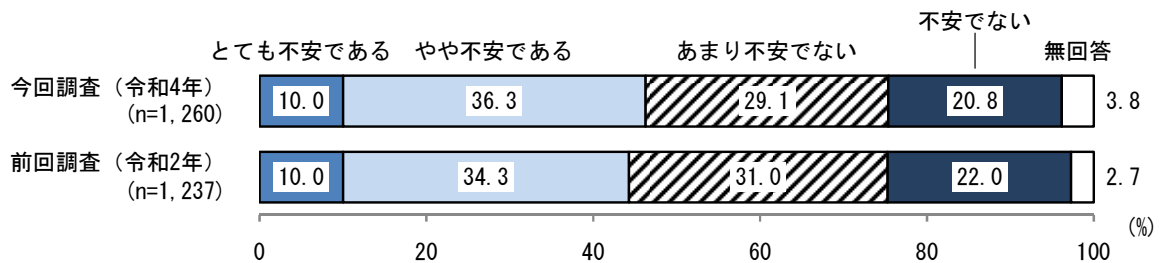
問2(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が67.8%と多く、「何度もある」「1度ある」は合計28.9%となっています。前回調査に比べて、「何度もある」が1.4ポイント増加しています。



問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか

転倒に対する不安については、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』が合計46.3%となっています。前回調査に比べて、『不安である』は2.0ポイント多くなっています。



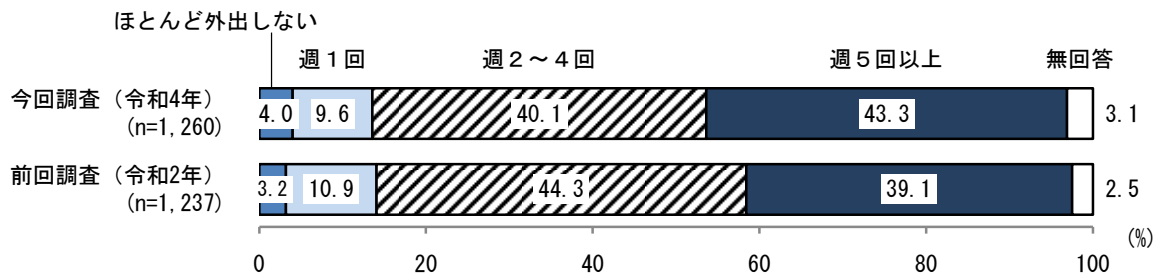
〔2〕1週間の外出回数

問2(6) 週に1回以上は外出していますか

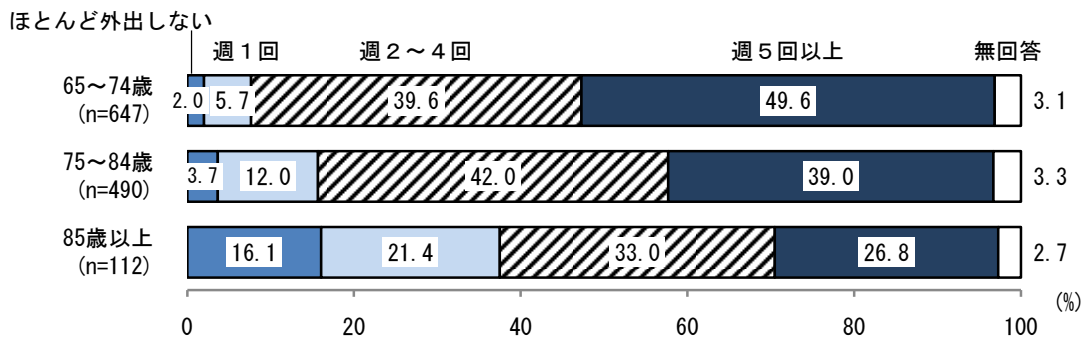
※買物、通院、趣味の活動、運動、散歩、農作業などを含みます。

外出頻度は、「週5回以上」が43.3%と最も多く、次いで、「週2～4回」が40.1%、「週1回」が9.6%、「ほとんど外出しない」が4.0%となっています。前回調査に比べて、「週5回以上」が4.2ポイント増加しています。

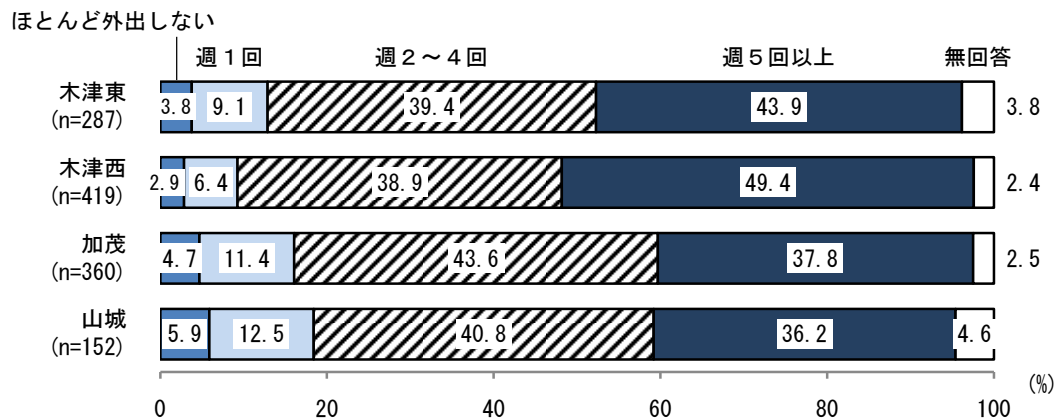
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、外出の頻度は少なくなっています。居住地区別にみると、木津西地区で外出の頻度が多く、山城地区では少なくなっています。



【外出頻度 年齢別】



【外出頻度 居住地区別】

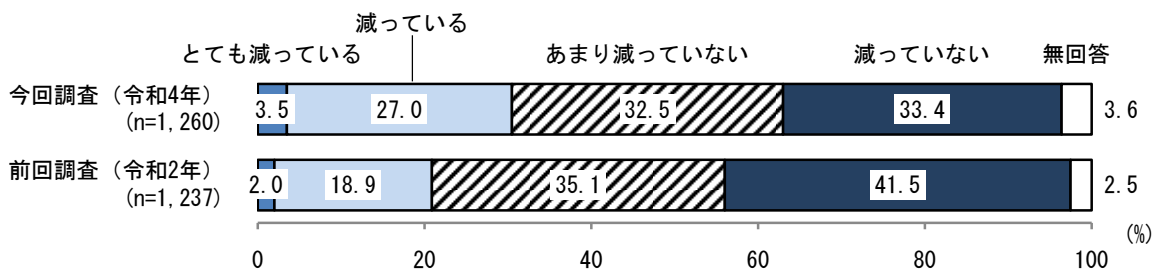


〔3〕外出回数の減少度合い

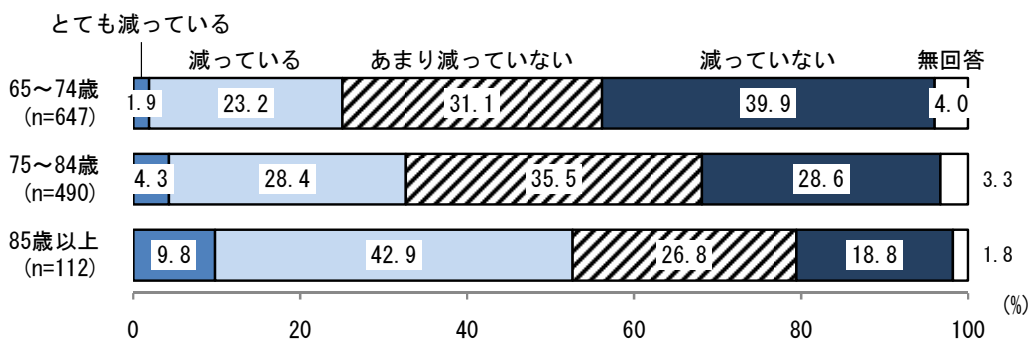
問2(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が合計 30.5%、「減っていない」と「あまり減っていない」を合わせた『減っていない』の合計が 65.9%となっています。

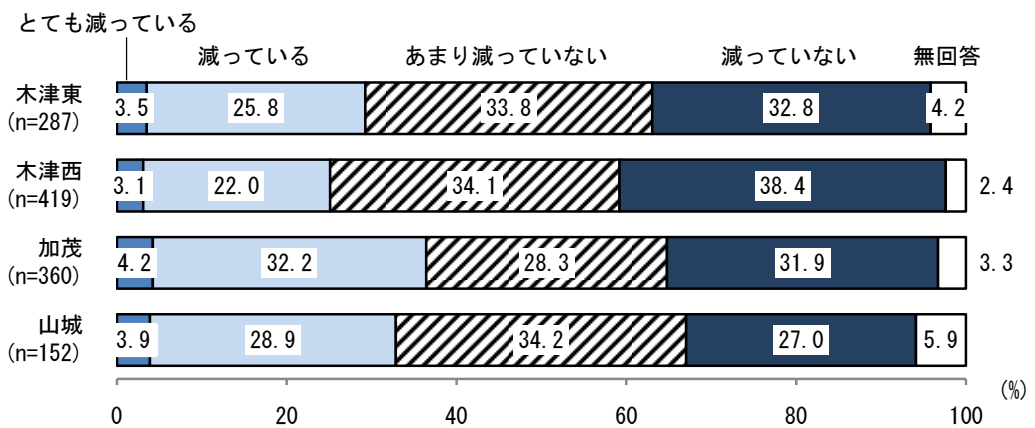
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『減っている』の割合は多くなり、85歳以上では52.7%と半数以上を占めています。居住地区別にみると、『減っている』は加茂地区で36.4%と最も多くなっています。



【外出回数の減少度合い 年齢別】



【外出回数の減少度合い 居住地区別】

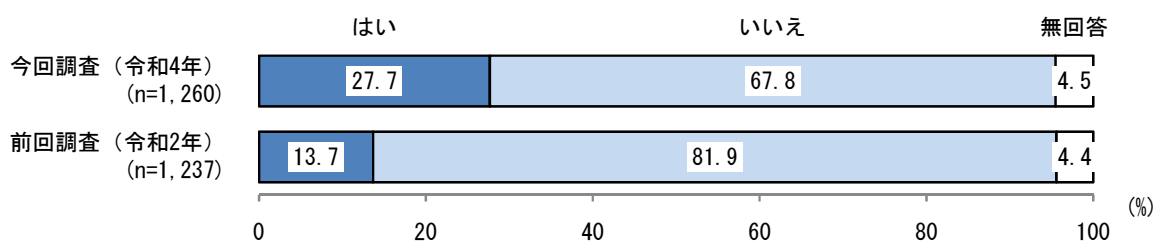


[4]外出控えについて

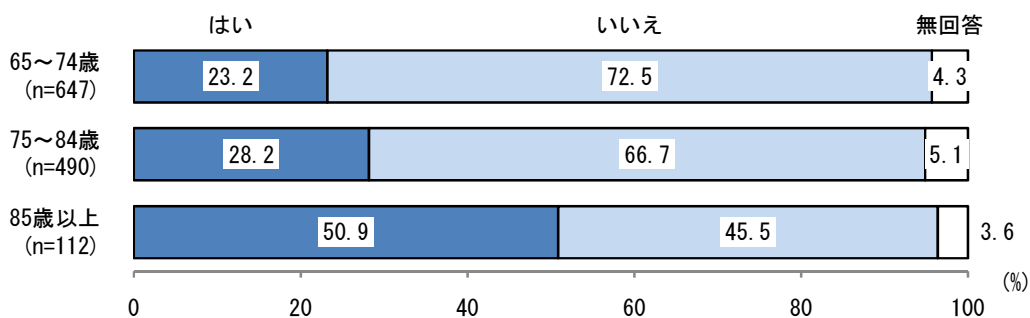
問2(8) 外出を控えていますか

外出を控えているかについては、「はい」（控えている）が 27.7%、「いいえ」が 67.8%となっています。前回調査に比べて、「はい」は 14.0 ポイント増加しており、外出を控えている人が多くなっています。

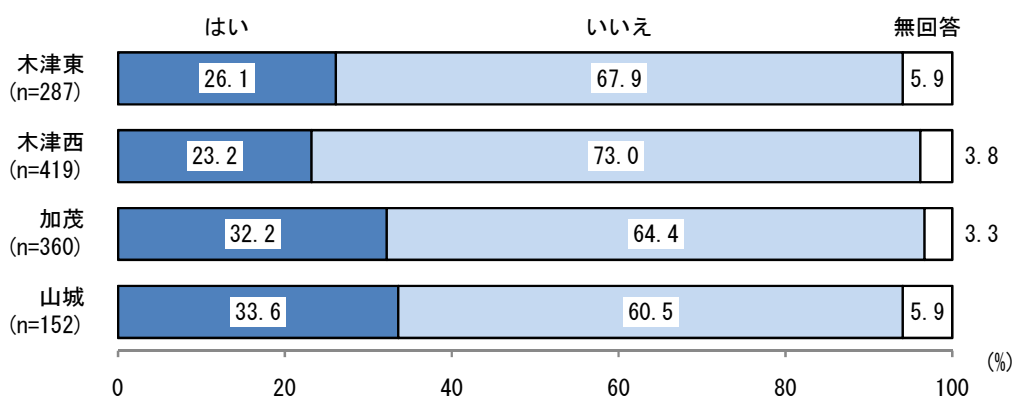
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」の割合は増加し、85歳以上では 50.9%と約半数を占めています。居住地区別にみると、「はい」は加茂地区、山城地区で 3 割強と、やや多くなっています。



【外出控えの有無 年齢別】



【外出控えの有無 居住地区別】

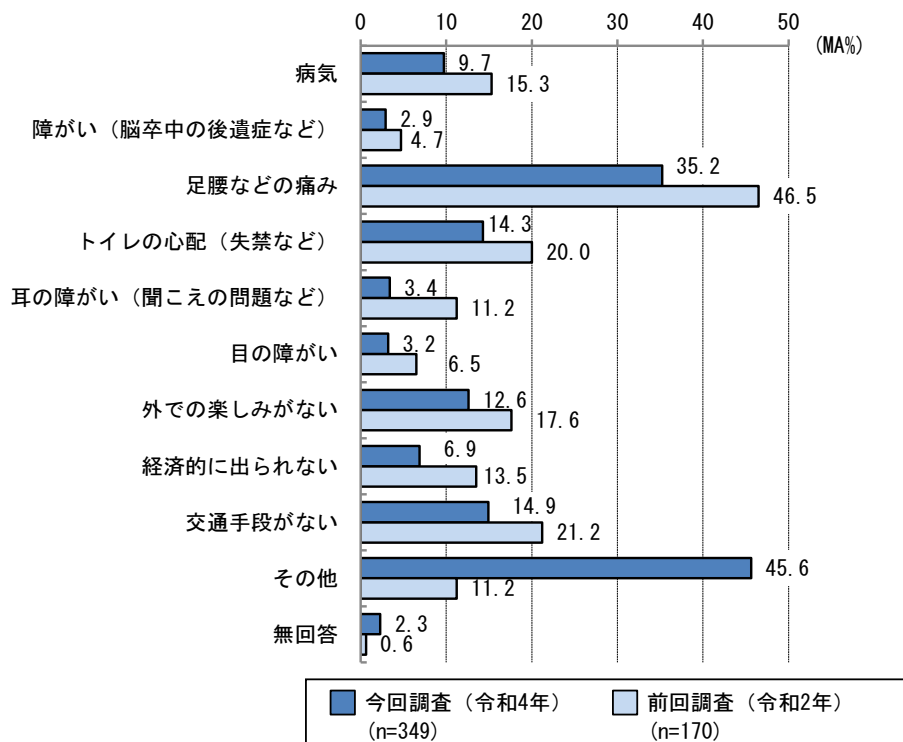


【問2(8)で「1.はい」(外出を控えている)と回答した方】

問2(8)① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

外出を「控えている」とお答えの方に、その理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が35.2%と最も多く、次いで「交通手段がない」が14.9%、「トイレの心配(失禁など)」が14.3%となっています。前回調査に比べて、「足腰などの痛み」は11.3ポイント減少し、「その他」が34.4ポイントと大きく増加しています。

年齢別にみると、75歳以上の後期高齢者では「交通手段がない」が多く、年齢が上がるにつれて多くなっています。居住地区別にみると、山城地区で「外での楽しみがない」が21.6%と他の地区に比べて多くなっています。



※「その他」45.6% (159件)のうち、「新型コロナウイルス感染症の影響」等の回答は131件みられた。

Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【外出を控えている理由 性別、年齢別、居住地区別】

(MA%)

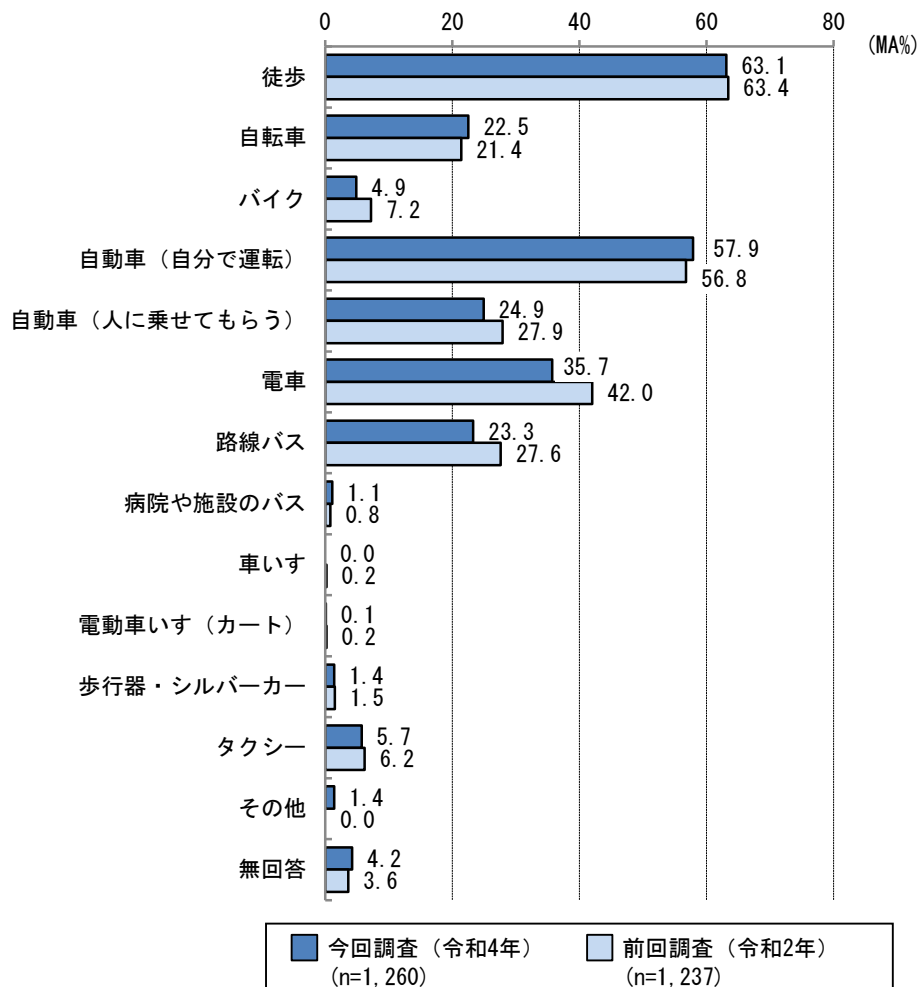
		n	病 気	障 が い (脳 卒 中 の 後 遺)	足 腰 な ど の 痛 み	ど い れ の 心 配 (失 禁 な)	問 題 な ど (聞 こ え の)	耳 の 障 が い	目 の 障 が い	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他	無 回 答
全体		349 100	34 9.7	10 2.9	123 35.2	50 14.3	12 3.4	11 3.2	44 12.6	24 6.9	52 14.9	159 45.6	8 2.3	
性別	男性	133 100	23 17.3	7 5.3	41 30.8	25 18.8	7 5.3	6 4.5	20 15.0	11 8.3	14 10.5	60 45.1	3 2.3	
	女性	196 100	9 4.6	1 0.5	71 36.2	24 12.2	5 2.6	4 2.0	22 11.2	12 6.1	32 16.3	93 47.4	5 2.6	
年齢別	65～74歳	150 100	13 8.7	3 2.0	34 22.7	17 11.3	2 1.3	2 1.3	19 12.7	13 8.7	7 4.7	94 62.7	3 2.0	
	75～84歳	138 100	16 11.6	3 2.2	50 36.2	22 15.9	5 3.6	6 4.3	16 11.6	10 7.2	27 19.6	50 36.2	5 3.6	
	85歳以上	57 100	5 8.8	4 7.0	36 63.2	10 17.5	5 8.8	2 3.5	8 14.0	1 1.8	16 28.1	14 24.6	0 0	
居住地区別	木津東	75 100	10 13.3	2 2.7	31 41.3	16 21.3	3 4.0	3 4.0	8 10.7	3 4.0	9 12.0	32 42.7	2 2.7	
	木津西	97 100	9 9.3	4 4.1	31 32.0	13 13.4	4 4.1	1 1.0	11 11.3	6 6.2	11 11.3	57 58.8	1 1.0	
	加茂	116 100	12 10.3	4 3.4	38 32.8	15 12.9	2 1.7	4 3.4	12 10.3	13 11.2	17 14.7	52 44.8	2 1.7	
	山城	51 100	3 5.9	0 0	16 31.4	3 5.9	3 5.9	1 2.0	11 21.6	2 3.9	9 17.6	18 35.3	2 3.9	

[5] 移動手段

問2(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

外出時の移動手段は、「徒歩」が 63.1%と最も多く、次いで、「自動車（自分で運転）」が 57.9%、「電車」が 35.7%となっています。

年齢別にみると、85 歳以上では「自動車（人に乗せてもらう）」や「タクシー」が、他の年齢層に比べて多くなっています。認定状況別にみると、要支援 1、2 でも「自動車（人に乗せてもらう）」や「タクシー」が、一般高齢者に比べて多くなっています。居住地区別にみると、木津西地区では「徒歩」が 78.8%、「電車」が 50.4%と他の地区に比べて多くなっています。



Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【外出時の移動手段 性別、年齢別、居住地区別、認定状況別】

(MA%)

		n	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす (カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体		1,260	795	284	62	729	314	450	293	14	0	1	18	72	18	53
		100	63.1	22.5	4.9	57.9	24.9	35.7	23.3	1.1	0	0.1	1.4	5.7	1.4	4.2
性別	男性	585	389	149	44	427	84	201	114	7	0	1	2	23	6	24
		100	66.5	25.5	7.5	73.0	14.4	34.4	19.5	1.2	0	0.2	0.3	3.9	1.0	4.1
女性		623	381	122	18	283	218	233	164	4	0	0	12	42	12	24
		100	61.2	19.6	2.9	45.4	35.0	37.4	26.3	0.6	0	0	1.9	6.7	1.9	3.9
年齢別	65～74歳	647	424	145	39	451	148	253	139	6	0	0	0	23	6	24
		100	65.5	22.4	6.0	69.7	22.9	39.1	21.5	0.9	0	0	0	3.6	0.9	3.7
	75～84歳	490	304	116	20	253	116	169	125	3	0	0	5	28	6	26
	100	62.0	23.7	4.1	51.6	23.7	34.5	25.5	0.6	0	0	1.0	5.7	1.2	5.3	
85歳以上		112	62	20	3	21	45	24	27	5	0	1	13	20	6	3
		100	55.4	17.9	2.7	18.8	40.2	21.4	24.1	4.5	0	0.9	11.6	17.9	5.4	2.7
居住地区別	木津東	287	160	55	17	180	61	90	80	2	0	0	3	20	8	14
		100	55.7	19.2	5.9	62.7	21.3	31.4	27.9	0.7	0	0	1.0	7.0	2.8	4.9
	木津西	419	330	121	10	212	105	211	120	7	0	0	5	26	4	15
		100	78.8	28.9	2.4	50.6	25.1	50.4	28.6	1.7	0	0	1.2	6.2	1.0	3.6
	加茂	360	203	45	19	225	100	104	71	4	0	1	5	16	4	13
	100	56.4	12.5	5.3	62.5	27.8	28.9	19.7	1.1	0	0.3	1.4	4.4	1.1	3.6	
山城		152	80	54	14	93	38	37	12	1	0	0	3	8	1	10
		100	52.6	35.5	9.2	61.2	25.0	24.3	7.9	0.7	0	0	2.0	5.3	0.7	6.6
認定有無別	一般高齢者	994	662	241	48	607	235	373	239	5	0	1	7	54	12	42
		100	66.6	24.2	4.8	61.1	23.6	37.5	24.0	0.5	0	0.1	0.7	5.4	1.2	4.2
要支援1、2		84	38	10	5	24	33	19	20	6	0	0	10	11	6	4
		100	45.2	11.9	6.0	28.6	39.3	22.6	23.8	7.1	0	0	11.9	13.1	7.1	4.8

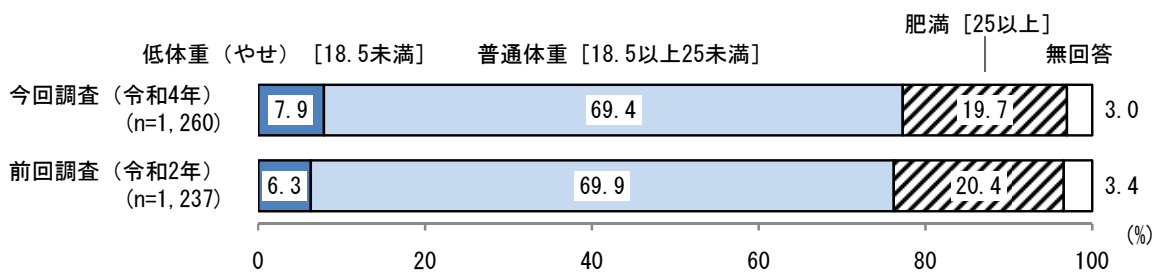
4 食べることについて

[1]BMI

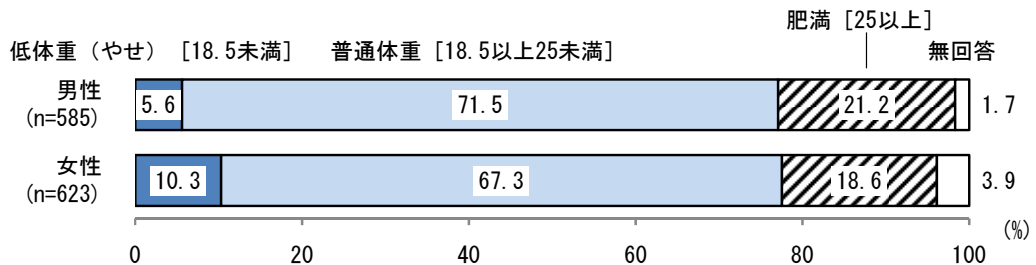
問3(1) 身長・体重(BMI)

身長・体重から算出したBMI値をみると、「普通体重 [18.5 以上 25 未満]」が69.4%と最も多く、「肥満 [25 以上]」が19.7%、「低体重 (やせ) [18.5 未満]」が7.9%となっています。

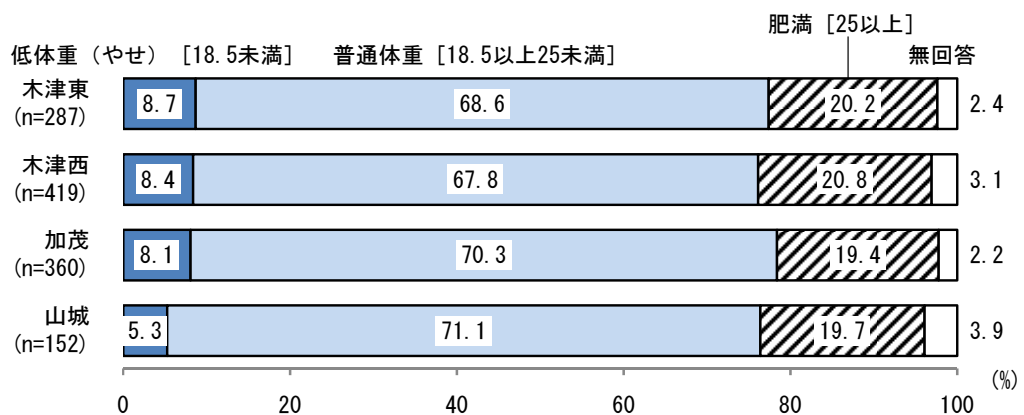
性別にみると、女性で「低体重 (やせ) [18.5 未満]」が10.3%と、男性に比べて多くなっています。また、居住地区別にみると、山城地区では「低体重 (やせ) [18.5 未満]」が5.3%と、他の地区に比べて少なくなっています。



【BMI 性別】



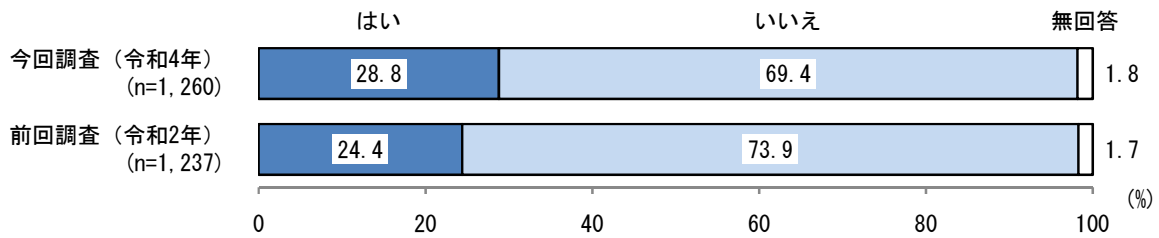
【BMI 居住地区別】



〔2〕口腔機能の状況

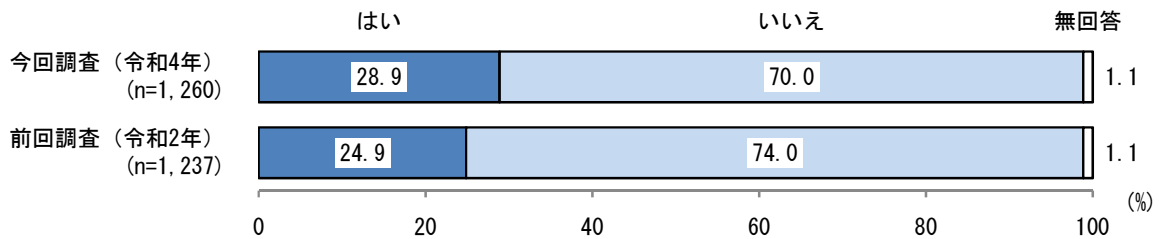
問3(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が 28.8%、「いいえ」が 69.4%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 4.4 ポイント増加しています。



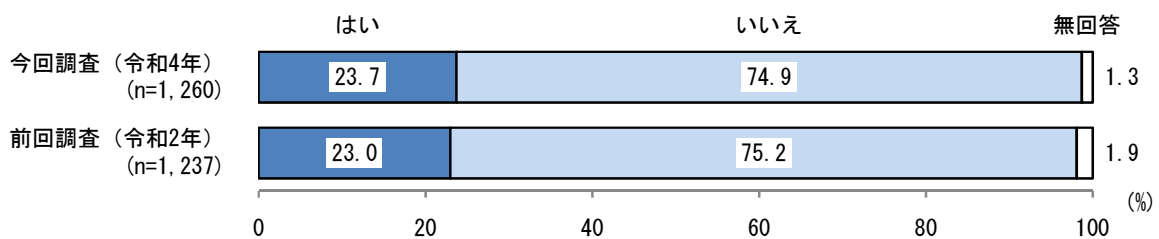
問3(3) お茶や汁物等でむせることがありますか

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が 28.9%、「いいえ」が 70.0%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 4.0 ポイント増加しています。



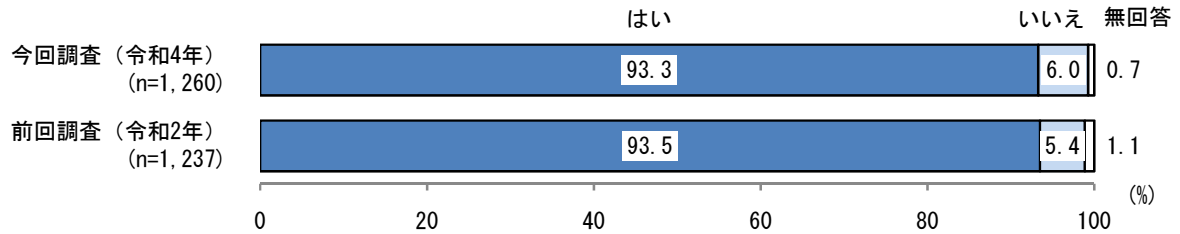
問3(4) 口の渇きが気になりますか

口の渇きが気になるかについては、「はい」が 23.7%、「いいえ」が 74.9%となっています。



問3(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか

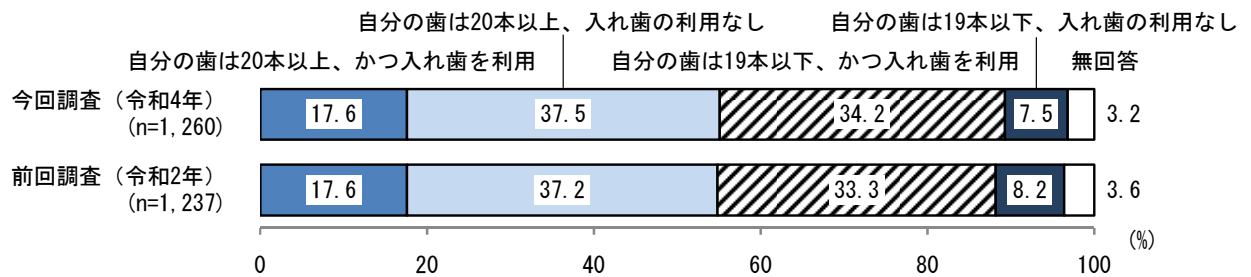
歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が93.3%、「いいえ」が6.0%となっています。



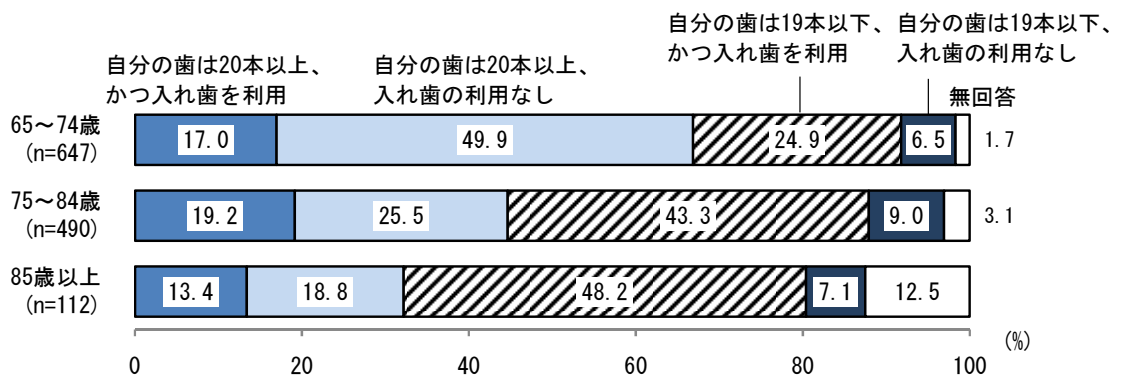
問3(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(※成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が37.5と最も多く、次いで、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が34.2%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が17.6%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が7.5%で、『自分の歯は20本以上』は合計55.1%、『入れ歯を利用』は合計51.8%となっています。

年齢別にみると、『自分の歯は20本以上』は75歳～84歳で44.7%、85歳以上で32.2%となっています。

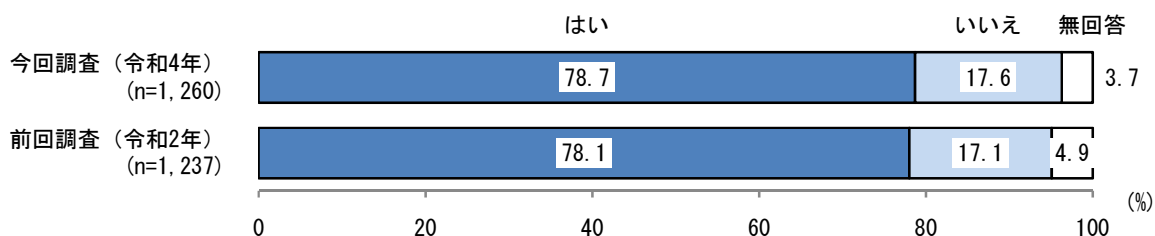


【歯の数と入れ歯の利用状況 年齢別】



問3(6)① 噛み合わせは良いですか

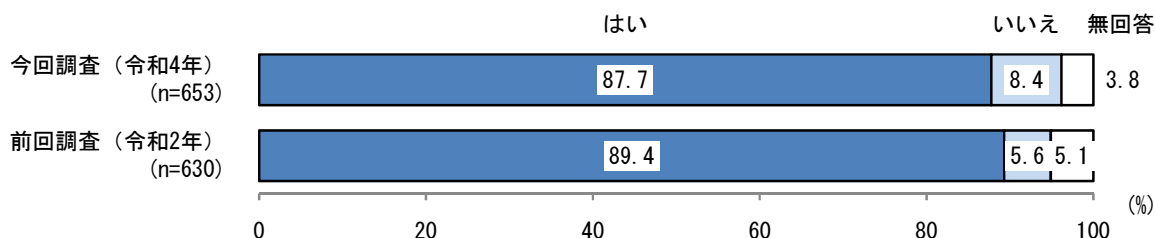
噛み合わせは良いかについては、「はい」が78.7%、「いいえ」が17.6%となっています。



【(6)で「1.自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3.自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方】

問3(6)② 毎日入れ歯の手入れをしていますか

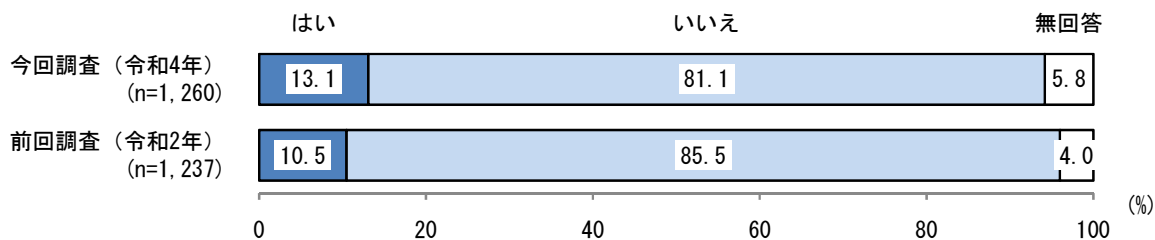
毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が87.7%、「いいえ」が8.4%となっています。



[3] 体重減少の有無

問3(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が13.1%、「いいえ」が81.1%となっています。前回調査に比べて、「はい」は2.6ポイント増加しています。

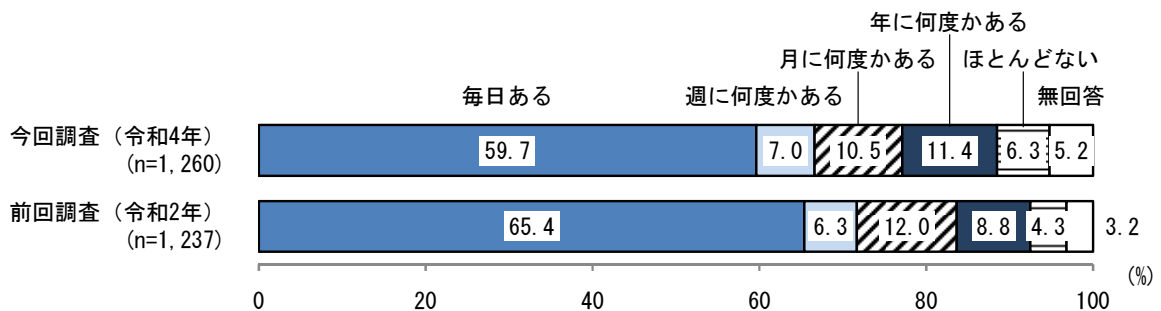


[4] 共食の状況

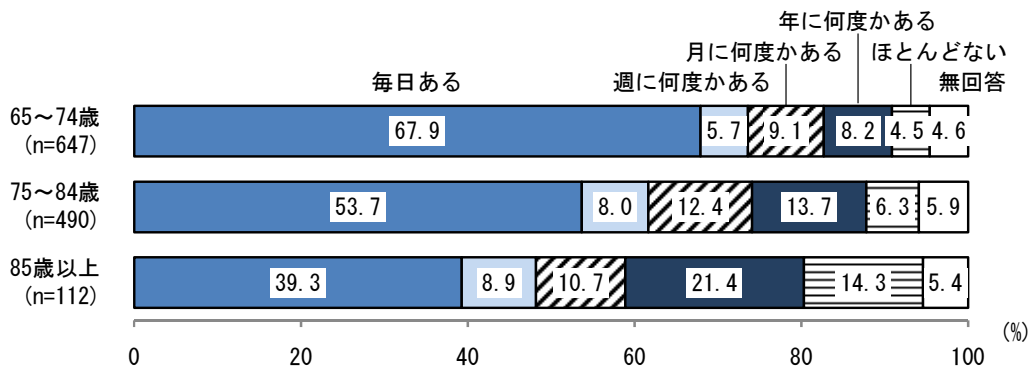
問3(8) どなたかと食事をとる機会がありますか

共食の状況は、「毎日ある」が 59.7%と最も多く、「週に何度かある」の 7.0%、「月に何度かある」の 10.5%と合わせて 8 割近く（77.2%）の人が、月に数回以上誰かと食事をとっています。ただしその割合は、前回調査に比べて 6.5 ポイント減少しています。

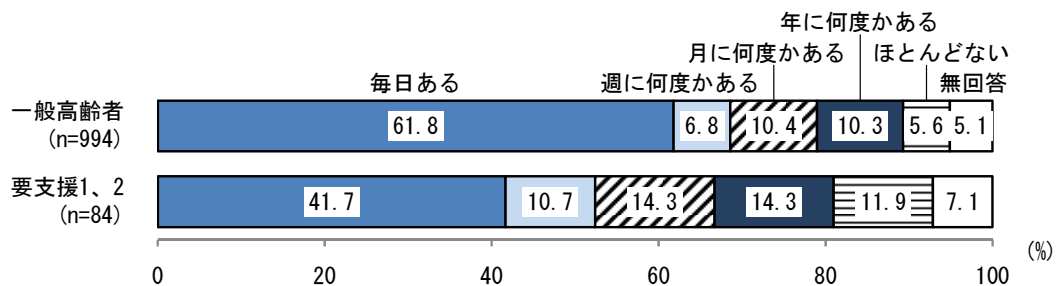
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「年に何度かある」、「ほとんどない」の割合が多くなり、共食の機会は少なくなっています。また、認定状況別にみると、月に数回以上の共食の機会がある人は要支援 1、2 では 66.7%と、一般高齢者の 79.0%に比べて少なくなっています。



【共食の状況 年齢別】



【共食の状況 認定状況別】

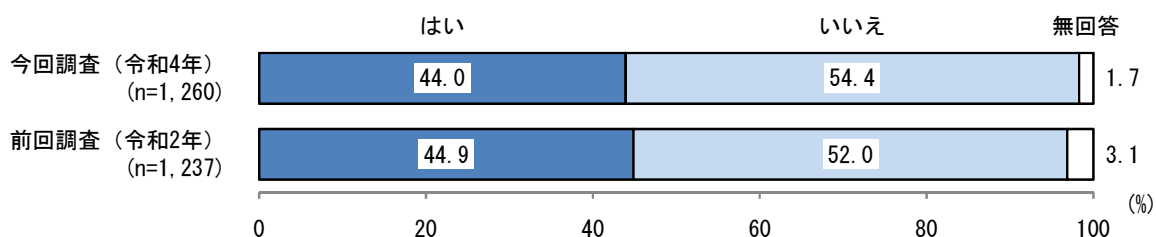


5 毎日の生活について

[1] 認知機能の状況

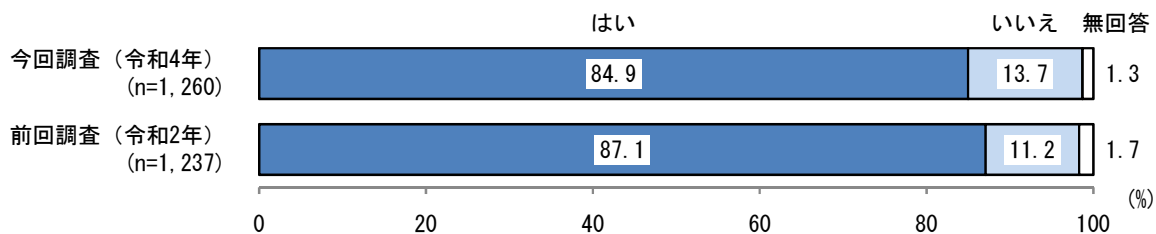
問4(1) 物忘れが多いと感じますか

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が 44.0%、「いいえ」が 54.4%となっています。



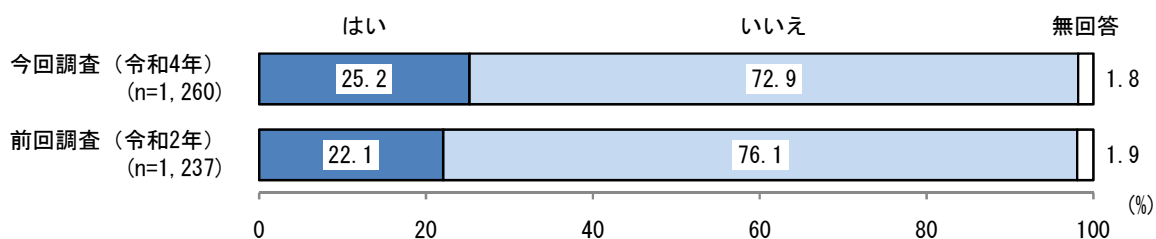
問4(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているかについては、「はい」が 84.9%、「いいえ」が 13.7%となっています。



問4(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか

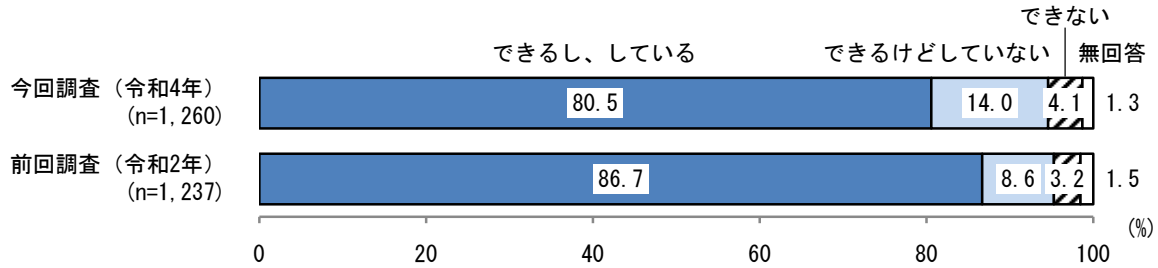
今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が 25.2%、「いいえ」が 72.9%となっています。



〔2〕手段的日常生活動作の状況

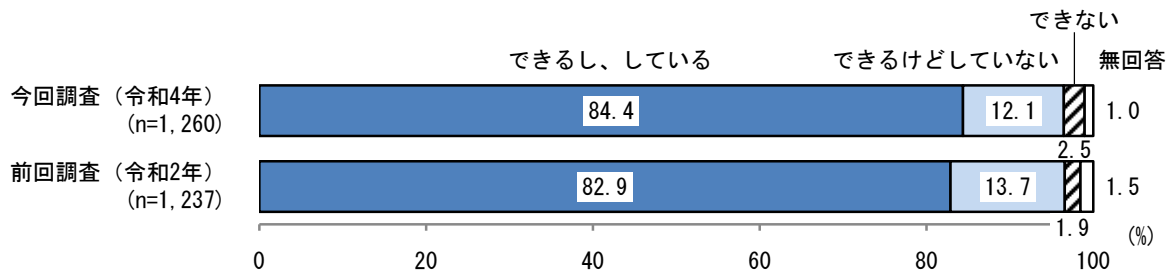
問4(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が80.5%、「できるけどしていない」が14.0%、「できない」が4.1%となっています。



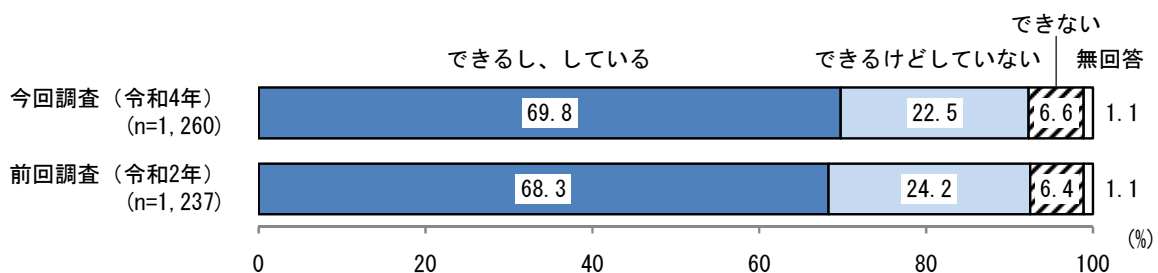
問4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が84.4%、「できるけどしていない」が12.1%、「できない」が2.5%となっています。



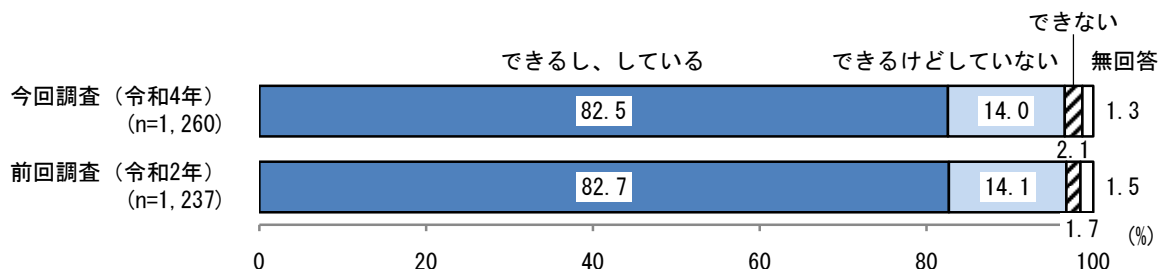
問4(6) 自分で食事の用意をしていますか

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が69.8%、「できるけどしていない」が22.5%、「できない」が6.6%となっています。



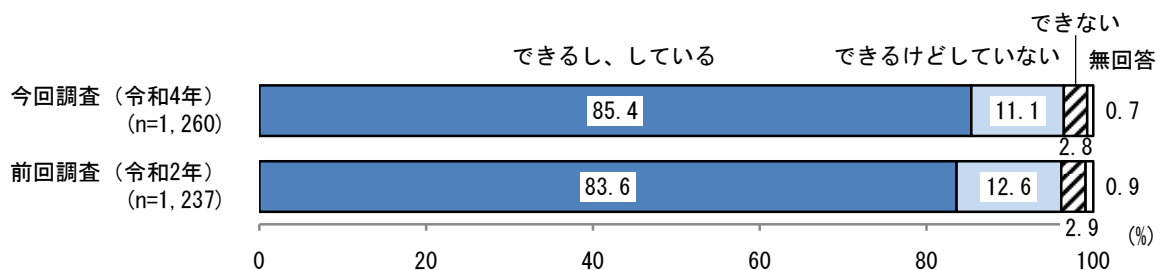
4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が 82.5%、「できるけどしていない」が 14.0%、「できない」が 2.1%となっています。



問4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

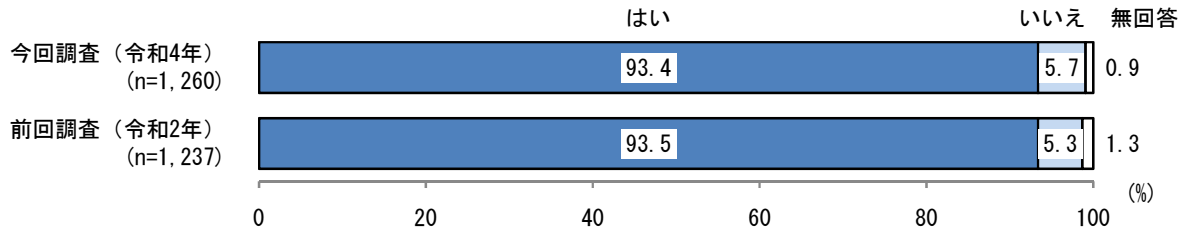
自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が 85.4%、「できるけどしていない」が 11.1%、「できない」が 2.8%となっています。



〔3〕知的能動性の状況

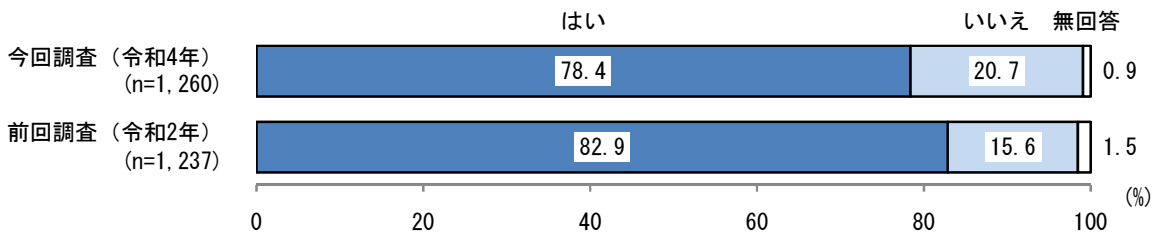
問4(9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか

年金などの書類が書けるかについては、「はい」が93.4%、「いいえ」が5.7%となっています。



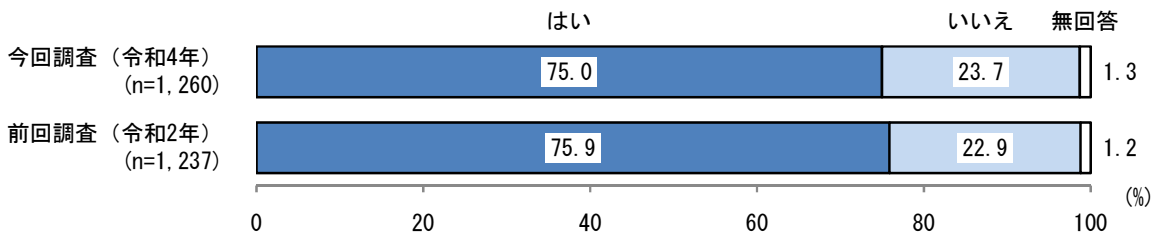
問4(10) 新聞を読んでいますか

新聞を読んでいるかについては、「はい」が78.4%、「いいえ」が20.7%となっています。前回調査に比べて、「いいえ」が5.1ポイント増加しています。



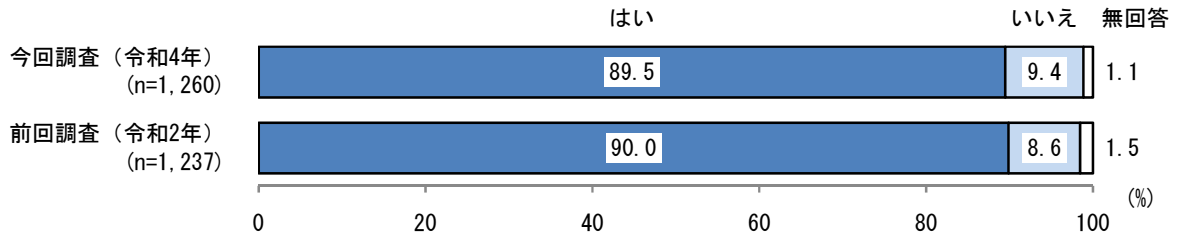
問4(11) 本や雑誌を読んでいますか

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が75.0%、「いいえ」が23.7%となっています。



問4(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか

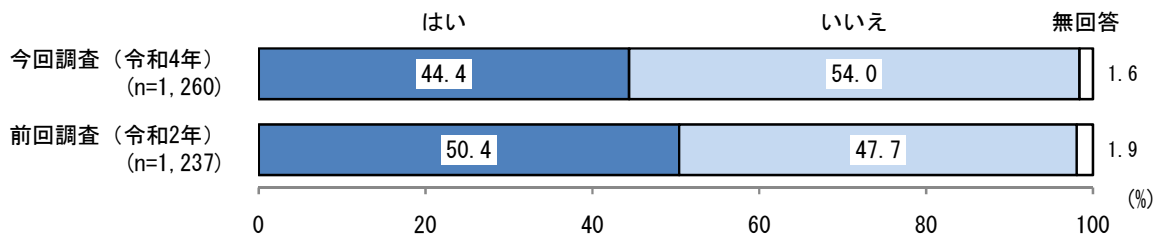
健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が 89.5%、「いいえ」が 9.4%となっています。



[4]他者との関わりの状況

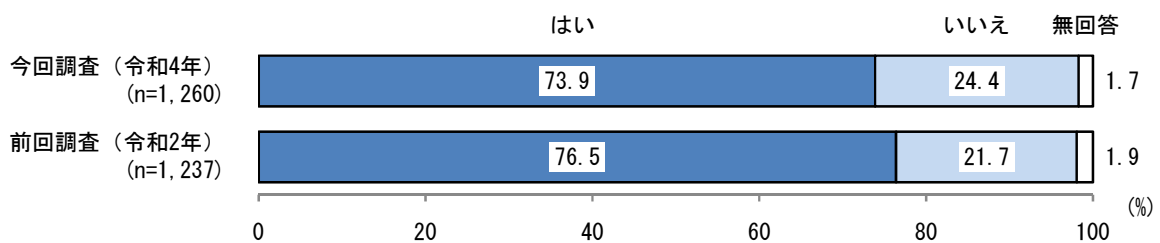
問4(13) 友人の家を訪ねていますか

友人の家を訪ねているかについては、「はい」が 44.4%、「いいえ」が 54.0%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 6.0ポイント減少しています。



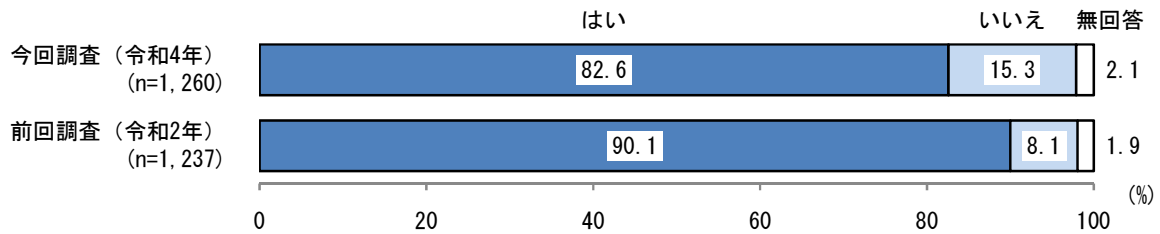
問4(14) 家族や友人の相談にのっていますか

家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が 73.9%、「いいえ」が 24.4%となっています。



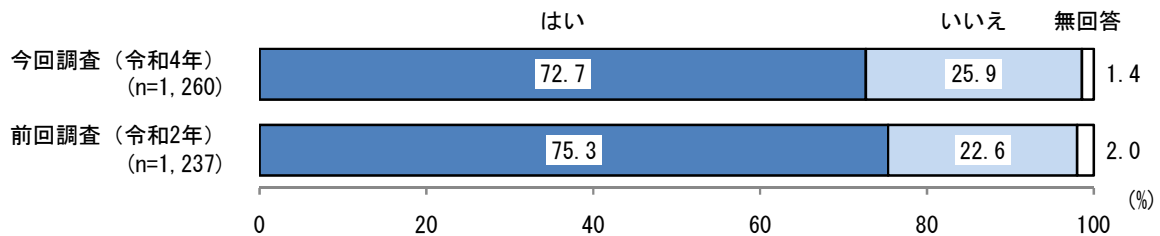
問4(15) 病人を見舞うことができますか

病人を見舞うことができるかについては、「はい」が 82.6%、「いいえ」が 15.3%となっています。前回調査に比べて、「いいえ」が 7.2 ポイント増加しています。



問4(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

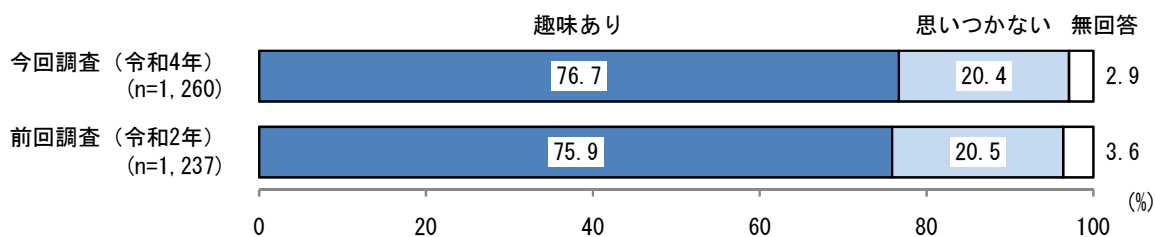
若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が 72.7%、「いいえ」が 25.9%となっています。前回調査に比べて、「いいえ」が 3.3 ポイント増加しています。



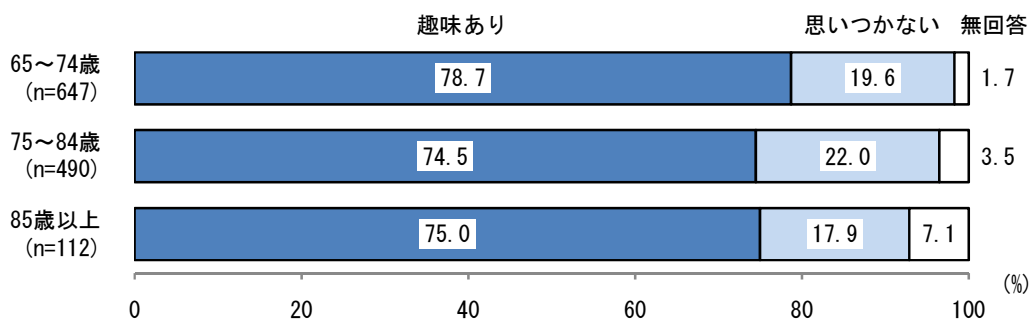
[5] 趣味や生きがいの有無

問4(17) 趣味はありますか

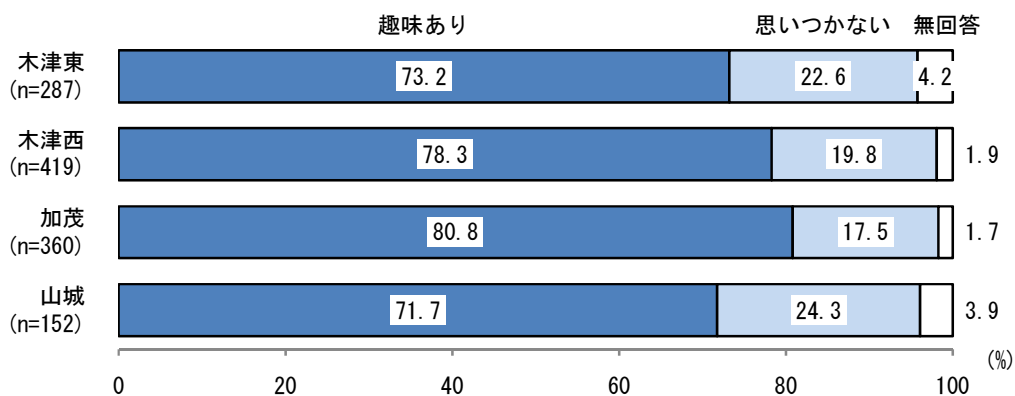
趣味はあるかについては、「趣味あり」が 76.7%、「思いつかない」が 20.4%となっています。
 居住地区別にみると、「趣味あり」は木津西地区で 78.3%、加茂地区では 80.8%と他の地区に比べてやや多くなっています。



【趣味の有無 年齢別】



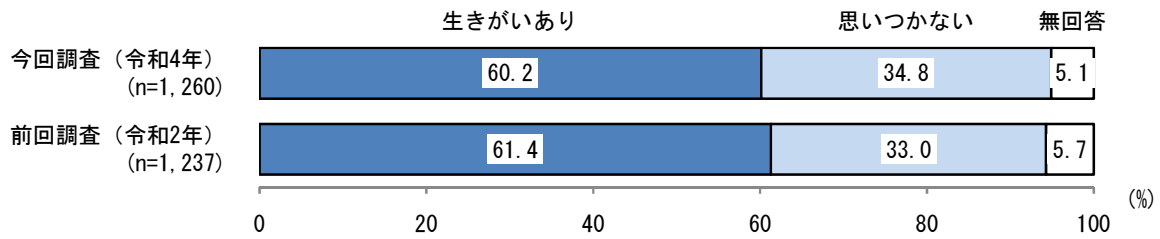
【趣味の有無 居住地区別】



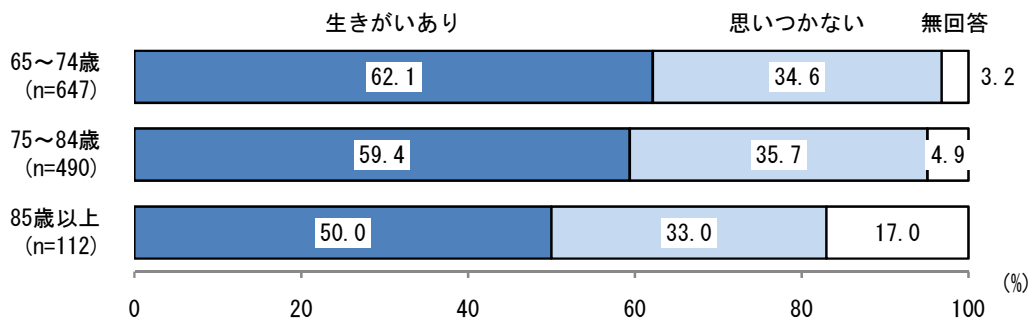
問4(18) 生きがいがありますか

生きがいはあるかについては、「生きがいあり」が 60.2%、「思いつかない」が 34.8%となっています。

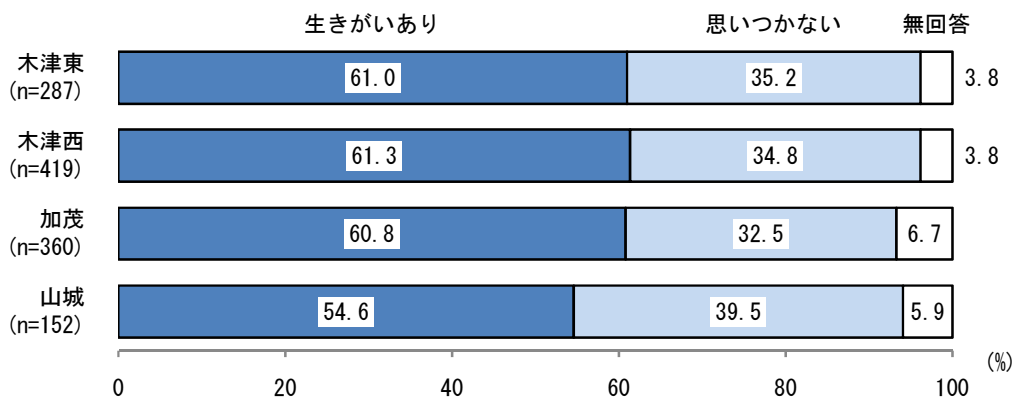
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「生きがいあり」の割合は減少傾向にあり、85歳以上では 50.0%となっています。居住地区別にみると、山城地区では「思いつかない」が 39.5%と、他の地区に比べて多くなっています。



【生きがいの有無 年齢別】



【生きがいの有無 居住地区別】

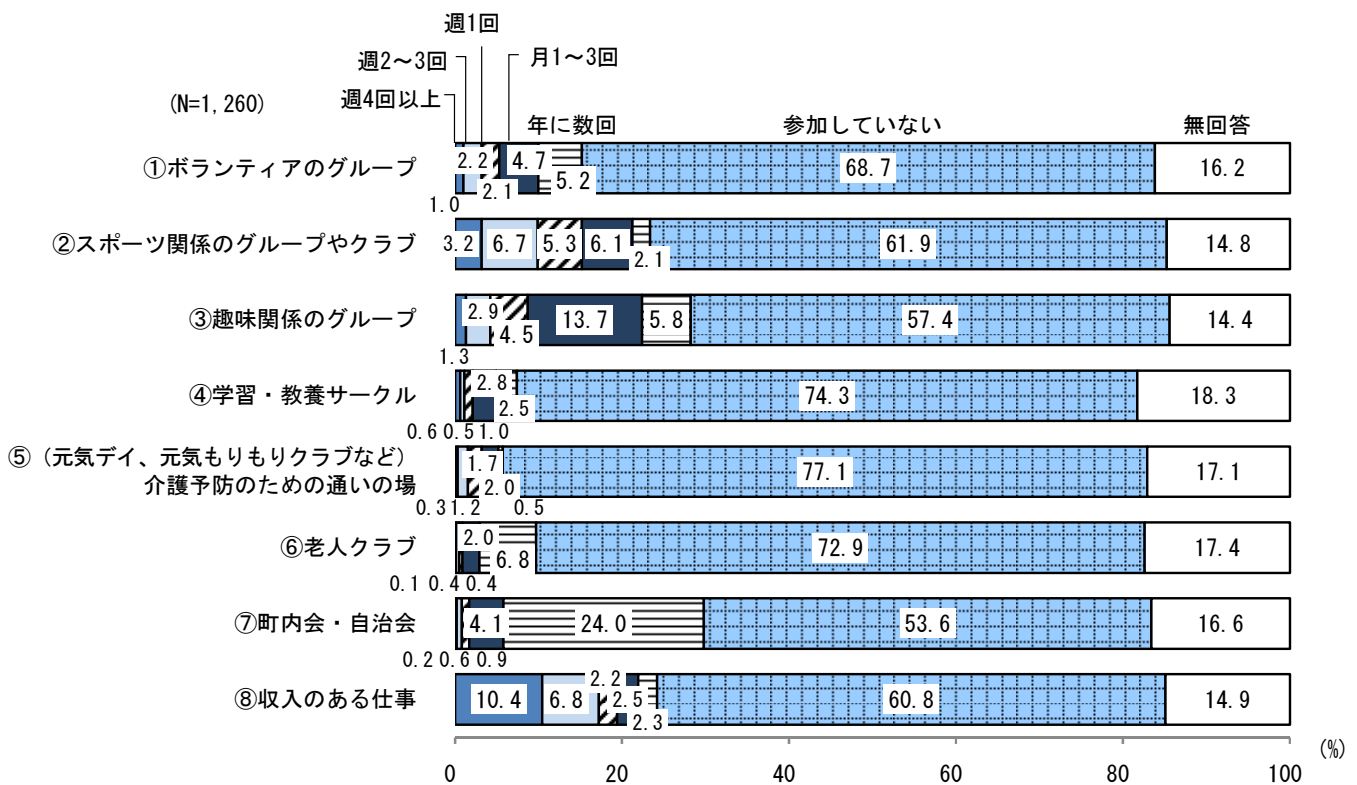


6 地域での活動について

[1] 地域の会・グループ等への参加状況

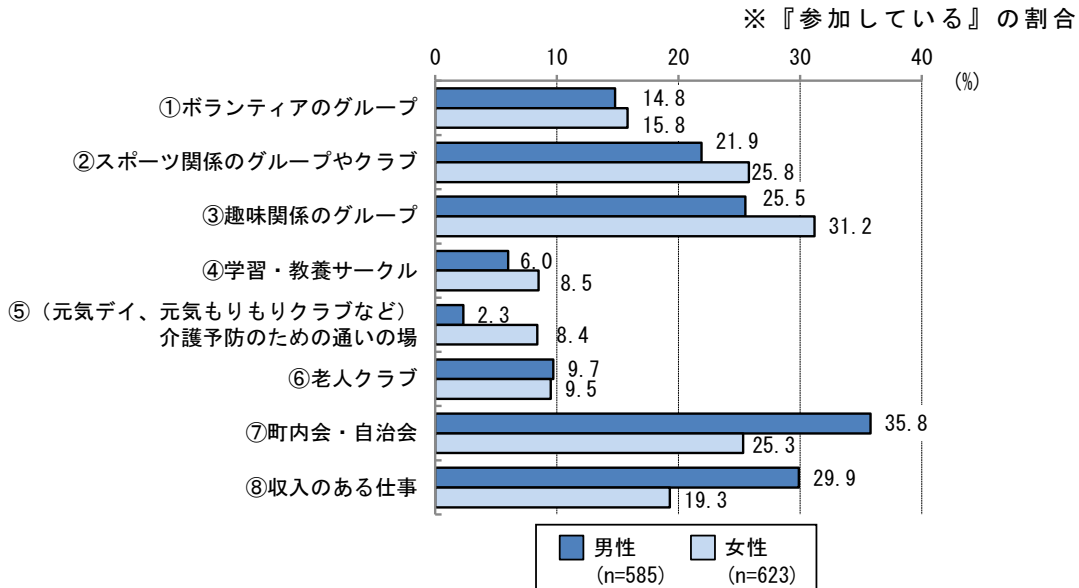
問5(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
 ※①～⑧それぞれに回答してください(それぞれ1つに○)

地域の会・グループ等に『参加している』（「週4回以上」から「年に数回」までの合計）人の割合は、「⑦町内会・自治会」が29.8%と最も多く、次いで、「③趣味関係のグループ」が28.2%、「⑧収入のある仕事」が24.2%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が23.4%となっています。

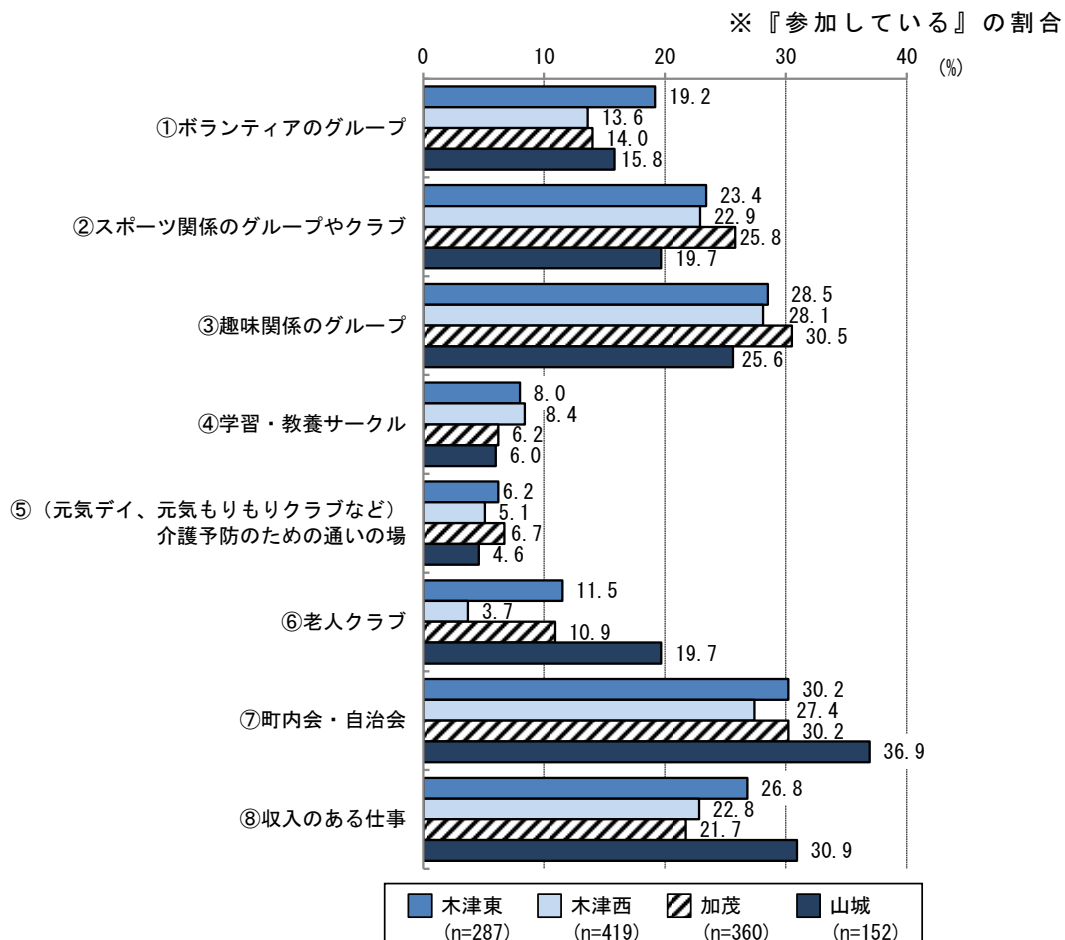


『参加している』人の割合を性別にみると、男性は「町内会・自治会」が 35.8%と最も多く、女性は「趣味関係のグループ」が 31.2%で最も多くなっています。居住地区別にみると、木津東地区では「ボランティアのグループ」、加茂地区では「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」、山城地区では「老人クラブ」、「町内会・自治会」、「収入のある仕事」が、それぞれ他の地区に比べて多くなっています。

【地域の会・グループ等への参加状況 性別】



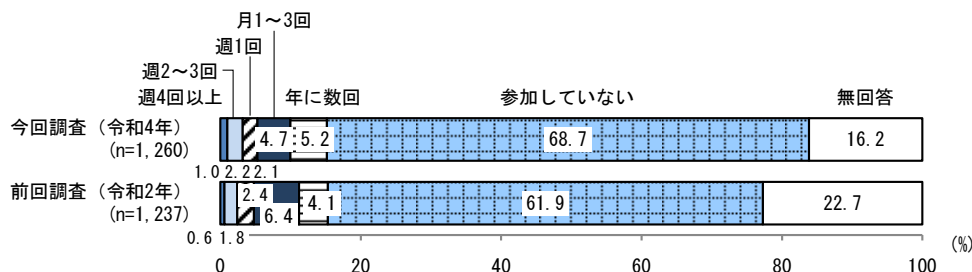
【地域の会・グループ等への参加状況 居住地区別】



Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

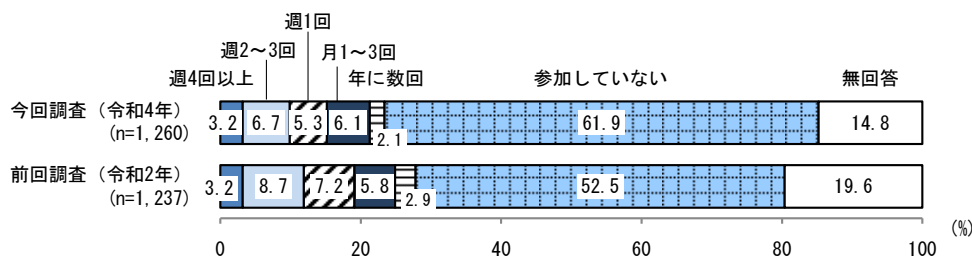
① ボランティアのグループ

ボランティアのグループに『参加している』人の割合は、合計 15.2%で、前回調査（15.3%）に比べて大きな変化はみられません。参加頻度は「年に数回」が 5.2%と最も多く、次いで、「月1～3回」が 4.7%となっています。



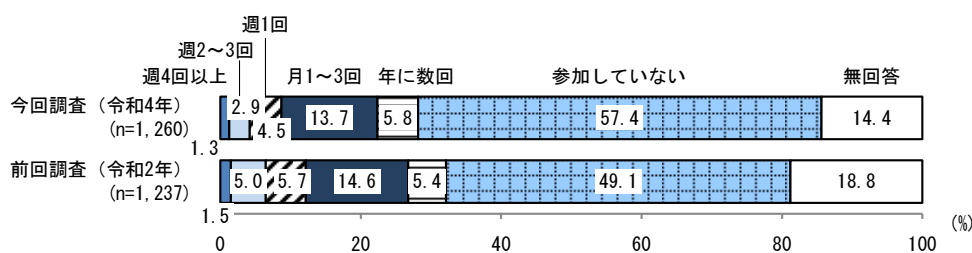
② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブに『参加している』人の割合は、合計 23.4%で、前回調査（27.8%）に比べて 4.4 ポイント減少しています。参加頻度は「週2～3回」が 6.7%、「月1～3回」が 6.1%、「週1回」が 5.3%となっています。



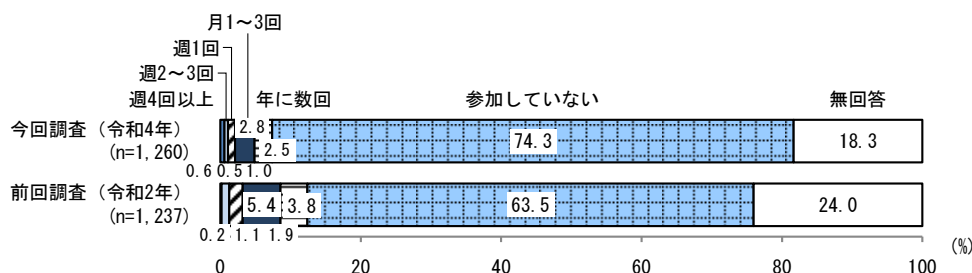
③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループに『参加している』人の割合は、合計 28.2%で、前回調査（32.2%）に比べて 4.0 ポイント減少しています。参加頻度は「月1～3回」が 13.7%と最も多く、次いで、「年に数回」が 5.8%となっています。



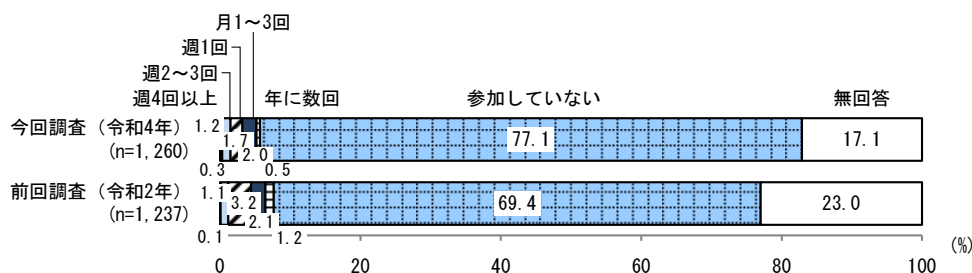
④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルに『参加している』人の割合は、合計 7.4%で、前回調査（12.4%）に比べて 5.0 ポイント減少しています。参加頻度は「月1～3回」が 2.8%、「年に数回」が 2.5%となっています。



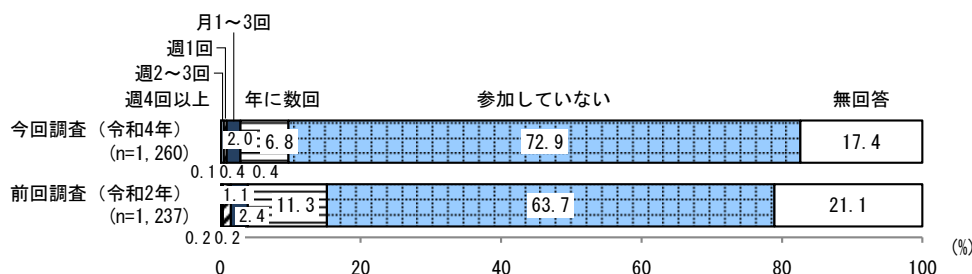
⑤（元気デイ、元気もりもりクラブなど）介護予防のための通いの場

介護予防のための通いの場に『参加している』人の割合は、合計 5.7%となっています。参加頻度は「月1～3回」が2.0%、「週1回」が1.7%となっています。



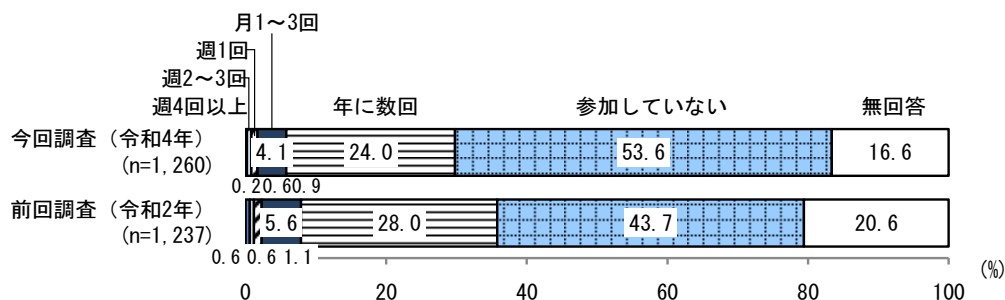
⑥老人クラブ

老人クラブに『参加している』人の割合は、合計 9.7%で、前回調査（15.2%）に比べて5.5ポイント減少しています。参加頻度は「年に数回」が6.8%と最も多く、次いで、「月1～3回」が2.0%となっています。



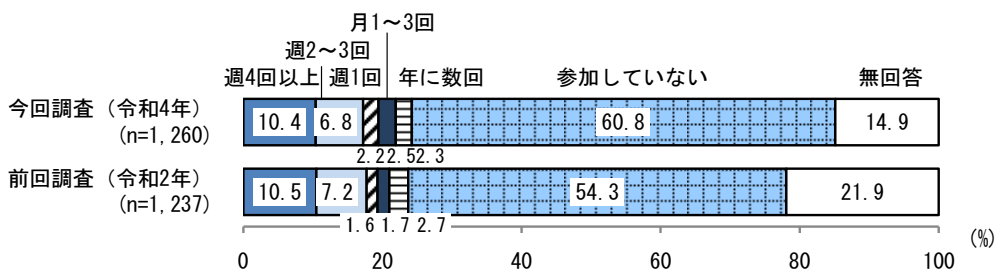
⑦町内会・自治会

町内会・自治会に『参加している』人の割合は、合計 29.8%で、前回調査（35.9%）に比べて6.1ポイント減少しています。参加頻度は「年に数回」が24.0%と最も多く、次いで、「月1～3回」が4.1%となっています。



⑧収入のある仕事

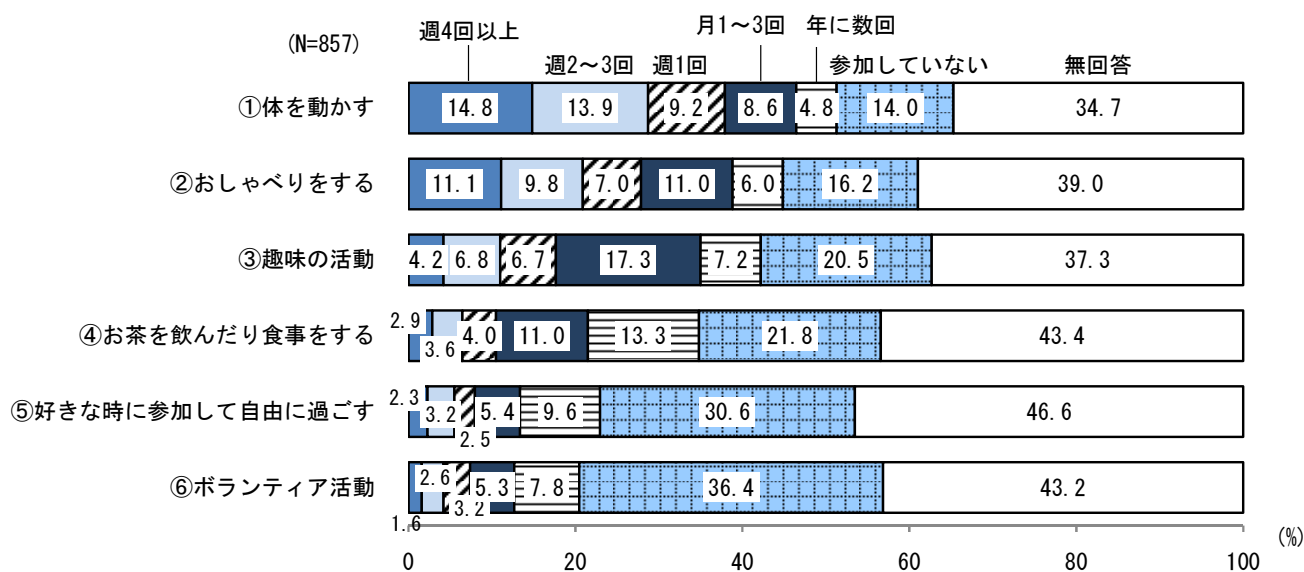
収入のある仕事を『している』人の割合は、合計 24.2%で、参加頻度は「週4回以上」が10.4%と最も多く、次いで、「週2～3回」が6.8%、「月1～3回」が2.5%となっています。



Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

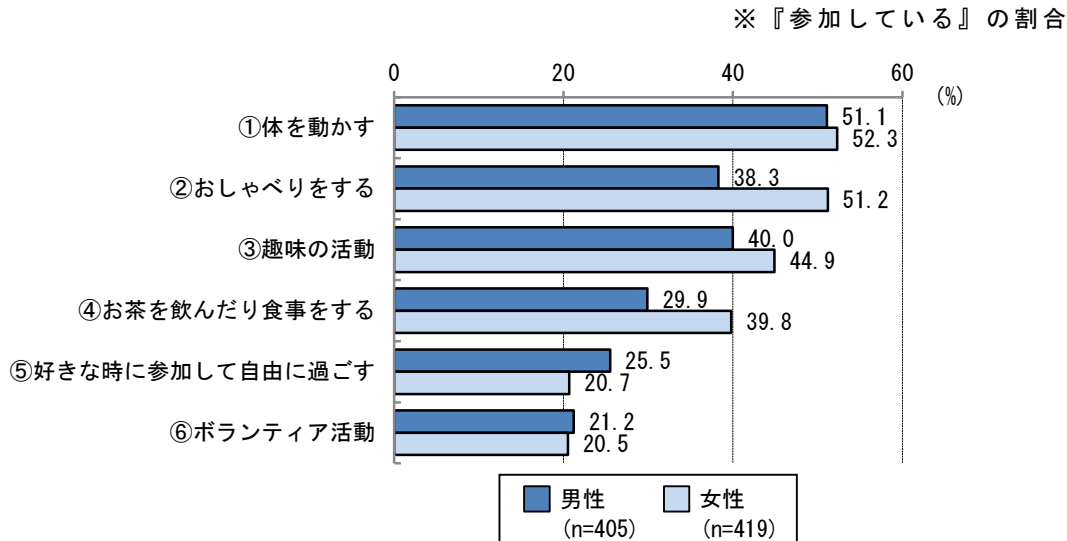
問5(1)-1 前の質問で参加していると答えた方について、そこではどのような活動
 をしていますか。また、どれくらいの回数ですか
 ※①～⑦それぞれに回答してください(それぞれ1つに○)

地域の会・グループ等に『参加している』と回答された方に、その活動内容別の頻度をたずねたところ、年に数回以上参加している人の合計は、「①体を動かす」で 51.3%と最も多く、次いで、「②おしゃべりをする」が 44.9%、「③趣味の活動」が 42.2%となっています。

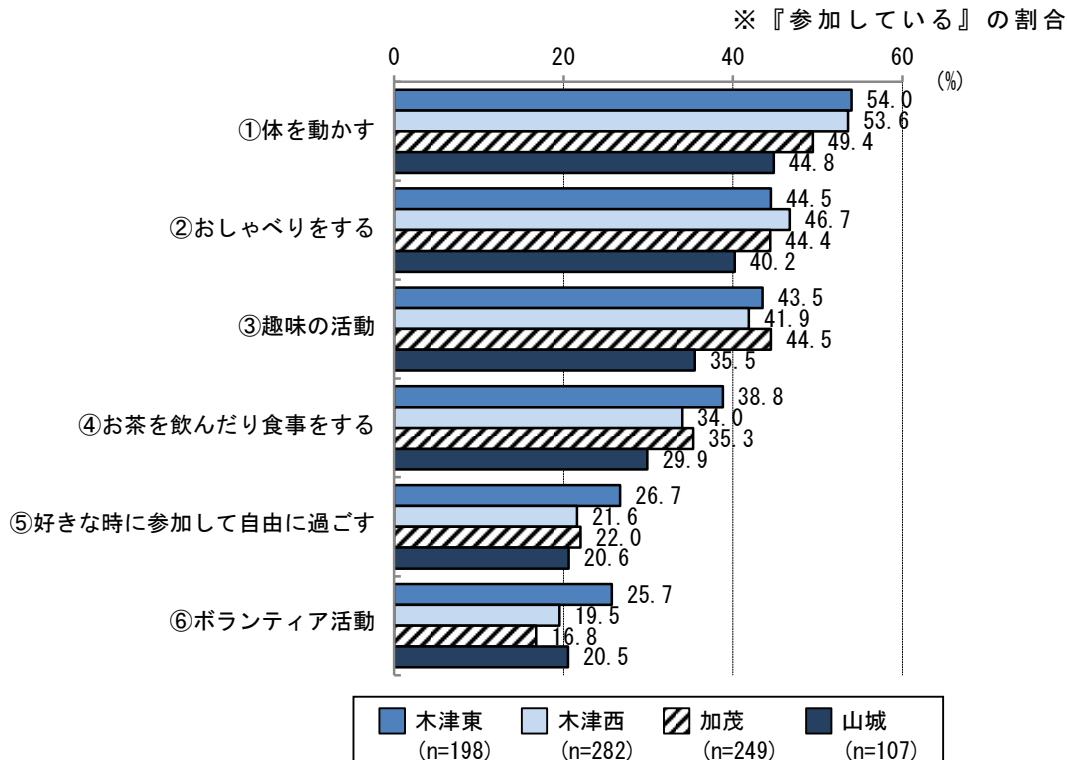


『参加している』割合を性別にみると、男女ともに「体を動かす」が最も多く、男性 51.1%、女性 52.3%となっていますが、多くの項目で女性のほうが『参加している』割合は多くなっています。居住地区別にみると、木津東地区では「お茶を飲んだり食事をする」、「好きな時に参加して自由に過ごす」、「ボランティア活動」、木津西地区では「おしゃべりをする」、加茂地区では「趣味の活動」が、それぞれ他の地区に比べて多くなっています。

【地域の会・グループ等への参加状況 性別】



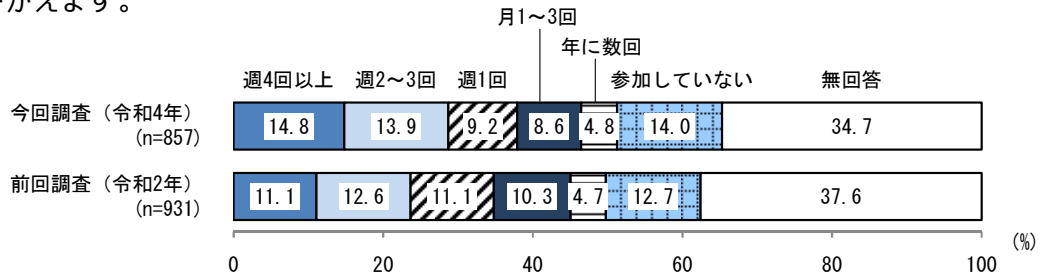
【地域の会・グループ等への参加状況 居住地区別】



II. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

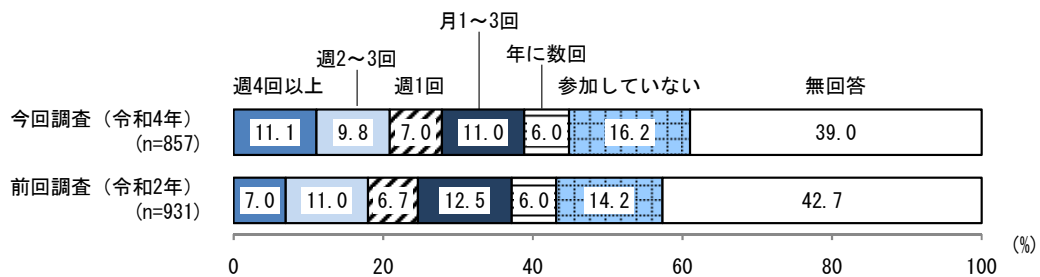
①体を動かす

「体を動かす」活動に参加している人は合計 51.3%で、前回調査（49.8%）に比べて 1.5 ポイント増加しています。活動の頻度は「週 4 回以上」が 14.8%と最も多く、次いで「週 2～3 回」が 13.9%で、ともに前回調査より増加しており、体を動かす頻度が多くなっていることがうかがえます。



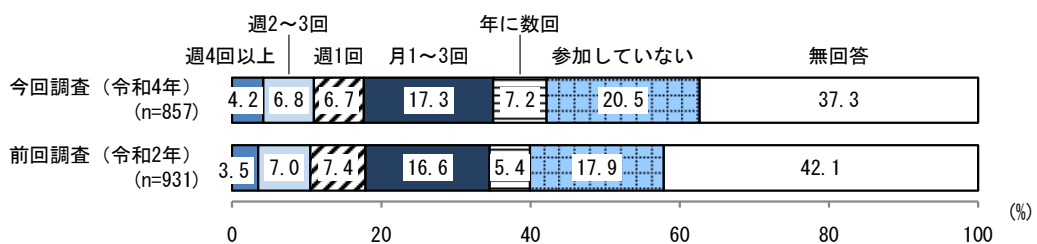
②おしゃべりをする

「おしゃべりをする」活動に参加している人は合計 44.9%で、前回調査（43.2%）に比べて 1.7 ポイント増加しています。活動の頻度は「週 4 回以上」が 11.1%と最も多く、次いで、「月 1～3 回」が 11.0%となっています。前回調査に比べて、「週 4 回以上」が 4.1 ポイント増加しており、おしゃべりの頻度が多くなっていることがうかがえます。



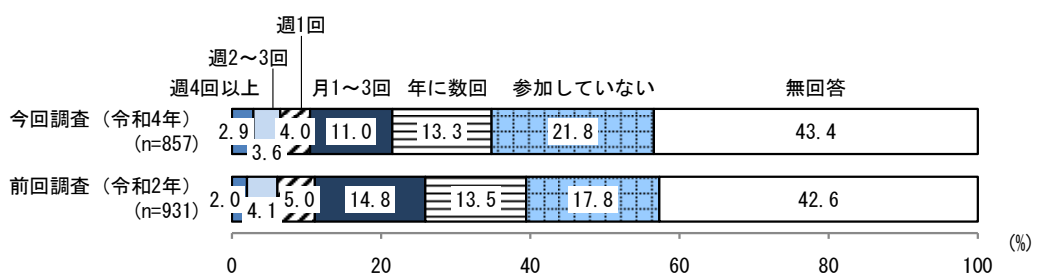
③趣味の活動

「趣味の活動」に参加している人は合計 42.2%で、前回調査（39.9%）に比べて 2.3 ポイント増加しています。活動の頻度は「月 1～3 回」が 17.3%と最も多くなっています。



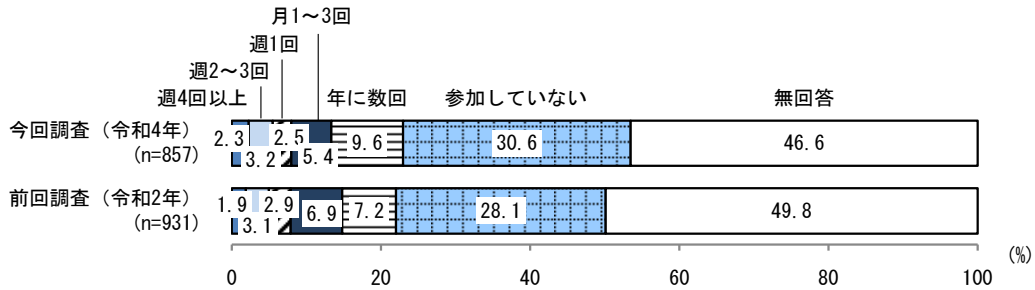
④お茶を飲んだり食事をする

「お茶を飲んだり食事をする」活動に参加している人は合計 34.8%で、前回調査（39.4%）に比べて 4.6 ポイント減少しています。活動の頻度は「年に数回」が 13.3%と最も多く、次いで、「月 1～3 回」が 11.0%となっています。



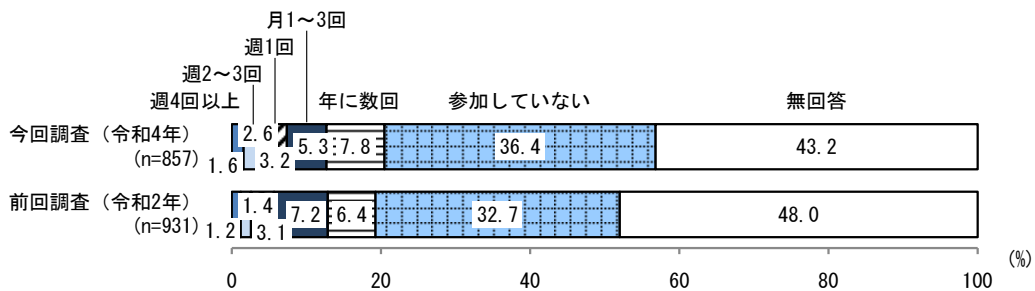
⑤好きな時に参加して自由に過ごす

「好きな時に参加して自由に過ごす」活動に参加している人は合計 23.0%と、前回調査（22.0%）に比べて大きな変化はみられません。活動の頻度は「年に数回」が 9.6%と最も多くなっています。



⑥ボランティア活動

「ボランティア活動」に参加している人は合計 20.5%と、前回調査（19.3%）に比べて大きな変化はみられません。活動の頻度は「年に数回」が 7.8%と最も多く、次いで、「月1～3回」が 5.3%となっています。



⑦その他

その他の活動については、下記の計 82 件の回答がありました。

内 容	件数
自治会、地域活動、ボランティア（月1～3回、年に数回）	43件
仕事（週4回以上、週2～3回、週1回）	11件
組合（月1～3回）	10件
ウォーキングやゴルフ等のスポーツ（週4回以上、週2～3回）	8件
友人関係（月1～3回、年に数回）	3件
習い事（頻度不明）	2件
宗教活動（週4回以上）	1件
デイケア（週2～3回）	1件
その他	1件
特になし	2件

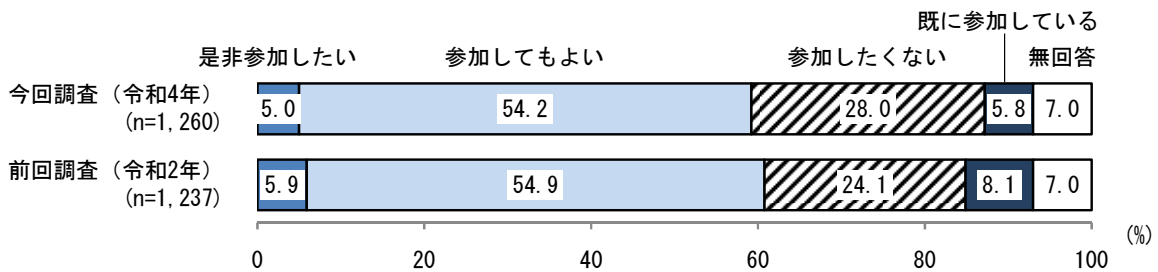
〔2〕地域の会・グループ等への参加意向

①参加者としての参加

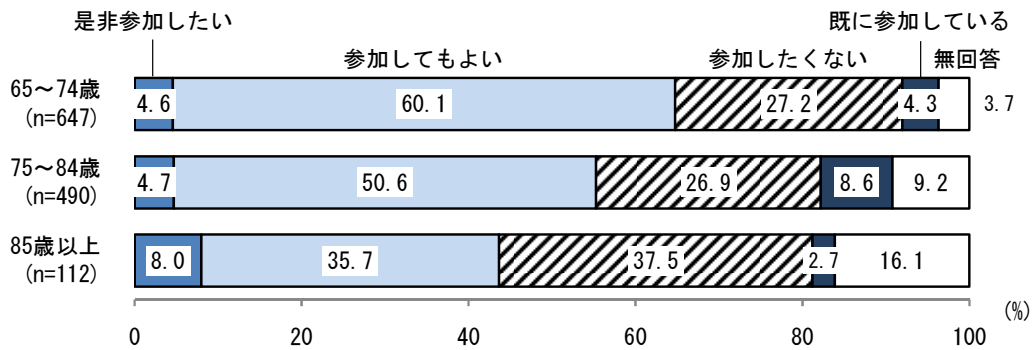
問5(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向については、「是非参加したい」5.0%、「参加してもよい」54.2%、「既に参加している」5.8%を合わせた『参加意向あり』は合計 65.0%となっています。

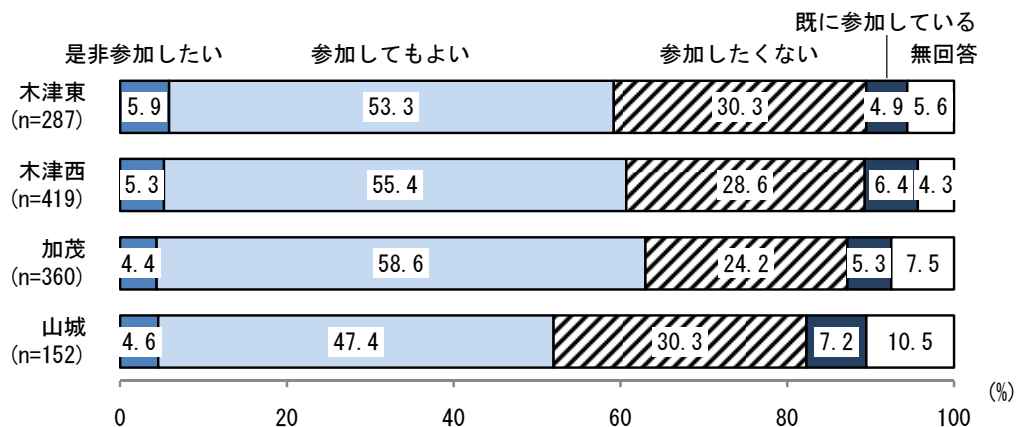
年齢別にみると、『参加意向あり』は65～74歳で69.0%、75～84歳で63.9%、85歳以上で46.4%と年齢が若い層のほうが多くなっています。居住地区別にみると、『参加意向あり』は加茂地区で68.3%と最も多く、山城地区では59.2%と他の地区に比べて少なくなっています。



【地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向 年齢別】



【地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向 居住地区別】

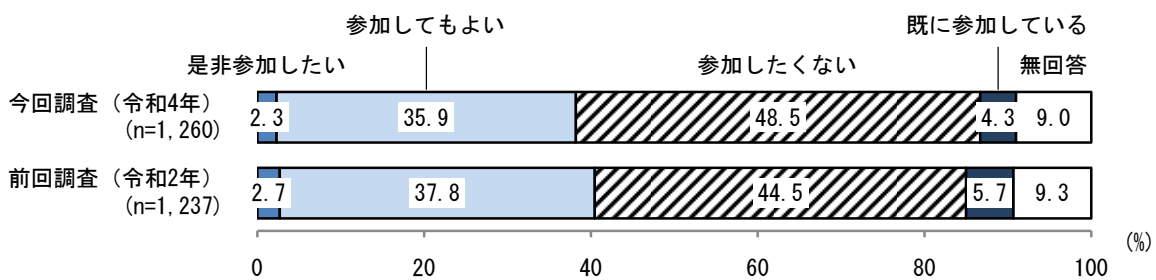


②企画・運営としての参加

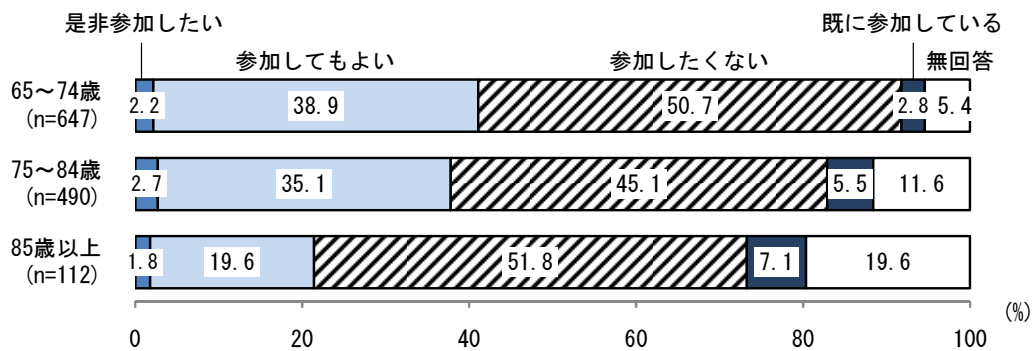
問5(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか

地域の会・グループ活動等への企画・運営（お世話役）としての参加意向は、「是非参加したい」2.3%、「参加してもよい」35.9%、「既に参加している」4.3%を合わせた『参加意向あり』は合計 42.5%となっています。

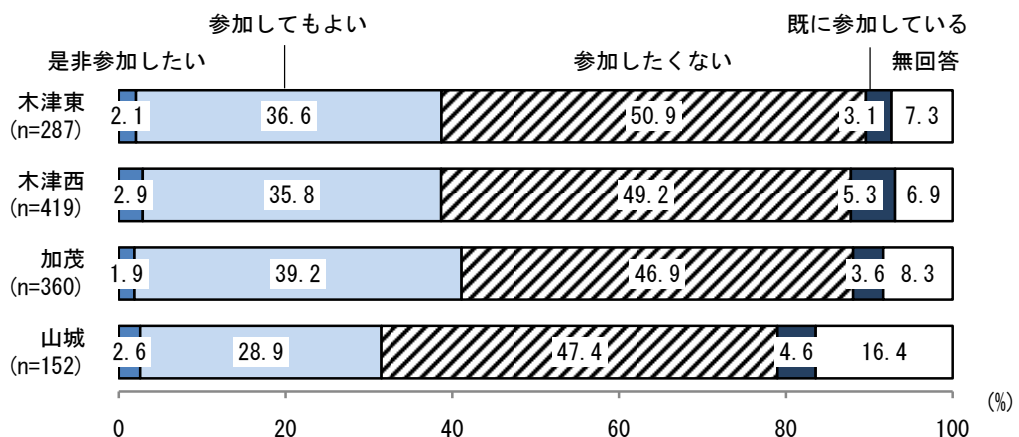
年齢別にみると、『参加意向あり』は 85 歳以上では 28.5%と少なくなっています。居住地区別にみると、『参加意向あり』は山城地区では 36.1%と、他の地区に比べて少なくなっています。



【地域の会・グループ活動等への企画・運営としての参加意向 年齢別】



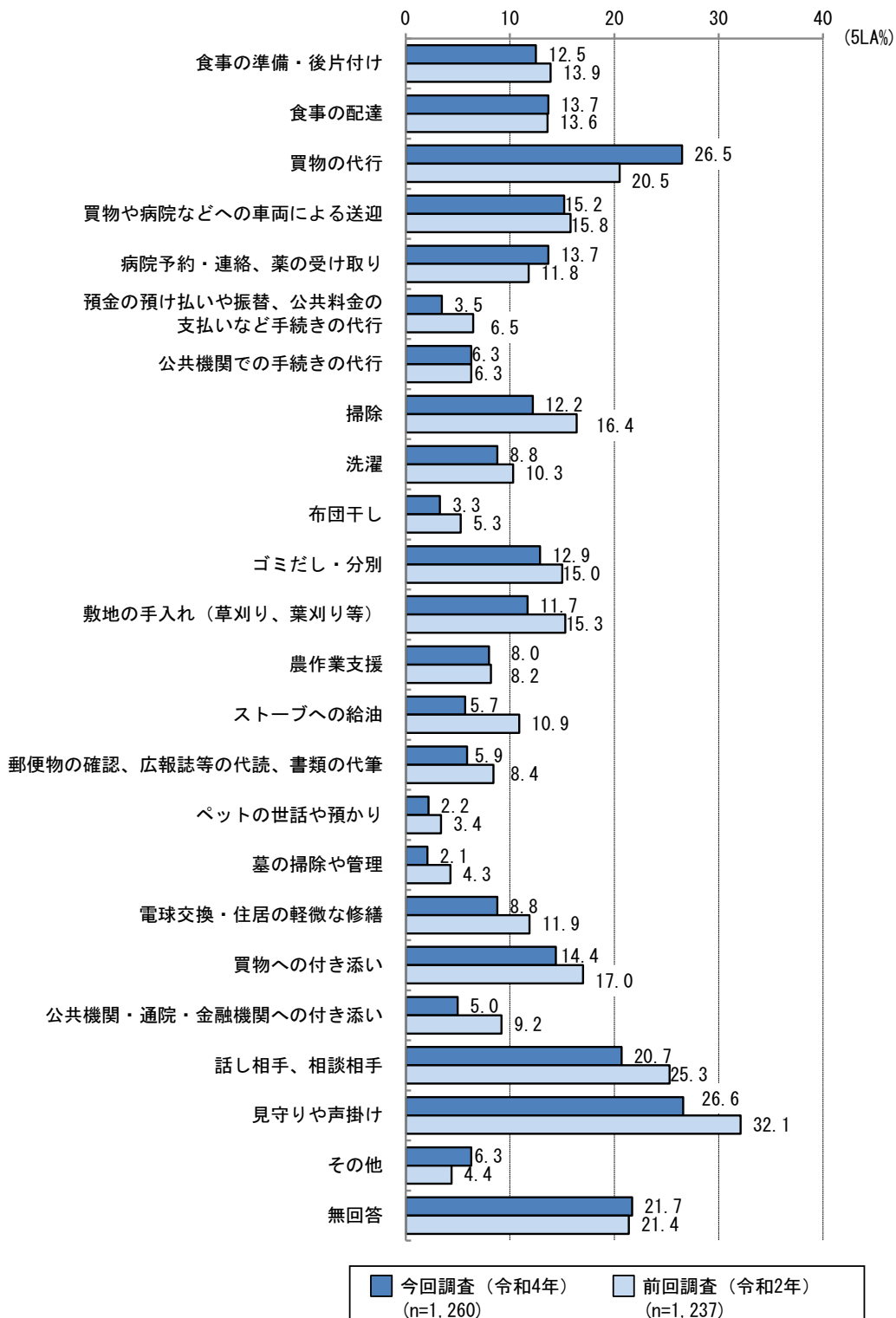
【地域の会・グループ活動等への企画・運営としての参加意向 居住地区別】



〔3〕高齢者に対して支援できること

問5(4) 次の項目で、生活行為ができにくくなっている高齢者に対する手助けとして、あなた自身が支援出来る内容はどれですか(あてはまるもの5つまでに○)

生活行為ができにくくなっている高齢者に対して自身が支援できることについては、「見守りや声掛け」が26.6%、「買物の代行」が26.5%、「話し相手、相談相手」が20.7%となっています。前回調査に比べて、「買物の代行」が6.0ポイント増加しているほかは、「見守りや声掛け」が5.5ポイント、「ストーブへの給油」が5.2ポイント、「話し相手、相談相手」が4.6ポイントなど、多くの項目が減少傾向となっています。



II. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

高齢者に対して自身が支援できることを性別にみると、男性は「買物の代行」が最も多くなっているほか、「買物や病院などへの車両による送迎」、「電球交換・住居の軽微な修繕」、「敷地の手入れ（草刈り、葉刈り等）」、「農作業支援」などが女性に比べて多く、女性は「見守りや声掛け」が最も多くなっているほか、「話し相手、相談相手」、「食事の準備・後片付け」、「洗濯」などが男性より多くなっています。年齢別にみると、「できる」と回答している割合は、ほとんどの項目で65～74歳が他の年齢層より多く、「話し相手、相談相手」では85歳以上が多くなっています。

【高齢者に対して支援できること 性別、年齢別】

(5LA%)

		n	食事の準備・後片付け	食事の配達	買物の代行	買物や病院などへの車両による送迎	病院予約・連絡、薬の受け取り	公共機関での手続きの代行	公共機関での手続きの代行	掃除	洗濯	布団干し	ゴミだし・分別	刈敷地の手入れ（草刈り、葉刈り等）
全体		1,260 100	158 12.5	172 13.7	334 26.5	192 15.2	173 13.7	44 3.5	79 6.3	154 12.2	111 8.8	41 3.3	162 12.9	148 11.7
性別	男性	585 100	35 6.0	85 14.5	165 28.2	146 25.0	89 15.2	28 4.8	61 10.4	53 9.1	13 2.2	19 3.2	72 12.3	120 20.5
	女性	623 100	116 18.6	86 13.8	160 25.7	44 7.1	82 13.2	16 2.6	18 2.9	91 14.6	92 14.8	20 3.2	80 12.8	25 4.0
年齢別	65～74歳	647 100	94 14.5	112 17.3	214 33.1	124 19.2	95 14.7	28 4.3	53 8.2	84 13.0	62 9.6	28 4.3	76 11.7	85 13.1
	75～84歳	490 100	48 9.8	52 10.6	103 21.0	62 12.7	71 14.5	16 3.3	24 4.9	58 11.8	35 7.1	12 2.4	73 14.9	55 11.2
	85歳以上	112 100	13 11.6	7 6.3	12 10.7	5 4.5	5 4.5	0 0	1 0.9	11 9.8	13 11.6	1 0.9	12 10.7	6 5.4

		n	農作業支援	ストーブへの給油	郵便物の確認、広報紙等の代読、書類の代筆	ペットの世話や預かり	墓の掃除や管理	電球交換・住居の軽微な修繕	買物への付き添い	公共機関・通院・金融機関への付き添い	話し相手、相談相手	見守りや声掛け	その他	無回答
全体		1,260 100	101 8.0	72 5.7	74 5.9	28 2.2	26 2.1	111 8.8	182 14.4	63 5.0	261 20.7	335 26.6	80 6.3	274 21.7
性別	男性	585 100	86 14.7	54 9.2	36 6.2	11 1.9	17 2.9	105 17.9	68 11.6	38 6.5	81 13.8	146 25.0	41 7.0	99 16.9
	女性	623 100	12 1.9	14 2.2	37 5.9	17 2.7	9 1.4	1 0.2	110 17.7	23 3.7	170 27.3	179 28.7	37 5.9	152 24.4
年齢別	65～74歳	647 100	55 8.5	43 6.6	43 6.6	19 2.9	19 2.9	64 9.9	118 18.2	40 6.2	128 19.8	199 30.8	33 5.1	97 15.0
	75～84歳	490 100	36 7.3	25 5.1	30 6.1	9 1.8	4 0.8	45 9.2	54 11.0	17 3.5	100 20.4	119 24.3	35 7.1	131 26.7
	85歳以上	112 100	8 7.1	4 3.6	1 0.9	0 0	3 2.7	2 1.8	7 6.3	5 4.5	30 26.8	15 13.4	12 10.7	43 38.4

7 たすけあいについて

[1] 心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人

問6(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

問6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

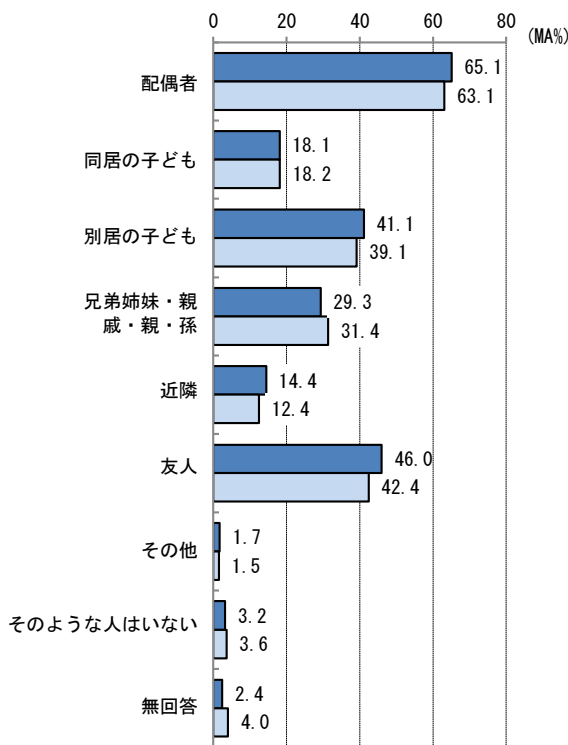
心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」が 65.1%と最も多く、次いで、「友人」が 46.0%、「別居の子ども」が 41.1%となっています。

性別にみると、男性は「配偶者」、女性は「友人」が最も多くなっています。年齢別にみると、84歳以下では「配偶者」、85歳以上では「別居の子ども」が最も多くなっています。

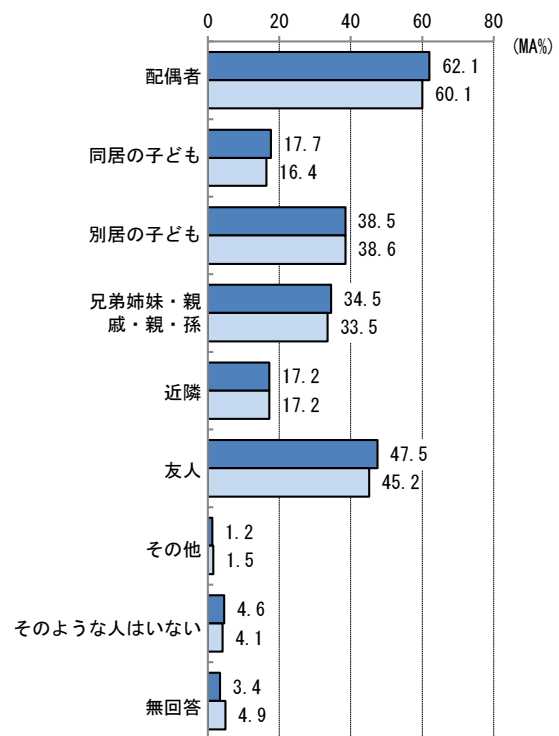
心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」が 62.1%と最も多く、次いで、「友人」が 47.5%、「別居の子ども」が 38.5%となっています。

性別にみると、男性は「配偶者」、女性は「友人」が最も多くなっています。年齢別にみると、どの年齢層も「配偶者」が最も多くなっていますが、85歳以上では「そのような人はいない」が 12.5%と、他の年齢層より多くみられます。

【心配事や愚痴を聞いてくれる人】



【心配事や愚痴を聞いてあげる人】



■ 今回調査 (令和4年) (n=1,260) □ 前回調査 (令和2年) (n=1,237)

■ 今回調査 (令和4年) (n=1,260) □ 前回調査 (令和2年) (n=1,237)

Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【心配事や愚痴を聞いてくれる人 性別、年齢別】

		n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟・孫・姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	ない	そのような人はい	無回答
全体		1,260	820	228	518	369	182	580	21	40		
		100	65.1	18.1	41.1	29.3	14.4	46.0	1.7	3.2		30
性別	男性	585	452	85	178	115	45	192	7	27		17
		100	77.3	14.5	30.4	19.7	7.7	32.8	1.2	4.6		2.9
性別	女性	623	343	132	319	240	127	365	14	10		9
		100	55.1	21.2	51.2	38.5	20.4	58.6	2.2	1.6		1.4
年齢別	65～74歳	647	462	106	274	196	99	343	11	20		10
		100	71.4	16.4	42.3	30.3	15.3	53.0	1.7	3.1		1.5
	75～84歳	490	309	83	186	138	62	198	8	15		15
	100	63.1	16.9	38.0	28.2	12.7	40.4	1.6	3.1		3.1	
年齢別	85歳以上	112	41	34	52	32	20	33	2	5		5
		100	36.6	30.4	46.4	28.6	17.9	29.5	1.8	4.5		4.5

【心配事や愚痴を聞いてあげる人 性別、年齢別】

		n	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟・孫・姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	ない	そのような人はい	無回答
全体		1,260	783	223	485	435	217	599	15	58		43
		100	62.1	17.7	38.5	34.5	17.2	47.5	1.2	4.6		3.4
性別	男性	585	447	91	193	151	58	190	4	35		27
		100	76.4	15.6	33.0	25.8	9.9	32.5	0.7	6.0		4.6
性別	女性	623	308	123	276	271	152	387	11	20		11
		100	49.4	19.7	44.3	43.5	24.4	62.1	1.8	3.2		1.8
年齢別	65～74歳	647	445	112	278	231	114	347	7	20		8
		100	68.8	17.3	43.0	35.7	17.6	53.6	1.1	3.1		1.2
	75～84歳	490	292	83	165	165	80	208	7	24		27
	100	59.6	16.9	33.7	33.7	16.3	42.4	1.4	4.9		5.5	
年齢別	85歳以上	112	38	24	37	35	20	37	1	14		8
		100	33.9	21.4	33.0	31.3	17.9	33.0	0.9	12.5		7.1

〔2〕看病や世話をしてくれる人、してあげる人

問6(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

問6(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

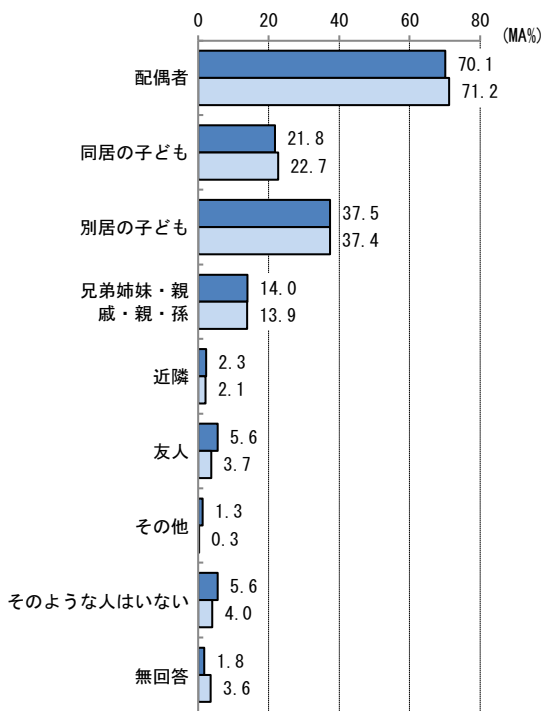
看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が 70.1%と最も多く、次いで、「別居の子ども」が 37.5%、「同居の子ども」が 21.8%となっています。

性別にみると、男女とも「配偶者」が最も多くなっていますが、男性は 84.3%、女性は 57.5%となっています。年齢別にみると、84 歳以下では「配偶者」、85 歳以上では「別居の子ども」が最も多くなっています。

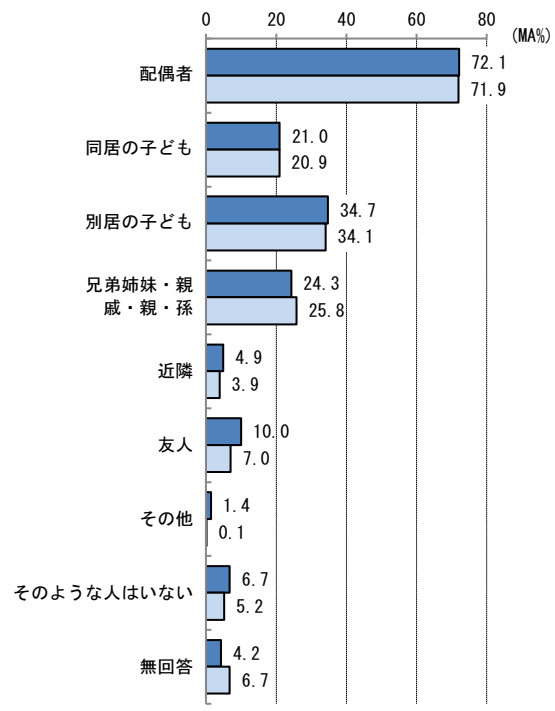
看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が 72.1%と最も多く、次いで、「別居の子ども」が 34.7%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 24.3%となっています。

性別にみると、男女とも「配偶者」が最も多くなっていますが、男性は 81.7%、女性は 64.0%となっています。年齢別にみても、どの年齢層も「配偶者」が最も多くなっていますが、84 歳以下が 70%台なのに対し、85 歳以上は 40.2%で、「そのような人はいない」が 14.3%と、他の年齢層より多くみられます。

【看病や世話をしてくれる人】



【看病や世話をしてあげる人】



■ 今回調査 (令和4年) (n=1,260) ■ 前回調査 (令和2年) (n=1,237)

■ 今回調査 (令和4年) (n=1,260) ■ 前回調査 (令和2年) (n=1,237)

Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【看病や世話をしてくれる人 性別、年齢別】

		n	(MA%)								
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟・孫・姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	ない	そのような人はい
全体		1,260	883	275	473	177	29	71	17	70	23
		100	70.1	21.8	37.5	14.0	2.3	5.6	1.3	5.6	1.8
性別	男性	585	493	112	156	59	5	16	3	25	10
		100	84.3	19.1	26.7	10.1	0.9	2.7	0.5	4.3	1.7
性別	女性	623	358	154	298	113	22	54	14	40	10
		100	57.5	24.7	47.8	18.1	3.5	8.7	2.2	6.4	1.6
年齢別	65～74歳	647	500	127	226	90	19	41	2	36	4
		100	77.3	19.6	34.9	13.9	2.9	6.3	0.3	5.6	0.6
	75～84歳	490	333	106	194	60	6	27	11	26	15
	100	68.0	21.6	39.6	12.2	1.2	5.5	2.2	5.3	3.1	
年齢別	85歳以上	112	42	38	49	24	4	3	4	7	4
		100	37.5	33.9	43.8	21.4	3.6	2.7	3.6	6.3	3.6

【看病や世話をしてあげる人 性別、年齢別】

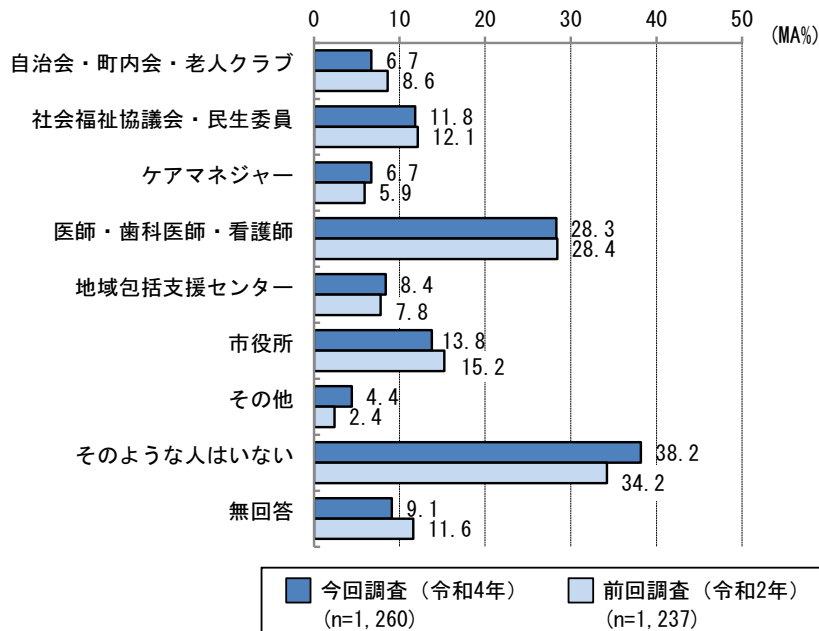
		n	(MA%)								
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟・孫・姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	ない	そのような人はい
全体		1,260	908	265	437	306	62	126	18	84	53
		100	72.1	21.0	34.7	24.3	4.9	10.0	1.4	6.7	4.2
性別	男性	585	478	102	148	100	11	36	5	40	22
		100	81.7	17.4	25.3	17.1	1.9	6.2	0.9	6.8	3.8
性別	女性	623	399	153	277	199	46	88	11	40	22
		100	64.0	24.6	44.5	31.9	7.4	14.1	1.8	6.4	3.5
年齢別	65～74歳	647	511	142	259	196	36	79	3	30	8
		100	79.0	21.9	40.0	30.3	5.6	12.2	0.5	4.6	1.2
	75～84歳	490	344	91	150	93	20	41	8	36	31
	100	70.2	18.6	30.6	19.0	4.1	8.4	1.6	7.3	6.3	
年齢別	85歳以上	112	45	28	23	14	5	6	7	16	14
		100	40.2	25.0	20.5	12.5	4.5	5.4	6.3	14.3	12.5

〔3〕相談相手

問6(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(いくつでも)

家族や友人・知人以外の相談相手は、「医師・歯科医師・看護師」が28.3%と最も多く、次いで、「市役所」が13.8%、「社会福祉協議会・民生委員」が11.8%となっています。前回調査に比べて、「そのような人はいない」が4.0ポイント増加しています。

性別にみると、男女ともに「医師・歯科医師・看護師」が最も多く、次いで、男性は「市役所」、女性は「社会福祉協議会・民生委員」となっています。居住地区別にみると、すべての地区で「医師・歯科医師・看護師」が最も多く、また、木津東地区では「自治会・町内会・老人クラブ」、加茂地区では「社会福祉協議会・民生委員」や「地域包括支援センター」が、他の地区に比べて多くなっています。



【家族や友人・知人以外の相談相手 性別、居住地区別】

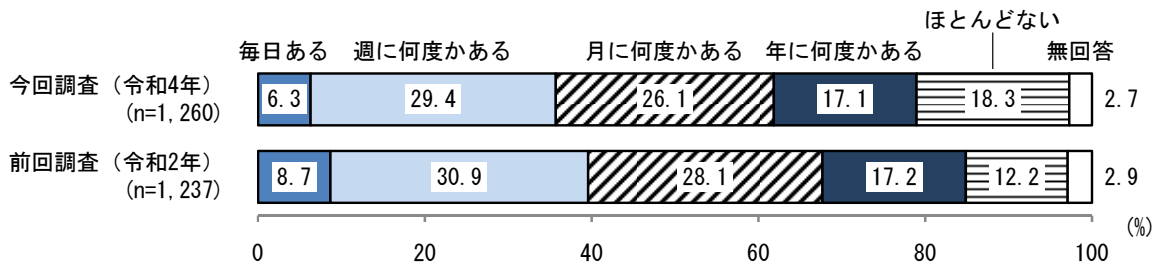
		n	老 人 ク ラ ブ ・ 町 内 会 ・	民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 ・	ケ ア マ ネ ジ ャ ー	医 師 ・ 歯 科 医 師 ・ 看 護 師	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	市 役 所	そ の 他	な い の よ う な 人 は い ない	無 回 答
全体		1,260	85	149	85	356	106	174	56	481	115
性別	男性	585	45	64	36	165	33	94	27	238	44
	女性	623	37	81	44	176	66	73	26	226	65
居住地区別	木津東	287	30	27	15	86	26	46	14	109	23
	木津西	419	19	38	25	127	27	55	22	177	27
	加茂	360	23	60	33	93	40	49	16	130	28
	山城	152	11	22	9	45	12	23	2	47	26
		100	7.2	14.5	5.9	29.6	7.9	15.1	1.3	30.9	17.1

[4]友人・知人との交流

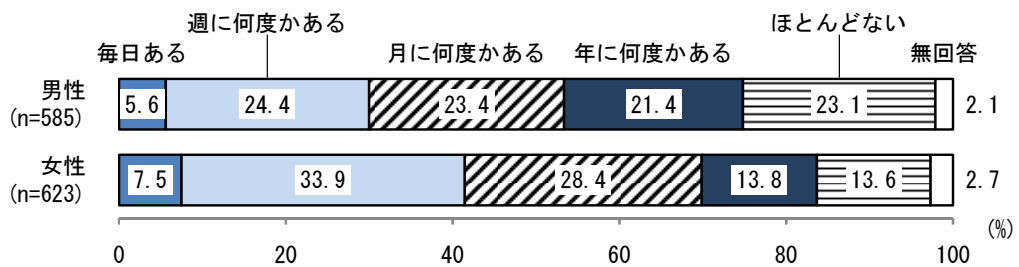
問6(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」が 29.4%と最も多く、「毎日ある」、「週に何度かある」、「月に何度かある」を合わせた『月に数回以上』が合計 61.8%、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた『年に数回以下』は合計 35.4%となっています。前回調査に比べて、「ほとんどない」が 6.1 ポイント増加しており、友人・知人と会う頻度が少なくなっていることがわかります。

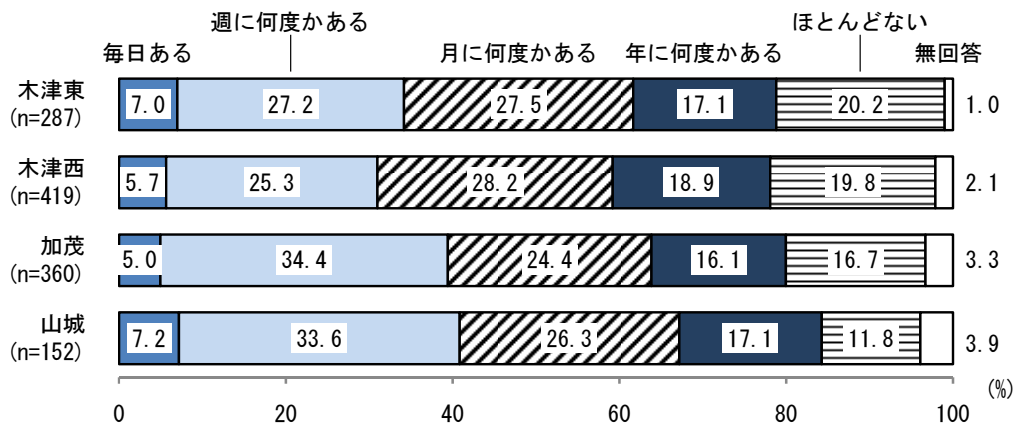
性別にみると、男性は「ほとんどない」が 23.1%と女性に比べて 9.5 ポイント多くなっています。女性は『月に数回以上』が 69.8%と多く、女性のほうが友人知人に会う頻度が高い傾向がみられます。居住地区別にみると、山城地区では『月に数回以上』が 67.1%と多くなっています。



【友人・知人と会う頻度 性別】



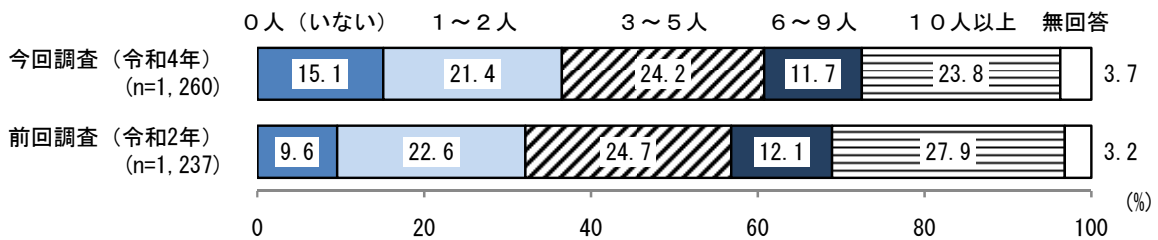
【友人・知人と会う頻度 居住地区別】



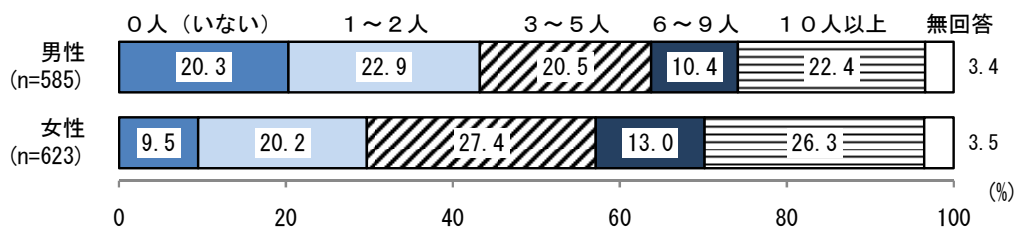
問6(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか
 (※同じ人には何度会っても1人と数えることとします)

1か月間に会う友人・知人の人数は、「3～5人」が24.2%と最も多く、次いで、「10人以上」が23.8%、「1～2人」が21.4%で、「0人(いない)」が15.1%となっています。前回調査に比べて、「0人(いない)」は5.5ポイント増加しています。

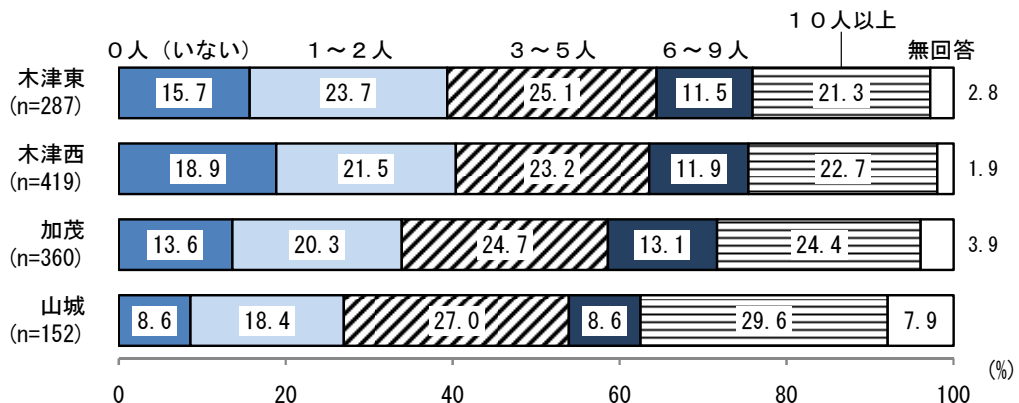
性別にみると、男性は「0人(いない)」が20.3%と、女性に比べて10.8ポイント多くなっています。居住地区別にみると、山城地区では「10人以上」が29.6%と、他の地区に比べて多くなっています。



【1か月間に会う友人・知人の人数 性別】



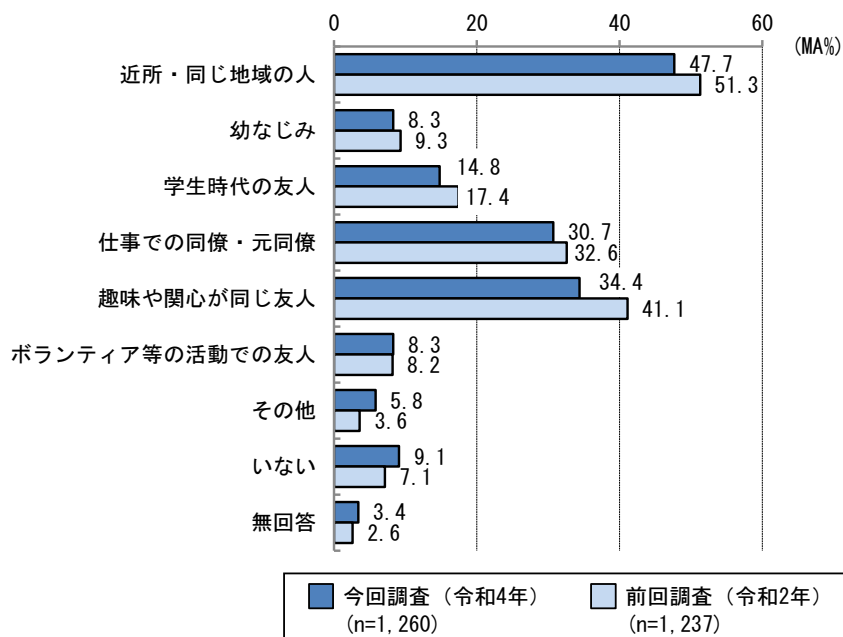
【1か月間に会う友人・知人の人数 居住地区別】



問6(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(いくつでも)

よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」が 47.7%と最も多く、次いで、「趣味や関心が同じ友人」が 34.4%、「仕事での同僚・元同僚」が 30.7%となっています。前回調査に比べて、「趣味や関心が同じ友人」が 6.7 ポイント減少しています。

性別にみると、男性は「仕事での同僚・元同僚」、女性は「近所・同じ地域の人」が最も多くなっています。また、女性では「趣味や関心が同じ友人」が 39.3%と男性に比べて 10.2 ポイント多く、男性は「いない」が 13.2%と女性に比べて 8.5 ポイント多くなっています。年齢別にみると、85歳以上では「近所・同じ地域の人」が 62.5%、「いない」が 15.2%と、他の年齢層に比べて多くなっています。



【友人・知人との関係 性別、年齢別】

		n	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
全体		1,260	601	105	186	387	434	104	73	115	43
		100	47.7	8.3	14.8	30.7	34.4	8.3	5.8	9.1	3.4
性別	男性	585	218	55	100	225	170	31	25	77	21
		100	37.3	9.4	17.1	38.5	29.1	5.3	4.3	13.2	3.6
性別	女性	623	361	45	80	154	245	71	45	29	18
		100	57.9	7.2	12.8	24.7	39.3	11.4	7.2	4.7	2.9
年齢別	65~74歳	647	288	60	117	254	220	64	34	51	10
		100	44.5	9.3	18.1	39.3	34.0	9.9	5.3	7.9	1.5
	75~84歳	490	237	34	58	118	187	33	29	44	26
		100	48.4	6.9	11.8	24.1	38.2	6.7	5.9	9.0	5.3
年齢別	85歳以上	112	70	10	10	11	25	6	9	17	6
		100	62.5	8.9	8.9	9.8	22.3	5.4	8.0	15.2	5.4

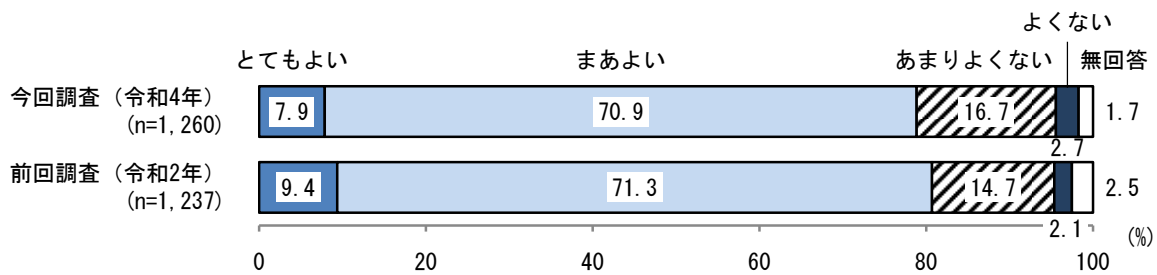
8 健康について

〔1〕主観的健康感

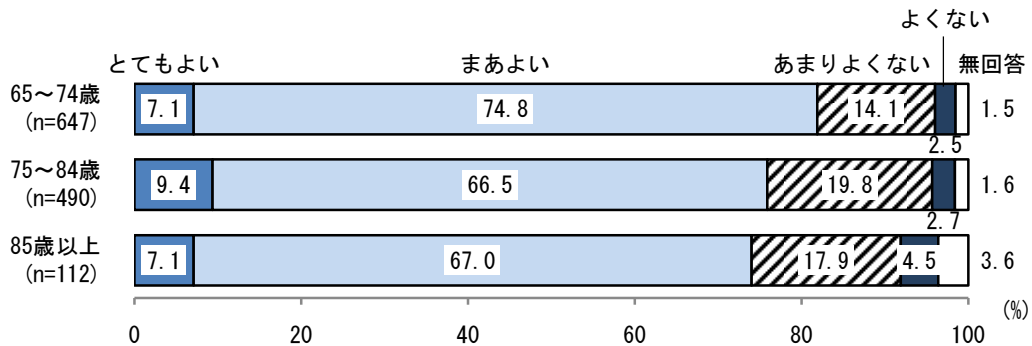
問7(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

現在の健康状態は、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が合計 78.8%、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない』が合計 19.4%となっています。前回調査に比べて、『よくない』が 2.6 ポイント増加しています。

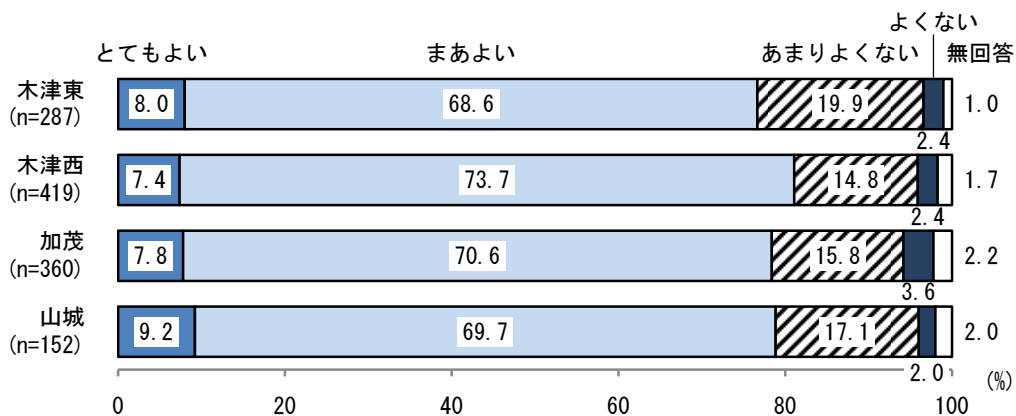
年齢別にみると、『よくない』は 65～74 歳で 16.6%、75～84 歳で 22.5%、85 歳以上で 22.4%と、後期高齢者では 2 割強の人が『よくない』と回答しています。居住地区別に見ると、木津西地区では『よい』が 81.1%と他の地区に比べて多く、木津東地区では『よくない』が 22.3%と他の地区に比べて多くなっています。



【主観的健康感 年齢別】



【主観的健康感 居住地区別】

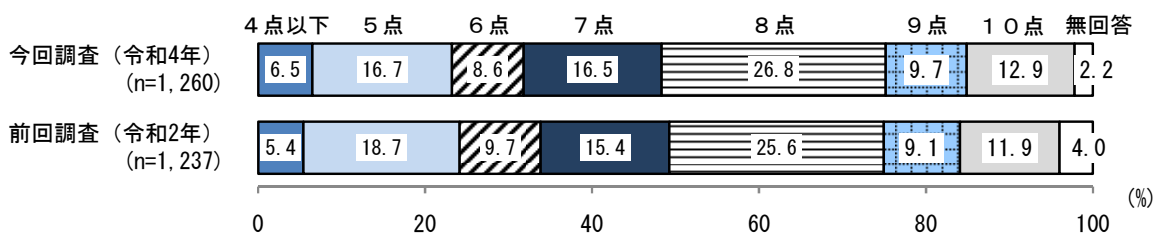


〔2〕主観的幸福感

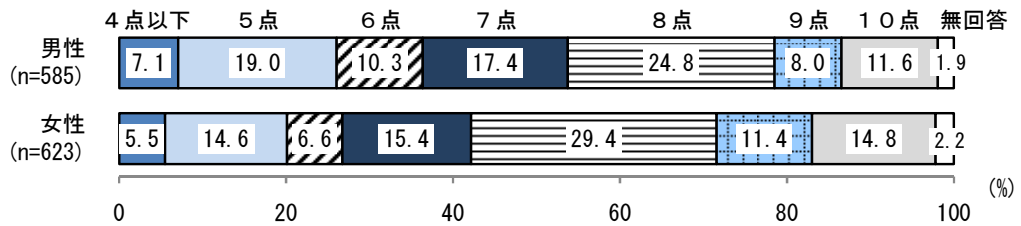
問7(2) あなたは、現在どの程度幸せですか(※「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、あてはまる点数に○をつけてください)

現在の幸福感を10点満点で評価してもらったところ、「8点」が26.8%と最も多く、次いで、「5点」が16.7%、「7点」が16.5%で、平均7.2点となっています。

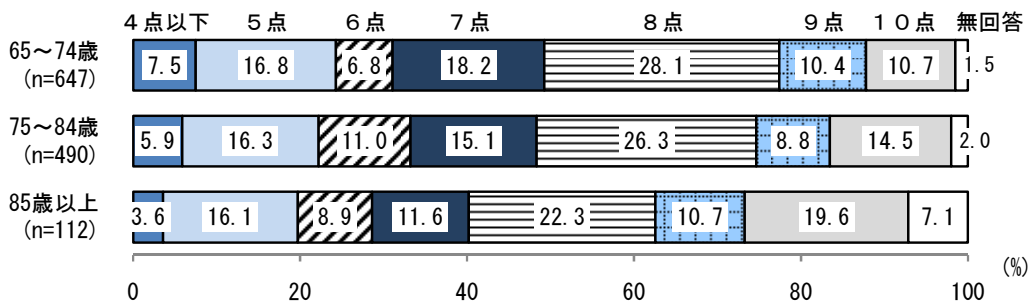
性別にみると、男性は平均7.0点、女性は平均7.4点と、女性のほうが幸福感が高くなっています。年齢別にみると、85歳以上では「10点」と回答した人が19.6%と多く、平均7.5点と幸福感が高くなっています。認定状況別にみると、要支援1、2では平均6.7点と、一般高齢者(平均7.2点)に比べて幸福感は低くなっています。



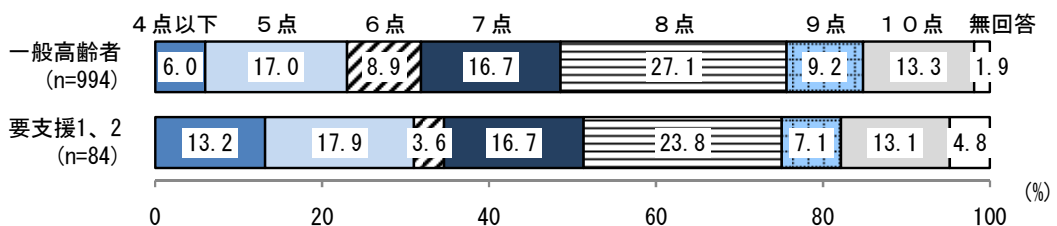
【主観的幸福感 性別】



【主観的幸福感 年齢別】



【主観的幸福感 認定状況別】

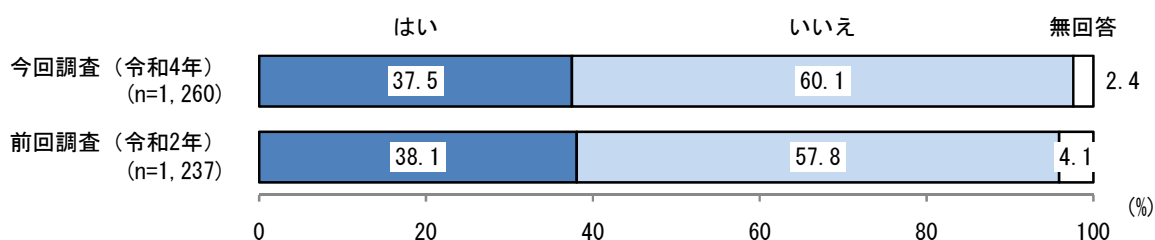


〔3〕ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感

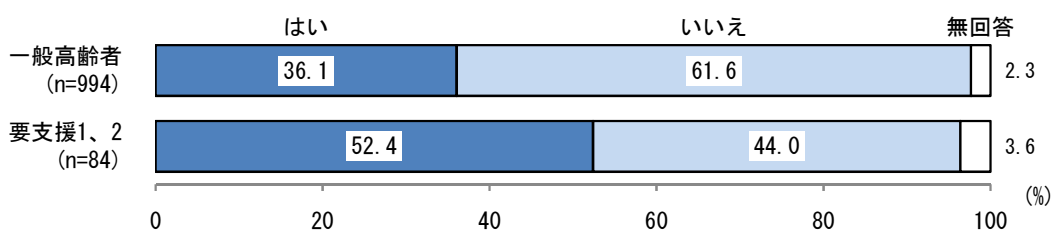
問7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が37.5%、「いいえ」が60.1%となっています。

認定状況別にみると、要支援1、2では「はい」は52.4%と多くなっています。



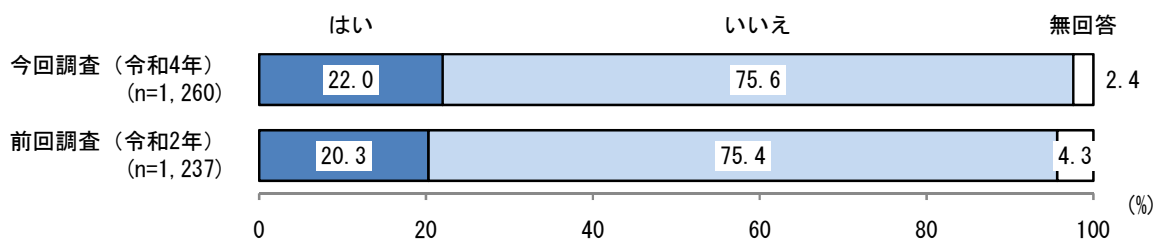
【ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感 認定状況別】



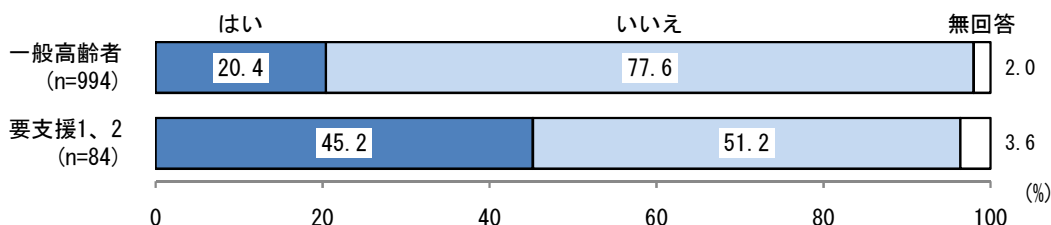
問7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあるかについては、「はい」が22.0%、「いいえ」が75.6%となっています。

認定状況別にみると、要支援1、2では「はい」は45.2%と多くなっています。



【物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じ 認定状況別】

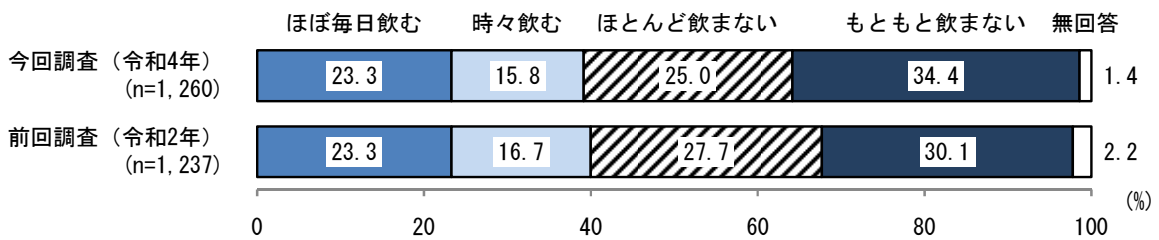


[4] 飲酒・喫煙習慣

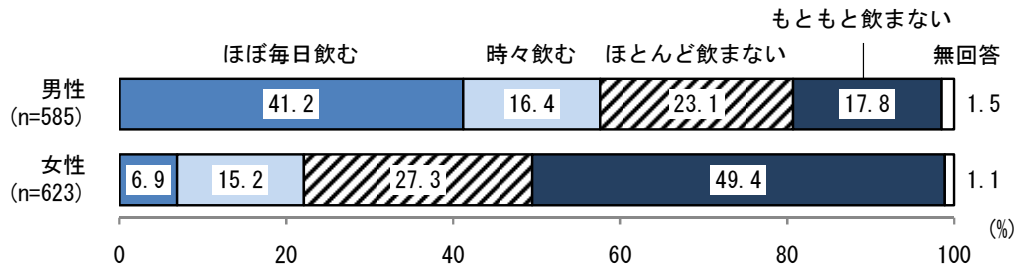
問7(5) お酒は飲みますか

飲酒習慣は、「もともと飲まない」が 34.4%と最も多く、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』が合計 39.1%、「もともと飲まない」と「ほとんど飲まない」を合わせた『飲まない』が合計 59.4%となっています。

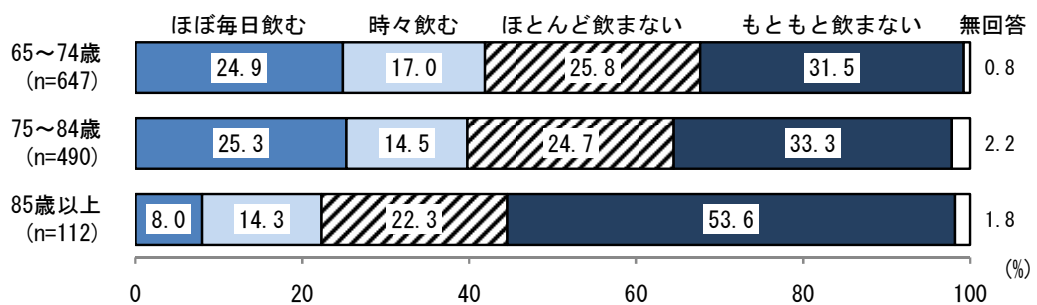
性別にみると、男性では「ほぼ毎日飲む」が 41.2%と最も多く、女性では「もともと飲まない」が 49.4%と最も多くなっています。年齢別にみると、85歳以上では「もともと飲まない」が 53.6%と多く、『飲まない』が 75.9%となっています。



【飲酒習慣 性別】



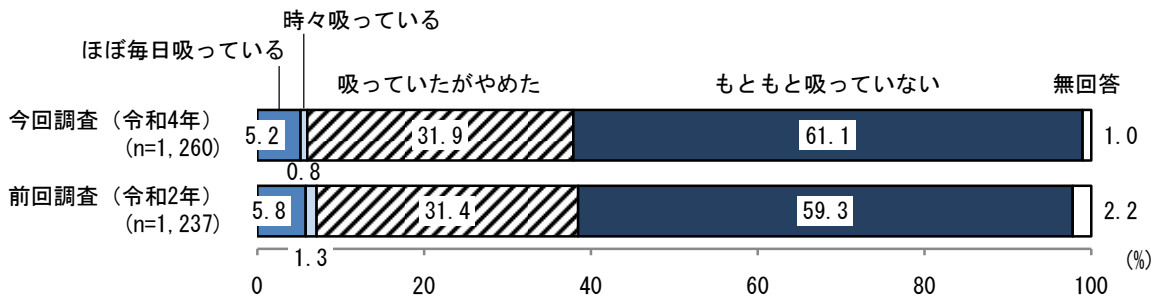
【飲酒習慣 年齢別】



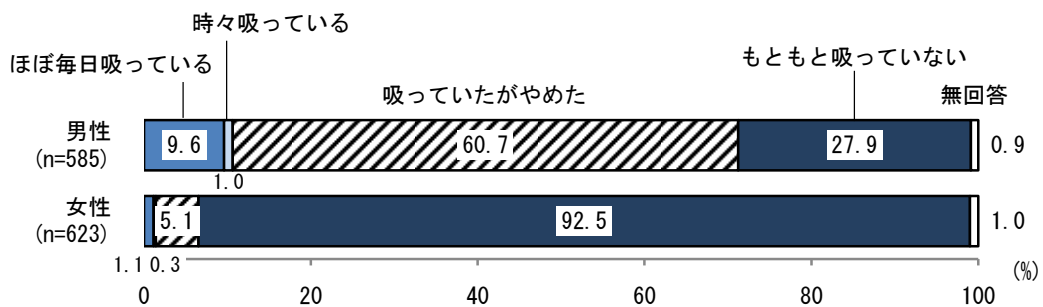
問7(6) タバコは吸っていますか

喫煙習慣は、「もともと吸っていない」が 61.1%と最も多く、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』が合計 6.0%、「もともと吸っていない」と「吸っていたがやめた」を合わせた『吸っていない』が合計 93.0%となっています。

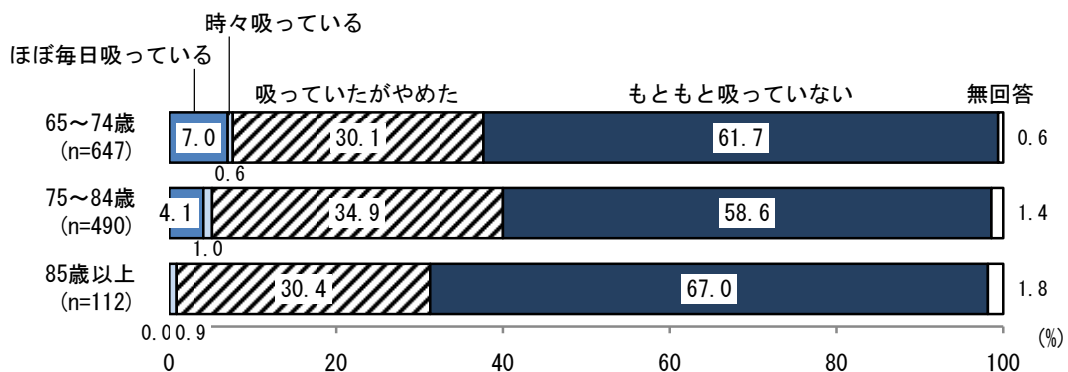
性別にみると、男性では「吸っていたがやめた」が 60.7%と最も多く、女性では「もともと吸っていない」が 92.5%と最も多くなっています。年齢別にみると、85歳以上では『吸っている』は 0.9%とほとんどいない状態となっています。



【喫煙習慣 性別】



【喫煙習慣 年齢別】

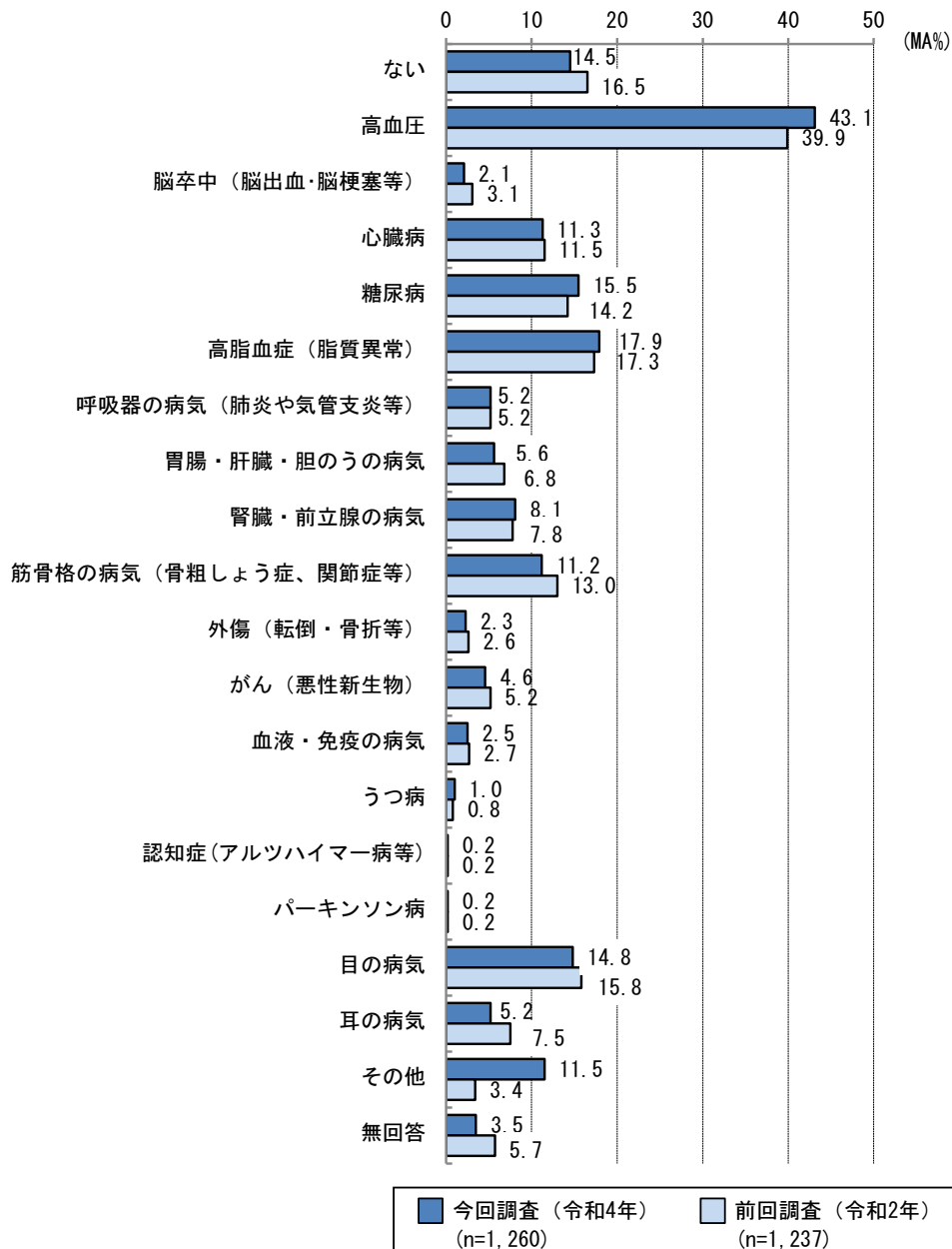


[5] 治療中、後遺症のある病気

問7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)

治療中や後遺症のある病気については、「高血圧」が 43.1%と最も多く、次いで、「高脂血症(脂質異常)」が 17.9%、「糖尿病」が 15.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「高血圧」が最も多く、次いで、男性は「糖尿病」、女性は「高脂血症(脂質異常)」が多くなっています。年齢別にみると、どの年齢層も「高血圧」が最も多くなっていますが、次いで、85歳以上では「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が多くなっています。認定状況別にみると、一般高齢者は「高血圧」に次いで「高脂血症(脂質異常)」が多く、要支援1、2では「高血圧」に次いで「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が多くなっています。



II. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【治療中や後遺症のある病気 性別、年齢別、認定状況別】

(MA%)

	n	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	しんじょう 骨格の病気 (関節症等)	
全体	1,260 100	183 14.5	543 43.1	27 2.1	143 11.3	195 15.5	226 17.9	66 5.2	71 5.6	102 8.1	141 11.2	
性別	男性	585 100	76 13.0	264 45.1	20 3.4	84 14.4	115 19.7	41 7.0	37 6.3	86 14.7	26 4.4	
	女性	623 100	97 15.6	259 41.6	5 0.8	54 8.7	74 11.9	132 21.2	22 3.5	31 5.0	11 1.8	101 16.2
年齢別	65~74歳	647 100	118 18.2	242 37.4	13 2.0	60 9.3	97 15.0	123 19.0	35 5.4	32 4.9	41 6.3	61 9.4
	75~84歳	490 100	52 10.6	239 48.8	13 2.7	64 13.1	78 15.9	87 17.8	24 4.9	33 6.7	46 9.4	58 11.8
	85歳以上	112 100	12 10.7	56 50.0	1 0.9	19 17.0	19 17.0	14 12.5	5 4.5	6 5.4	15 13.4	21 18.8
認定有無別	一般高齢者	994 100	161 16.2	409 41.1	20 2.0	110 11.1	155 15.6	185 18.6	52 5.2	53 5.3	87 8.8	91 9.2
	要支援1、2	84 100	5 6.0	44 52.4	4 4.8	17 20.2	17 20.2	8 9.5	3 3.6	6 7.1	7 8.3	24 28.6

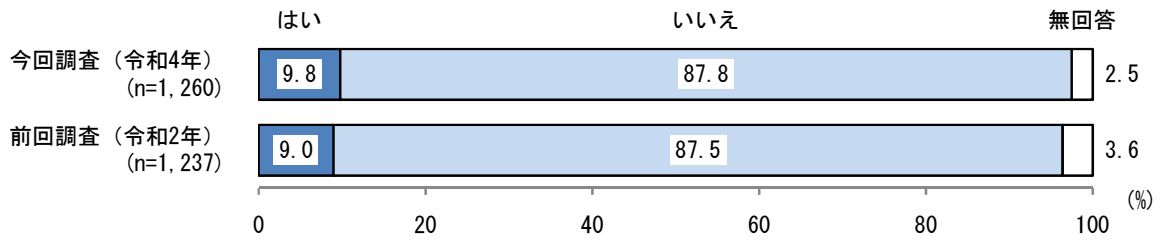
	n	外傷 (転倒・骨折等)	がん (悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答	
全体	1,260 100	29 2.3	58 4.6	32 2.5	13 1.0	3 0.2	3 0.2	186 14.8	65 5.2	145 11.5	44 3.5	
性別	男性	585 100	10 1.7	33 5.6	16 2.7	5 0.9	3 0.5	83 14.2	36 6.2	64 10.9	20 3.4	
	女性	623 100	18 2.9	23 3.7	15 2.4	8 1.3	0 0	1 0.2	97 15.6	26 4.2	77 12.4	22 3.5
年齢別	65~74歳	647 100	16 2.5	33 5.1	17 2.6	13 2.0	0 0	3 0.5	83 12.8	23 3.6	79 12.2	20 3.1
	75~84歳	490 100	10 2.0	21 4.3	12 2.4	0 0	3 0.6	0 0	82 16.7	29 5.9	59 12.0	16 3.3
	85歳以上	112 100	3 2.7	3 2.7	3 2.7	0 0	0 0	0 0	17 15.2	11 9.8	7 6.3	8 7.1
認定有無別	一般高齢者	994 100	23 2.3	44 4.4	24 2.4	12 1.2	2 0.2	1 0.1	140 14.1	42 4.2	109 11.0	34 3.4
	要支援1、2	84 100	4 4.8	2 2.4	7 8.3	1 1.2	1 1.2	2 2.4	20 23.8	11 13.1	12 14.3	3 3.6

9 認知症について

[1] 認知症状の有無

問8(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

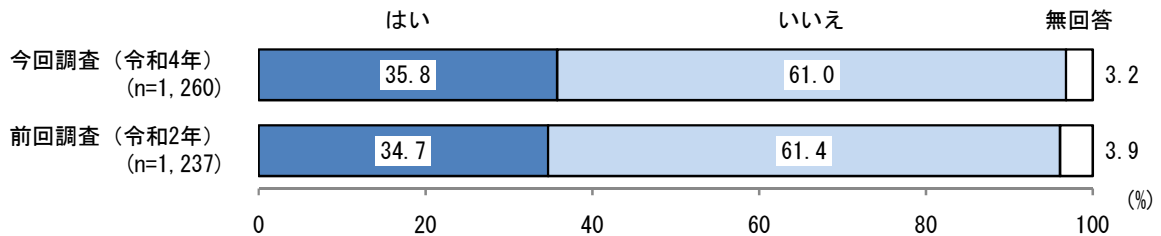
認知症の症状の有無については、「はい」が9.8%、「いいえ」が87.8%となっています。



[2] 相談窓口の認知

問8(2) 認知症に関する相談窓口(地域包括支援センターなど)を知っていますか

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が35.8%、「いいえ」が61.0%となっています。

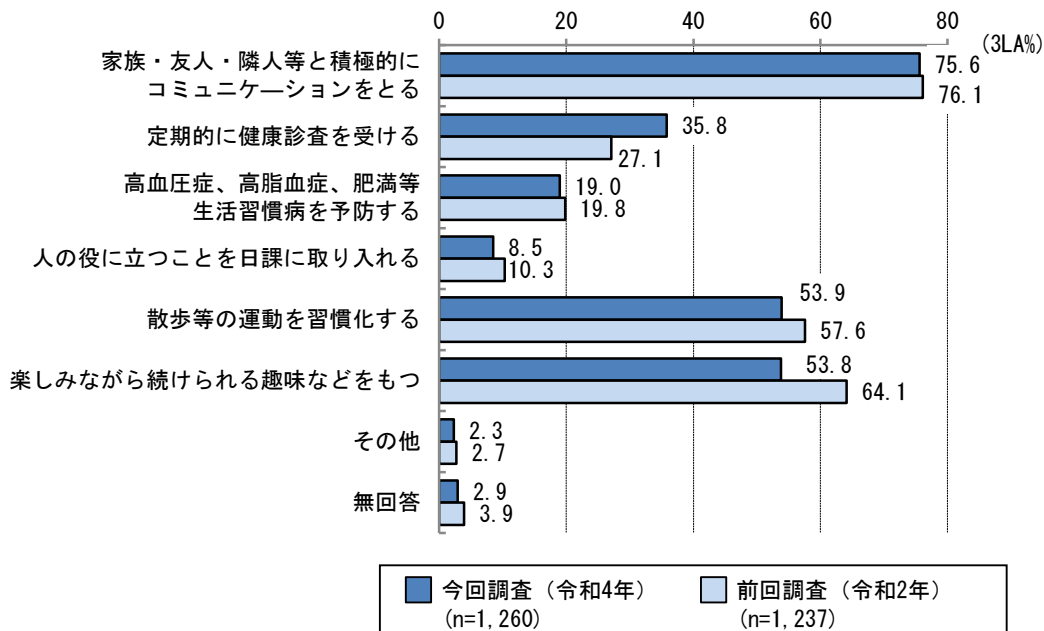


〔3〕認知症予防で重要なこと

問8(3) あなたにとって認知症予防の方法として、重要なものは次のうち、どれだと思いますか(あてはまるもの3つまでに○)

認知症予防の方法として重要と思うことは、「家族・友人・隣人等と積極的にコミュニケーションをとる」が 75.6%と最も多く、次いで、「散歩等の運動を習慣化する」が 53.9%、「楽しみながら続けられる趣味などをもつ」が 53.8%となっています。前回調査に比べて、「定期的に健康診査を受ける」が 8.7 ポイント増加し、「楽しみながら続けられる趣味などをもつ」が 10.3 ポイント減少しています。

年齢別にみると、「家族・友人・隣人等と積極的にコミュニケーションをとる」はどの層でも最も多く、次いで、65～74 歳では「楽しみながら続けられる趣味などをもつ」、75～84 歳では「散歩等の運動を習慣化する」、85 歳以上では「定期的に健康診査を受ける」が多くなっています。



【認知症予防の方法として重要な方法 性別、年齢別、認定状況別】

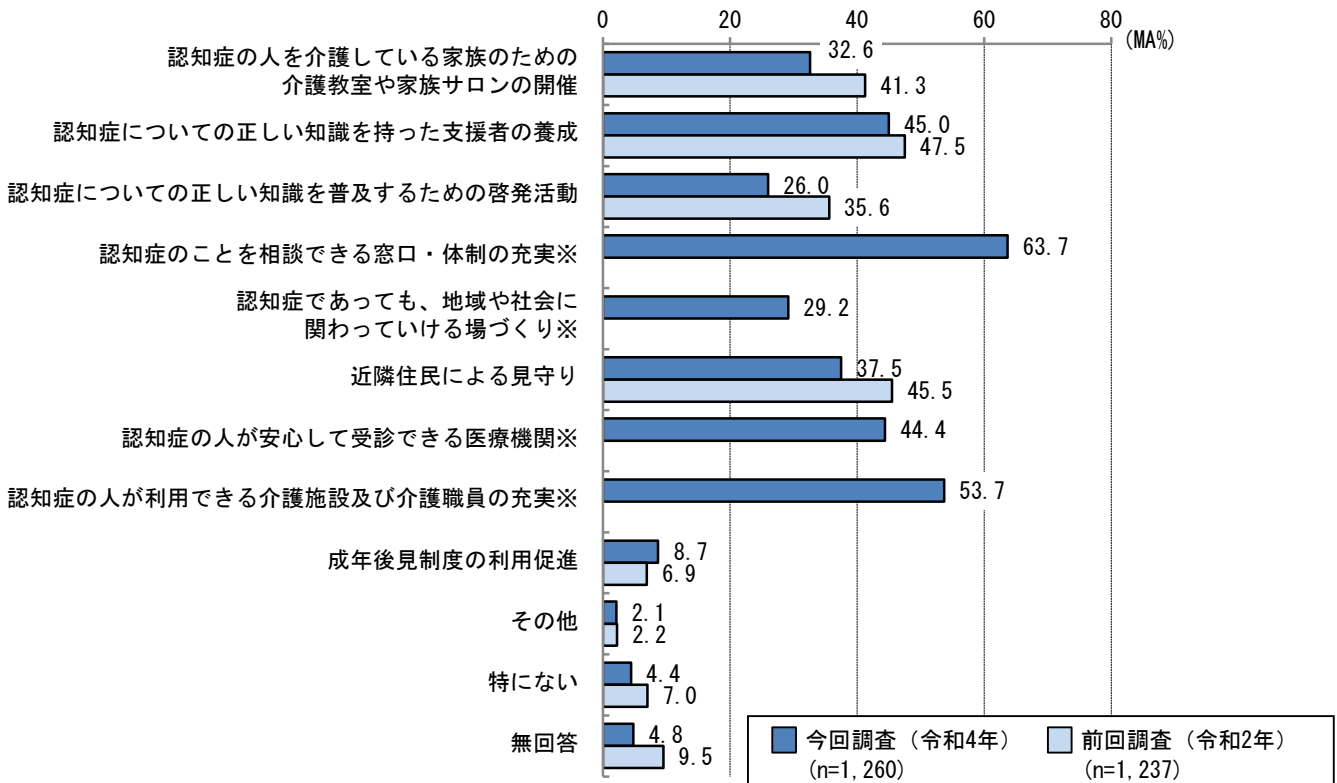
		n	家族・友人・隣人等と積極的にコミュニケーションをとる	定期的に健康診査を受ける	高血圧症、高脂血症、肥満等生活習慣病を予防する	人の役に立つことを日課に取り入れる	散歩等の運動を習慣化する	楽しみながら続けられる趣味などをもつ	その他	無回答
全体		1,260	75.6	35.8	19.0	8.5	53.9	53.8	2.3	2.9
性別	男性	585	40.5	21.8	10.9	4.3	32.2	29.7	1.9	1.5
	女性	623	69.2	37.3	18.6	7.4	55.0	50.8	3.2	2.6
年齢別	65～74歳	647	51.1	21.4	12.2	6.2	32.9	34.8	1.0	1.6
	75～84歳	490	82.0	34.3	19.6	10.0	52.8	55.9	1.6	2.6
	85歳以上	112	50.8	21.3	12.3	5.5	36.0	37.2	1.7	1.1
認定有無別	一般高齢者	994	78.5	32.9	19.0	8.5	55.6	57.5	2.6	1.7
	要支援1、2	84	35.7	18.5	9.4	4.2	26.5	25.1	1.0	1.7
	要介護1、2	100	72.9	37.8	19.2	8.6	54.1	51.2	2.0	3.5
認定有無別		112	79	48	21	10	47	47	2	8
認定有無別		100	70.5	42.9	18.8	8.9	42.0	42.0	1.8	7.1
認定有無別		994	75.3	33.9	19.1	8.7	55.0	55.6	2.5	2.4
認定有無別		100	75.8	34.1	19.2	8.8	55.3	55.9	2.5	2.4
認定有無別		84	59	36	17	3	40	35	3	4
認定有無別		100	70.2	42.9	20.2	3.6	47.6	41.7	3.6	4.8

〔4〕認知症患者への支援で必要なこと

問8(4) 認知症の人への支援で必要なことはどのようなことだと思いますか
(いくつでも)

認知症の人への支援で必要なことは、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」が63.7%と最も多く、次いで「認知症の人が利用できる介護施設及び介護職員の充実」が53.7%、「認知症についての正しい知識を持った支援者の養成」が45.0%となっています。

居住地区別にみると、上位の2項目はすべての地区で同じですが、次いで、木津東地区では「認知症の人が安心して受診できる医療機関」、木津西地区、加茂地区では「認知症についての正しい知識を持った支援者の養成」、山城地区では「近隣住民による見守り」が多くなっています。



※前回調査では、選択肢なし

【認知症の人への支援で必要なこと 居住地区別】

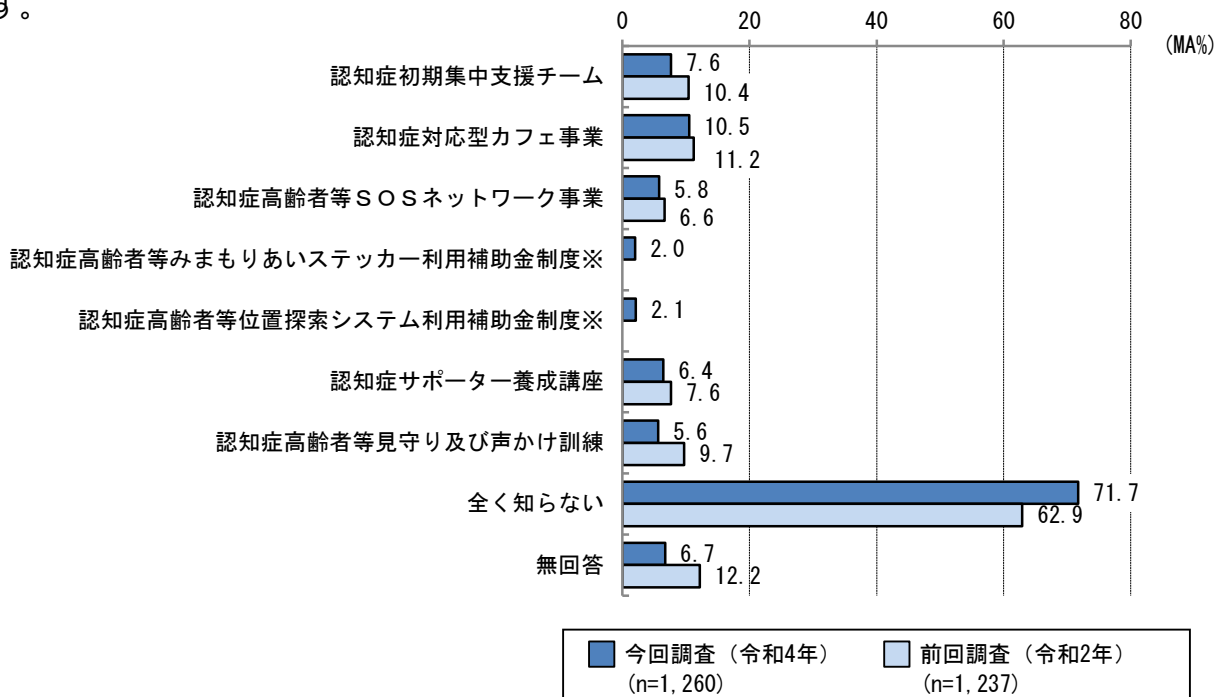
	n	(MA%)												
		家族サロンの開催	支援者の養成	啓発活動	窓口・体制の充実	地域や社会に関わっていける場づくり	近隣住民による見守り	医療機関	介護施設及び介護職員の充実	成年後見制度の利用促進	その他	特になし	無回答	
全体	1,260	411	567	328	802	368	473	560	677	110	27	55	61	
	100	32.6	45.0	26.0	63.7	29.2	37.5	44.4	53.7	8.7	2.1	4.4	4.8	
居住地区別	木津東	287	92	135	65	191	79	98	139	150	29	5	13	9
		100	32.1	47.0	22.6	66.6	27.5	34.1	48.4	52.3	10.1	1.7	4.5	3.1
	木津西	419	117	194	112	270	122	149	193	235	44	7	21	21
		100	27.9	46.3	26.7	64.4	29.1	35.6	46.1	56.1	10.5	1.7	5.0	5.0
	加茂	360	134	164	98	232	110	147	156	206	22	13	15	13
	100	37.2	45.6	27.2	64.4	30.6	40.8	43.3	57.2	6.1	3.6	4.2	3.6	
山城	152	56	58	41	83	48	65	58	69	13	2	4	12	
	100	36.8	38.2	27.0	54.6	31.6	42.8	38.2	45.4	8.6	1.3	2.6	7.9	

〔5〕市が実施する認知症に関する事業

問8(5) 木津川市が実施している認知症に関する事業を知っていますか(いくつでも)

認知症に関する事業については、「全く知らない」が 71.7%と最も多くなっていますが、知っている事業としては、「認知症対応型カフェ事業」が 10.5%と最も多く、次いで、「認知症初期集中支援チーム」が 7.6%となっています。

性別にみると、すべての項目で女性のほうが認知度が高く、とくに、「認知症対応型カフェ事業」で 14.9%、「認知症サポーター養成講座」で 10.1%と多くなっています。居住地区別にみると、山城地区では「認知症高齢者等見守り及び声かけ訓練」が 10.5%と多くなっています。



※前回調査では、選択肢なし

【市が実施する認知症に関する事業の認知度 性別、居住地区別】

		n	認知症初期集中支援	認知症対応型カフェ	認知症高齢者等SOSネットワーク	認知症高齢者等みまもりあいステッカー利用補助金制度	認知症高齢者等位置探索システム利用補助金制度	認知症サポーター養成講座	認知症高齢者等見守り及び声かけ訓練	全く知らない	無回答
全体		1,260	9.6	13.2	7.3	2.5	2.7	8.1	7.0	90.4	8.4
		100	7.6	10.5	5.8	2.0	2.1	6.4	5.6	71.7	6.7
性別	男性	585	3.5	3.6	2.4	0.8	0.9	1.3	2.2	47.4	3.3
	女性	100	6.0	6.2	4.1	1.4	1.5	2.2	3.8	81.0	5.6
居住地区別	木津東	287	2.3	3.4	1.5	1.0	0.8	2.3	1.8	20.5	1.6
		100	8.0	11.8	5.2	3.5	2.8	8.0	6.3	71.4	5.6
	木津西	419	2.6	4.3	2.3	0.7	0.7	2.3	1.7	32.5	1.9
		100	6.2	10.3	5.5	1.7	1.7	5.5	4.1	77.6	4.5
	加茂	360	3.1	4.0	1.8	0.6	0.9	2.5	1.6	25.5	2.2
	100	8.6	11.1	5.0	1.7	2.5	6.9	4.4	70.8	6.1	
	152	1.3	1.3	1.3	0.2	0.2	0.8	1.6	0.9	9.1	2.1
	100	8.6	8.6	8.6	1.3	1.3	5.3	10.5	59.9	13.8	

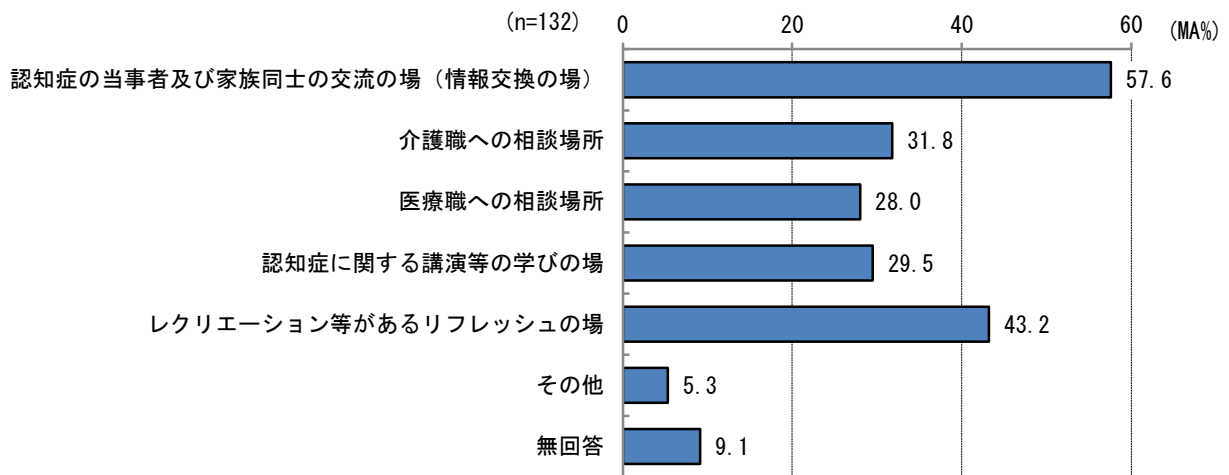
※今回新設

【(5)で「2. 認知症対応型カフェ事業」を知っていると回答した方】

問8(5)-1 どのような内容であれば利用をしたいと思いますか(いくつでも)

認知症対応型カフェ事業を「知っている」と回答された方に、利用したい内容をたずねたところ、「認知症の当事者及び家族同士の交流の場（情報交換の場）」が57.6%と最も多く、次いで、「レクリエーション等があるリフレッシュの場」が43.2%となっています。

性別にみると、女性では「認知症に関する講演等の学びの場」が34.4%と、男性に比べて多くなっています。居住地区別にみると、木津西地区では「介護職への相談場所」が51.2%、「医療職への相談場所」が41.9%と、他の地区に比べて多くなっています。



【認知症対応型カフェを利用したいと思う内容 性別、年齢別、居住地区別】

	n	(MA%)							
		認知症の当事者及び家族同士の交流の場（情報交換の場）	介護職への相談場所	医療職への相談場所	認知症に関する講演等の学びの場	レクリエーション等があるリフレッシュの場	その他	無回答	
全体	132	76	42	37	39	57	7	12	
	100	57.6	31.8	28.0	29.5	43.2	5.3	9.1	
性別	男性	20	12	12	6	13	0	2	
	100	55.6	33.3	33.3	16.7	36.1	0	5.6	
女性	93	54	28	23	32	42	7	10	
	100	58.1	30.1	24.7	34.4	45.2	7.5	10.8	
年齢別	65～74歳	78	48	25	26	24	31	4	7
	100	61.5	32.1	33.3	30.8	39.7	5.1	9.0	
	75～84歳	44	24	14	10	14	21	3	3
100	54.5	31.8	22.7	31.8	47.7	6.8	6.8		
85歳以上	10	4	3	1	1	5	0	2	
100	40.0	30.0	10.0	10.0	50.0	0	20.0		
居住地区別	木津東	34	23	10	6	12	12	1	5
	100	67.6	29.4	17.6	35.3	35.3	2.9	14.7	
	木津西	43	25	22	18	11	14	1	3
	100	58.1	51.2	41.9	25.6	32.6	2.3	7.0	
	加茂	40	20	5	10	10	20	4	3
100	50.0	12.5	25.0	25.0	50.0	10.0	7.5		
山城	13	6	4	2	5	9	1	1	
100	46.2	30.8	15.4	38.5	69.2	7.7	7.7		

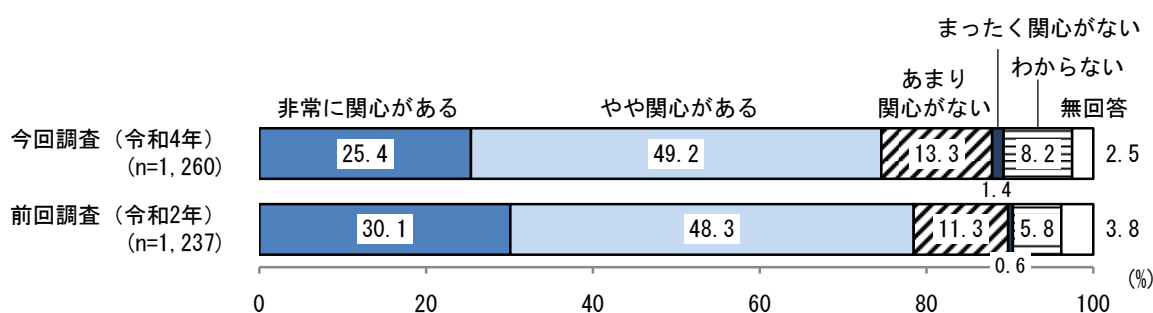
10 その他

〔1〕介護予防について

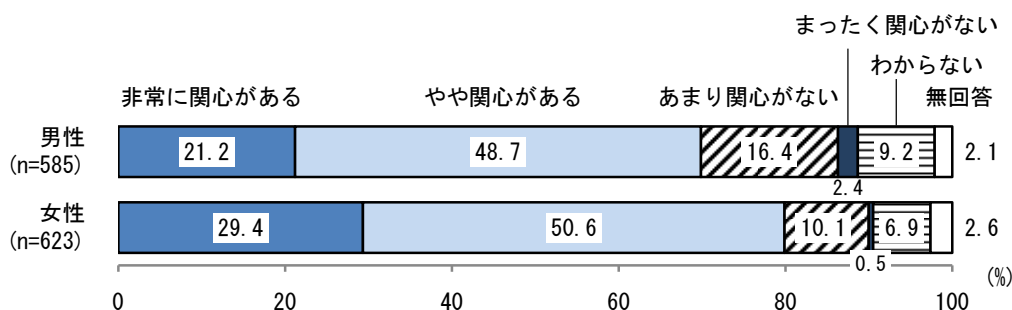
問9(1)-1 あなたは、介護予防(介護が必要になることを予防すること)について関心がありますか

介護予防については、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』が合計 74.6%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない』は合計 14.7%となっています。前回調査に比べて、『関心がない』が 2.8 ポイント増加しています。

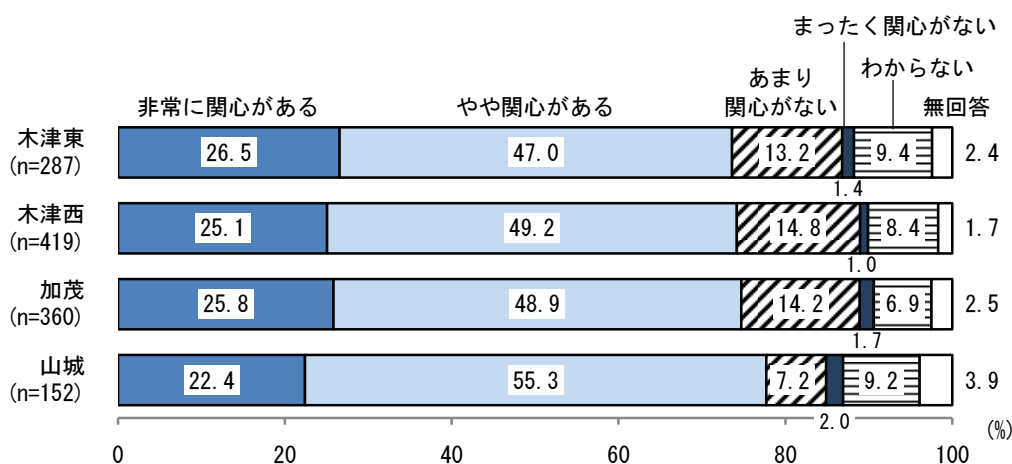
性別にみると、男性では『関心がない』が 18.8%と、女性に比べて多くなっています。居住地区別にみると、山城地区では『関心がある』が 77.7%と、他の地区に比べて多くなっています。



【介護予防についての関心度 性別】



【介護予防についての関心度 居住地区別】

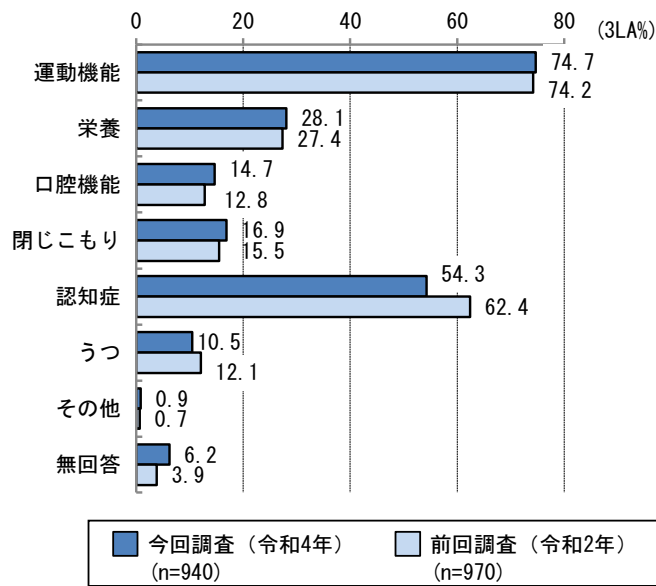


【(1)-1で「1.非常に関心がある」又は「2.やや関心がある」と回答した方】

問9(1)-1-1 どのような介護予防に関心がありますか(あてはまるもの3つまでに○)

介護予防について関心がある内容は、「運動機能」が74.7%と最も多く、次いで「認知症」が54.3%、「栄養」が28.1%となっています。

上位3項目はどの層も同じですが、それ以外では、女性、山城地区、要支援1、2で「うつ」への関心が1割強ほどみられます。また、女性、木津東地区、加茂地区では「閉じこもり」、75～84歳、木津東地区、木津西地区では「口腔機能」への関心が、他の層に比べてやや多くなっています。

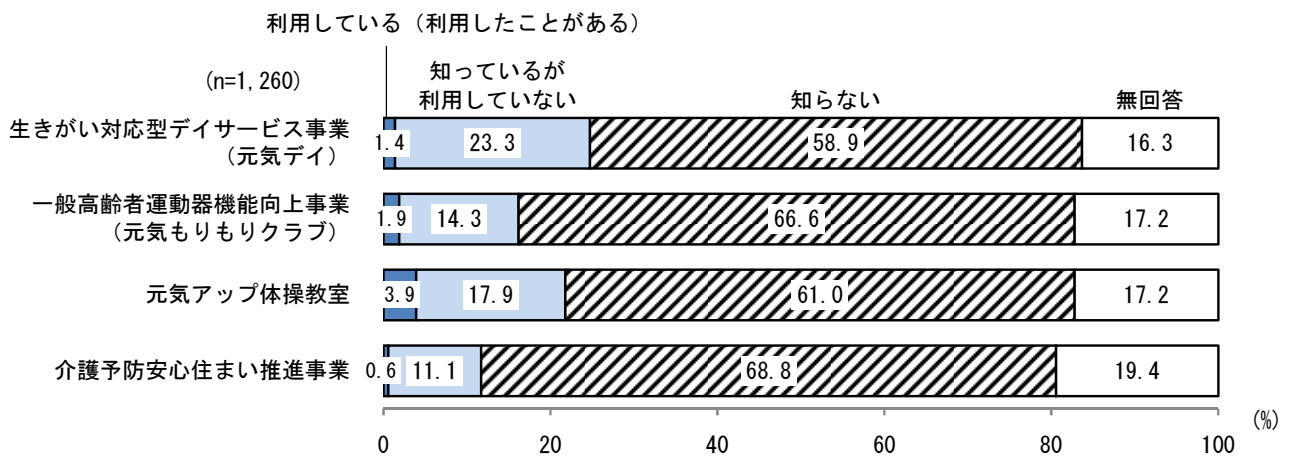


【関心がある介護予防の内容 性別、年齢別、居住地区別、認定状況別】

		n	運動機能	栄養	口腔機能	閉じこもり	認知症	うつ	その他	無回答
全体		940	702	264	138	159	510	99	8	58
		100	74.7	28.1	14.7	16.9	54.3	10.5	0.9	6.2
性別	男性	409	306	92	60	52	215	30	1	30
	100	74.8	22.5	14.7	12.7	52.6	7.3	0.2	7.3	
性別	女性	498	374	161	72	98	280	65	7	26
	100	75.1	32.3	14.5	19.7	56.2	13.1	1.4	5.2	
年齢別	65～74歳	482	373	137	69	78	272	55	6	28
	100	77.4	28.4	14.3	16.2	56.4	11.4	1.2	5.8	
	75～84歳	368	269	95	59	65	194	35	2	21
年齢別	100	73.1	25.8	16.0	17.7	52.7	9.5	0.5	5.7	
	85歳以上	83	56	30	9	13	41	9	0	8
年齢別	100	67.5	36.1	10.8	15.7	49.4	10.8	0	9.6	
	居住地区別	木津東	211	151	64	34	41	117	24	2
100		71.6	30.3	16.1	19.4	55.5	11.4	0.9	5.2	
木津西		311	234	86	52	46	167	29	2	19
100		75.2	27.7	16.7	14.8	53.7	9.3	0.6	6.1	
居住地区別	加茂	269	208	77	33	52	157	26	3	12
	100	77.3	28.6	12.3	19.3	58.4	9.7	1.1	4.5	
居住地区別	山城	118	88	30	15	17	57	18	1	13
	100	74.6	25.4	12.7	14.4	48.3	15.3	0.8	11.0	
認定有無別	一般高齢者	746	564	217	115	120	411	74	7	46
	100	75.6	29.1	15.4	16.1	55.1	9.9	0.9	6.2	
認定有無別	要支援1、2	64	53	17	10	10	33	9	0	2
	100	82.8	26.6	15.6	15.6	51.6	14.1	0	3.1	

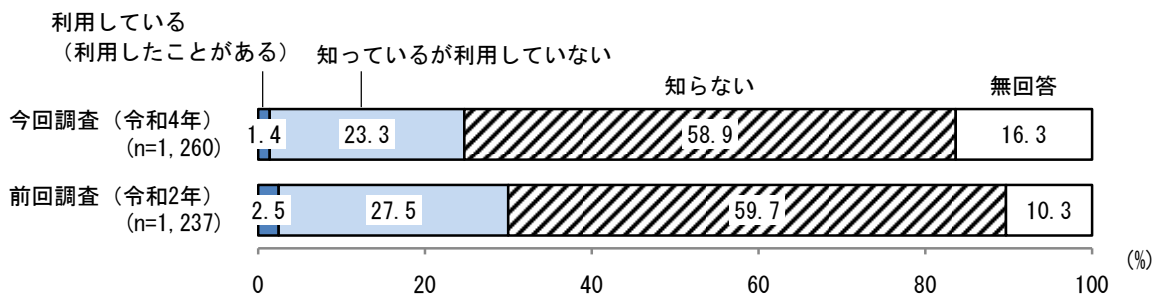
問9(1)-2 あなたは次の介護予防事業を利用したことがありますか(それぞれ1つに○)

木津川市が実施している介護予防事業の利用については、「元気アップ体操教室」が3.9%と最も多く、「一般高齢者運動器機能向上事業（元気もりもりクラブ）」が1.9%、「生きがい対応型デイサービス事業（元気デイ）」が1.4%、「介護予防安心住まい推進事業」が0.6%となっています。一方、「利用している（利用したことがある）」と「知っているが利用していない」を合わせた『知っている』でみると、「生きがい対応型デイサービス事業（元気デイ）」が24.7%と最も多く、次いで、「元気アップ体操教室」が21.8%となっています。



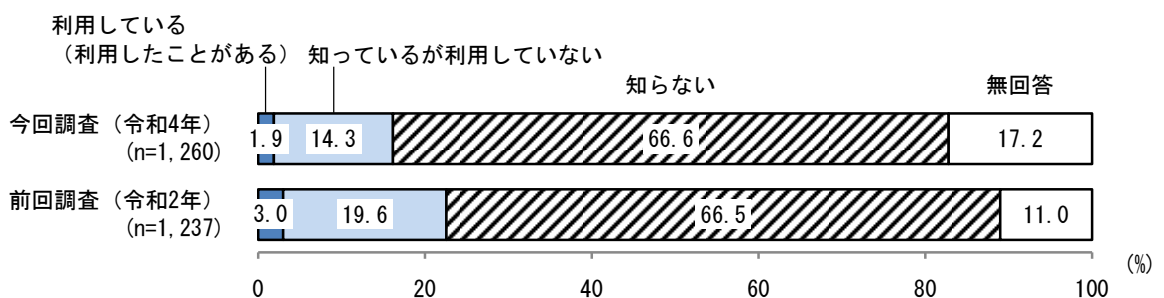
①生きがい対応型デイサービス事業（元気デイ）

生きがい対応型デイサービス事業（元気デイ）を「利用している（利用したことがある）」は1.4%で、前回調査に比べて1.1ポイント減少しています。



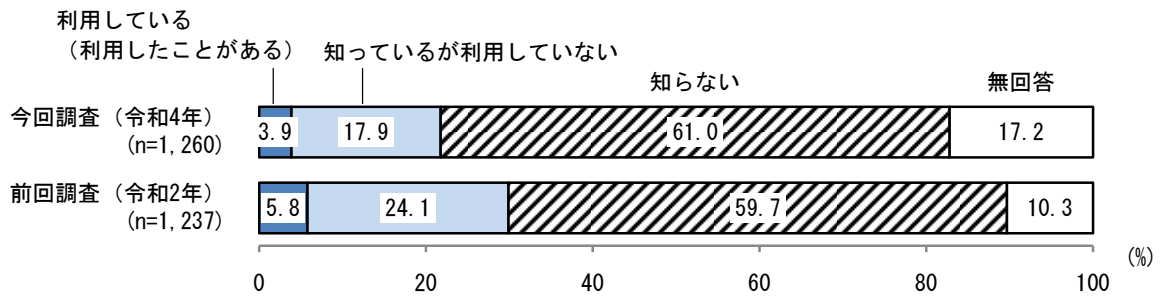
②一般高齢者運動器機能向上事業（元気もりもりクラブ）

一般高齢者運動器機能向上事業（元気もりもりクラブ）を「利用している（利用したことがある）」は1.9%で、前回調査に比べて1.1ポイント減少しています。



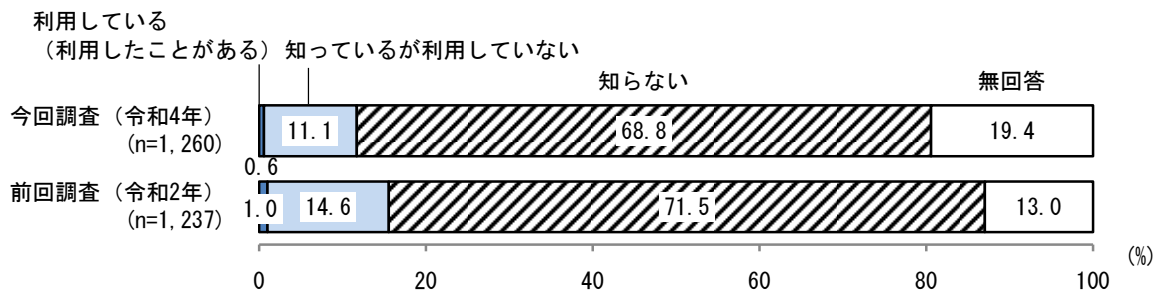
③元気アップ体操教室

元気アップ体操教室を「利用している（利用したことがある）」は3.9%で、前回調査に比べて1.9ポイント減少しています。



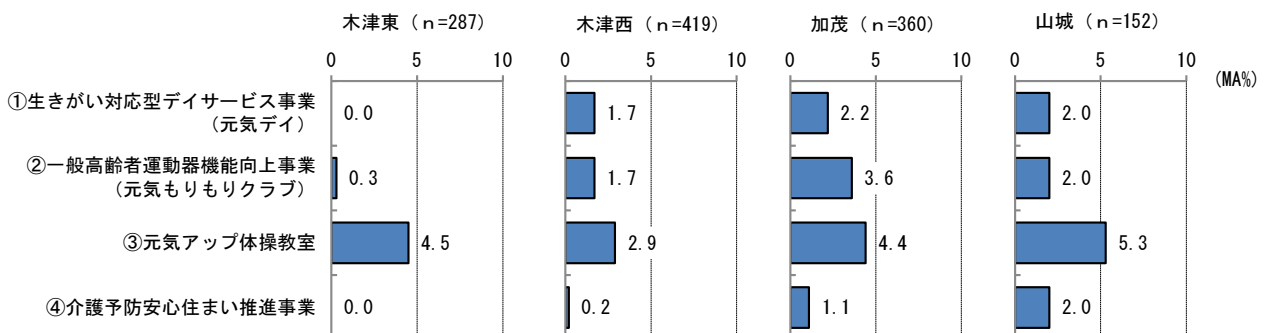
④介護予防安心住まい推進事業

介護予防安心住まい推進事業を「利用している（利用したことがある）」は0.6%で、前回調査に比べて0.4ポイント減少しています。



居住地区別にみると、「元気アップ体操教室」は山城地区で5.3%、「一般高齢者運動器機能向上事業（元気もりもりクラブ）」は加茂地区で3.6%と他の地区より多くなっています。また、木津東地区では「元気アップ体操教室」以外の利用がほとんどみられない状況となっています。

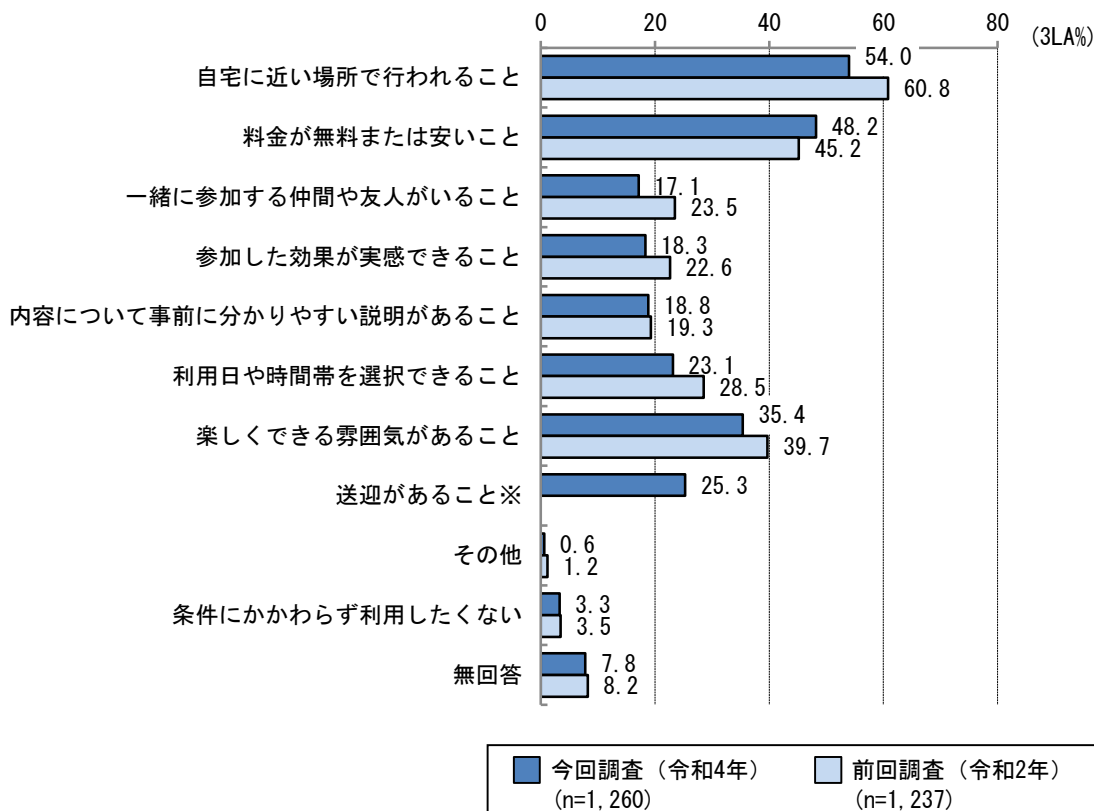
【介護予防事業の利用（「利用している（利用したことがある）」） 居住地区別】



問9(1)-3 介護予防事業を利用するために必要な条件は何だと思えますか
(あてはまるもの3つまでに○)

介護予防事業を利用するために必要な条件は、「自宅に近い場所で行われること」が54.0%と最も多く、次いで、「料金が無料または安いこと」が48.2%、「楽しくできる雰囲気があること」が35.4%となっています。前回調査に比べて、「料金が無料または安いこと」が3.0ポイント増加し、「自宅に近い場所で行われること」が6.8ポイント減少しています。

性別にみると、男女とも上位3項目は同じですが、「一緒に参加する仲間や友人がいること」や「楽しくできる雰囲気があること」で女性の方が男性に比べて多くなっています。年齢別にみると、85歳以上では「送迎があること」が41.1%と多くなっています。また、居住地区別にみると、木津東地区と山城地区では「料金が無料または安いこと」が、木津西地区と加茂地区では「自宅に近い場所で行われること」が最も多くなっています。また、山城地区では「送迎があること」が30.3%と、他の地域に比べて多くなっています。



※前回調査では、選択肢なし

Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【介護予防事業の利用に必要な条件 性別、年齢別、居住地区別】

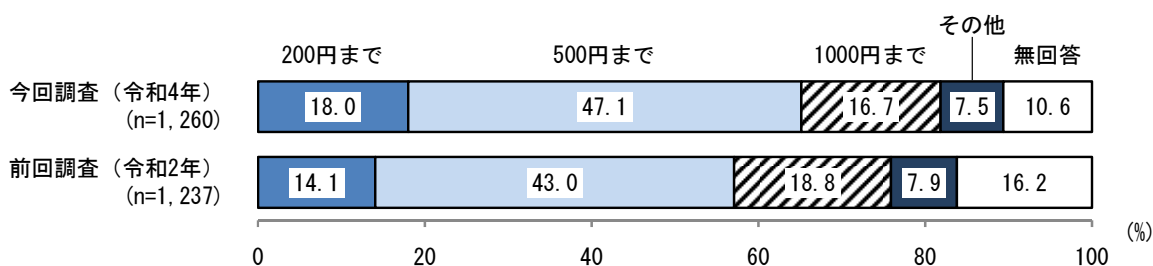
(3LA%)

	n	自宅に近い場所で行われること	料金が無料または安いこと	友人と一緒に参加すること	参加した効果が実感できること	内容がわかりやすい説明があること	利用できる日や時間帯を選択できること	楽しくできる雰囲気があること	送迎があること	その他	条件にかかわらず利用したくない	無回答	
全体	1,260	681	607	216	230	237	291	446	319	8	42	98	
	100	54.0	48.2	17.1	18.3	18.8	23.1	35.4	25.3	0.6	3.3	7.8	
性別	男性	585	294	289	71	129	123	122	179	124	5	30	49
	100	50.3	49.4	12.1	22.1	21.0	20.9	30.6	21.2	0.9	5.1	8.4	
年齢別	65～74歳	647	365	363	110	120	123	182	234	136	4	21	31
	100	56.4	56.1	17.0	18.5	19.0	28.1	36.2	21.0	0.6	3.2	4.8	
75～84歳	490	261	199	84	96	91	96	174	133	2	16	49	
	100	53.3	40.6	17.1	19.6	18.6	19.6	35.5	27.1	0.4	3.3	10.0	
85歳以上	112	51	42	19	12	22	12	31	46	2	5	17	
	100	45.5	37.5	17.0	10.7	19.6	10.7	27.7	41.1	1.8	4.5	15.2	
居住地区別	木津東	287	142	144	55	56	54	61	104	71	0	13	22
	100	49.5	50.2	19.2	19.5	18.8	21.3	36.2	24.7	0	4.5	7.7	
	木津西	419	238	193	61	88	93	108	140	107	4	14	22
	100	56.8	46.1	14.6	21.0	22.2	25.8	33.4	25.5	1.0	3.3	5.3	
加茂	360	202	171	58	61	65	96	128	86	2	12	27	
	100	56.1	47.5	16.1	16.9	18.1	26.7	35.6	23.9	0.6	3.3	7.5	
山城	152	79	82	34	22	20	23	64	46	2	1	17	
	100	52.0	53.9	22.4	14.5	13.2	15.1	42.1	30.3	1.3	0.7	11.2	

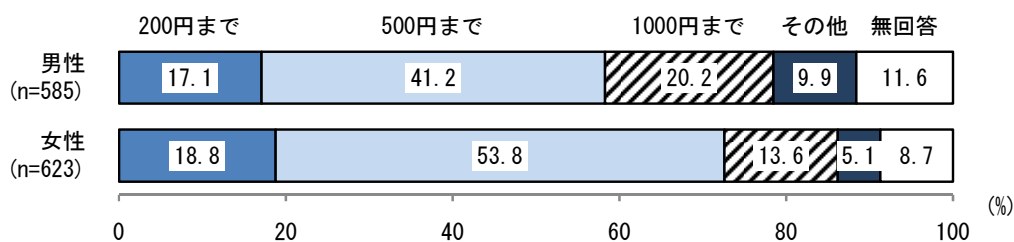
問9(1)-4 あなたは、介護予防事業の参加について1回いくらまで出費することができますか

介護予防事業の参加費用については、「500円まで」が47.1%と最も多く、次いで、「200円まで」が18.0%、「1000円まで」が16.7%となっています。「200円まで」と「500円まで」を合わせた『500円以内』が合計65.1%で、前回調査に比べて8.0ポイント増加しています。

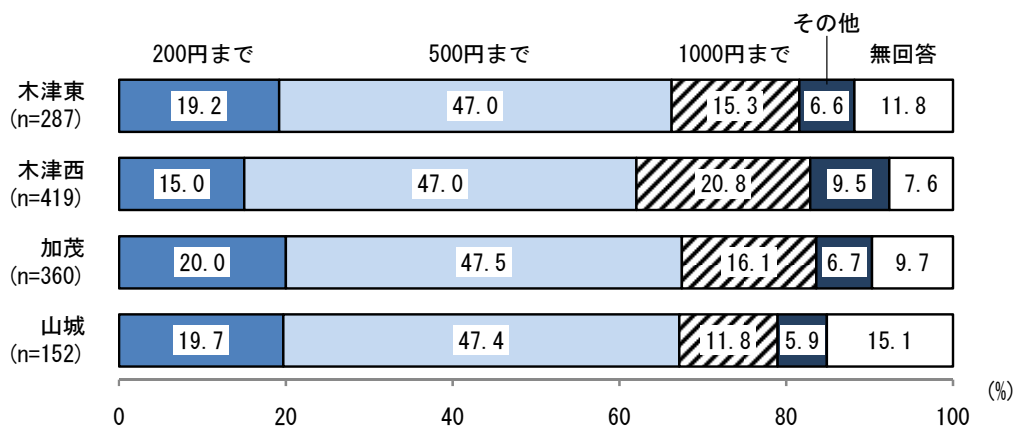
性別にみると、『500円以内』は女性で72.6%と、男性に比べて14.3ポイント多くなっています。居住地区別にみると、木津西地区では「1000円まで」が20.8%と、他の地区に比べて多くなっています。



【介護予防事業の参加費の許容額 性別】



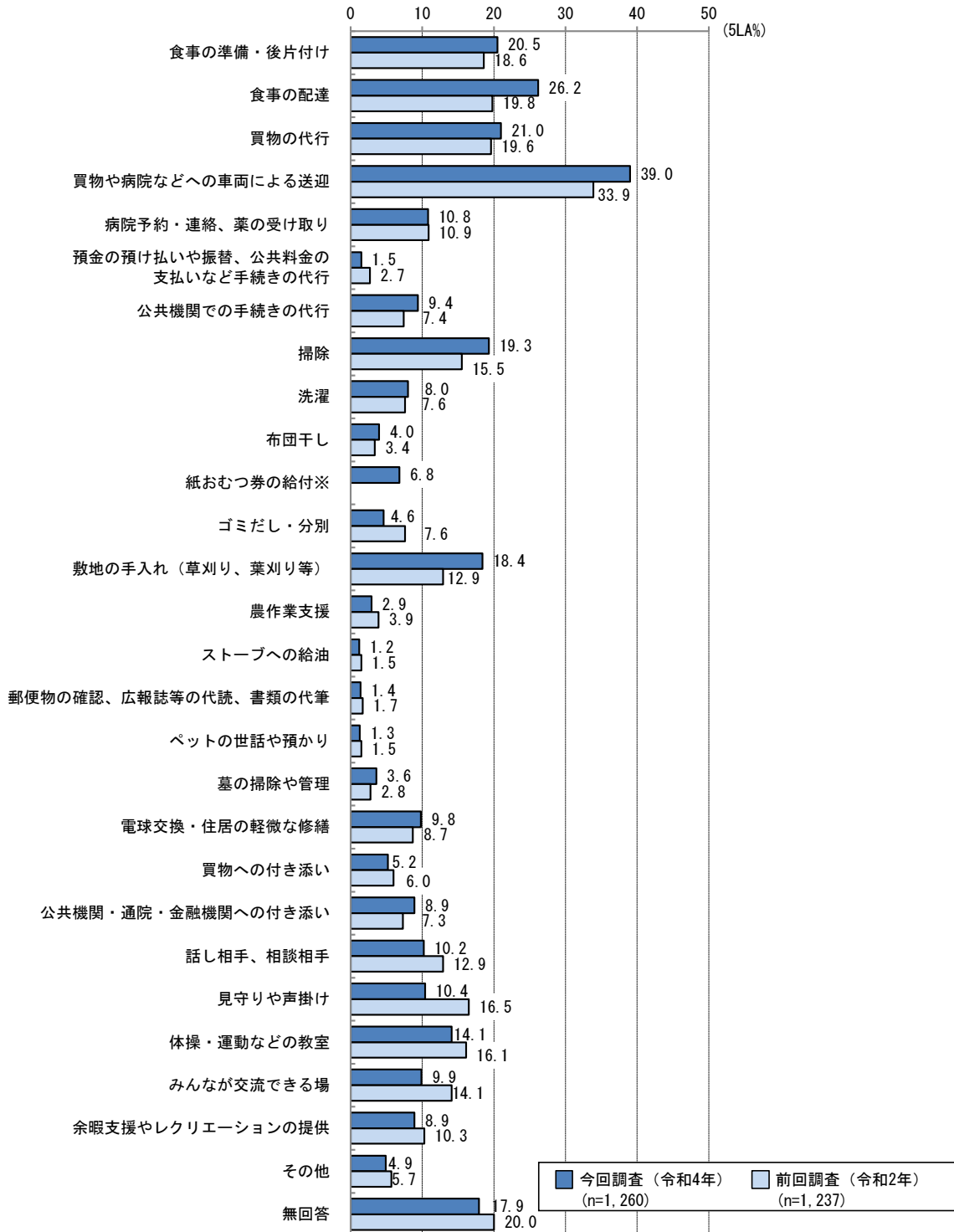
【介護予防事業の参加費の許容額 居住地区別】



〔2〕在宅生活を続ける上で利用したいサービス

問9(2) 在宅生活を続ける上で、利用したいと考えるサービスはどれですか
(あてはまるもの5つまでに○)

在宅生活を続ける上で利用したいサービスは、「買物や病院などへの車両による送迎」が39.0%と最も多く、次いで、「食事の配達」が26.2%、「買物の代行」が21.0%、「食事の準備・後片付け」が20.5%となっています。前回調査に比べて、「食事の配達」が6.4ポイント、「敷地の手入れ（草刈り、葉刈り等）」が5.5ポイント、「買物や病院などへの車両による送迎」が5.1ポイント増加しています。



※前回調査では、選択肢なし

II. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

どの層でも「買物や病院などへの車両による送迎」が最も多くなっていますが、とくに、居住地区別では加茂地区で45.8%、認定状況別では要支援1、2で53.6%と他の層よりも多くなっています。また、男性、65~74歳、木津東地区では「食事の準備、後片付け」、女性、85歳以上、加茂地区、山城地区、要支援1、2では「敷地の手入れ（草刈り、葉刈り等）」、要支援1、2では「掃除」などへの利用意向も多くなっています。

【在宅生活を続ける上で利用したいサービス 性別、年齢別、居住地区別、認定状況別】

(5LA%)

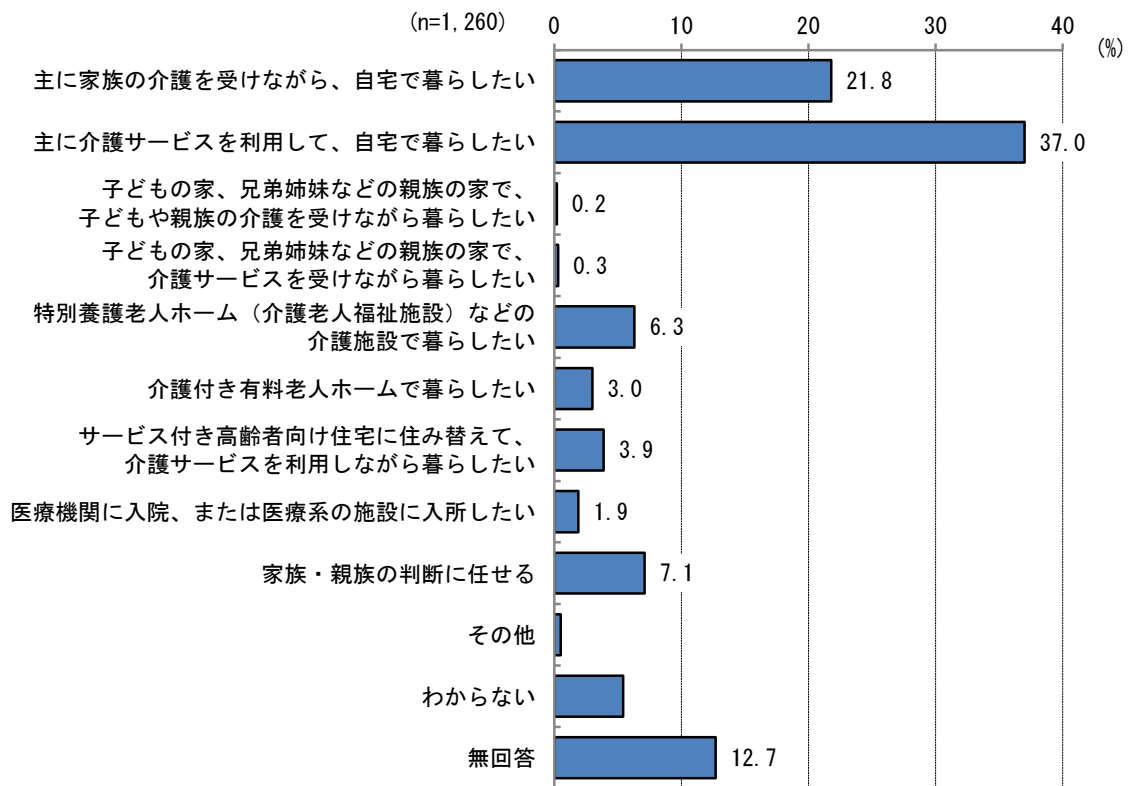
	n	食 事 の 準 備 ・ 後 片 付 け	食 事 の 配 達	買 物 の 代 行	買 物 や 病 院 な ど へ の 車 両 による送迎	受 け 取 り 病 院 予 約 ・ 連 絡 ・ 薬 の 代 行	預 金 の 預 け 払 い や 振 替 ・ 公 共 機 関 の 預 け 払い	代 行 公 共 機 関 で の 手 続 き	掃 除	洗 濯	布 団 干 し	紙 お む つ 券 の 給 付	ゴ ミ だ し ・ 分 別	敷 地 の 手 入 れ (草 刈 り 、 葉 刈 り 等)	農 作 業 支 援	
																ス ト ー プ へ の 給 油
全体	1,260	258	330	264	492	136	19	118	243	101	50	86	58	232	37	
	100	20.5	26.2	21.0	39.0	10.8	1.5	9.4	19.3	8.0	4.0	6.8	4.6	18.4	2.9	
性別	男性	585	137	171	121	216	57	12	62	116	18	28	26	85	23	
	女性	623	108	154	130	252	70	7	49	118	32	28	54	32	136	14
年齢別	65~74歳	647	152	190	143	258	68	14	63	141	67	22	46	32	129	21
	75~84歳	490	87	116	105	181	50	4	46	81	32	19	29	23	79	9
	85歳以上	112	14	21	13	48	18	1	7	20	2	9	9	3	22	7
居住地区別	木津東	287	70	70	63	95	37	9	24	64	27	11	18	14	41	13
	木津西	419	82	118	80	166	43	5	36	79	32	16	37	21	69	6
	加茂	360	70	100	76	165	40	5	42	70	31	12	19	14	84	11
		100	19.4	27.8	21.1	45.8	11.1	1.4	11.7	19.4	8.6	3.3	5.3	3.9	23.3	3.1
	山城	152	30	31	33	47	11	0	13	23	7	8	7	6	31	5
認定有無別	一般高齢者	994	209	280	213	390	101	14	96	190	81	38	71	47	177	29
		100	21.0	28.2	21.4	39.2	10.2	1.4	9.7	19.1	8.1	3.8	7.1	4.7	17.8	2.9
	要支援1、2	84	15	19	17	45	10	2	7	28	8	5	7	5	23	2
	100	17.9	22.6	20.2	53.6	11.9	2.4	8.3	33.3	9.5	6.0	8.3	6.0	27.4	2.4	

〔3〕介護が必要になった場合に希望する住まい

問9(3) 今後、日常生活に不安を感じたり、介護が必要になった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。

今後介護が必要になった場合に、どこで介護を受けたいかについては、「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が 37.0%と最も多く、次いで、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が 21.8%となっています。

性別にみると、男性は「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」、女性は「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が最も多くなっています。また、「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）などの介護施設で暮らしたい」は、居住地区別では木津西地区、認定状況別では要支援 1、2 でやや多くなっています。



※前回調査とは選択肢が異なるため、比較はしていない。

Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【介護が必要になった場合に希望する住まい 性別、居住地区別、認定状況別】

(%)

		n	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らし	主に介護サービスを利用して、自宅で暮らし	子どもの家、兄弟姉妹などの親族の家で、子どもや親族の介護を受けながら暮らしたい	子どもの家、兄弟姉妹などの親族の家で、介護サービスを受けながら暮らしたい	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）などの介護施設で暮らしたい	介護付き有料老人ホームで暮らしたい	介護サービス付き高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用しながら暮らしたい	医療機関に入院、または医療系の施設に入所したい	家族・親族の判断に任せる	その他	わからない	無回答
全体		1,260	275	466	2	4	79	38	49	24	89	6	68	160
		100	21.8	37.0	0.2	0.3	6.3	3.0	3.9	1.9	7.1	0.5	5.4	12.7
性別	男性	585	184	174	1	3	38	18	20	11	36	4	32	64
		100	31.5	29.7	0.2	0.5	6.5	3.1	3.4	1.9	6.2	0.7	5.5	10.9
	女性	623	83	271	1	1	36	20	28	12	49	2	35	85
		100	13.3	43.5	0.2	0.2	5.8	3.2	4.5	1.9	7.9	0.3	5.6	13.6
居住地区別	木津東	287	63	102	2	2	15	8	12	9	17	0	20	37
		100	22.0	35.5	0.7	0.7	5.2	2.8	4.2	3.1	5.9	0	7.0	12.9
	木津西	419	89	151	0	0	35	19	16	5	31	4	24	45
		100	21.2	36.0	0	0	8.4	4.5	3.8	1.2	7.4	1.0	5.7	10.7
	加茂	360	80	146	0	0	18	8	17	6	27	1	10	47
		100	22.2	40.6	0	0	5.0	2.2	4.7	1.7	7.5	0.3	2.8	13.1
	山城	152	38	50	0	2	9	2	4	3	13	1	12	18
		100	25.0	32.9	0	1.3	5.9	1.3	2.6	2.0	8.6	0.7	7.9	11.8
認定有無別	一般高齢者	994	226	358	2	3	64	34	41	15	78	6	55	112
		100	22.7	36.0	0.2	0.3	6.4	3.4	4.1	1.5	7.8	0.6	5.5	11.3
	要支援1、2	84	11	27	0	1	8	2	2	3	5	0	5	20
		100	13.1	32.1	0	1.2	9.5	2.4	2.4	3.6	6.0	0	6.0	23.8

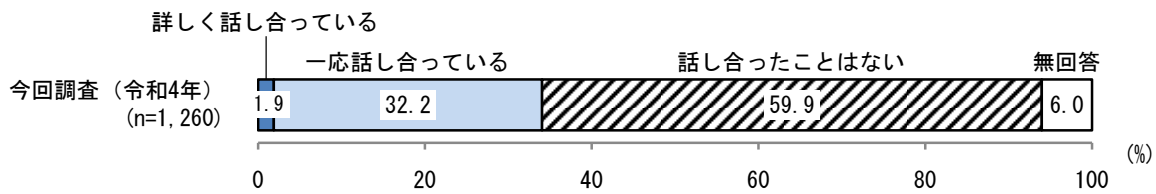
[4] 人生の最終段階における医療・療養についての話し合い

※今回新設

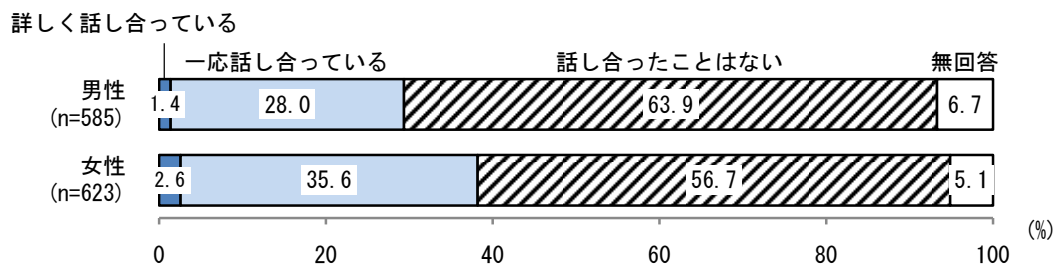
問9(4) あなたは、人生の最終段階における医療・療養について、ご家族等や医療介護関係者と話し合ったことがありますか

人生の最終段階における医療・療養についての話し合いは、「話し合ったことはない」が59.9%で、「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」を合わせた『話し合っている』は合計34.1%となっています。

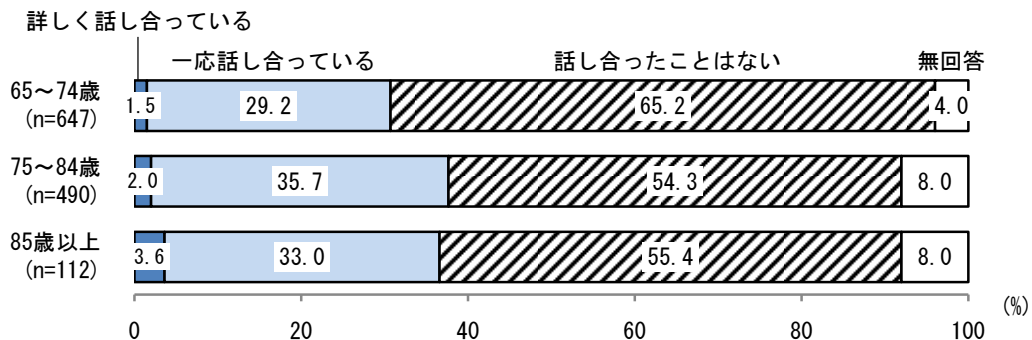
性別にみると、『話し合っている』は女性では38.2%と、男性に比べて8.8ポイント多くなっています。年齢別にみると、『話し合っている』の割合は74歳以下の前期高齢者で30.7%、75歳以上の後期高齢者では35%以上となっています。また、「詳しく話し合っている」の割合は、年齢が上がるにつれて増加しています。認定状況別にみると、要支援1、2では『話し合っている』が45.3%と多くなっています。



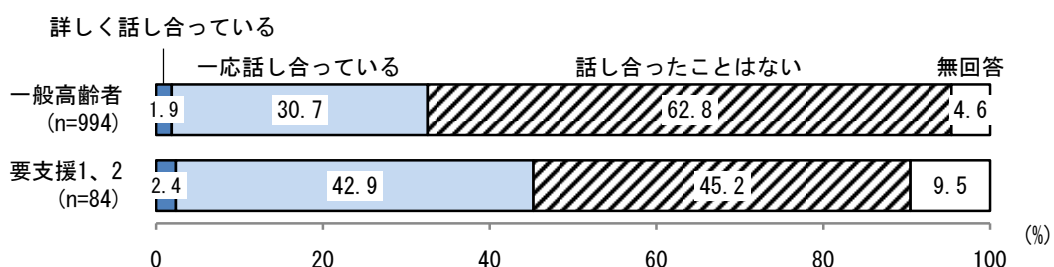
【人生の最終段階における医療・療養についての話し合い 性別】



【人生の最終段階における医療・療養についての話し合い 年齢別】



【人生の最終段階における医療・療養についての話し合い 認定状況別】

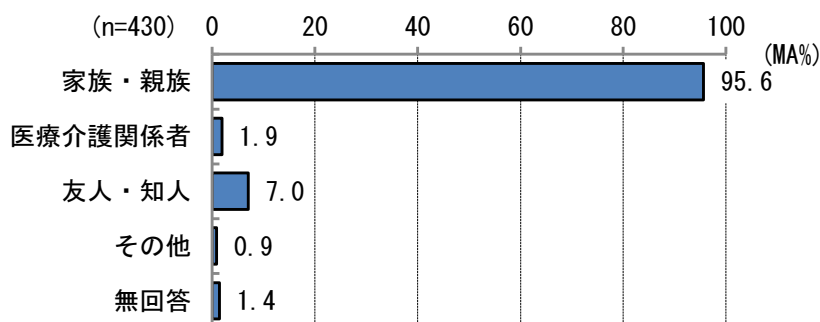


【(4)で「1.」「2.」(話し合っている)と回答した方】

問9(4)-1 誰と話し合われましたか(いくつでも)

人生の最終段階における医療・療養についての話し合いの相手としては、「家族・親族」が95.6%と大半を占め、「友人・知人」が7.0%、「医療介護関係者」が1.9%となっています。

どの層でも「家族・親族」が最も多くなっていますが、「友人・知人」は女性、65～74歳で多く、「医療介護関係者」は85歳以上、要支援1、2で多くなっています。



【話し合いの相手 性別、年齢別、認定状況別】

		n	家族・親族	医療介護関係者	友人・知人	その他	無回答
全体		430	411	8	30	4	6
		100	95.6	1.9	7.0	0.9	1.4
性別	男性	172	166	3	8	0	3
	100	96.5	1.7	4.7	0	1.7	
性別	女性	238	226	5	18	4	3
	100	95.0	2.1	7.6	1.7	1.3	
年齢別	65～74歳	199	196	1	18	0	0
	100	98.5	0.5	9.0	0	0	
	75～84歳	185	172	4	12	2	6
年齢別	100	93.0	2.2	6.5	1.1	3.2	
	85歳以上	41	38	3	0	2	0
認定有無別	100	92.7	7.3	0	4.9	0	
	一般高齢者	324	310	5	25	2	5
認定有無別	100	95.7	1.5	7.7	0.6	1.5	
	要支援1、2	38	36	3	2	0	1
認定有無別	100	94.7	7.9	5.3	0	2.6	

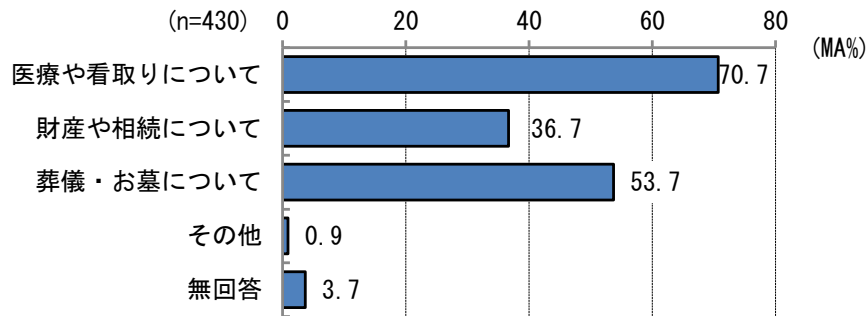
※今回新設

【(4)で「1.」「2.」(話し合っている)と回答した方】

問9(4)-2 どのようなことを話し合われましたか(いくつでも)

人生の最終段階における医療・療養についての話し合いの内容としては、「医療や看取りについて」が 70.7%、「葬儀・お墓について」が 53.7%、「財産や相続について」が 36.7%となっています。

年齢別にみると、65～74歳の前期高齢者が、すべての内容で他の年齢層よりも多く話し合われています。



【話し合いの内容 性別、年齢別、認定状況別】

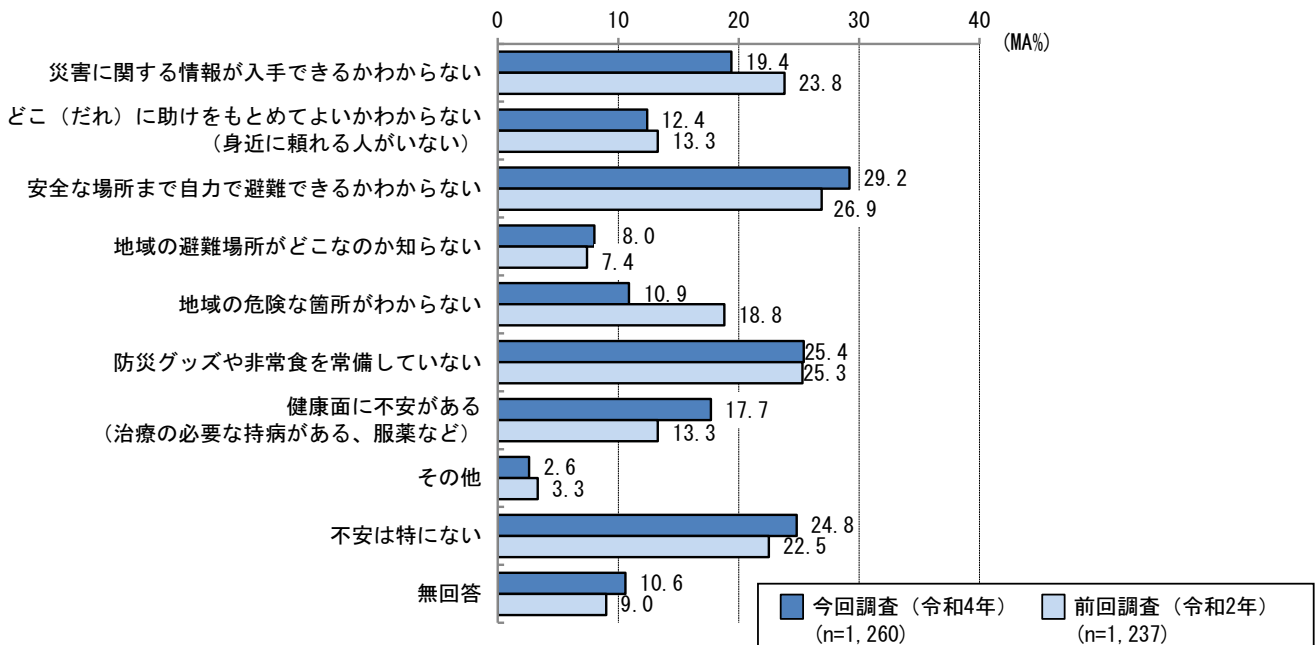
		n	医療 や 看 取 り に つ い て	財 産 や 相 続 に つ い て	葬 儀 ・ お 墓 に つ い て	そ の 他	無 回 答
全体		430	304	158	231	4	16
		100	70.7	36.7	53.7	0.9	3.7
性別	男性	172	119	59	91	1	5
		100	69.2	34.3	52.9	0.6	2.9
性別	女性	238	171	91	129	2	9
		100	71.8	38.2	54.2	0.8	3.8
年齢別	65～74歳	199	148	81	118	1	3
		100	74.4	40.7	59.3	0.5	1.5
	75～84歳	185	127	60	91	3	9
	100	68.6	32.4	49.2	1.6	4.9	
年齢別	85歳以上	41	25	15	20	0	4
		100	61.0	36.6	48.8	0	9.8
認定有無別	一般高齢者	324	236	116	169	4	9
		100	72.8	35.8	52.2	1.2	2.8
認定有無別	要支援1、2	38	25	17	22	0	4
		100	65.8	44.7	57.9	0	10.5

[5]災害時の対応について

問9(5)-1 地震や風水害などの災害時に対し、不安に思うことはありますか
(いくつでも)

災害時の不安としては、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が29.2%と最も多く、次いで、「防災グッズや非常食を常備していない」が25.4%となっています。前回調査に比べて、「健康面に不安がある（治療の必要な持病がある、服薬など）」が4.4ポイント増加しています。一方、「不安は特にはない」の回答も24.8%みられます。

多くの層で、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が最も多くなっていますが、男性、65～74歳で、「防災グッズや非常食を常備していない」が最も多くなっています。また、認定状況別にみると要支援1、2で「健康面に不安がある（治療の必要な持病がある、服薬など）」が33.3%と、他の層に比べて多くなっています。



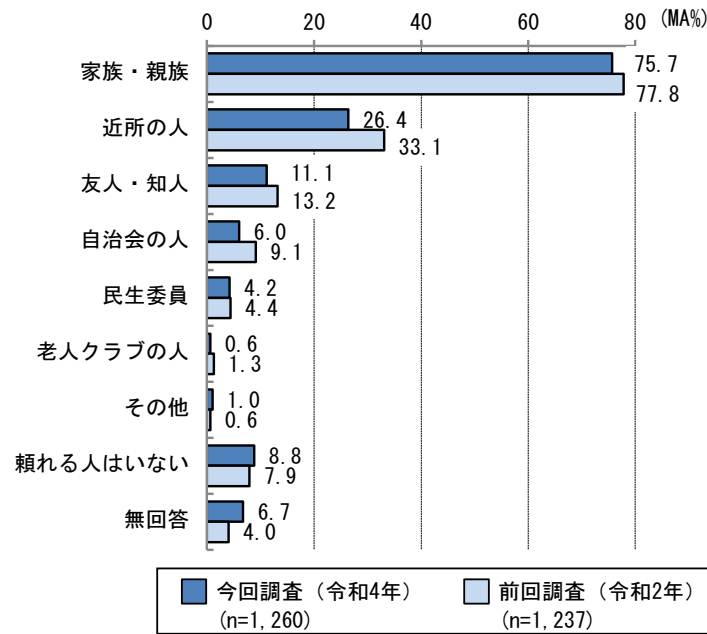
【災害時の不安 性別、年齢別、認定状況別】

項目	n	不安の項目 (MA%)									
		災害に関する情報が入手できない	どこ(だれ)に助けをもとめてよいかかわからない (身近に頼れる人がいない)	安全な場所まで自力で避難できるかわからない	地域の避難場所がどこなのか知らない	地域の危険な箇所がわからない	防災グッズや非常食を常備していない	健康面に不安がある (治療の必要な持病がある、服薬など)	その他	不安は特にはない	無回答
全体	1,260	244	156	368	101	137	320	223	33	312	134
性別											
男性	585	113	75	123	49	55	154	100	14	170	60
女性	623	122	69	219	47	73	149	113	19	134	63
年齢別											
65～74歳	647	121	71	156	36	68	174	103	23	186	47
75～84歳	490	97	65	159	49	56	115	99	8	106	67
85歳以上	112	21	15	47	13	9	26	19	2	20	18
認定有無別											
一般高齢者	994	200	113	268	75	109	253	162	29	259	94
要支援1、2	84	18	16	45	8	10	20	28	2	13	9

問9(5)-2 災害等で避難が必要な際、頼れる人はいますか(いくつでも)

災害等で避難が必要な際に頼れる人については、「家族・親族」が75.7%と最も多く、次いで、「近所の人」が26.4%で、「頼れる人はいない」は8.8%となっています。前回調査に比べて、「近所の人」が6.7ポイント減少しています。

年齢別にみると、85歳以上では「民生委員」が15.2%と、他の層に比べて多くなっています。



【避難時に頼れる人 性別、年齢別、居住地区別、認定状況別】

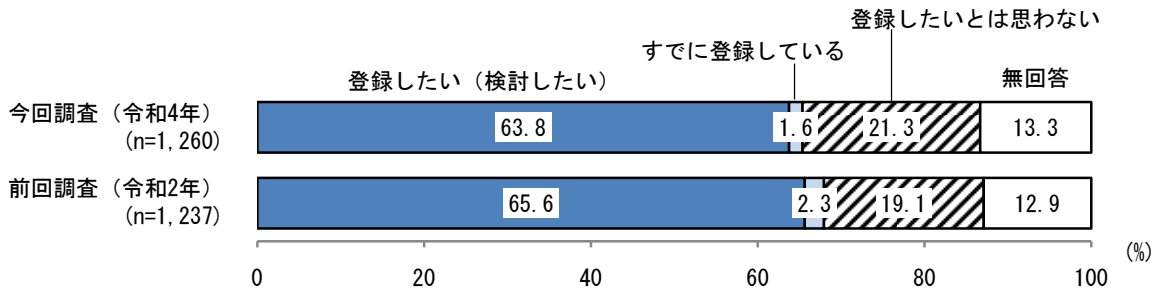
		n	家族・親族	近所の人	友人・知人	自治会の人	民生委員	老人クラブの人	その他	頼れる人はいない	無回答
全体		1,260	954	333	140	75	53	7	13	111	85
性別	男性	585	442	147	60	39	19	4	5	45	44
	女性	623	477	171	78	35	29	3	8	56	38
年齢別	65～74歳	647	511	166	85	42	10	2	5	63	26
	75～84歳	490	356	128	49	28	26	3	6	40	47
	85歳以上	112	79	35	6	5	17	2	2	8	10
居住地区別	木津東	287	214	78	34	24	9	1	6	30	23
	木津西	419	333	82	45	28	16	1	5	33	21
	加茂	360	266	119	44	14	22	3	1	30	22
	山城	152	113	43	16	8	5	2	0	15	11
	認定有無別	一般高齢者	994	774	260	118	64	40	7	7	84
	要支援1、2	84	56	28	7	3	6	0	3	8	11

問9(5)-3 市では、災害時の支援体制づくりとして、支援が必要な方(災害時要援護者)を対象に市への登録申請を受け付けています(木津川市避難行動要支援者名簿登録制度*)。将来的に、ご自身が支援が必要な状態になった場合、要支援者として登録したいと思いますか

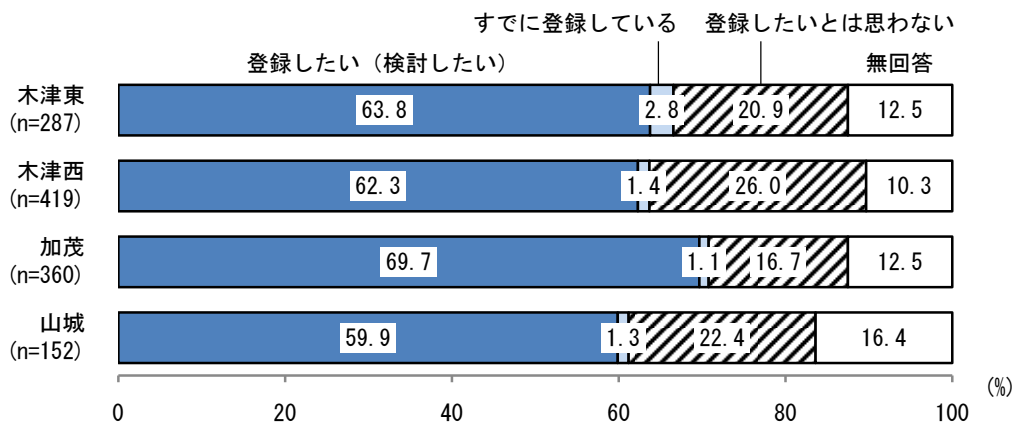
* 災害時に支援が必要な方(災害時要援護者)が、自身の情報を事前に市に登録し、市がその情報を地域の関係者(自治会長・民生委員・避難支援者)に提供することで、災害時の支援体制づくりに備えています。

避難行動要支援者名簿への登録意向については、「登録したい(検討したい)」が63.8%、「登録したいとは思わない」が21.3%、「すでに登録している」が1.6%となっています。前回調査に比べて、「登録したいとは思わない」が2.2ポイント増加しています。

居住地区別にみると、「すでに登録している」は木津東地区が2.8%と他の地区に比べて最も多く、「登録したい(検討したい)」は加茂地区が69.7%と他の地区に比べて最も多くなっています。



【避難行動要支援者名簿への登録意向 居住地区別】



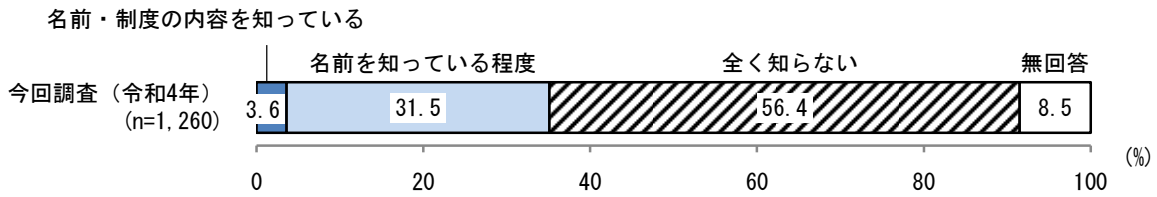
[6] 高齢者の権利擁護のための制度について

問9(6)-1 次の事業や制度を知っていますか

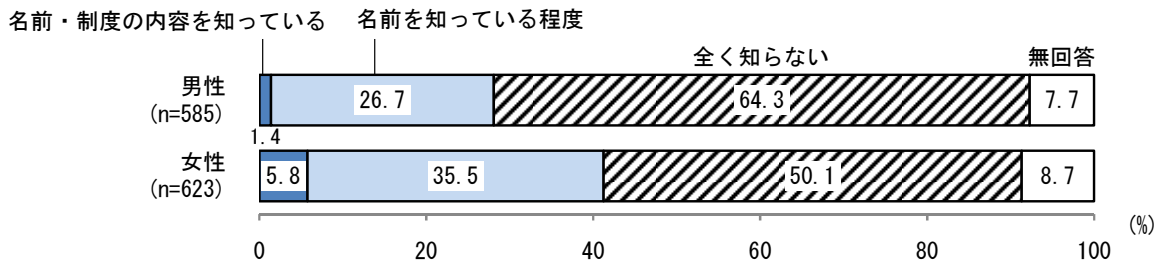
日常生活自立支援事業

日常生活自立支援事業については、「全く知らない」が 56.4%で、「名前・制度の内容を知っている」と「名前を知っている程度」を合わせた『知っている』は合計 35.1%となっています。

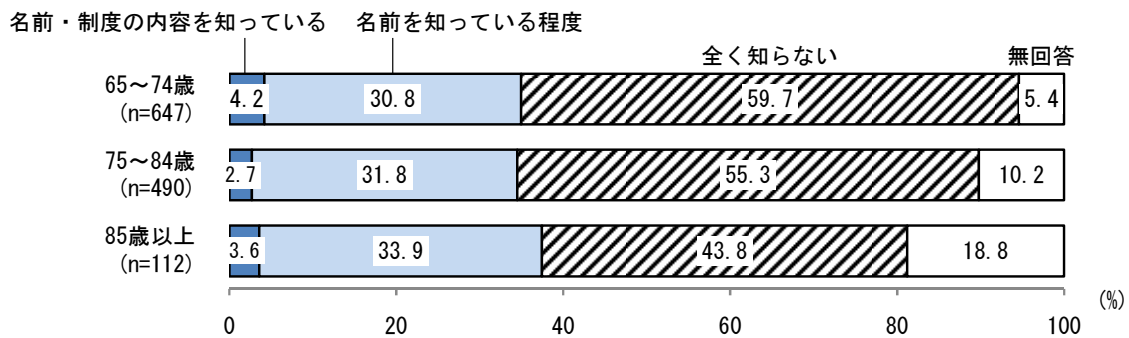
『知っている』は、女性で 41.3%と男性に比べて多く、85歳以上で 37.5%と他の年齢層よりもやや多くなっています。居住地区別には大きな差はみられませんでした。



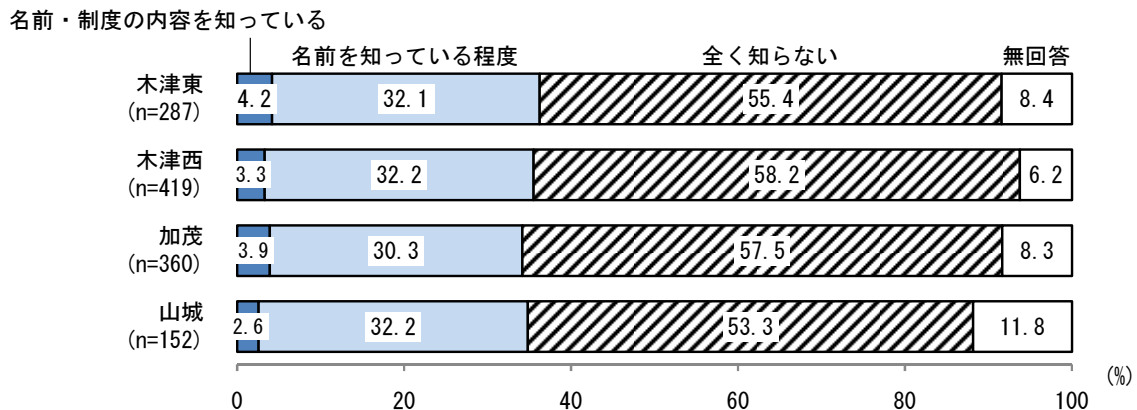
【日常生活自立支援事業の認知 性別】



【日常生活自立支援事業の認知 年齢別】



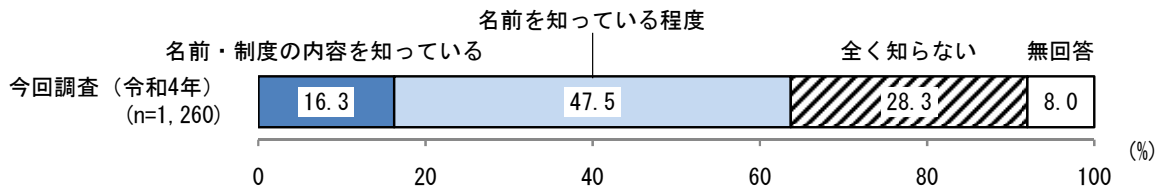
【日常生活自立支援事業の認知 居住地区別】



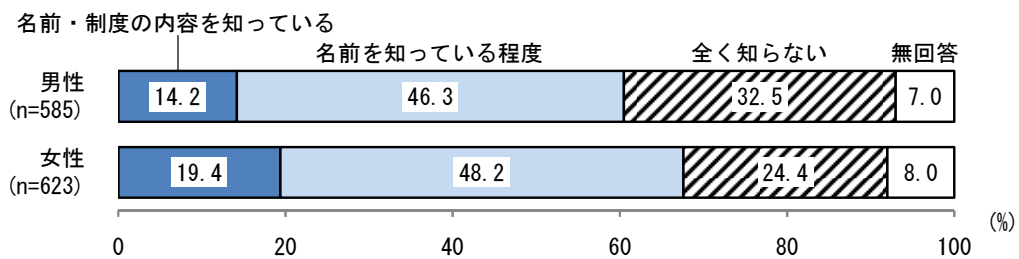
成年後見制度

成年後見制度については、「名前・制度の内容を知っている」と「名前を知っている程度」を合わせた『知っている』が合計 63.8%、「全く知らない」が 28.3%となっています。

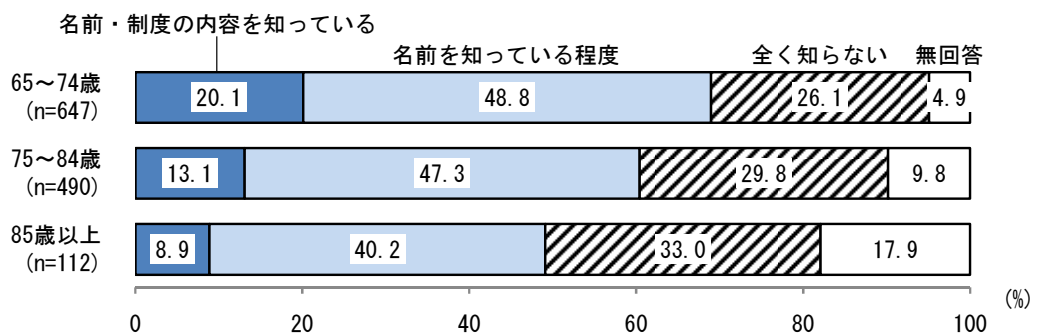
『知っている』は、女性で 67.6%と男性に比べて多く、65～74 歳で 68.9%と最も多く、年齢が上がるにつれて認知度は下降傾向となっています。また、木津西地区では『知っている』が 68.7%と他の地区に比べて多くなっています。



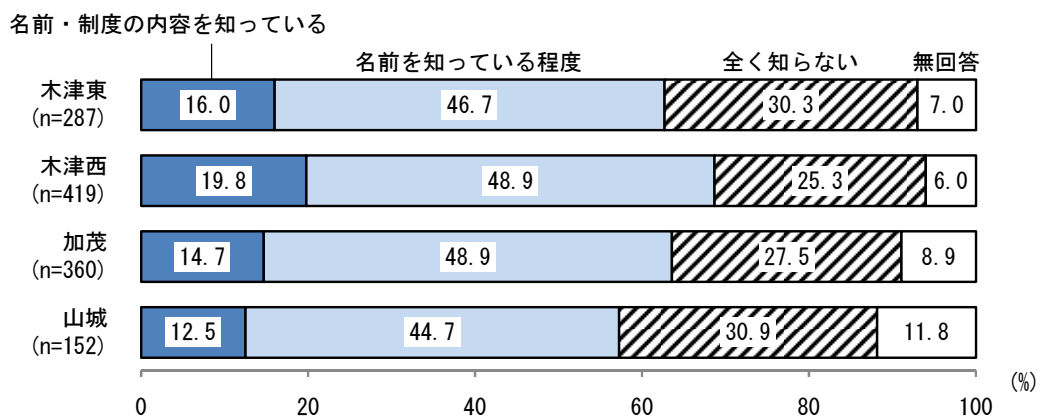
【成年後見制度の認知 性別】



【成年後見制度の認知 年齢別】



【成年後見制度の認知 居住地区別】

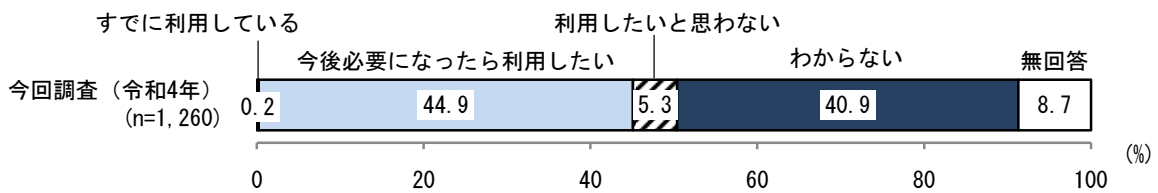


問9(6)-2 次の事業や制度を利用したいと思いませんか

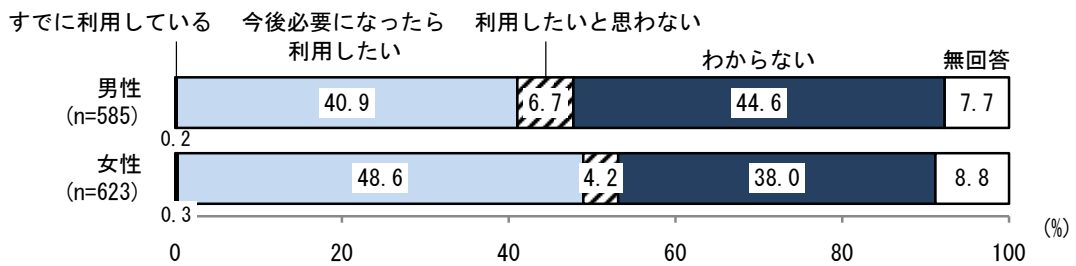
日常生活自立支援事業

日常生活自立支援事業の利用意向は、「すでに利用している」と「今後必要になったら利用したい」を合わせた『利用意向あり』が合計 45.1%、「利用したいと思わない」が 5.3%、「わからない」が 40.9%となっています。

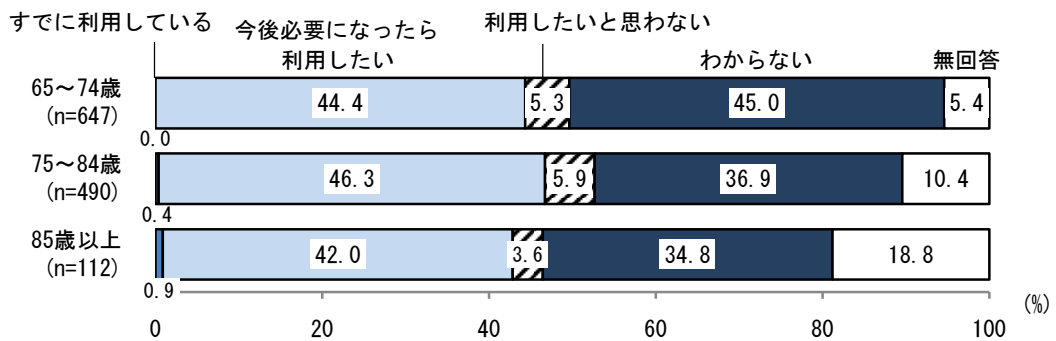
『利用意向あり』は、女性で 48.9%と男性に比べて多く、75～84 歳で 46.7%と他の年齢層に比べてやや多くなっています。また、木津西地区では『利用意向あり』が 48.7%と、他の地区に比べて多くなっています。



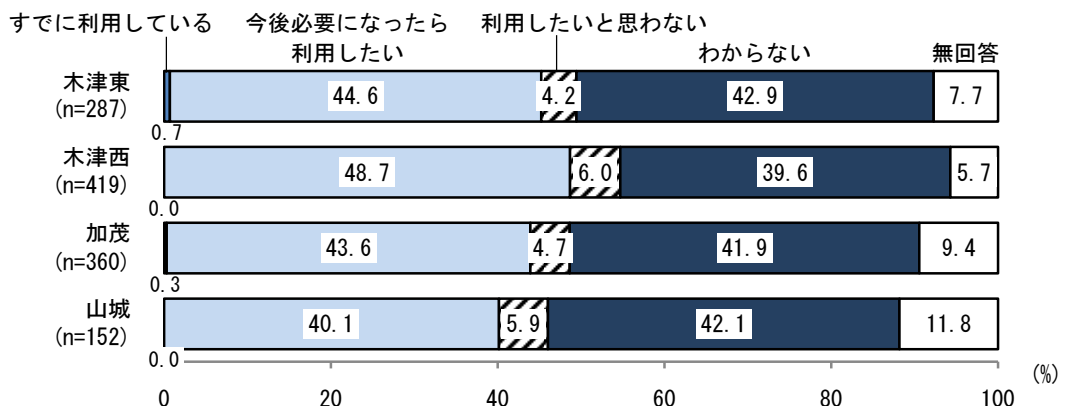
【日常生活自立支援事業の利用意向 性別】



【日常生活自立支援事業の利用意向 年齢別】



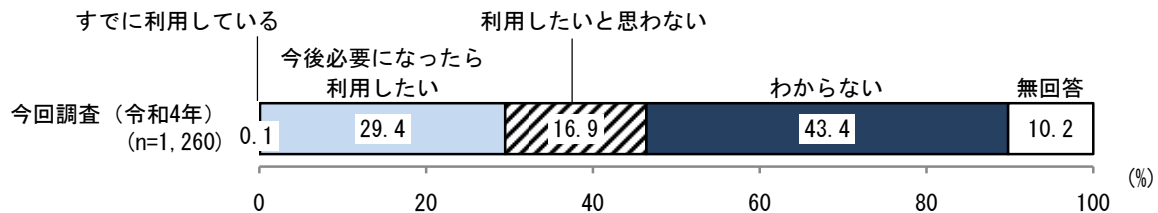
【日常生活自立支援事業の利用意向 居住地区別】



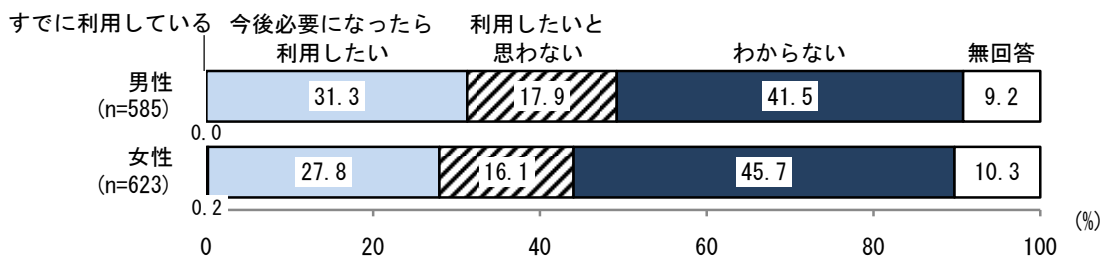
成年後見制度

成年後見制度の利用意向は、「すでに利用している」と「今後必要になったら利用したい」を合わせた『利用意向あり』が合計 29.5%、「利用したいと思わない」が 16.9%、「わからない」が 43.4%となっています。

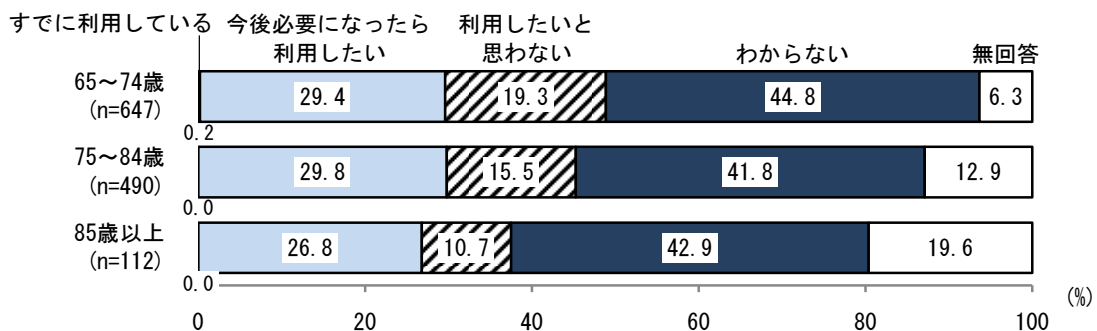
『利用意向あり』は、男性で 31.3%と女性に比べて多く、85 歳以上では 26.8%と他の年齢層に比べてやや少なくなっています。また、木津西地区で 33.7%と他の地区に比べてやや多くなっています。



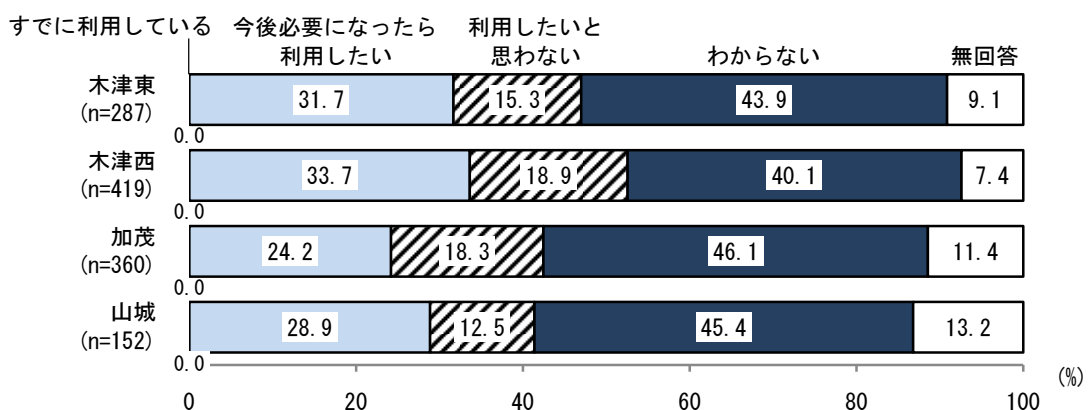
【成年後見制度の利用意向 性別】



【成年後見制度の利用意向 年齢別】



【成年後見制度の利用意向 居住地区別】

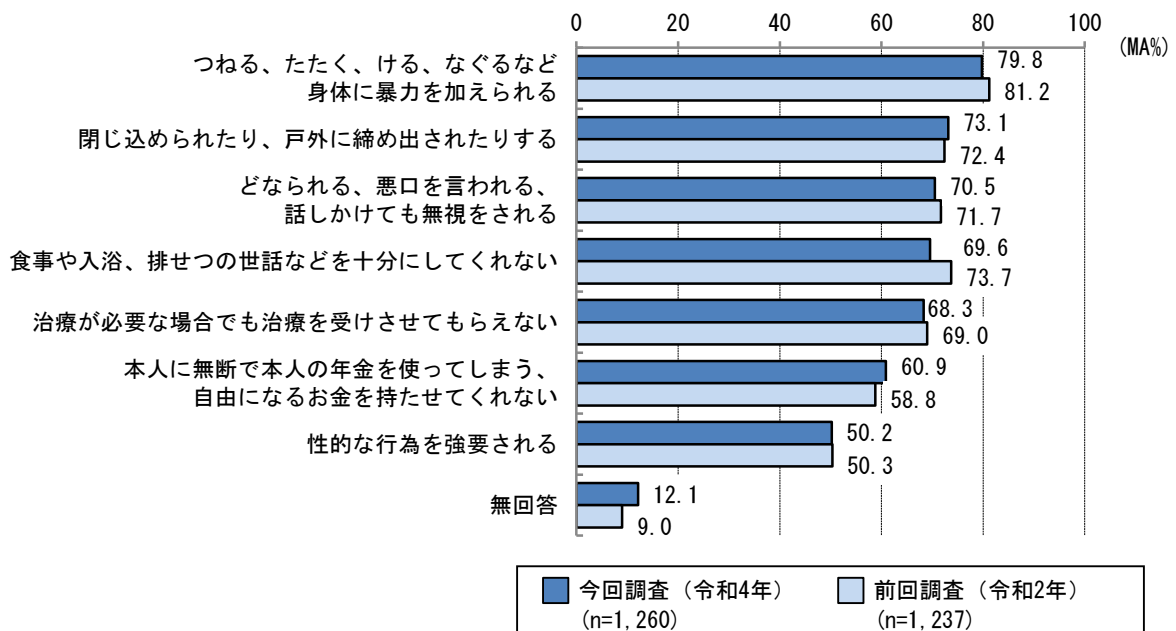


[7] 高齢者への虐待について

問9(7) あなたが高齢者への虐待だと思う行為はどれですか(いくつでも)

高齢者への虐待だと思う行為については、「つねる、たたく、ける、なぐるなど身体に暴力を加えられる」が 79.8%と最も多く、次いで、「閉じ込められたり、戸外に締め出されたりする」が 73.1%、「どなられる、悪口を言われる、話しかけても無視をされる」が 70.5%となっています。

性別にみると、男女とも「つねる、たたく、ける、なぐるなど身体に暴力を加えられる」が最も多くなっていますが、次いで、男性は「閉じ込められたり、戸外に締め出されたりする」、女性は「食事や入浴、排せつの世話などを十分にしてくれない」が多くなっています。年齢別にみると、上位2項目はすべての年齢層で同じで、次いで、65～74歳、85歳以上で「食事や入浴、排せつの世話などを十分にしてくれない」、75～84歳で「どなられる、悪口を言われる、話しかけても無視をされる」、85歳以上で「治療が必要な場合でも治療を受けさせてもらえない」が多くなっています。



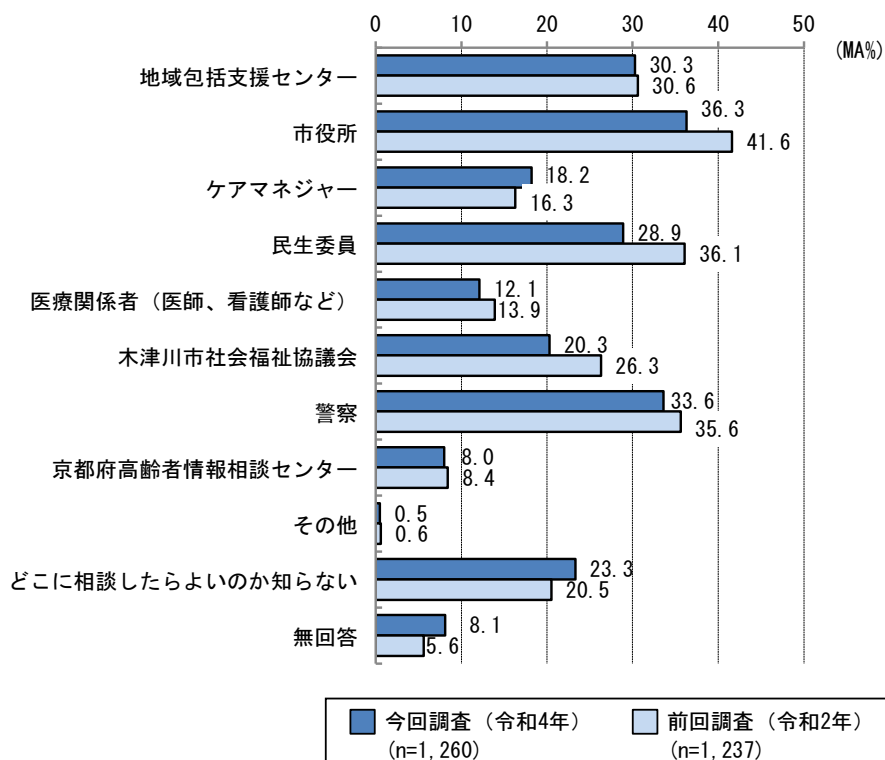
【高齢者への虐待だと思う行為 性別、年齢別】

		n	暴るつ力、ねをなる加ぐ、えるたらなれどくる身、体けに	る外閉にじ締込めめ出らされたり、す戸	無わど視れなをるらさ、れれ話るし、か悪けてをも言	く世食れ話事ななやいど入を浴を排にせつての	え治療なをが受必要せな場合でも	て由金を人にするつ無断のおて金をま持たせ自	る性的な行為を強要され	無回答
全体		1,260	1,006	921	888	877	860	767	632	153
		100	79.8	73.1	70.5	69.6	68.3	60.9	50.2	12.1
性別	男性	585	445	408	386	364	374	324	247	74
		100	76.1	69.7	66.0	62.2	63.9	55.4	42.2	12.6
性別	女性	623	521	478	471	483	452	417	368	68
		100	83.6	76.7	75.6	77.5	72.6	66.9	59.1	10.9
年齢別	65～74歳	647	559	516	507	514	496	445	386	46
		100	86.4	79.8	78.4	79.4	76.7	68.8	59.7	7.1
	75～84歳	490	363	328	316	293	296	262	203	75
		100	74.1	66.9	64.5	59.8	60.4	53.5	41.4	15.3
年齢別	85歳以上	112	75	69	58	62	62	54	39	30
		100	67.0	61.6	51.8	55.4	55.4	48.2	34.8	26.8

問9(8) 高齢者の虐待についての相談先としてどんなところを知っていますか
(いくつでも)

高齢者の虐待についての相談先として知っているところは、「市役所」が 36.3%と最も多く、次いで、「警察」が 33.6%、「地域包括支援センター」が 30.3%となっています。前回調査に比べて、「民生委員」が 7.2 ポイント、「木津川市社会福祉協議会」が 6.0 ポイント、「市役所」が 5.3 ポイント減少し、「どこに相談したらよいのか知らない」が 2.8 ポイント増加しています。

性別にみると、男性は「市役所」、「警察」、「地域包括支援センター」、女性は「地域包括支援センター」、「市役所」、「民生委員」の順で多くなっています。また、「ケアマネジャー」は女性で 23.1%と、男性に比べて多くなっています。年齢別にみると、85 歳以上で「民生委員」が他の年齢層に比べて多くなっています。居住地区別にみると、加茂地区では「警察」、山城地区では「民生委員」が最も多くなっています。



Ⅱ. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【高齢者の虐待についての相談先の認知度 性別、年齢別、居住地区別】

(MA%)

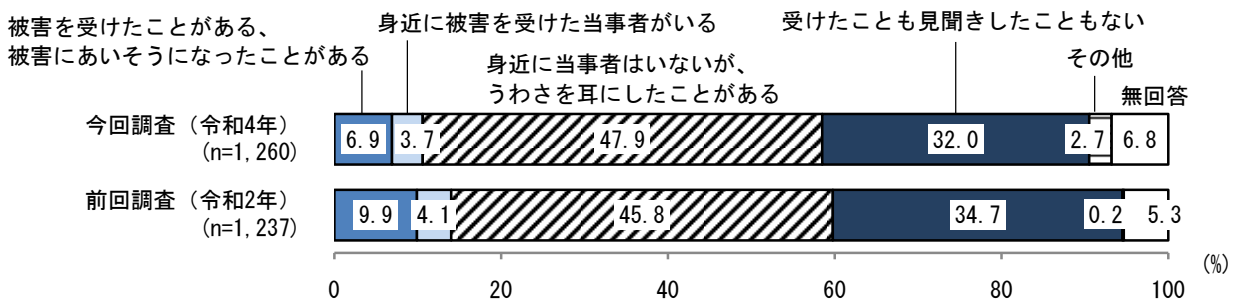
	n	地域包括支援センター	市役所	ケアマネジャー	民生委員	医療関係者（医師、看護師など）	協議会	木津川市社会福祉	警察	京都府高齢者情報センター	その他	よどいのか相談しない	無回答
全体	1,260	382	458	229	364	152	256	423	101	6	293	102	
	100	30.3	36.3	18.2	28.9	12.1	20.3	33.6	8.0	0.5	23.3	8.1	
性別	男性	585	144	226	80	135	74	107	216	35	3	151	47
	100	24.6	38.6	13.7	23.1	12.6	18.3	36.9	6.0	0.5	25.8	8.0	
女性	623	221	218	144	214	74	137	190	60	2	132	48	
	100	35.5	35.0	23.1	34.3	11.9	22.0	30.5	9.6	0.3	21.2	7.7	
年齢別	65～74歳	647	208	274	135	177	91	143	257	55	1	148	27
	100	32.1	42.3	20.9	27.4	14.1	22.1	39.7	8.5	0.2	22.9	4.2	
	75～84歳	490	134	154	72	135	45	84	134	37	3	125	56
85歳以上	100	27.3	31.4	14.7	27.6	9.2	17.1	27.3	7.6	0.6	25.5	11.4	
	112	35	26	19	47	16	26	27	8	2	18	19	
100	31.3	23.2	17.0	42.0	14.3	23.2	24.1	7.1	1.8	16.1	17.0		
	居住地区別	木津東	287	96	119	57	88	43	58	98	21	1	64
100		33.4	41.5	19.9	30.7	15.0	20.2	34.1	7.3	0.3	22.3	8.0	
木津西		419	118	162	71	109	60	83	145	36	4	104	25
100		28.2	38.7	16.9	26.0	14.3	19.8	34.6	8.6	1.0	24.8	6.0	
加茂	360	117	123	65	109	34	79	130	26	1	81	30	
	100	32.5	34.2	18.1	30.3	9.4	21.9	36.1	7.2	0.3	22.5	8.3	
山城	152	41	47	27	49	13	30	41	13	0	34	15	
	100	27.0	30.9	17.8	32.2	8.6	19.7	27.0	8.6	0	22.4	9.9	

〔8〕悪質商法の被害について

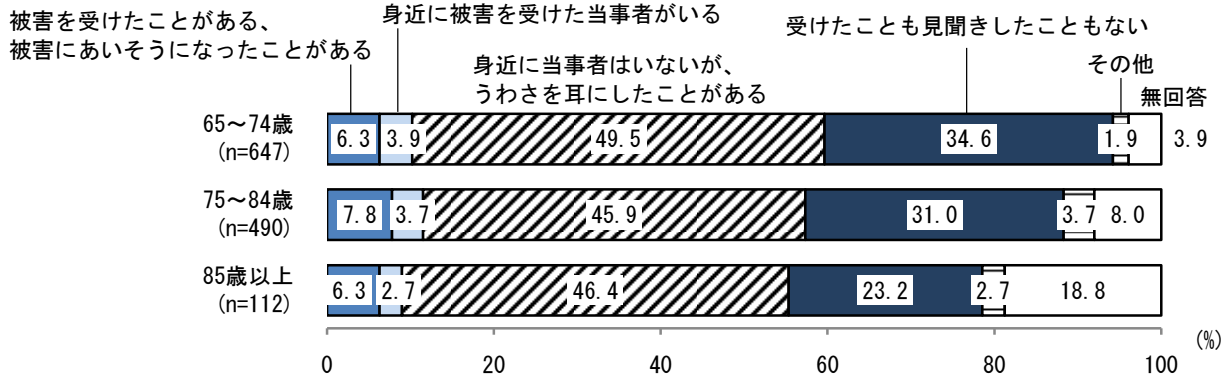
問9(9) あなたは、振り込め詐欺をはじめとする悪質商法の被害にあった経験や見聞きしたことがありますか

悪質商法の被害にあった経験や見聞きした経験については、「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が 47.9%と最も多く、「被害を受けたことがある、被害にあいそうになったことがある」、「身近に被害を受けた当事者がいる」と回答した人は合わせて 10.6%、全体の 1 割ほどとなっています。

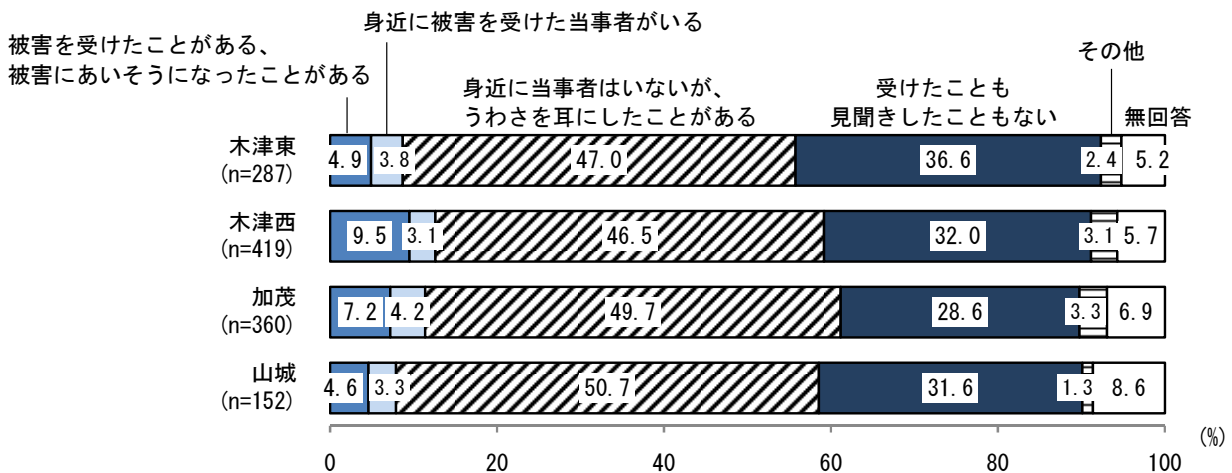
「被害を受けたことがある、被害にあいそうになったことがある」、「身近に被害を受けた当事者がいる」の合計は、75～84 歳で 11.5%と他の年齢層よりもやや多く、また、木津西地区で 12.6%と他の地区に比べてやや多くなっています。



【悪質商法の被害にあたり見聞きした経験 年齢別】



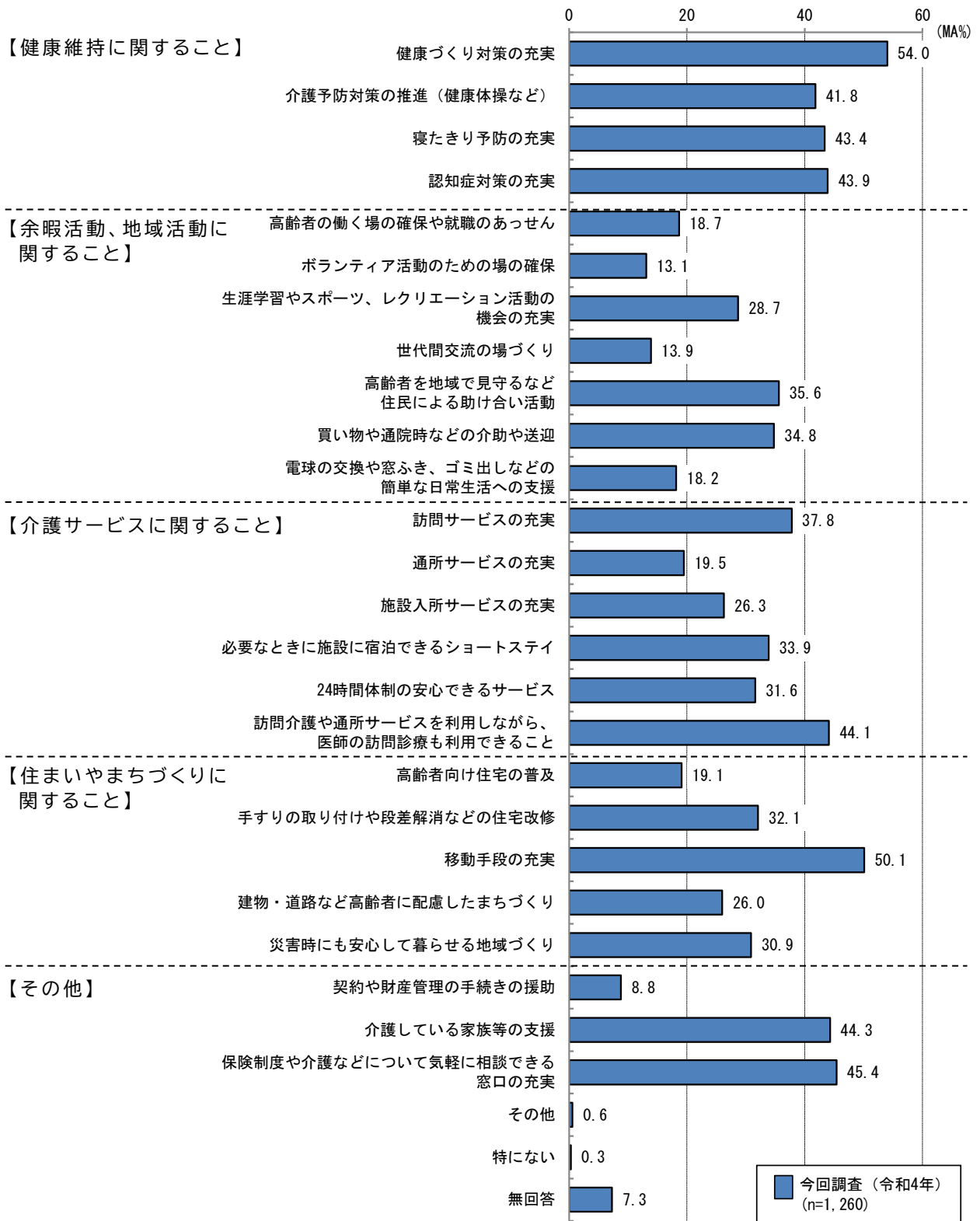
【悪質商法の被害にあたり見聞きした経験 居住地区別】



[9]地域や自宅での生活に必要な支援や施策

問9(10) 高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けていくために、どのような支援や施策の拡充が重要とお考えですか(いくつでも)

地域や自宅での生活を続けるために必要な支援や施策については、「健康づくり対策の充実」が54.0%と最も多く、次いで、「移動手段の充実」が50.1%、「保険制度や介護などについて気軽に相談できる窓口の充実」が45.4%となっています。



※前回調査とは選択肢が異なるため、比較はしていない。

II. 市民向け調査結果 1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

年齢別にみると、85歳以上では「寝たきり予防の充実」、「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」、「介護予防対策の推進（健康体操など）」が上位にあがっています。居住地区別にみると、木津西地区では「保険制度や介護などについて気軽に相談できる窓口の充実」が他の地区に比べて多く、加茂地区では「移動手段の充実」が57.8%と最も多く、「訪問介護や通所サービスを利用しながら、医師の訪問診療も利用できること」や「介護している家族等の支援」も他の地区に比べて多くなっています。

【地域や自宅での生活に必要な支援 性別、年齢別、居住地区別、認定状況別】

(MA%)

	n	健康維持に関すること				余暇活動、地域活動に関すること							介護サービスに関すること											
		健康づくり対策の充実	健康体操などの推進	寝たきり予防の充実	認知症対策の充実	職のあつせん場の確保や就	高齢者の働く場の確保や就	ボランティア活動のための	充実にシヨンスポーツ、レク	生涯学習活動の機会	世代間交流の場づくり	住民による地域で見守る活動	高齢者を地域で受け入れる活動	買い物や通院時などの介助	外出の交換や窓ふき、ゴミ	電球の交換や簡単な日常生活	訪問サービスの充実	通所サービスの充実	施設入所サービスの充実	必要ときに施設に宿泊でき	サービス体制の安心できる	24時間利用できること	訪問介護や通所サービスを利用できること	医師の訪問を
全体	1,260	681	527	547	553	236	165	362	175	448	438	229	476	246	332	427	398	556						
	100	54.0	41.8	43.4	43.9	18.7	13.1	28.7	13.9	35.6	34.8	18.2	37.8	19.5	26.3	33.9	31.6	44.1						
性別	男性	585	333	223	219	128	83	181	79	176	171	82	237	94	163	160	172	233						
	100	56.9	38.1	37.4	42.6	21.9	14.2	30.9	13.5	30.1	29.2	14.0	40.5	16.1	27.9	27.4	29.4	39.8						
年齢別	65~74歳	647	371	283	298	310	169	105	218	101	236	245	267	142	191	244	246	292						
	100	57.3	43.7	46.1	47.9	26.1	16.2	33.7	15.6	36.5	37.9	19.0	41.3	21.9	29.5	37.7	38.0	45.1						
居住地区別	木津東	287	150	122	127	121	64	54	91	43	97	78	113	57	80	97	99	122						
	100	52.3	42.5	44.3	42.2	22.3	18.8	31.7	15.0	33.8	27.2	17.8	39.4	19.9	27.9	33.8	34.5	42.5						
認定有無別	一般高齢者	994	557	422	430	448	197	130	307	131	351	347	374	194	262	329	324	447						
	100	56.0	42.5	43.3	45.1	19.8	13.1	30.9	13.2	35.3	34.9	17.5	37.6	19.5	26.4	33.1	32.6	45.0						

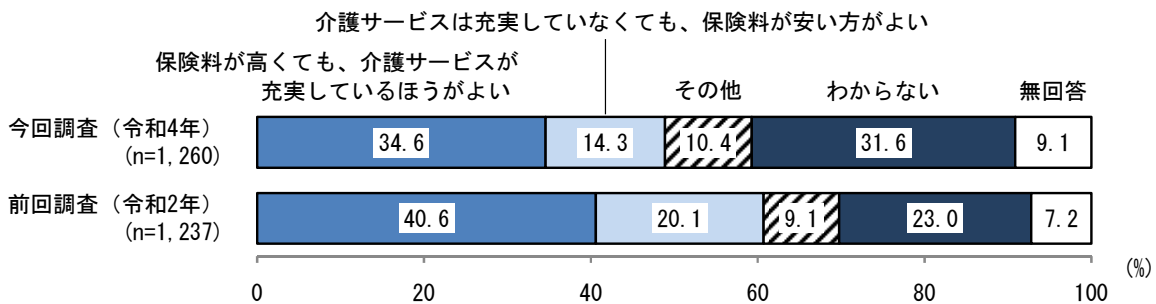
	n	住まいやまちづくりに関すること					その他					
		高齢者向けの住宅の普及	消すのりなどの住取付や段差解消	移動手段の充実	慮した・道路まちづくり	る地域づくりに安心して暮らせる	災害時に安心して暮らせる	援助や財産管理のスキーム	介護している家族等の支援	充て保険や相談など	特にな	無回答
全体	1,260	241	404	631	328	389	111	558	572	7	4	92
	100	19.1	32.1	50.1	26.0	30.9	8.8	44.3	45.4	0.6	0.3	7.3
性別	男性	585	109	178	298	162	157	64	262	237	3	40
	100	18.6	30.4	50.9	27.7	26.8	10.9	44.8	40.5	0.5	0.3	6.8
年齢別	65~74歳	647	147	226	367	193	202	76	334	322	0	25
	100	22.7	34.9	56.7	29.8	31.2	11.7	51.6	49.8	0	0.5	3.9
居住地区別	木津東	287	64	76	141	66	90	23	124	129	2	24
	100	22.3	26.5	49.1	23.0	31.4	8.0	43.2	44.9	0.7	0	8.4
認定有無別	一般高齢者	994	189	318	513	259	307	86	448	460	5	60
	100	19.0	32.0	51.6	26.1	30.9	8.7	45.1	46.3	0.5	0.3	6.0

〔10〕介護保険料の負担と介護サービスのあり方

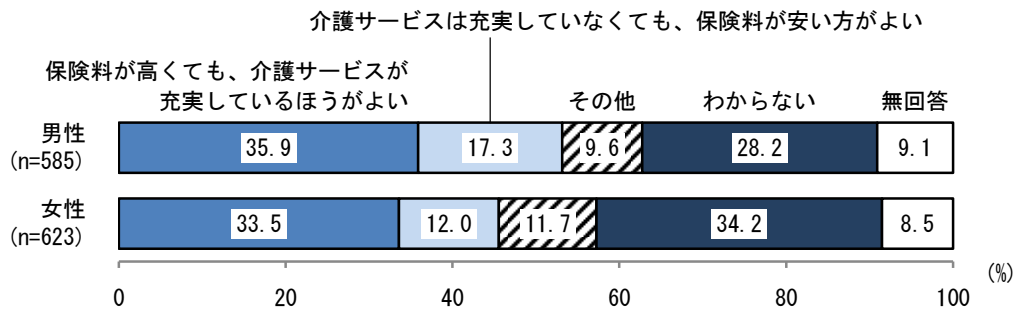
問9(11) 介護保険の保険料は、市全体で使われた介護サービスの量で決まります。保険料の負担と介護サービスのあり方について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください

介護保険料については、「保険料が高くても、介護サービスが充実しているほうがよい」が34.6%と最も多く、「介護サービスは充実してなくても、保険料が安いほうがよい」が14.3%、「わからない」が31.6%となっています。前回調査に比べて、「わからない」が8.6ポイント増加しています。

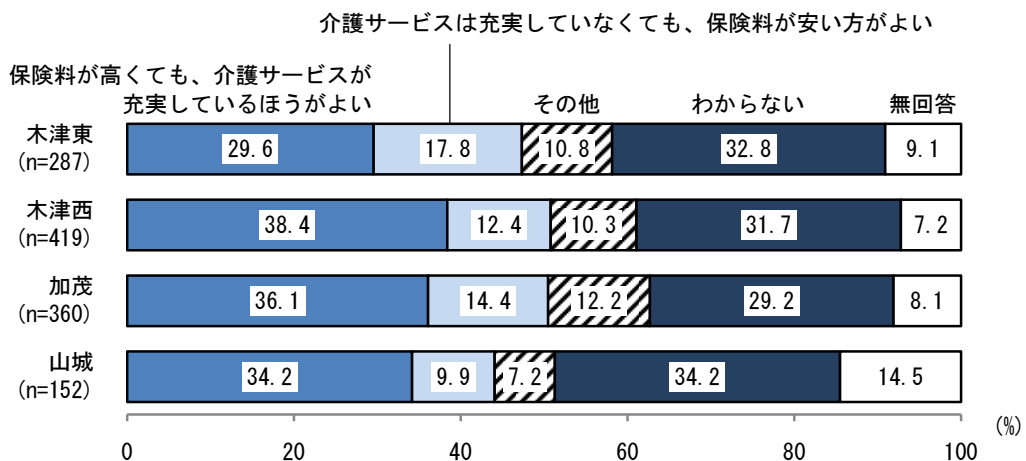
性別にみると、「介護サービスは充実してなくても、保険料が安いほうがよい」は、男性のほうが女性に比べて5.3ポイント多くなっています。居住地区別にみると、「保険料が高くても、介護サービスが充実しているほうがよい」は木津西地区で38.4%と他の地区に比べて多く、「介護サービスは充実してなくても、保険料が安いほうがよい」は木津東地区で17.8%と他の地区に比べて多くなっています。



【保険料の負担と介護サービスのあり方 性別】



【保険料の負担と介護サービスのあり方 居住地区別】

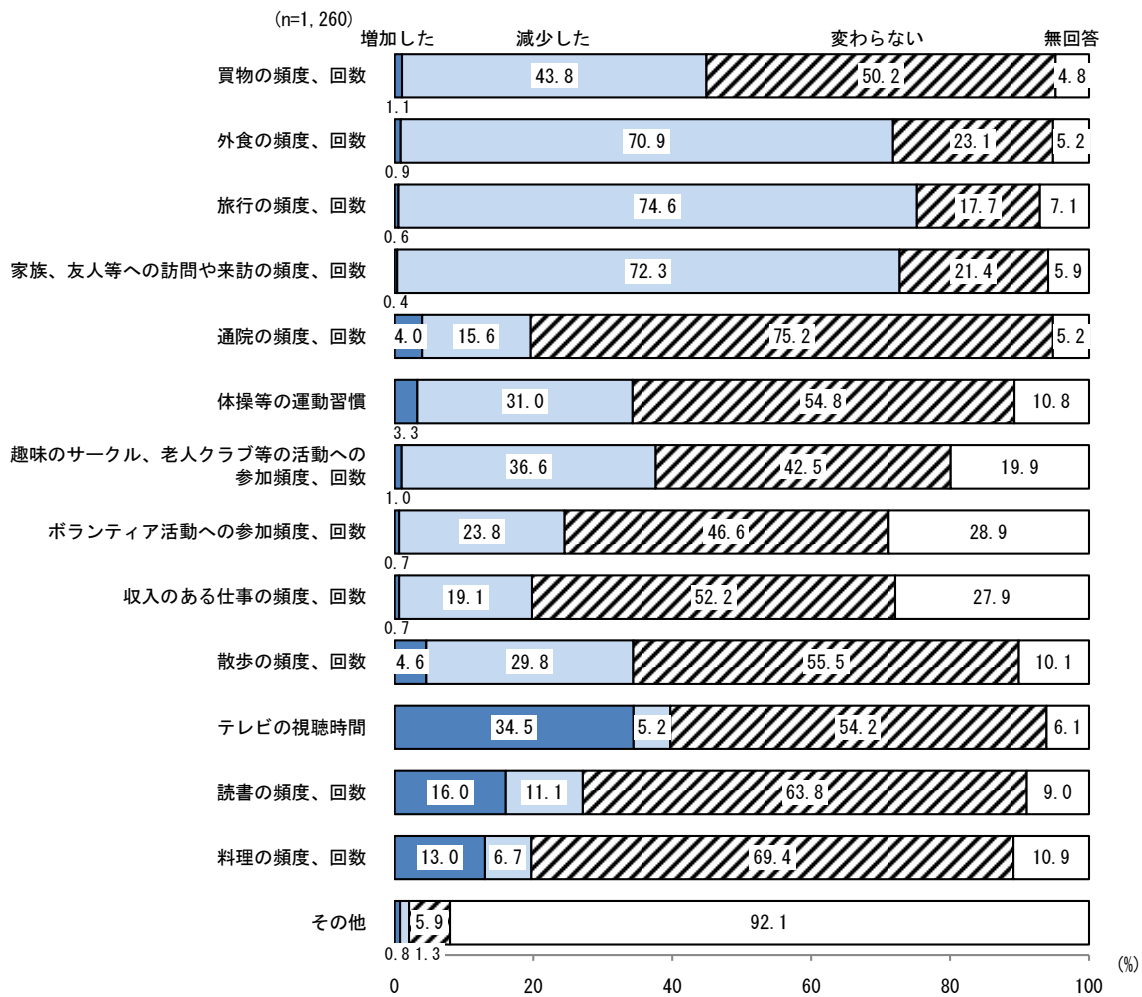


〔11〕新型コロナウイルス感染症の影響による日常生活の変化

※今回新設

問9(12) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が社会に影響を与える前と現在を比較して、あなたの日常生活はどのように変化しましたか。以下のそれぞれの場面について、頻度や回数がどう変化したかをお答えください(それぞれ1つに○)

新型コロナウイルス感染症の影響で日常生活がどう変化したかについては、多くの項目で「変わらない」が最も多くなっていますが、「減少した」が目立つものとしては、「旅行の頻度、回数」、「家族、友人等への訪問や来訪の頻度、回数」、「外食の頻度、回数」で、7割以上の方が「減少した」と回答しています。一方、「増加した」が目立つものとしては、「テレビの視聴時間」が34.5%、「読書の頻度、回数」が16.0%、「料理の頻度、回数」が13.0%となっています。



【「その他」の回答内容】

内 容	件数
旅行や趣味、車の運転頻度	9件
感染症対策、身体面、精神面について	6件
家族、友人との交流	5件
配達サービス、通販利用	3件
農作業	3件
日常が変わらないよう配慮	1件
家にいる時間、生きるために必要なこと、情報の収集	各1件
特になし、もともと実施していない	5件

11 意見・要望

最後に、介護保険や高齢者施策の推進、暮らしやすい地域づくりなどについて、ご意見やご要望などがございましたら、ご記入ください

計 261 件（のべ 289 件）のご意見をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

ご意見内容	件数
■ 介護保険制度・介護サービスについて	63 件
・介護サービスの内容を周知してほしい、在宅サービス・施設の充実を など	(30 件)
・介護保険制度について説明や情報提供がほしい、公平な運用になるよう配慮を など	(16 件)
・介護保険料が高い	(14 件)
・賃金や働き方等、介護職員の待遇改善を	(3 件)
■ 行政へのご意見・ご要望	48 件
・税金・保険料・医療費などが経済的に負担、年金生活でも安心して暮らせるようにしてほしい	(15 件)
・子どもも高齢者も安心して暮らせるまちづくりを	(8 件)
・医療機関の増加・充実、医療保険制度の見直しなど医療の充実	(6 件)
・市の事業についての周知、情報提供、広報などでの PR	(4 件)
・その他（災害・虐待への対応、市民対応、コロナワクチン、マイナンバーカード など）	(15 件)
■ バスやタクシーなど移動手段の充実、交通機関の無料化など	38 件
■ 高齢者施策について	33 件
・近くに交流・集いの場を（高齢者が気軽に集まれる場所、スポーツ、趣味サークルなど）	(6 件)
・高齢者世帯への訪問、声かけ、見守りを	(5 件)
・相談窓口の周知、身近なところに相談場所を	(5 件)
・高齢者施策内容の周知	(3 件)
・その他（認知症対策、家族支援、高齢者の就労の機会、高齢者住宅の普及 など）	(14 件)
■ 健康面の不安、または介護が必要にならないよう健康を維持したい	14 件
■ 地域活動、ご近所づきあいについて	14 件
■ その他のご意見	79 件
・アンケートについて（制度について勉強になった、項目が多い、結果の公表を など）	(27 件)
・感謝の声、特にない など	(36 件)
・その他	(16 件)

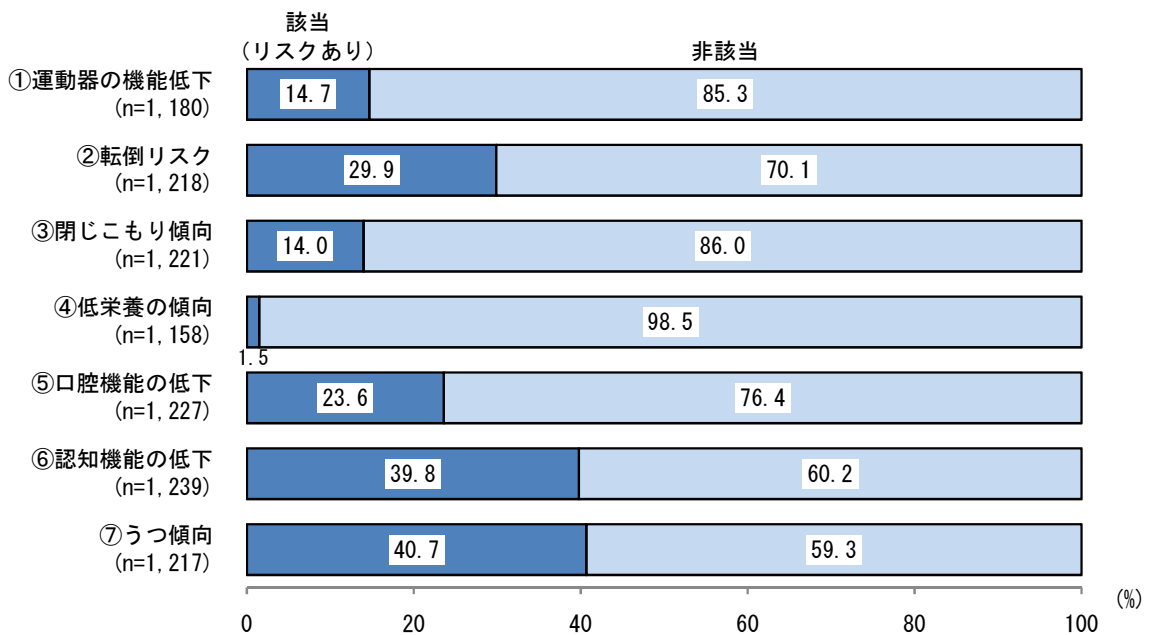
12 生活機能評価等に関する分析

本調査は、地域における高齢者の課題や必要な支援・サービス等をよりの確に把握するため、国が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れており、介護予防事業の「基本チェックリスト」や「手段的自立度（IADL）」などの指標の判定に関する調査項目が設定されています。

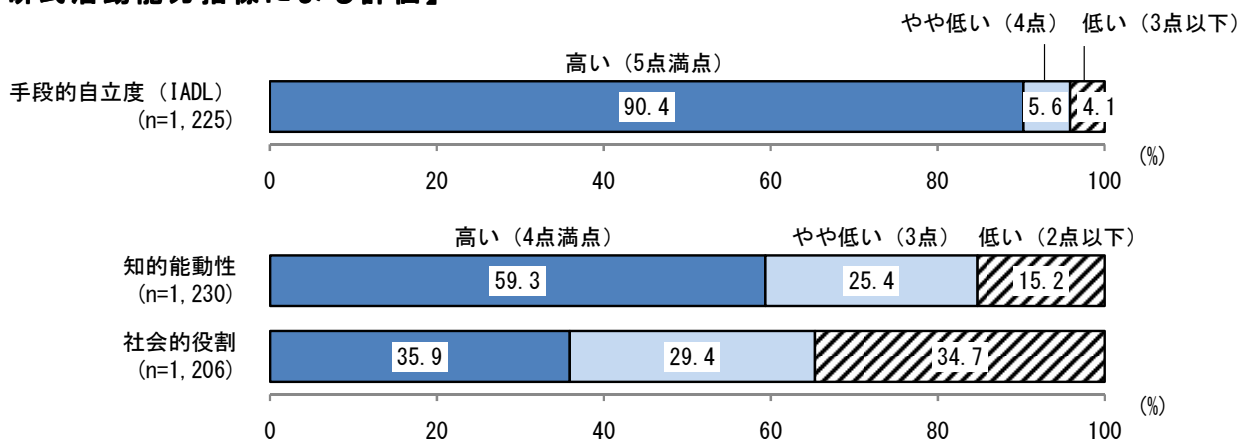
本報告書の『生活機能評価等に関する分析』では、これらの調査項目を使用し、各指標の判定（リスク評価等）を行っています。

一般高齢者、要支援認定者を合わせた全体のリスク評価等については、以下のような結果となっています。機能別のリスク該当者は、『うつ傾向』が40.7%と最も多く、次いで、『認知機能の低下』が39.8%となっています。『低栄養の傾向』では該当者は2%未満と少なくなっています。高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標による評価では、低下者（「やや低い」「低い」の計）に該当する人は『手段的自立度（IADL）』で約1割、『知的能動性』で約4割、『社会的役割』で6割台となっています。

【機能別リスク該当者】



【老研式活動能力指標による評価】



※無回答により判定・評価困難な場合は、調査数（n数）から除外して集計しています。（以下同様）

〔1〕生活機能評価

①運動器の機能低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定しました。

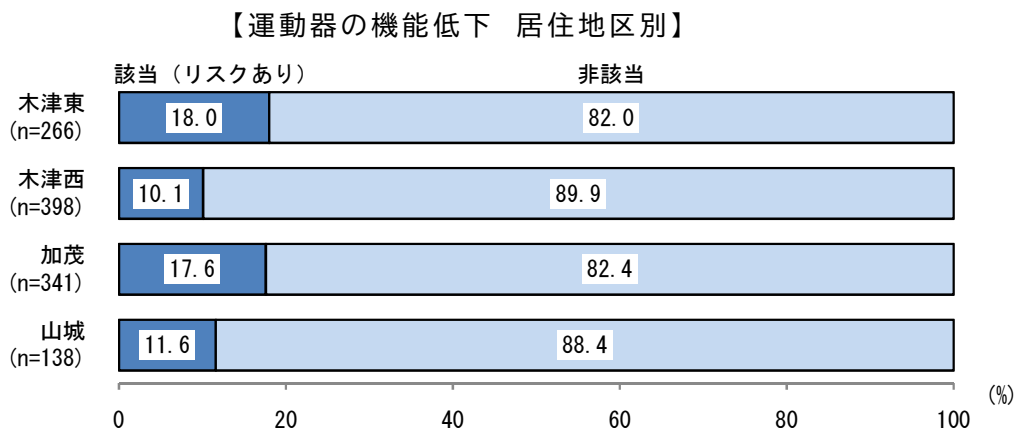
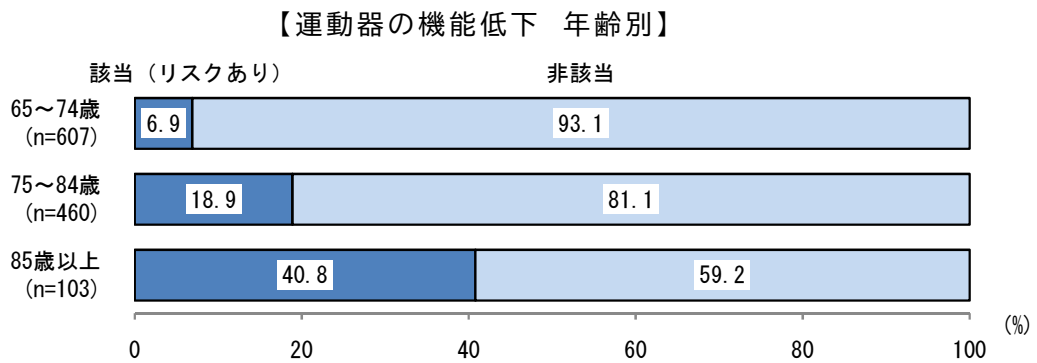
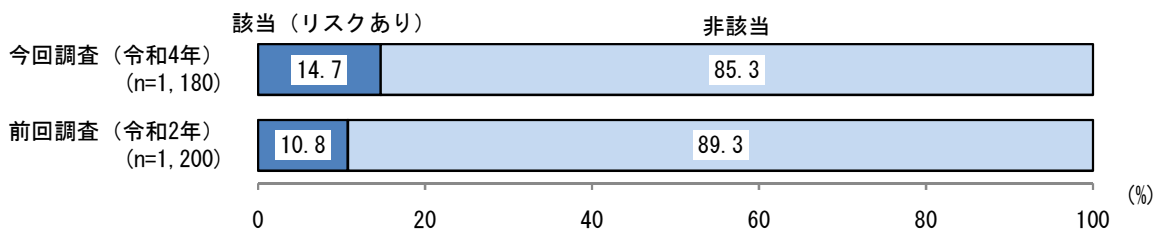
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 2	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
	(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
	(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
	(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

【リスク該当状況】

『運動器の機能低下』のリスク該当者は全体で 14.7%と、前回調査に比べて 3.9 ポイント増加しています。

リスク該当者は年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上では 40.8%と半数近くみられます。また、居住地区別にみると、リスク該当者は木津東地区と加茂地区でやや多くなっています。



②転倒リスク

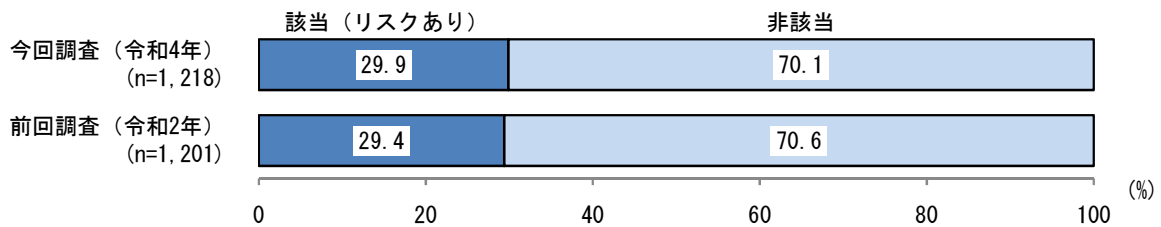
国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『転倒』のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

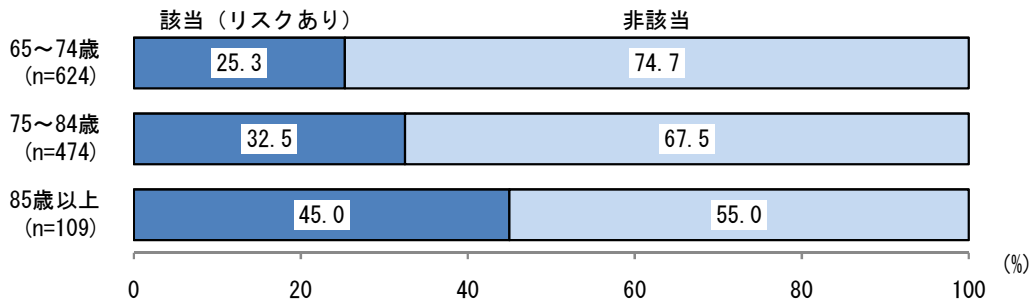
問番号	設問	該当する選択肢
問 2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

【リスク該当状況】

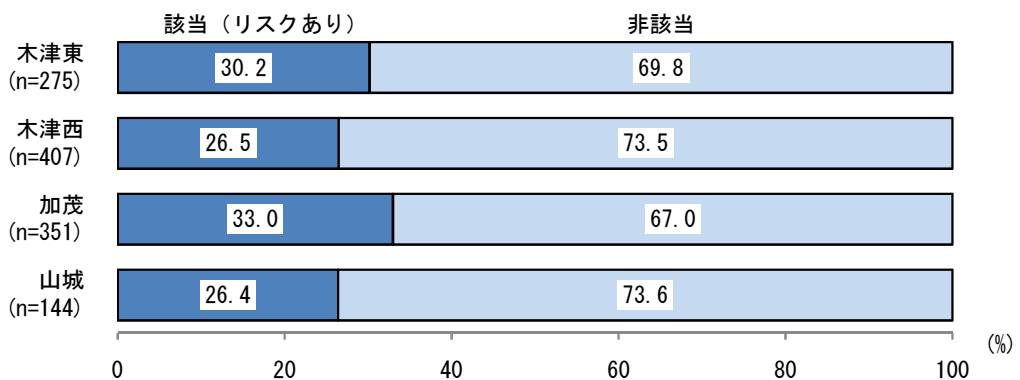
『転倒』のリスク該当者は全体で 29.9%と、前回調査に比べて大きな変化はみられません。リスク該当者は年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上では 45.0%と半数近くみられます。また、居住地区別にみると、リスク該当者は木津東地区と加茂地区でやや多くなっています。



【転倒リスク 年齢別】



【転倒リスク 居住地区別】



③閉じこもり傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『閉じこもり傾向』のリスク該当者と判定しました。

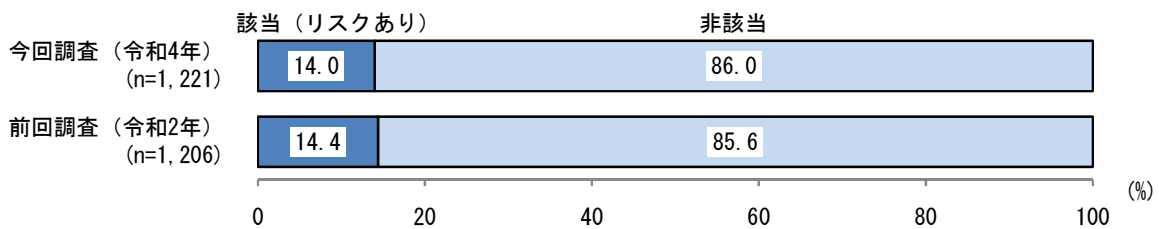
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問 2	(6)	週に 1 回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週 1 回

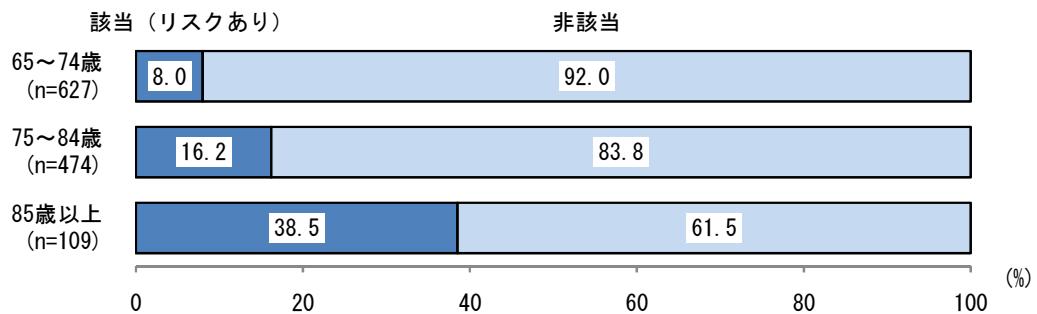
【リスク該当状況】

『閉じこもり傾向』のリスク該当者は全体で 14.0%と、前回調査に比べて大きな変化はみられません。

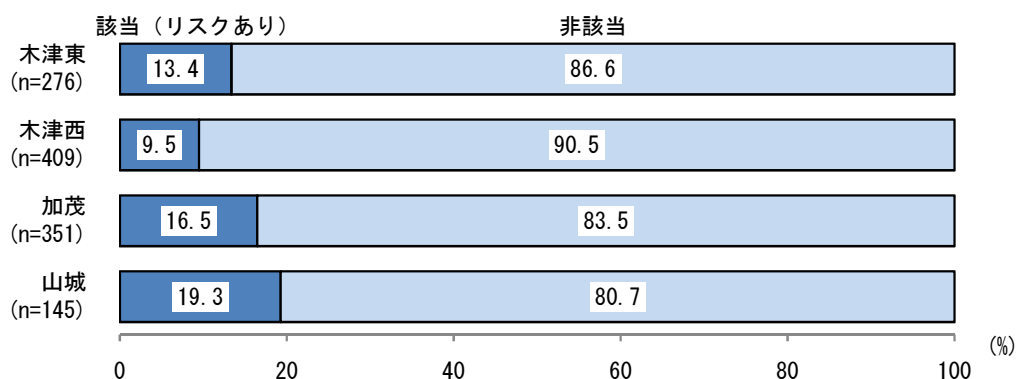
リスク該当者は年齢が上がるにつれて多くなり、85 歳以上では 38.5%となっています。また、居住地区別にみると、リスク該当者は山城地区で 19.3%と、他の地区に比べてやや多く、木津西地区では 9.5%と少なくなっています。



【閉じこもり傾向 年齢別】



【閉じこもり傾向 居住地区別】



④低栄養の傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を『低栄養の傾向』のリスク該当者と判定しました。

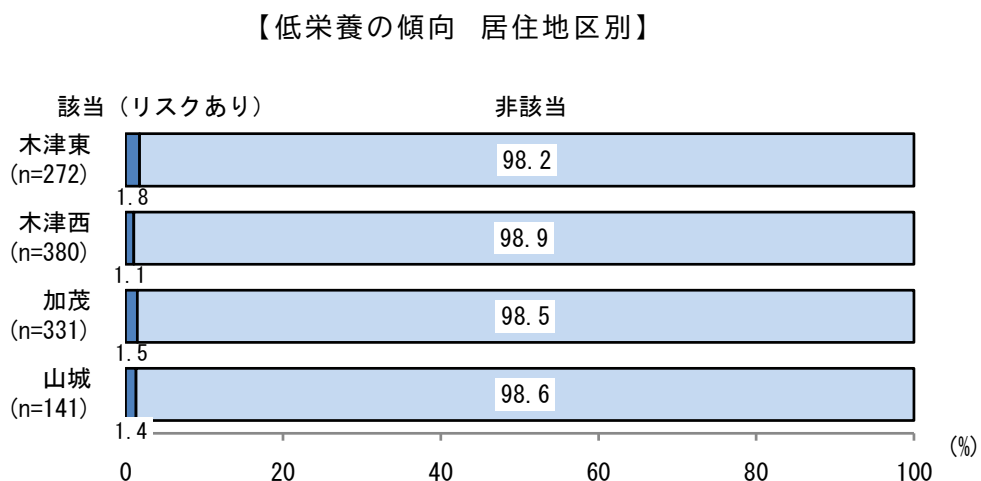
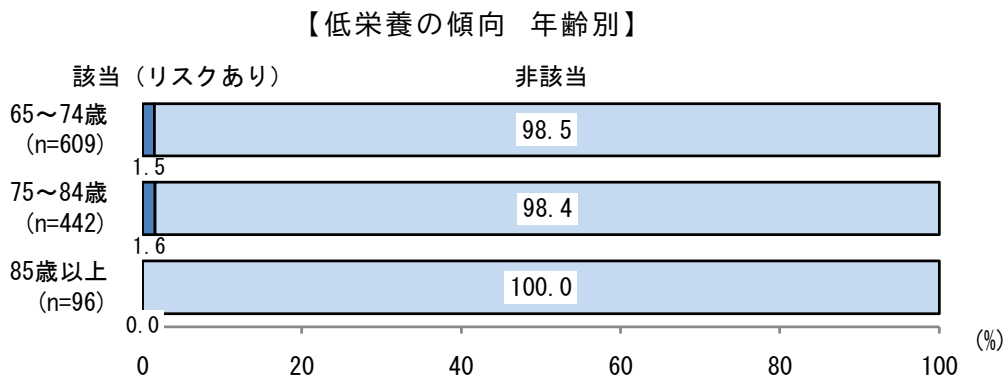
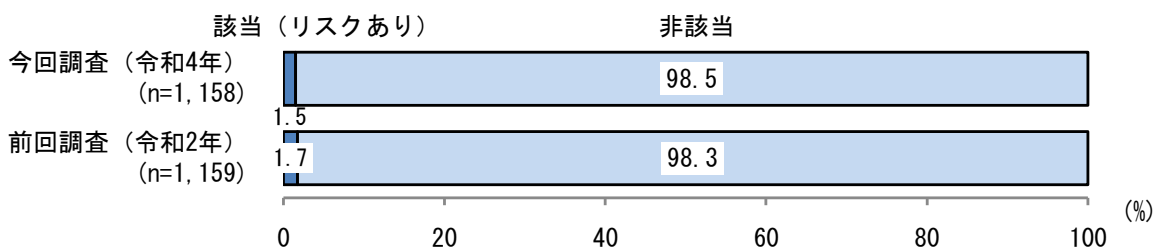
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問 3	(1)	身長・体重を記入ください	B M I 18.5 未満
	(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

【リスク該当状況】

『低栄養の傾向』のリスク該当者は全体で 1.5%と非常に少なく、前回調査に比べて大きな変化はみられません。

リスク該当者は、年齢別にみると 85 歳以上では 0.0%となっています。また、居住地区別にみると、リスク該当者は木津東地区で 1.8%と、他の地区に比べてやや多くなっています。



⑤口腔機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を『口腔機能の低下』のリスク該当者と判定しました。

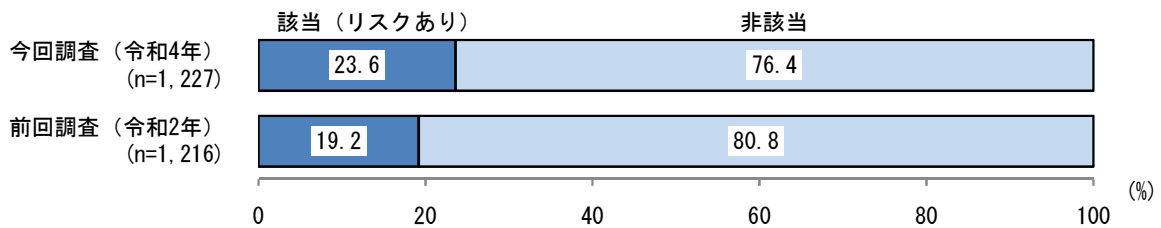
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 3	(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
	(3) お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
	(4) 口の渇きが気になりますか	1. はい

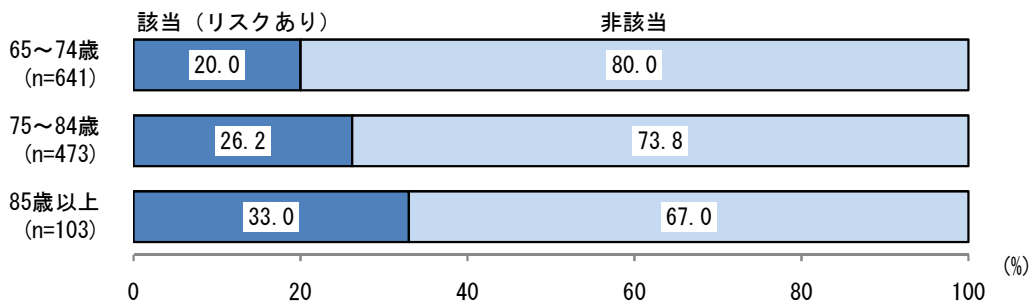
【リスク該当状況】

『口腔機能の低下』のリスク該当者は全体で 23.6%と、前回調査に比べて 4.4 ポイント増加しています。

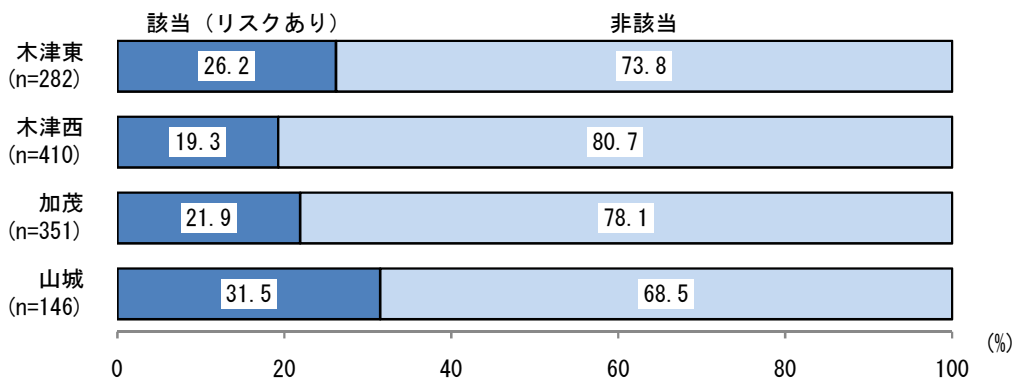
リスク該当者は、年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上では 33.0%となっています。また、居住地区別にみると、リスク該当者は山城地区で 31.5%と他の地区に比べてやや多くなっています。



【口腔機能の低下 年齢別】



【口腔機能の低下 居住地区別】



⑥ 認知機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち1項目以上に該当する人を『認知機能の低下』のリスク該当者と判定しました。

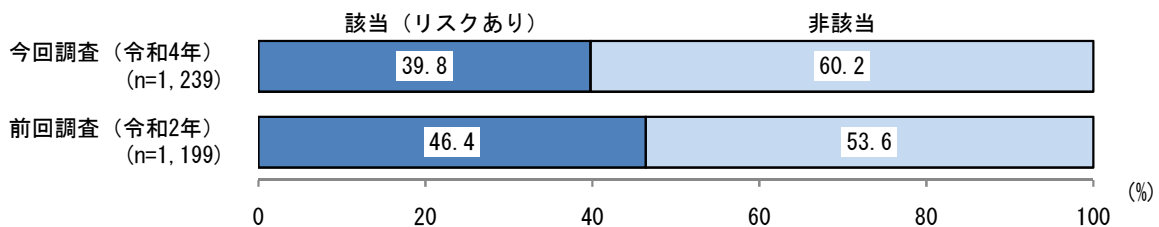
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい

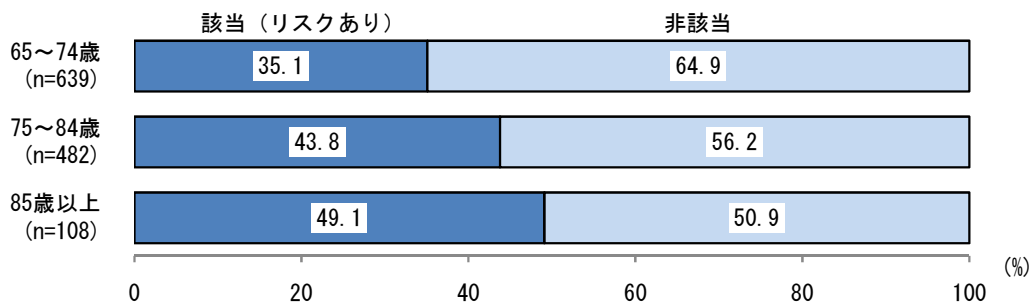
【リスク該当状況】

『認知機能の低下』のリスク該当者は全体で 39.8%と、前回調査に比べて 6.6 ポイント減少しています。

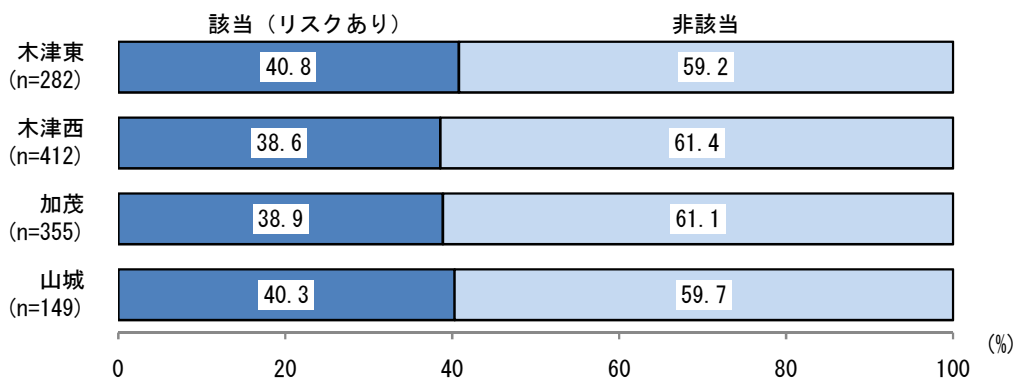
リスク該当者は、年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上では 49.1%と約半数を占めています。居住地区別には大きな差はみられません。



【認知機能の低下 年齢別】



【認知機能の低下 居住地区別】



⑦うつ傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のいずれかに該当する人を『うつ傾向』のリスク該当者と判定しました。

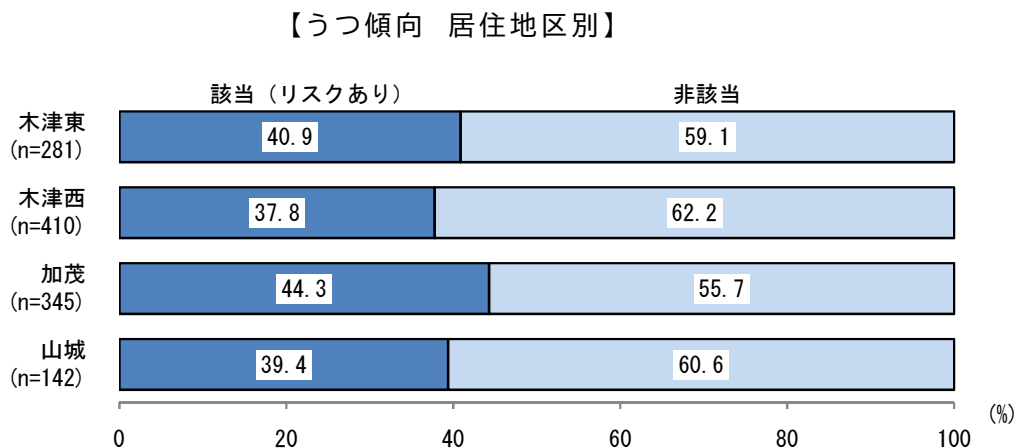
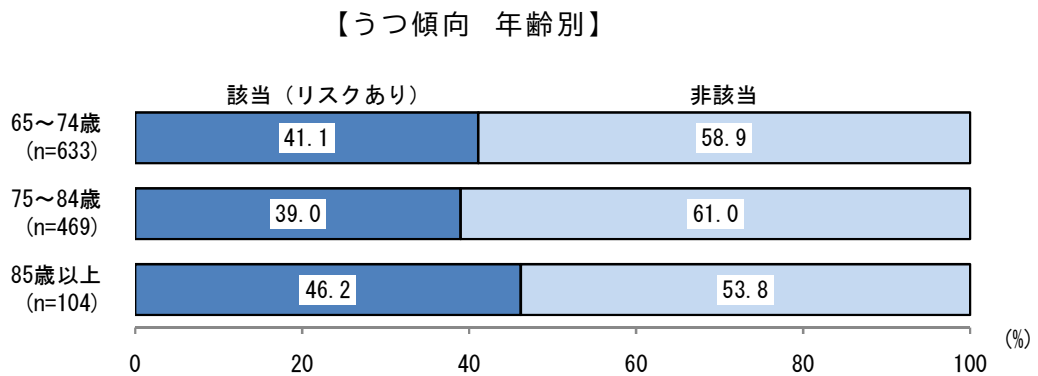
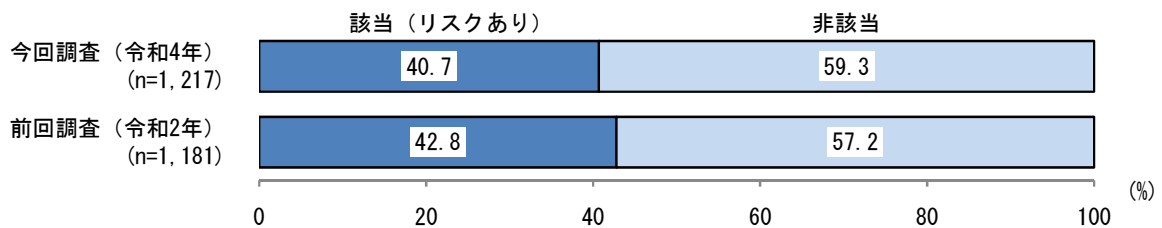
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問7	(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
	(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

【リスク該当状況】

『うつ傾向』のリスク該当者は全体で 40.7%と、前回調査に比べて 2.1 ポイント減少しています。

リスク該当者は、65～74 歳、75～84 歳で約 4 割、85 歳以上では 46.2%とやや多くなっています。また、居住地区別にみると、リスク該当者は加茂地区で 44.3%と、他の地区に比べて多くなっています。



〔2〕日常生活評価

①手段的自立度（IADL）

老研式活動能力指標に準じた設問に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL）が低下している人の状況を把握します。評価は、調査票の以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を“1点”として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」（※4点以下が「能力の低下がみられる人」）と評価しました。

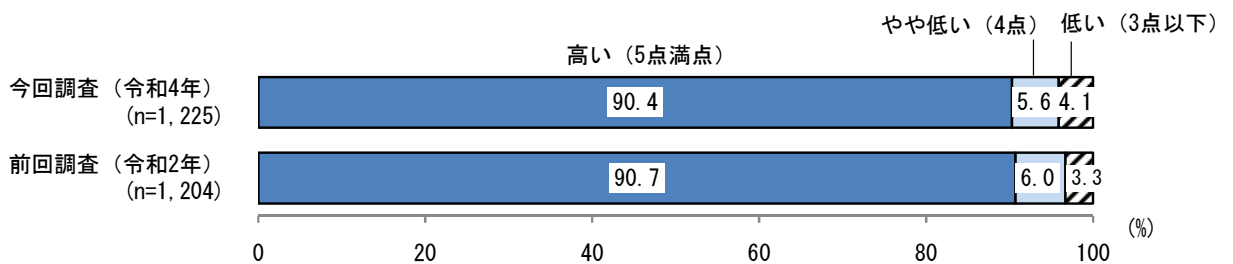
【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 4	(4) バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(6) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）

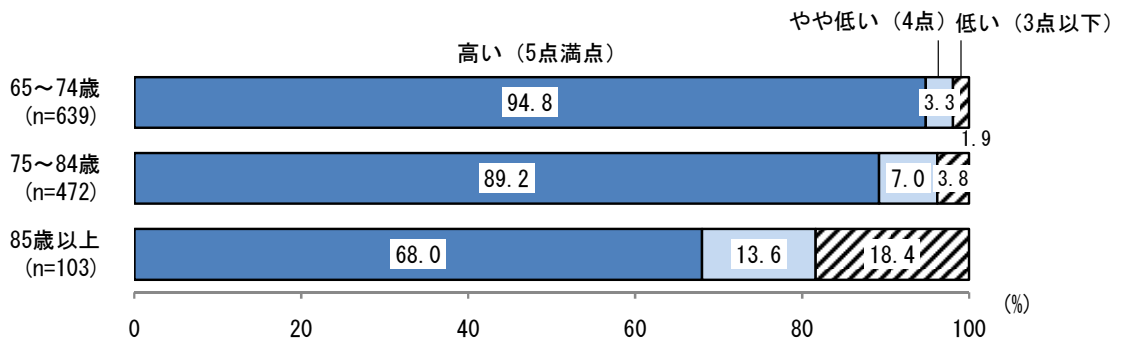
【該当状況】

『手段的自立度（IADL）』の評価結果をみると、「能力の低下がみられる人」（「やや低い」「低い」の計）は全体で9.7%となっています。

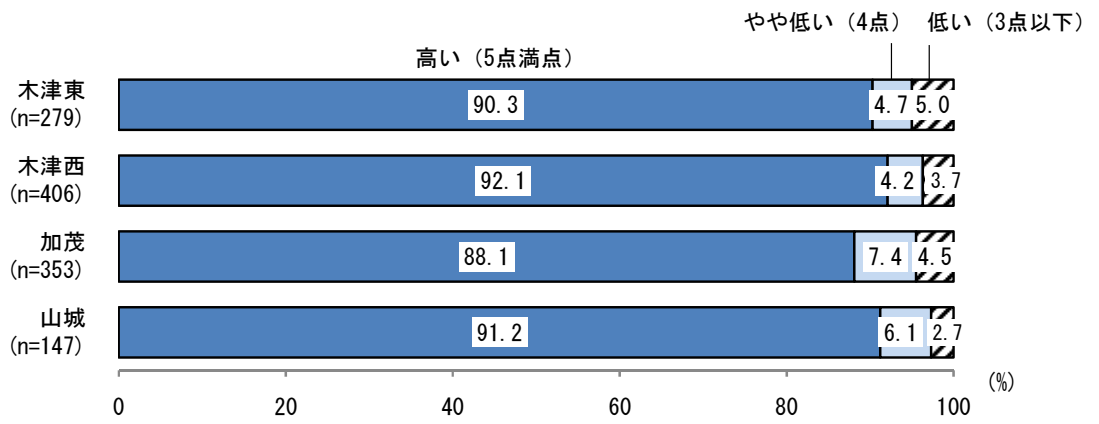
「能力の低下がみられる人」は年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上では32.0%となっています。また、居住地区別にみると、「能力の低下がみられる人」は加茂地区で11.9%と、他の地区に比べてやや多くなっています。



【手段的自立度(IADL) 年齢別】



【手段的自立度(IADL) 居住地区別】



〔3〕社会参加評価

①知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力に関する設問が『知的能動性』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握します。評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」（※3点以下を「能力の低下がみられる人」と評価しました。

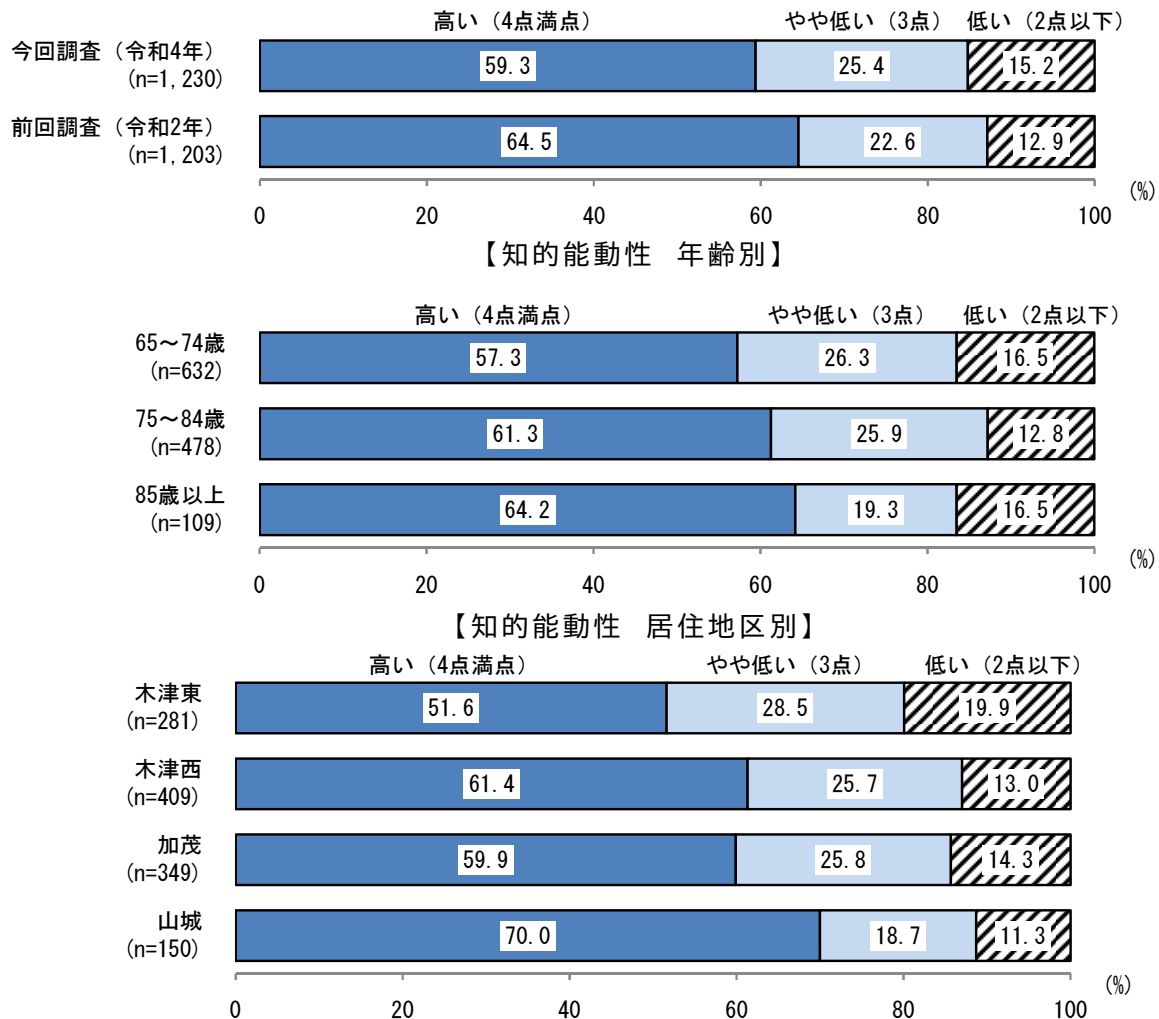
【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 4	(9) 年金などの書類が書けますか	1. はい (1点)
	(10) 新聞を読んでいますか	1. はい (1点)
	(11) 本や雑誌を読んでいますか	1. はい (1点)
	(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい (1点)

【該当状況】

『知的能動性』の評価結果をみると、「能力の低下がみられる人」（「やや低い」「低い」の計）は全体で40.6%と、前回調査に比べて5.1ポイント増加しています。

「能力の低下がみられる人」は、年齢別にみると、65～74歳の前期高齢者で42.8%と、他の年齢層に比べて多く、居住地区別にみると、木津東地区で48.4%と、他の地区に比べて多くなっています。



②社会的役割

老研式活動能力指標には、地域で社会的な役割を果たす能力に関する設問が『社会的役割』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握します。評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」（※3点以下を「能力の低下がみられる人」）と評価しました。

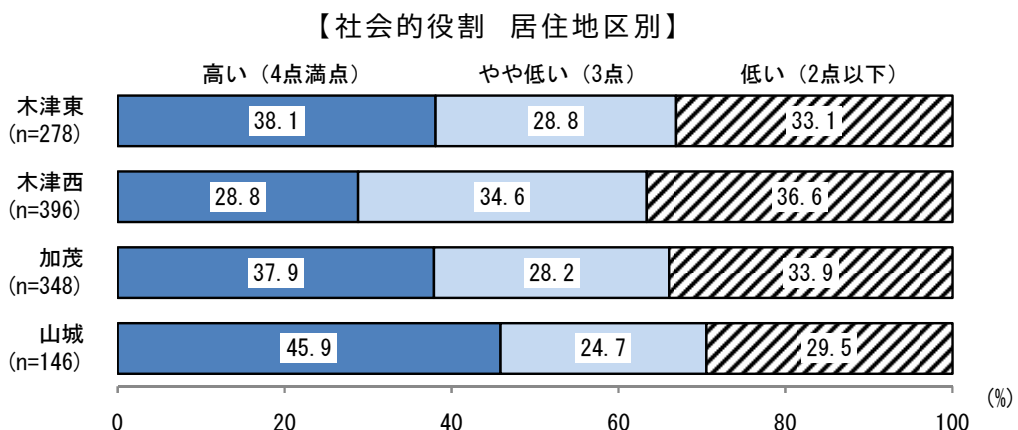
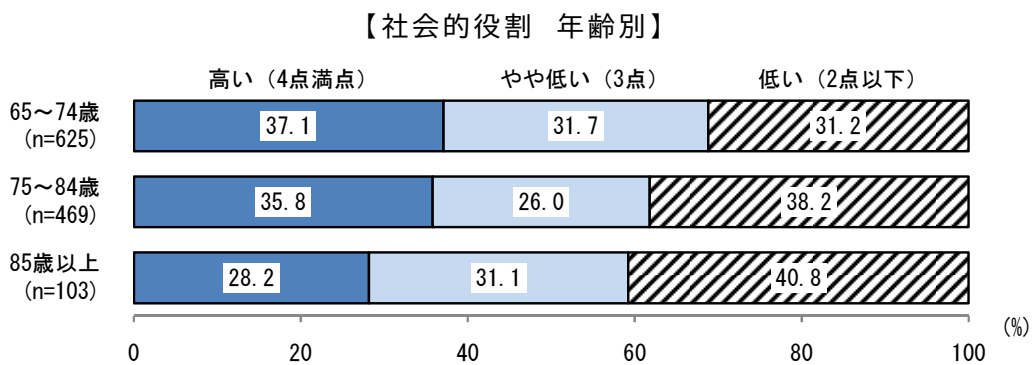
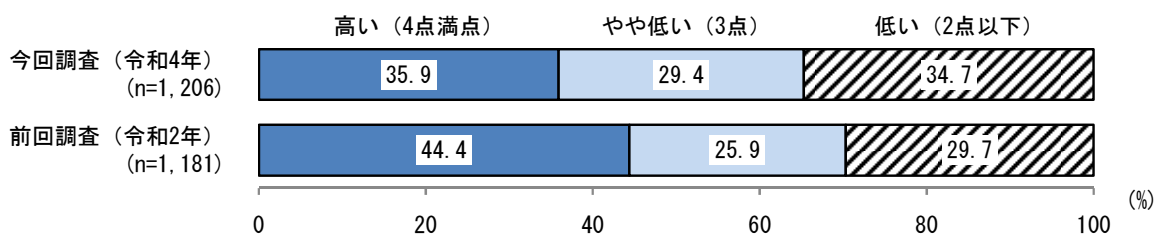
【評価設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 4	(13) 友人の家を訪ねていますか	1. はい (1点)
	(14) 家族や友人の相談にのっていますか	1. はい (1点)
	(15) 病人を見舞うことができますか	1. はい (1点)
	(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい (1点)

【該当状況】

『社会的役割』の評価結果をみると、「能力の低下がみられる人」（「やや低い」「低い」の計）は全体で64.1%と、前回調査に比べて8.5ポイント増加しています。

「能力の低下がみられる人」は、年齢が上がるにつれて多くなり、85歳以上では71.9%となっています。居住地区別にみると、木津西地区で71.2%と、他の地区に比べて多くなっています。

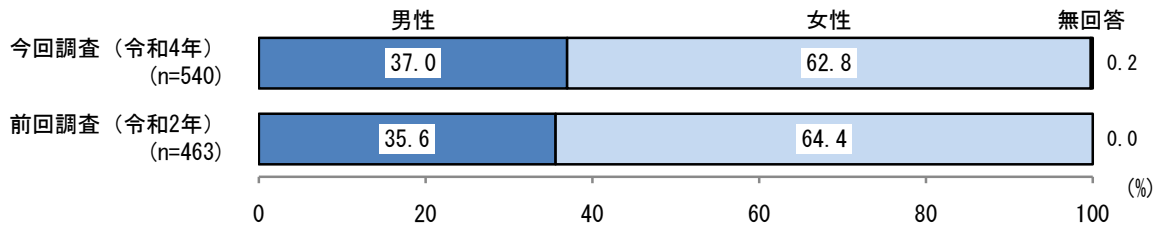


2. 在宅介護実態調査

1 調査対象者属性

〔1〕性別

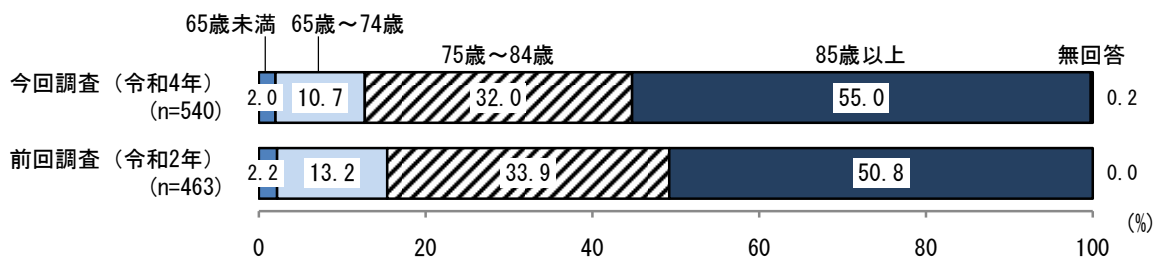
調査対象者の性別は、「男性」が 37.0%、「女性」が 62.8%と女性が多くなっています。



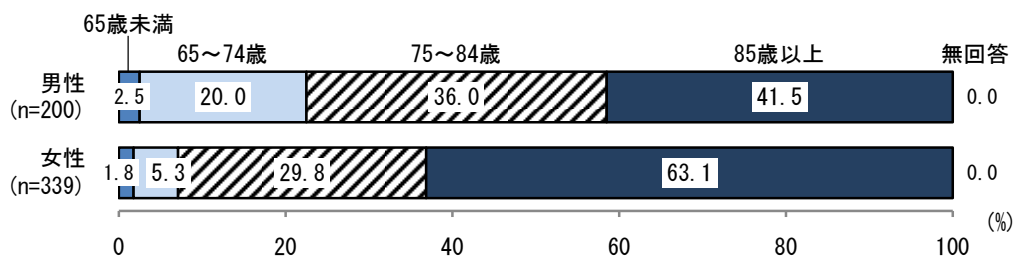
〔2〕年齢

調査対象者の年齢は、「65～74 歳」の前期高齢者が 10.7%、『75 歳以上』の後期高齢者が合計 87.0%となっています。また、後期高齢者のなかでも、「85 歳以上」が 55.0%と、全体の半数以上を占めています。

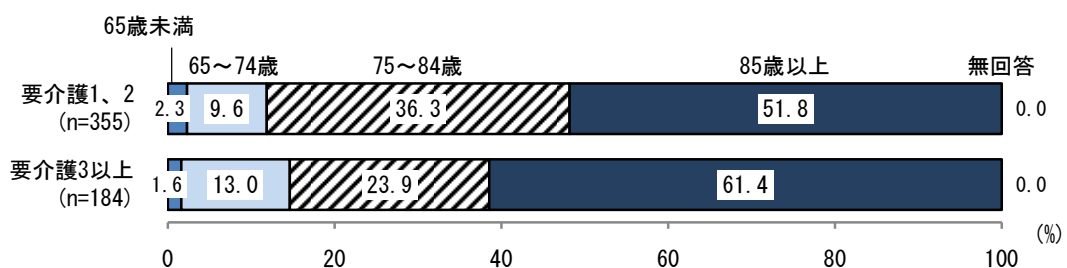
性別にみると、女性では 92.9%が『75 歳以上』の後期高齢者で、「85 歳以上」は 63.1%となっています。要介護度別にみると、要介護度 3 以上では、「85 歳以上」が 61.4%となっています。



【年齢 性別】

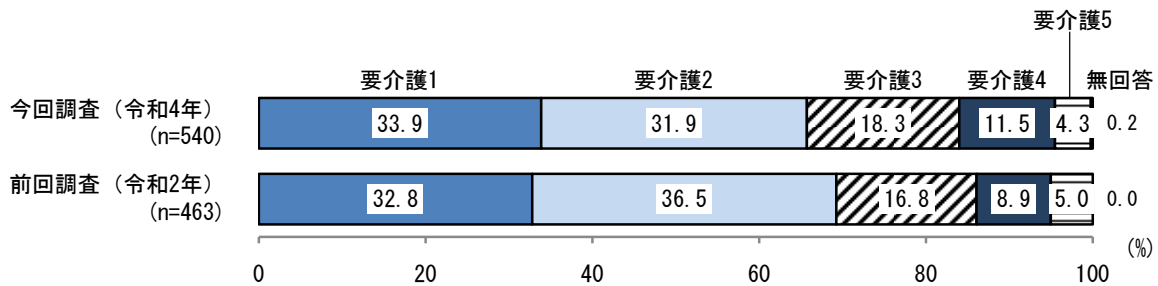


【年齢 要介護度別】



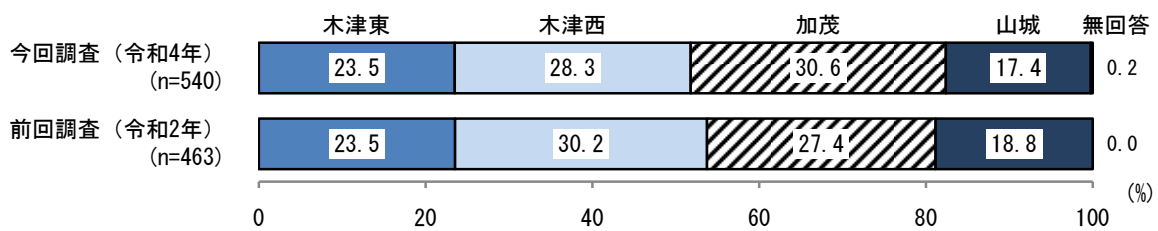
〔3〕要介護度

調査対象者の要介護度は、「要介護1」が33.9%と最も多く、次いで、「要介護2」が31.9%で、『要介護3以上』の方は合計34.1%となっています。前回調査に比べて、『要介護3以上』は3.4ポイント増加しています。



〔4〕居住地域

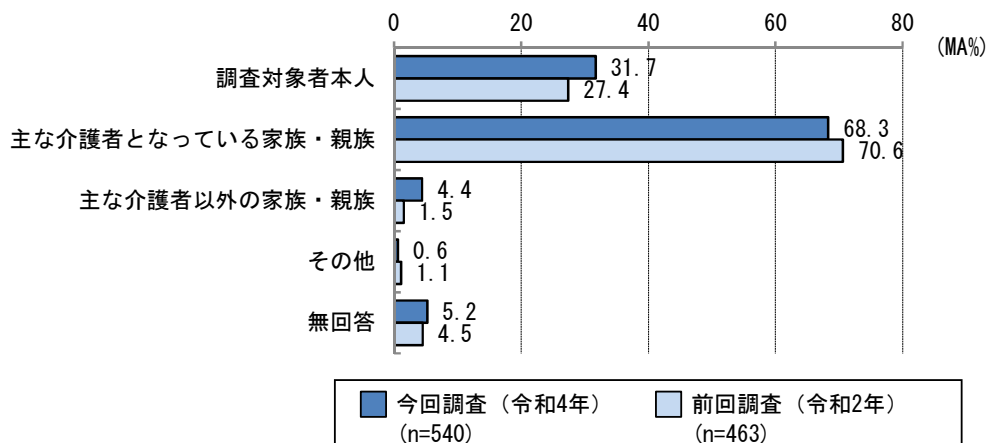
調査対象者の居住地域は、「加茂地区」が30.6%と最も多く、次いで、「木津西地区」が28.3%となっています。



〔5〕調査票の記入者

現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか(いくつでも)

調査票の記入者については、「主な介護者となっている家族・親族」が68.3%、「調査対象者本人」が31.7%、「主な介護者以外の家族・親族」が4.4%となっています。



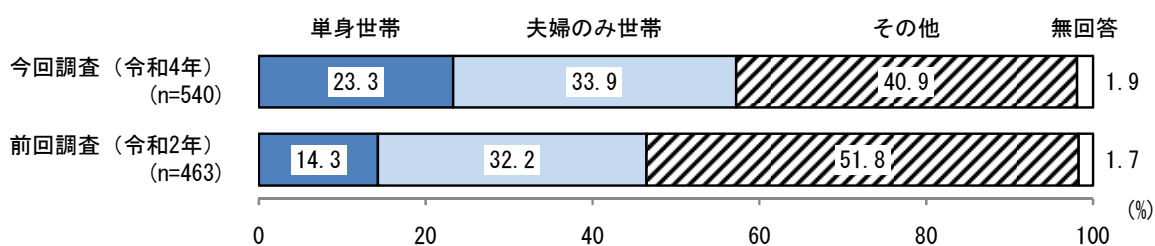
2 調査対象者本人について

〔1〕世帯類型

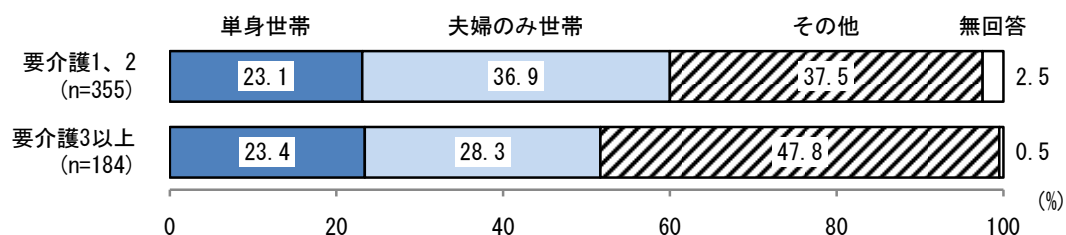
A票 問1 世帯類型について、ご回答ください(○は1つ)

調査対象者の世帯類型は、「単身世帯」が 23.3%、「夫婦のみ世帯」が 33.9%、「その他」が 40.9%となっています。前回調査に比べ、「単身世帯」が 9.0 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護 1、2 では、「夫婦のみ世帯」の割合が 36.9%と多く、要介護 3 以上では、「その他」が 47.8%と多くなっています。



【世帯類型 要介護度別】

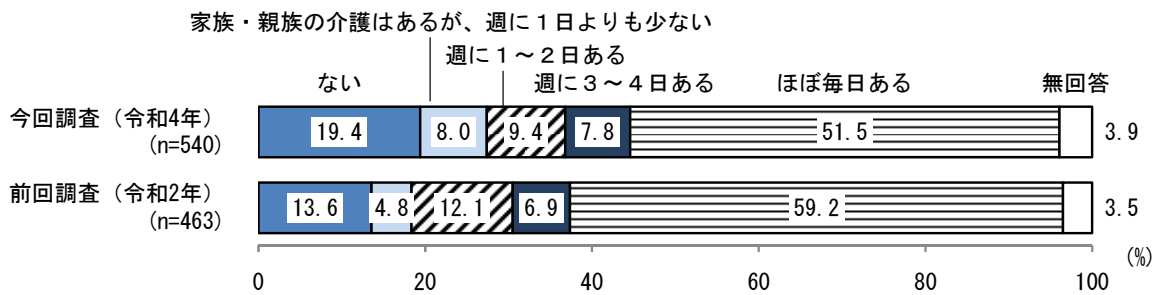


〔2〕家族・親族による介護の頻度

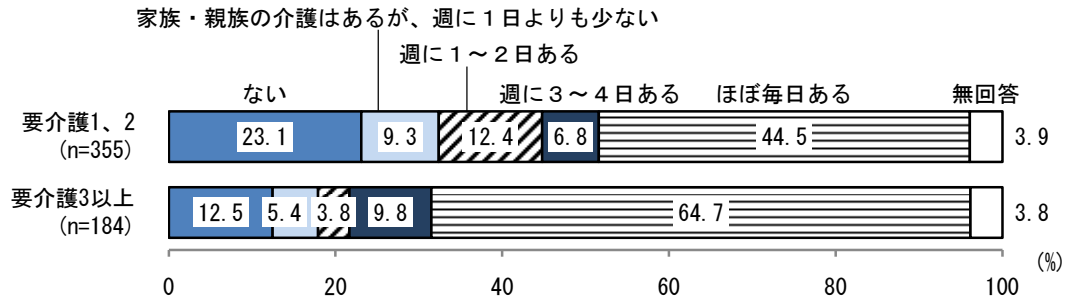
A票 問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか
 (同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(〇は1つ)

家族・親族による介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」が 51.5%と最も多く、週に1日以上の介護を受けている人の割合は合計 68.7%となっています。前回調査に比べて、「ない」が 5.8 ポイント増加し、週に1日以上の介護を受けている人の割合は 9.5 ポイント減少しており、家族・親族による介護が少なくなっている傾向がうかがえます。

要介護度別にみると、週に1回以上の介護を受けている人の割合は要介護 1、2 で 63.7%、要介護 3 以上で 78.3%となっており、要介護 3 以上では「ほぼ毎日ある」が 64.7%と多くなっています。



【家族・親族による介護の頻度 要介護度別】



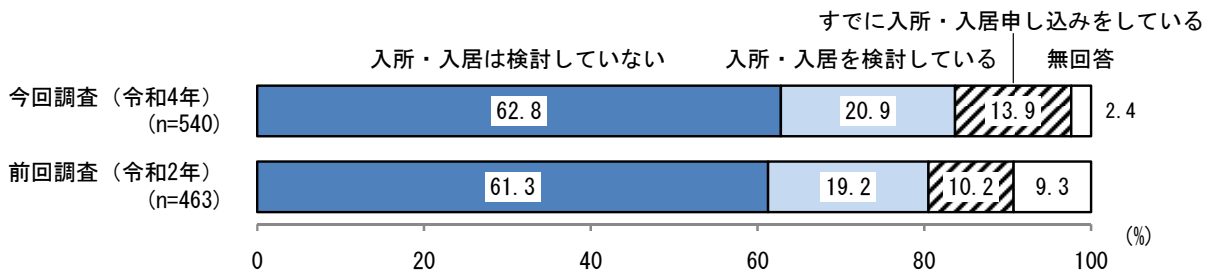
〔3〕施設等への入所意向

A票 問3 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください
(○は1つ)

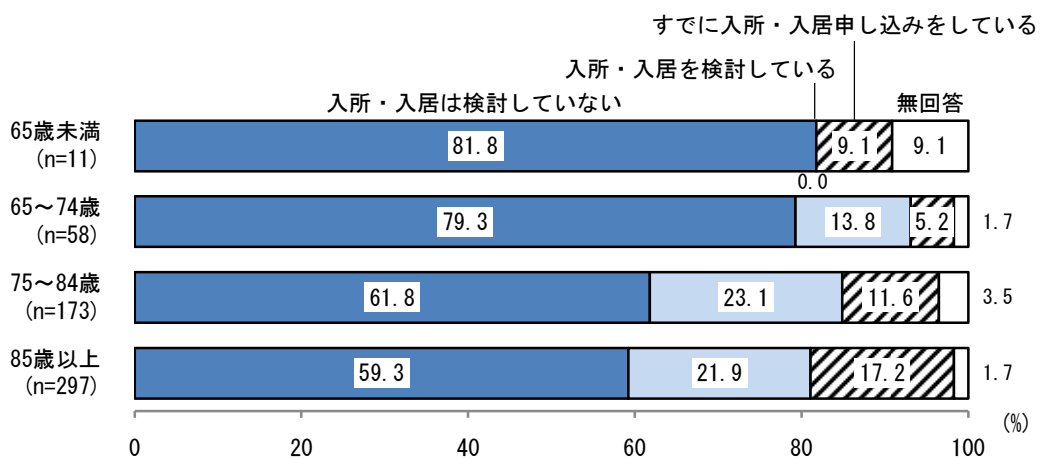
※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

施設等への入所の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が 62.8%と最も多く、「入所・入居を検討している」は 20.9%、「すでに申し込みをしている」は 13.9%となっています。前回調査に比べて、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 3.7 ポイント増加しています。

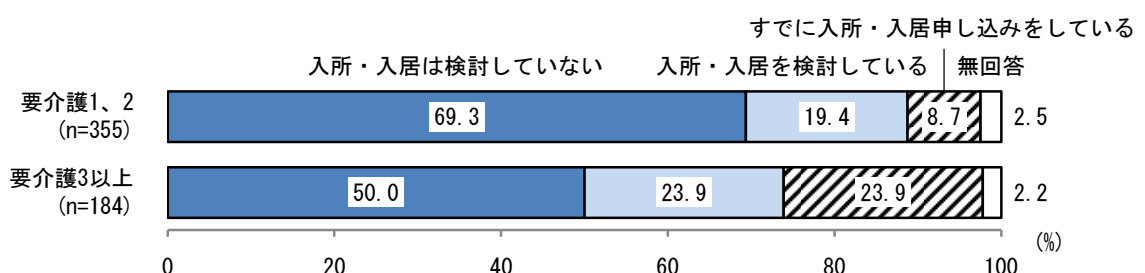
年齢別にみると、「入所・入居を検討している」、「すでに入所・入居申し込みをしている」は、75 歳以上で増加しており、要介護度別にみると、要介護 3 以上で「入所・入居を検討している」、「すでに入所・入居申し込みをしている」ともに 23.9%と多くなっています。



【入所・入居の検討状況 年齢別】



【入所・入居の検討状況 要介護度別】

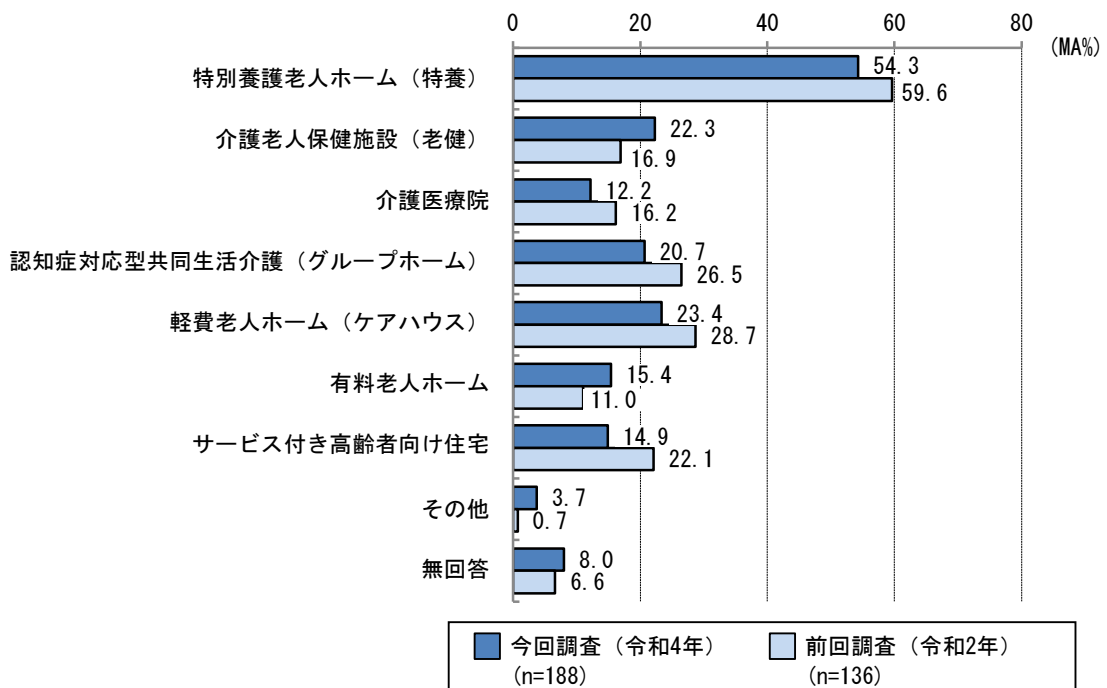


【問3で「2.」「3.」(施設入所を希望している)と回答した方】

A票 問3-1 どのような施設を希望しますか(いくつでも)

入所を希望する施設については、「特別養護老人ホーム(特養)」が54.3%と最も多く、次いで、「軽費老人ホーム(ケアハウス)」が23.4%、「介護老人保健施設(老健)」が22.3%となっています。前回調査に比べて、「介護老人保健施設(老健)」で5.4ポイント、「有料老人ホーム」で4.4ポイント増加している以外は、「サービス付き高齢者向け住宅」が7.2ポイント減少しているをはじめ、他の施設については減少しています。

要介護度別にみると、要介護1、2、要介護3以上ともに「特別養護老人ホーム(特養)」が最も多くなっていますが、要介護3以上では61.4%とより多くなっています。一方、要介護1、2では、「軽費老人ホーム(ケアハウス)」や「介護老人保健施設(老健)」への希望が多くなっています。



【入所・入居を希望する施設 要介護度別】

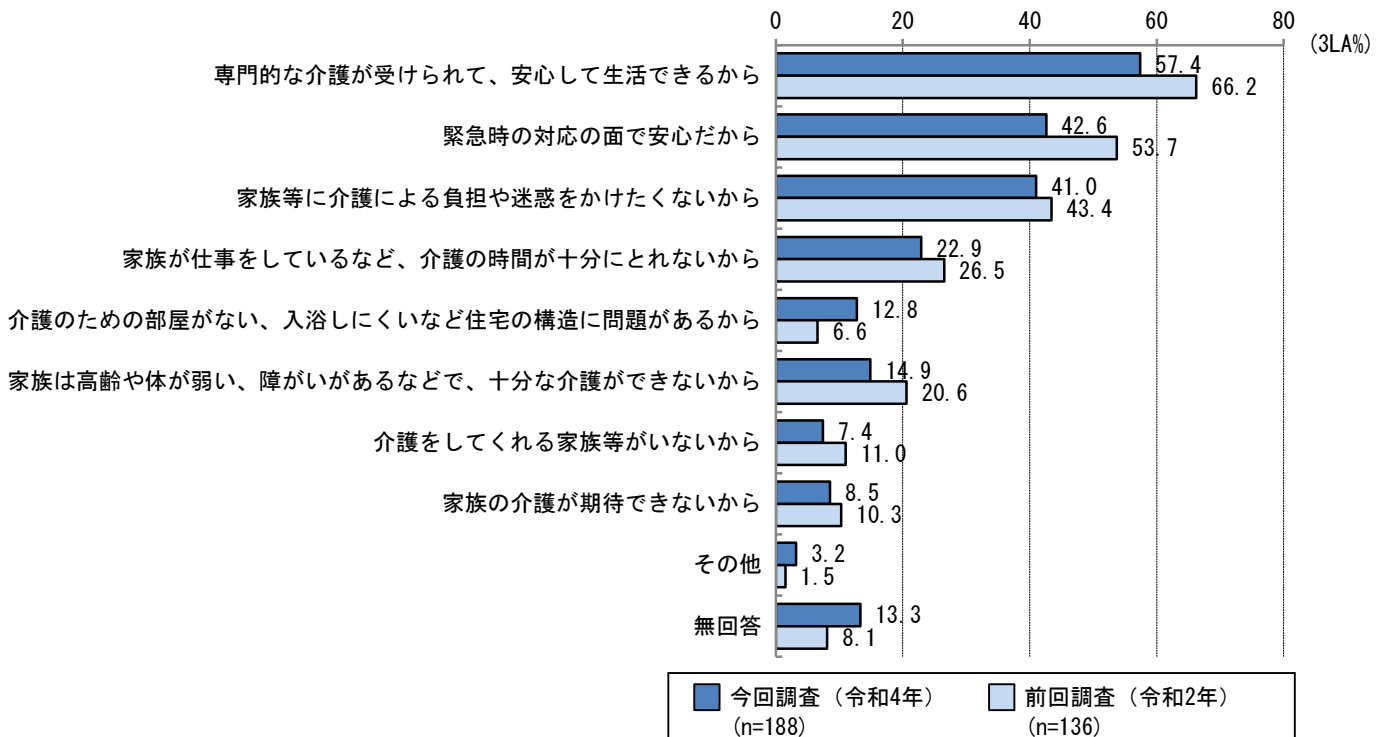
		n	特別養護老人ホーム (特養)	介護老人保健施設 (老健)	介護医療院	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	軽費老人ホーム (ケアハウス)	有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	その他	無回答
全体		188	102	42	23	39	44	29	28	7	15
要介護度別	要介護1、2	100	54.3	22.3	12.2	20.7	23.4	15.4	14.9	3.7	8.0
		100	48	27	14	23	34	20	13	6	9
	要介護3以上	88	48.0	27.0	14.0	23.0	34.0	20.0	13.0	6.0	9.0
		100	54	15	9	16	10	9	15	1	6
		100	61.4	17.0	10.2	18.2	11.4	10.2	17.0	1.1	6.8

【問3で「2.」「3.」(施設入所を希望している)と回答した方】

A票 問3-2 あなたが施設での介護を希望される主な理由は、次のうちどれですか (〇は3つまで)

施設入所を希望する理由については、「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるから」が 57.4%と最も多く、次いで、「緊急時の対応の面で安心だから」が 42.6%、「家族等に介護による負担や迷惑をかけたくないから」が 41.0%となっています。前回調査に比べて、「介護のための部屋がない、入浴しにくいなど住宅の構造に問題があるから」が 6.2 ポイント増加している以外は、「緊急時の対応の面で安心だから」が 11.1 ポイント減少しているをはじめ、その他の項目についても減少しています。

要介護度別にみると、要介護 1, 2、要介護 3 以上ともに、上位 3 項目は同じですが、要介護 1, 2 では、「家族等に介護による負担や迷惑をかけたくないから」が要介護 3 以上に比べて 12.9 ポイント多くなっています。



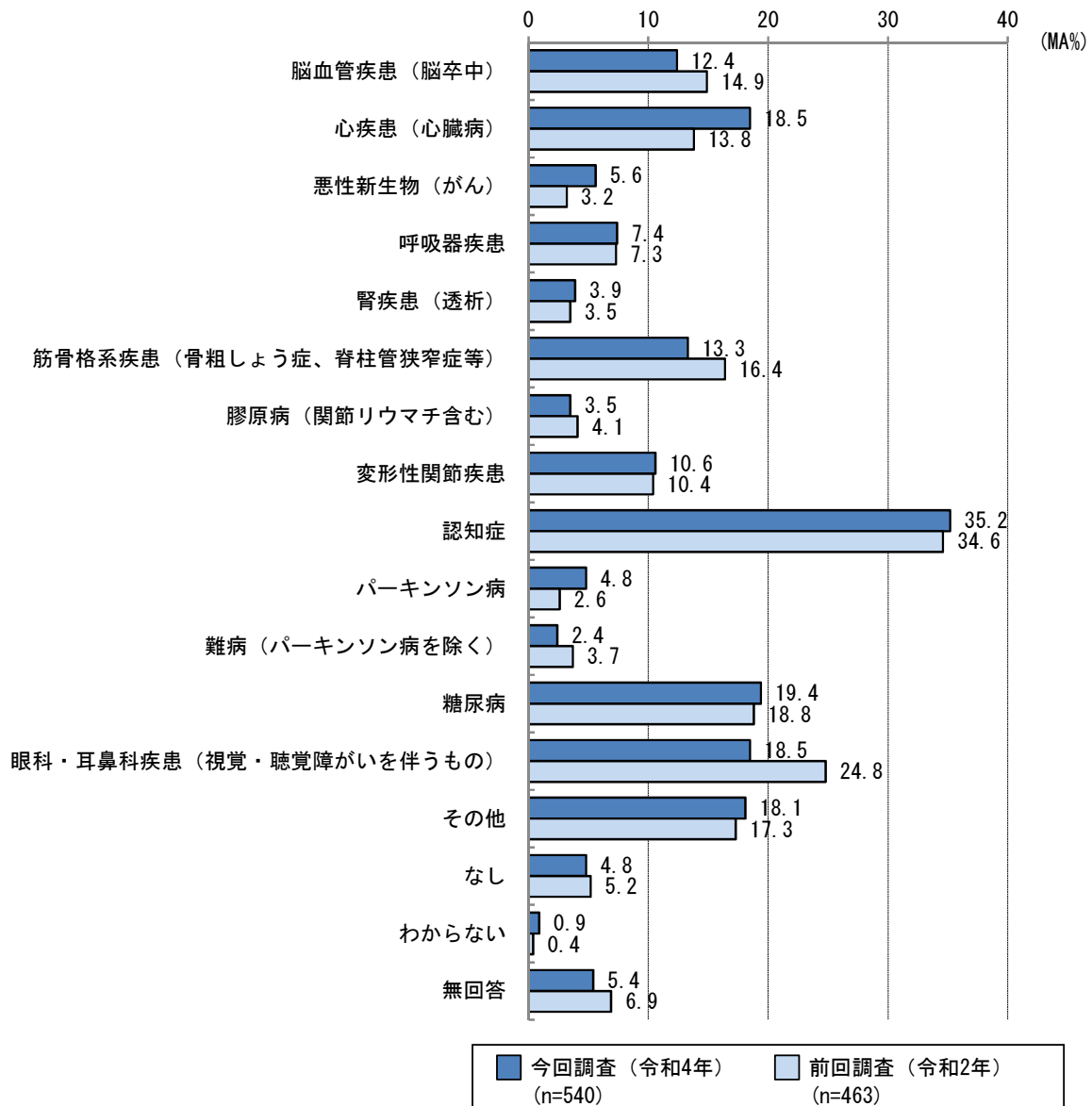
【施設での介護を希望する理由 要介護度別】

		n	らて専、門 心的な介 護生が活 受けるか	か緊 急時 の対 応の 面 で 安 心 だ	迷家 惑族 を等 に介 護 に よ る か 負 担 や	れど家 な、族 い介 か護 の事 時を 間し がて 十 分 に な と	造入介 に浴護 問のた 題がく めあ いの るな 部 屋 が 住 が な い 構	介が家 護いは がが であ 高 さ な な や い ど 体 が 弱 い 分 、 な 障	い介 な護 いを か ら て く れ る 家 族 等 が	か家 ら族 の 介 護 が 期 待 で き な い	そ の 他	無 回 答
全体	188	108	80	77	43	24	28	14	16	6	25	
	100	57.4	42.6	41.0	22.9	12.8	14.9	7.4	8.5	3.2	13.3	
要介護1、2	100	54	43	47	21	12	16	9	11	2	13	
	100	54.0	43.0	47.0	21.0	12.0	16.0	9.0	11.0	2.0	13.0	
要介護3以上	88	54	37	30	22	12	12	5	5	4	12	
	100	61.4	42.0	34.1	25.0	13.6	13.6	5.7	5.7	4.5	13.6	

〔4〕抱えている傷病

A票 問4 ご本人(調査対象者)が現在抱えている傷病について、ご回答ください
(いくつでも)

調査対象者本人が抱えている傷病は、「認知症」が35.2%と最も多く、次いで、「糖尿病」が19.4%、「心疾患(心臓病)」が18.5%となっています。前回調査に比べて、「心疾患(心臓病)」が4.7ポイント増加しています。

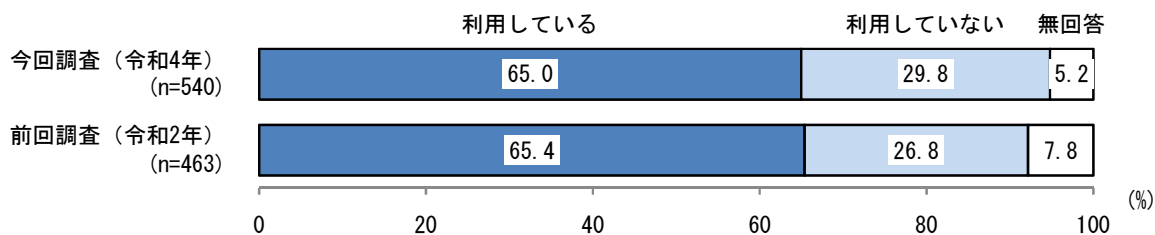


〔5〕介護保険サービスの利用状況

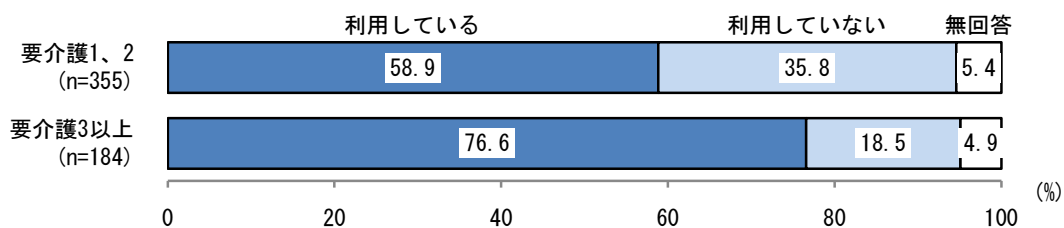
A票 問5 令和4年11月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)
介護保険サービスを利用していますか(○は1つ)

令和4年11月の介護保険サービスの利用については、「利用している」が65.0%、「利用していない」が29.8%となっています。

要介護度別にみると、「利用している」は要介護1、2で58.9%、要介護3以上では76.6%となっています。



【介護保険サービスの利用状況 要介護度別】

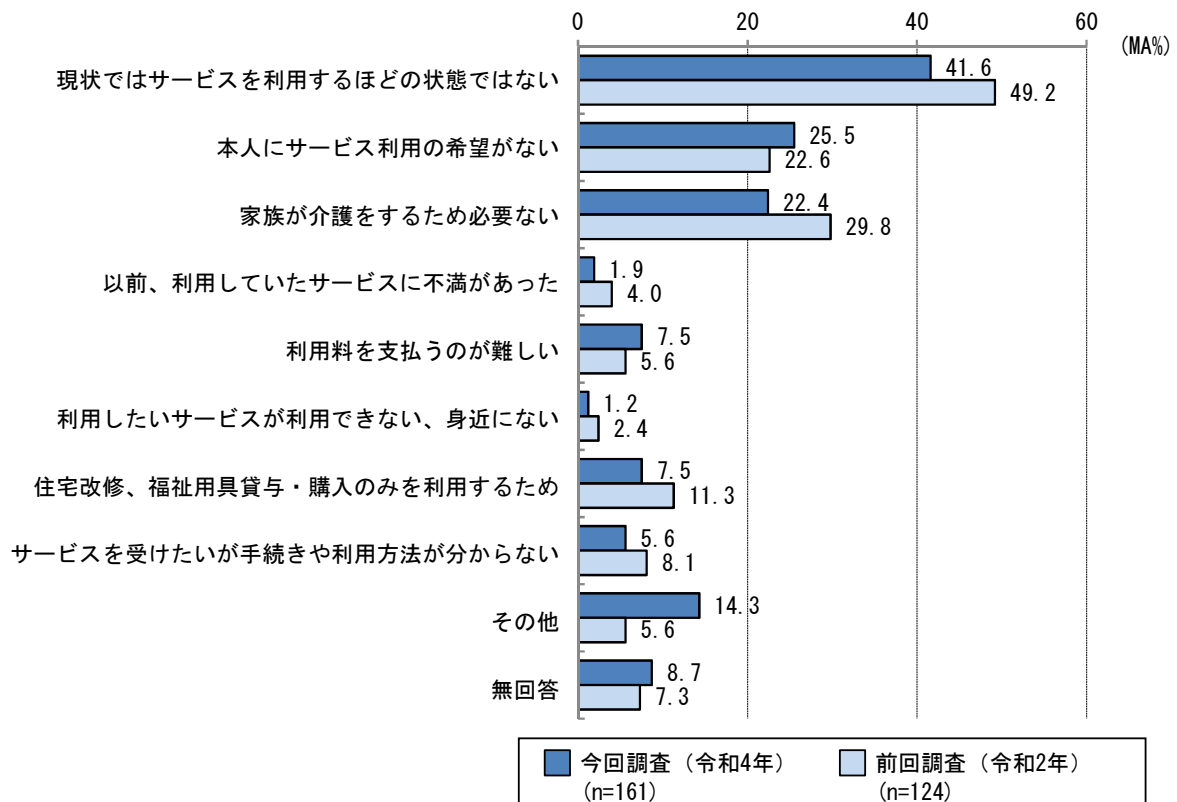


【問5で「2. 利用していない」と回答した方】

A票 問5-1 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(いくつでも)

介護保険サービスを利用していない理由については、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が 41.6%と最も多く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が 25.5%、「家族が介護をするため必要ない」が 22.4%となっています。前回調査に比べて、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が 7.6 ポイント、「家族が介護をするため必要ない」が 7.4 ポイント減少しています。

要介護度別にみると、要介護 1、2 では「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」、要介護 3 以上では「家族が介護をするため必要ない」が最も多くなっています。



II. 市民向け調査結果 2. 在宅介護実態調査

【介護保険サービスを利用していない理由 要介護度別】

		(MA%)										
n		現状ではサービスを利用する希望はない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用しない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きが分からない	その他	無回答	
全体	161	67	41	36	3	12	2	12	9	23	14	
	100	41.6	25.5	22.4	1.9	7.5	1.2	7.5	5.6	14.3	8.7	
要介護度別	要介護1、2	61	33	27	2	7	1	10	6	11	12	
	100	48.0	26.0	21.3	1.6	5.5	0.8	7.9	4.7	8.7	9.4	
要介護3以上	34	6	8	9	1	5	1	2	3	12	2	
	100	17.6	23.5	26.5	2.9	14.7	2.9	5.9	8.8	35.3	5.9	

【「その他」の回答内容】

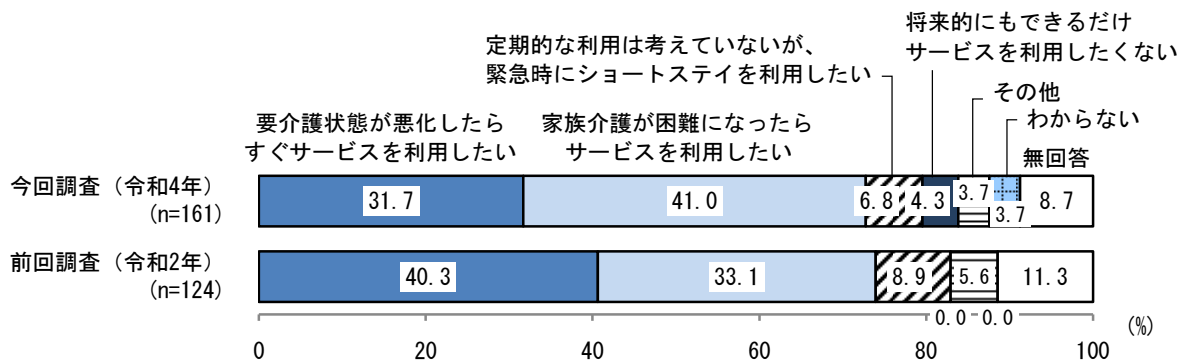
内 容	件数
入院中、施設に入居しているため	10件
数年前に利用した、12月以降に利用した	7件
コロナ感染が怖い、緊急時の不安	2件
気力がない、サービス内容がわからない	2件
医療保険でサービス利用をしている	1件
家の中を他人に見られたくない	1件
節約したい	1件
令和4年以前に住宅改修をしている	1件

【問5で「2. 利用していない」と回答した方】

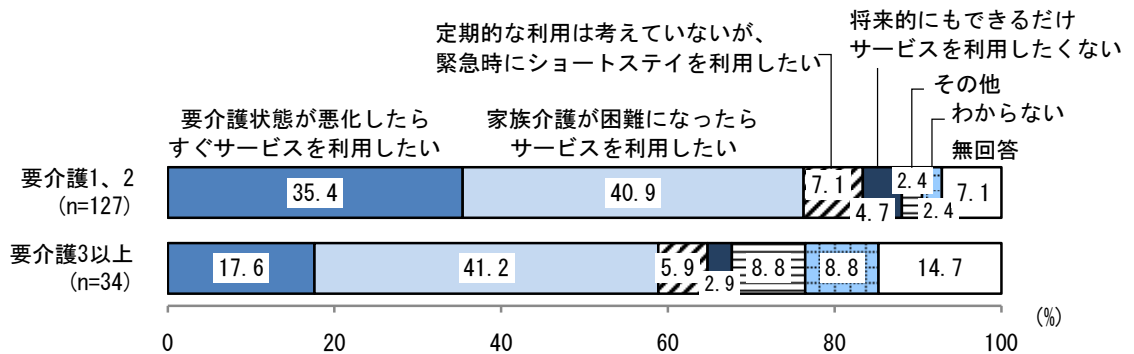
A票 問5-2 今後の介護保険サービスの利用について、どのようにお考えですか
(○は1つ)

今後の介護保険サービスの利用意向については、「家族介護が困難になったらサービスを利用したい」が41.0%と最も多く、次いで、「要介護状態が悪化したらすぐサービスを利用したい」が31.7%となっています。前回調査に比べて、「家族介護が困難になったらサービスを利用したい」が7.9ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護1、2、要介護3以上ともに、「家族介護が困難になったらサービスを利用したい」が4割強と最も多くなっています。



【介護保険サービスの今後の利用意向 要介護度別】

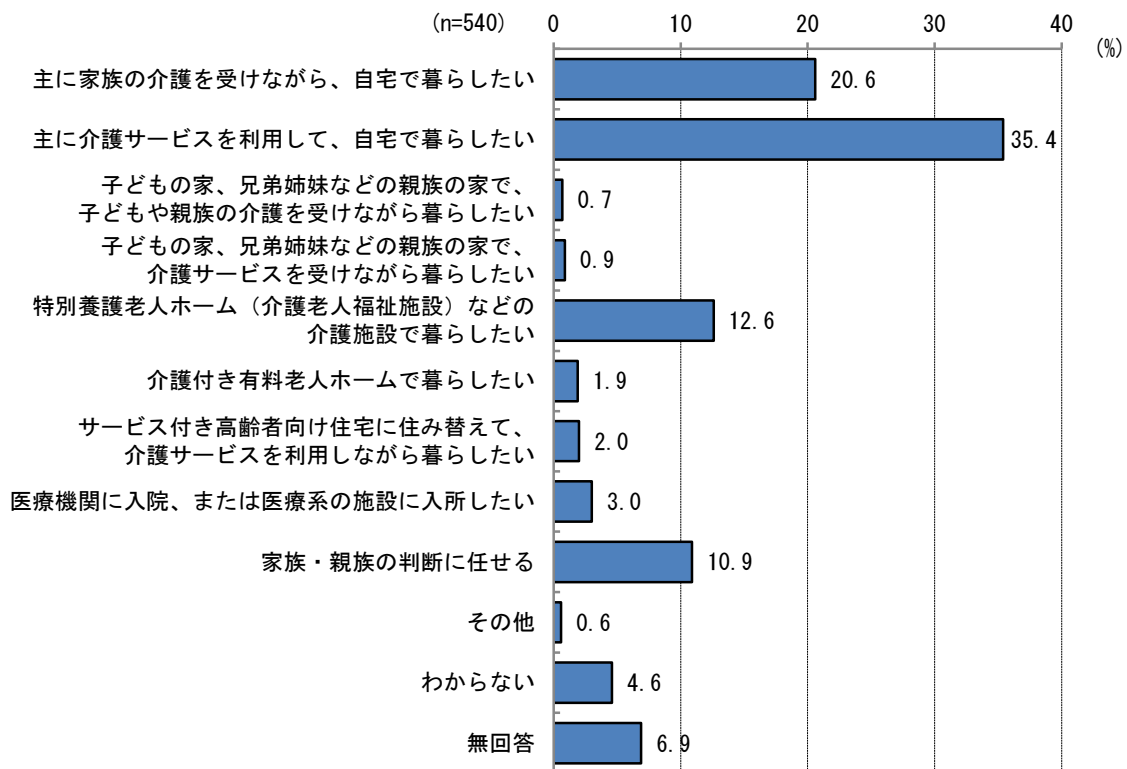


[6]どこで介護を受けたいか

A票 問6 今後、日常生活に不安を感じたり、要介護状態が進んだ場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。(○は1つ)

どこで介護を受けたいかについては、「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が35.4%と最も多く、次いで、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が20.6%となっています。

要介護度別にみると、要介護1、2、要介護3以上ともに「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が最も多くなっています。



※前回調査とは選択肢が異なるため、比較はしていない。

【どこで介護を受けたいか 要介護度別】

	n	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい (%)	主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい (%)	子どもの家、兄弟姉妹などの親族の家で、子どもや親族の介護を受けながら暮らしたい (%)	子どもの家、兄弟姉妹などの親族の家で、介護サービスを受けながら暮らしたい (%)	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）などの介護施設で暮らしたい (%)	介護付き有料老人ホームで暮らしたい (%)	サービス付き高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用しながら暮らしたい (%)	医療機関に入院、または医療系の施設に入所したい (%)	家族・親族の判断に任せる (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	540	111	191	4	5	68	10	11	16	59	3	25	37
	100	20.6	35.4	0.7	0.9	12.6	1.9	2.0	3.0	10.9	0.6	4.6	6.9
要介護1、2	355	69	138	2	3	45	6	7	9	38	0	12	26
	100	19.4	38.9	0.6	0.8	12.7	1.7	2.0	2.5	10.7	0	3.4	7.3
要介護3以上	184	41	53	2	2	23	4	4	7	21	3	13	11
	100	22.3	28.8	1.1	1.1	12.5	2.2	2.2	3.8	11.4	1.6	7.1	6.0

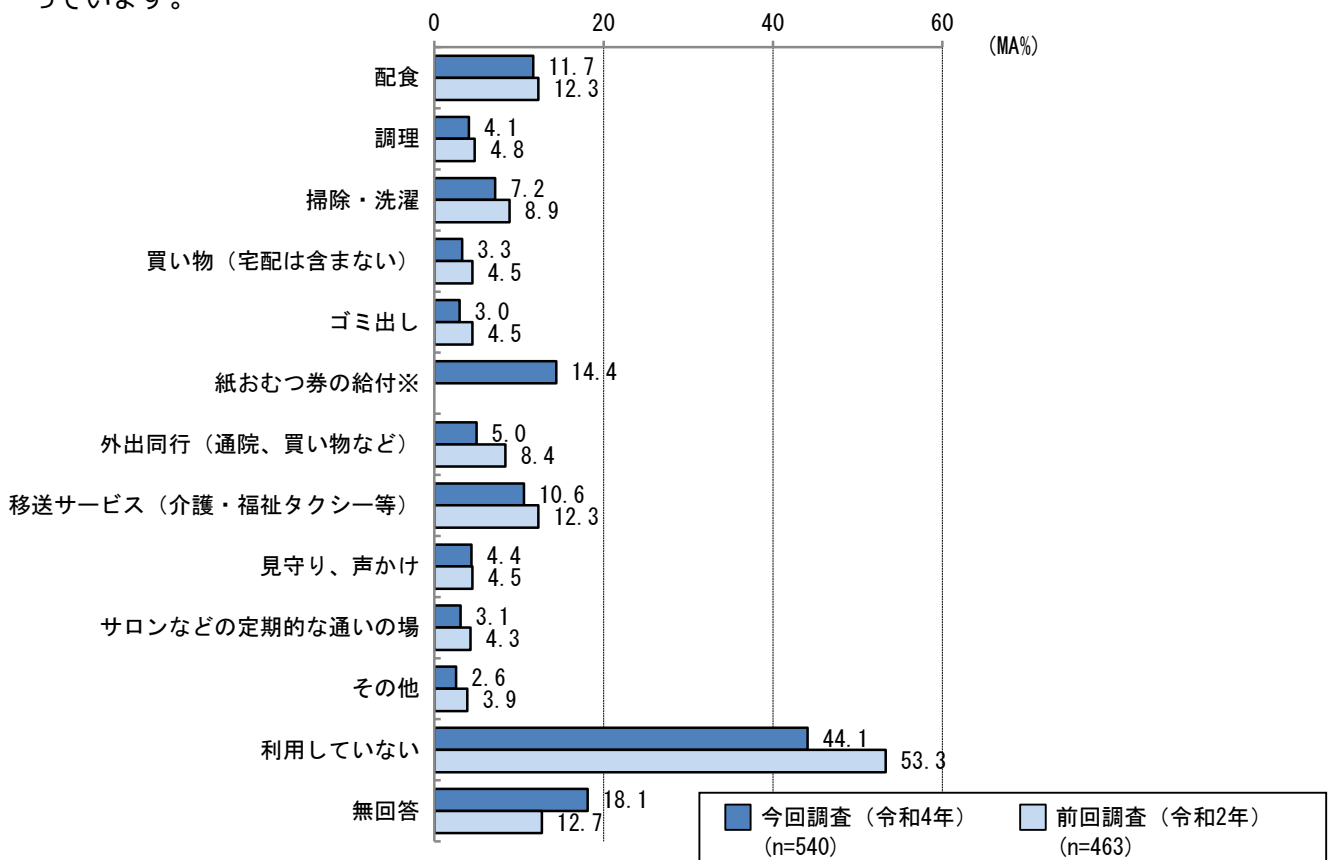
[7]介護保険以外の支援・サービスの利用状況

A票 問7 「介護保険サービス以外」で、現在利用している支援・サービスについて、ご回答ください(いくつでも)

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

介護保険以外の支援・サービスについては、「利用していない」が 44.1%と半数近くを占めています。利用しているサービスでは、「紙おむつ券の給付」が 14.4%と最も多く、次いで、「配食」が 11.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 10.6%となっています。

性別にみると、男性は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、女性は「紙おむつ券の給付」が最も多く、また、女性は「配食」が男性に比べて多くなっています。要介護度別にみると、要介護 1, 2 では「配食」、要介護 3 以上では「紙おむつ券の給付」が 39.7%と最も多くなっています。



※前回調査では、選択肢なし

【介護保険以外の支援・サービスの利用状況 要介護度別】

		n	配食	調理	掃除・洗濯	は買い物(宅配)	ゴミ出し	給紙おむつ券の	ど院外()、出買同行物()な通	タ()移()介()送()サ()社()	け見守り、声かけ	の定期通いの場	サロンの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体		540	63	22	39	18	16	78	27	57	24	17	14	238	98	
		100	11.7	4.1	7.2	3.3	3.0	14.4	5.0	10.6	4.4	3.1	2.6	44.1	18.1	
性別	男性	200	16	8	19	7	6	21	6	22	8	4	5	90	46	
	女性	339	8.0	4.0	9.5	3.5	3.0	10.5	3.0	11.0	4.0	2.0	2.5	45.0	23.0	
要介護度別	要介護1,2	355	46	17	29	14	11	5	23	32	15	13	10	176	72	
		100	13.0	4.8	8.2	3.9	3.1	1.4	6.5	9.0	4.2	3.7	2.8	49.6	20.3	
	要介護3以上	184	17	5	10	4	5	73	4	25	9	4	4	62	25	
		100	9.2	2.7	5.4	2.2	2.7	39.7	2.2	13.6	4.9	2.2	2.2	33.7	13.6	

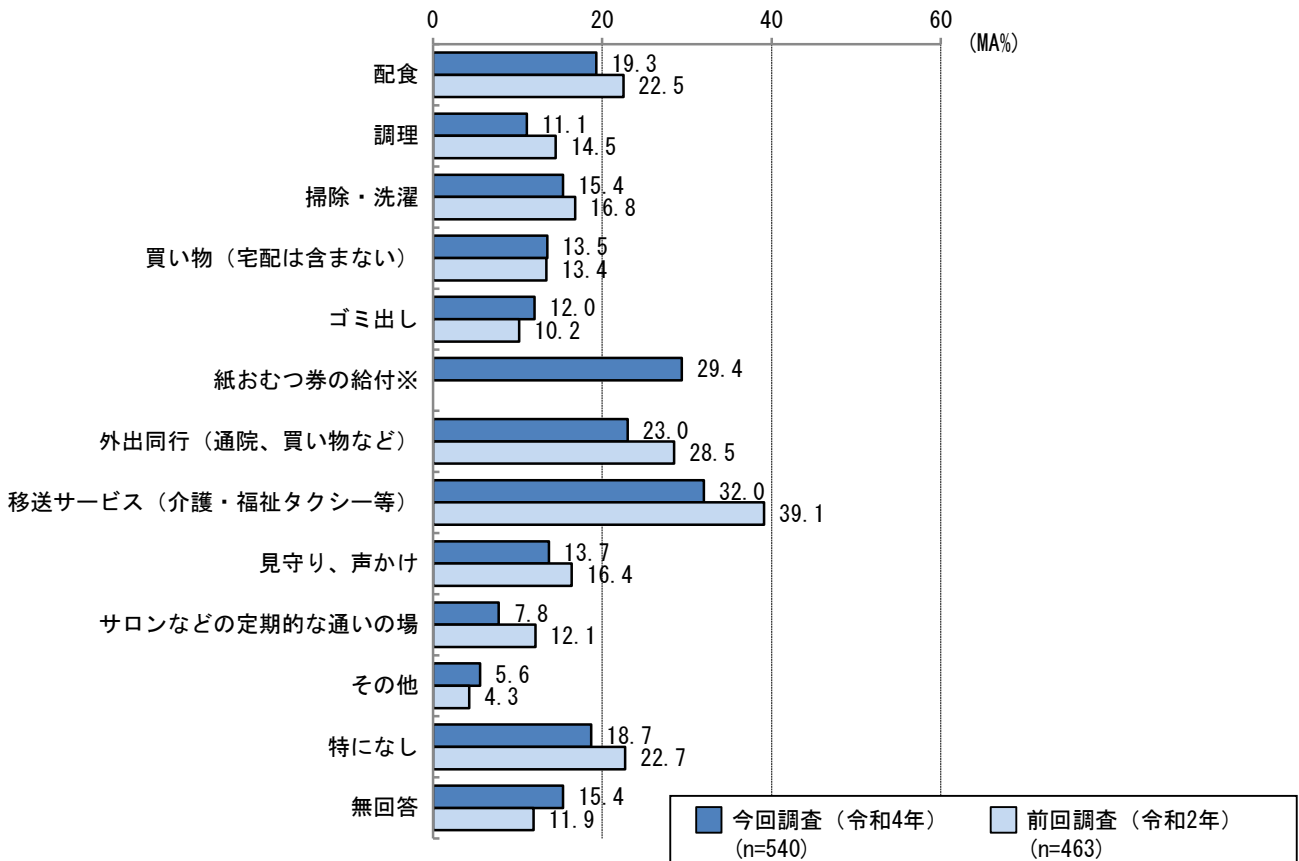
[8]在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

A票 問8 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(いくつでも)

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.0%と最も多く、次いで、「紙おむつ券の給付」が29.4%、「外出同行(通院、買い物など)」が23.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が最も多くなっていますが、男性のほうが女性に比べて9.7ポイント多くなっています。女性は「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」などが男性に比べて多くなっています。要介護度別にみると、要介護1、2では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、要介護3以上では、「紙おむつ券の給付」が最も多くなっています。



※前回調査では、選択肢なし

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス 要介護度別】

		n	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	紙おむつ券の給付	外出同行（通院、買い物など）	福祉サービス（介護・移送サービス等）	見守り、声かけ	サロンの定期的な開催	その他	特になし	無回答
全体		540	104	60	83	73	65	159	124	173	74	42	30	101	83
		100	19.3	11.1	15.4	13.5	12.0	29.4	23.0	32.0	13.7	7.8	5.6	18.7	15.4
性別	男性	200	33	18	27	28	19	62	46	76	23	16	10	27	38
	女性	339	71	42	56	45	46	96	78	96	50	26	20	74	45
		100	20.9	12.4	16.5	13.3	13.6	28.3	23.0	28.3	14.7	7.7	5.9	21.8	13.3
要介護度別	要介護1、2	355	75	46	64	55	48	78	97	115	55	34	18	71	53
	要介護3以上	184	29	14	19	18	17	80	27	57	18	8	12	30	30
		100	15.8	7.6	10.3	9.8	9.2	43.5	14.7	31.0	9.8	4.3	6.5	16.3	16.3

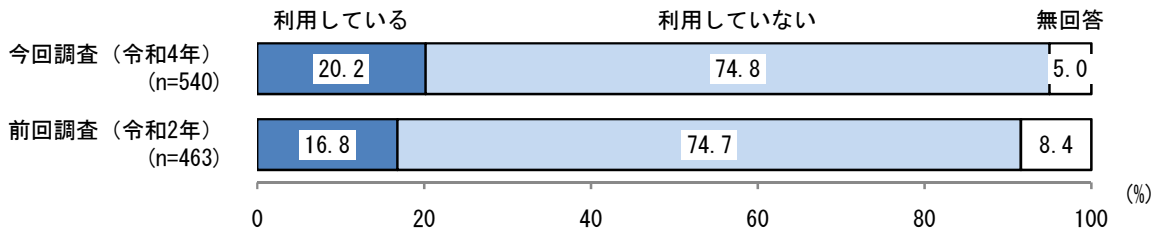
〔9〕訪問診療の利用状況

A票 問9 ご本人（調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（○は1つ）

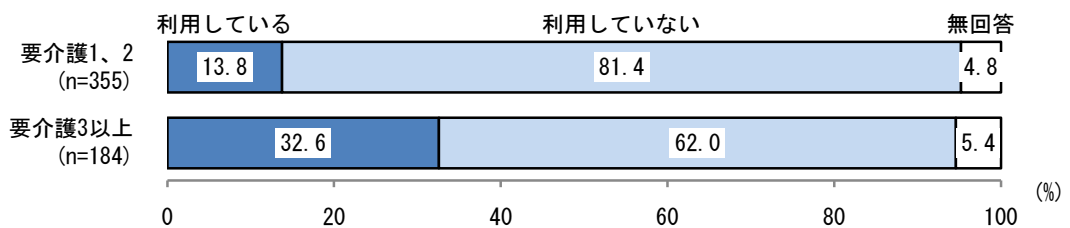
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

訪問診療を「利用している」人は 20.2%で、前回調査に比べて 3.4 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、「利用している」は要介護 1、2 で 13.8%、要介護 3 以上で 32.6%と、重度化にともなって利用は多くなっています。



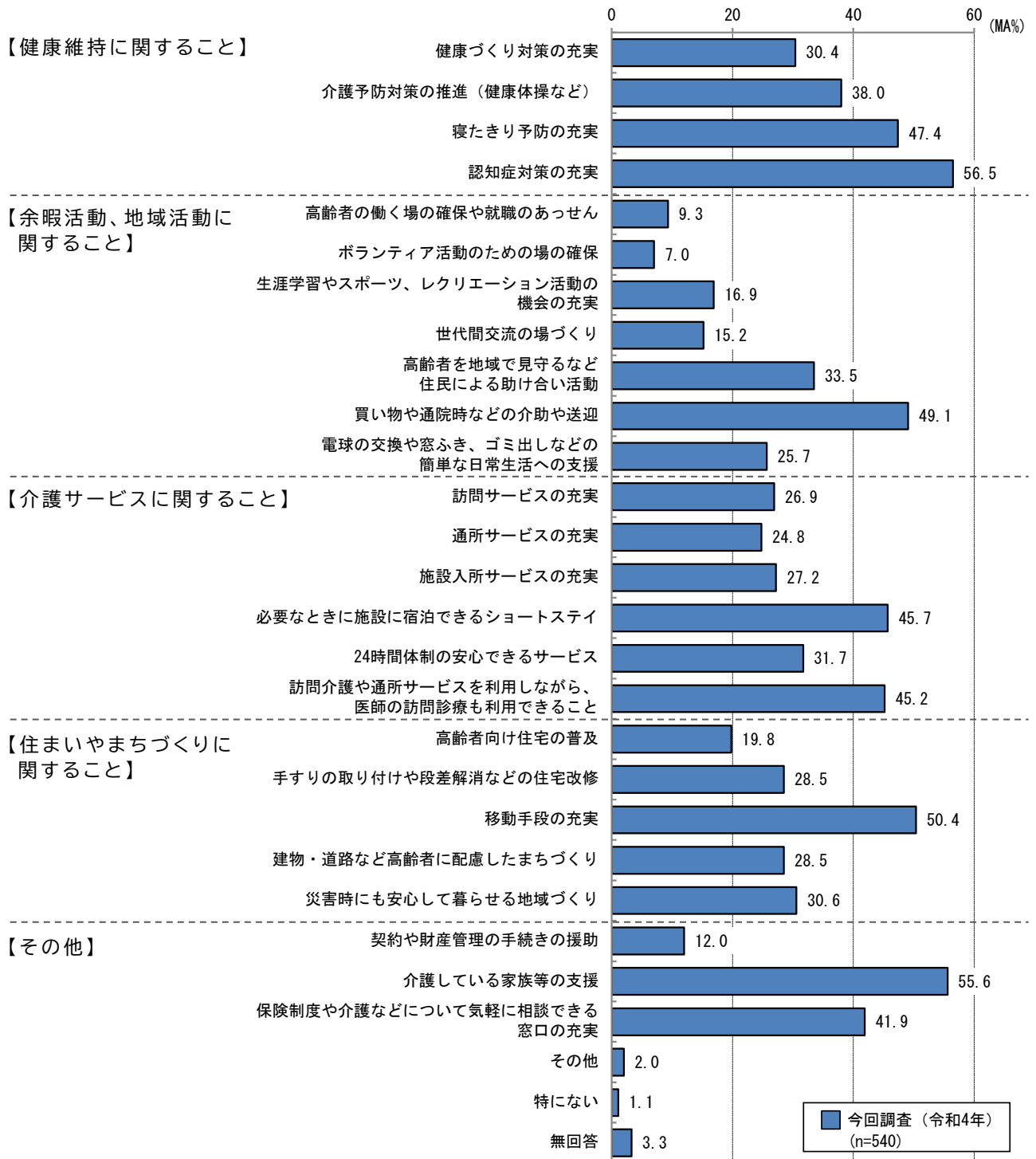
【訪問診療の利用状況 要介護度別】



[10]地域や自宅での生活に必要な支援や施策

A票 問10 高齢者が身近な地域や自宅での生活を続けていくために、どのような支援や施策の拡充が重要とお考えですか(いくつでも)

地域や自宅での生活を続けていくために必要な支援や施策については、「認知症対策の充実」が 56.5%と最も多く、次いで、「介護している家族等の支援」が 55.6%、「移動手段の充実」が 50.4%となっています。



※前回調査とは選択肢が異なるため、比較はしていません。

II. 市民向け調査結果 2. 在宅介護実態調査

性別にみると、男性は「介護している家族等の支援」、女性は「認知症対策の充実」が最も多くなっています。年齢別にみると、65～74歳、85歳以上では「介護している家族等の支援」、75～84歳では「認知症対策の充実」が最も多くなっています。要介護度別にみると、要介護1、2では「認知症対策の充実」、要介護3以上では「介護している家族等の支援」が最も多くなっています。

【地域や自宅での生活に必要な支援や施策 性別、年齢別、要介護度別】

	n	(MA%)																
		健康づくり対策の充実	介護予防対策の推進（健康体操など）	寝たきり予防の充実	認知症対策の充実	職のあつせん	高齢者の働く場の確保や就業	ボランティア活動のための場の確保	充実にシシヨン活動の機会の充実	生涯学習やスポーツ、レクリエーション活動の機会	世代間交流の場づくり	住民による助け合い活動など	高齢者による地域で見守るなど	買い物や通院時などの介助	や送迎	出しなどの簡単な日常生活	電球の交換や窓ふき、ゴミ出しの簡便な日常生活	訪問サービスの充実
全体	540 100	164 30.4	205 38.0	256 47.4	305 56.5	50 9.3	38 7.0	91 16.9	82 15.2	181 33.5	265 49.1	139 25.7	145 26.9	134 24.8	147 27.2			
性別	男性	200 100	62 31.0	74 37.0	93 46.5	102 51.0	13 6.5	10 5.0	24 12.0	17 8.5	70 35.0	94 47.0	50 25.0	47 23.5	33 16.5	48 24.0		
	女性	339 100	102 30.1	130 38.3	162 47.8	203 59.9	37 10.9	28 8.3	66 19.5	65 19.2	111 32.7	170 50.1	88 26.0	97 28.6	101 29.8	99 29.2		
年齢別	65～74歳	58 100	27 46.6	17 29.3	27 46.6	26 44.8	2 3.4	1 1.7	9 15.5	5 8.6	17 29.3	27 46.6	10 17.2	13 22.4	13 22.4	11 19.0		
	75～84歳	173 100	54 31.2	63 36.4	75 43.4	99 57.2	17 9.8	11 6.4	24 13.9	26 15.0	55 31.8	81 46.8	43 24.9	47 27.2	43 24.9	47 27.2		
	85歳以上	297 100	80 26.9	121 40.7	152 51.2	174 58.6	28 9.4	25 8.4	56 18.9	49 16.5	105 35.4	151 50.8	82 27.6	82 27.6	78 26.3	89 30.0		
要介護度別	要介護1、2	355 100	117 33.0	140 39.4	160 45.1	199 56.1	27 7.6	18 5.1	63 17.7	50 14.1	119 33.5	175 49.3	94 26.5	89 25.1	88 24.8	87 24.5		
	要介護3以上	184 100	47 25.5	64 34.8	95 51.6	106 57.6	23 12.5	20 10.9	27 14.7	32 17.4	62 33.7	89 48.4	44 23.9	55 29.9	46 25.0	60 32.6		
居住地区別	山城	94 100	24 25.5	34 36.2	42 44.7	61 64.9	6 6.4	8 8.5	11 11.7	15 16.0	35 37.2	40 42.6	23 24.5	24 25.5	21 22.3	28 29.8		
	加茂	165 100	49 29.7	60 36.4	85 51.5	90 54.5	11 6.7	10 6.1	31 18.8	24 14.5	47 28.5	91 55.2	35 21.2	39 23.6	41 24.8	45 27.3		
	木津東	127 100	37 29.1	49 38.6	65 51.2	68 53.5	22 17.3	12 9.4	26 20.5	23 18.1	41 32.3	64 50.4	35 27.6	34 26.8	37 29.1	38 29.9		
	木津西	153 100	54 35.3	61 39.9	63 41.2	86 56.2	11 7.2	8 5.2	22 14.4	20 13.1	58 37.9	69 45.1	45 29.4	47 30.7	35 22.9	36 23.5		

	n															
		きる必要などときに施設に宿泊できる	24時間体制の安心できるサービス	診療も利用がでら、医師の訪問を	訪問介護や通所サービスの充実	高齢者向け住宅の普及	手すりの取り付けや段差解消などの住宅改修	移動手段の充実	慮したまちづくり	建物・道路など高齢者に配慮	災害時にも安心して暮らせる地域づくり	援助契約や財産管理の手続きの	介護している家族等の支援	充実	保険制度や相談など窓口的な充実	その他
全体	540 100	247 45.7	171 31.7	244 45.2	107 19.8	154 28.5	272 50.4	154 28.5	165 30.6	65 12.0	300 55.6	226 41.9	11 2.0	6 1.1	18 3.3	
性別	男性	200 100	90 45.0	67 33.5	92 46.0	35 17.5	52 26.0	96 48.0	53 26.5	56 28.0	19 9.5	106 53.0	80 40.0	6 3.0	3 1.5	8 4.0
	女性	339 100	156 46.0	103 30.4	151 44.5	71 20.9	101 29.8	175 51.6	100 29.5	109 32.2	45 13.3	193 56.9	145 42.8	5 1.5	3 0.9	10 2.9
年齢別	65～74歳	58 100	19 32.8	18 31.0	23 39.7	9 15.5	15 25.9	27 46.6	13 22.4	13 22.4	4 6.9	32 55.2	18 31.0	3 5.2	1 1.7	2 3.4
	75～84歳	173 100	73 42.2	47 27.2	76 43.9	40 23.1	40 23.1	77 44.5	55 31.8	44 25.4	21 12.1	85 49.1	65 37.6	6 3.5	2 1.2	10 5.8
	85歳以上	297 100	151 50.8	99 33.3	141 47.5	55 18.5	93 31.3	161 54.2	81 27.3	105 35.4	36 12.1	175 58.9	136 45.8	2 0.7	3 1.0	6 2.0
要介護度別	要介護1、2	355 100	150 42.3	106 29.9	147 41.4	72 20.3	97 27.3	171 48.2	101 28.5	107 30.1	44 12.4	172 48.5	152 42.8	5 1.4	3 0.8	14 3.9
	要介護3以上	184 100	96 52.2	64 34.8	96 52.2	34 18.5	56 30.4	100 54.3	52 28.3	58 31.5	20 10.9	127 69.0	73 39.7	6 3.3	3 1.6	4 2.2
居住地区別	山城	94 100	45 47.9	30 31.9	44 46.8	25 26.6	24 25.5	37 39.4	24 25.5	34 36.2	11 11.7	42 44.7	34 36.2	0 0	2 2.1	5 5.3
	加茂	165 100	73 44.2	50 30.3	68 41.2	30 18.2	47 28.5	92 55.8	41 24.8	45 27.3	14 8.5	93 56.4	63 38.2	5 3.0	1 0.6	5 3.0
	木津東	127 100	64 50.4	50 39.4	61 48.0	24 18.9	42 33.1	69 54.3	43 33.9	38 29.9	15 11.8	78 61.4	55 43.3	3 2.4	1 0.8	5 3.9
	木津西	153 100	64 41.8	40 26.1	70 45.8	27 17.6	40 26.1	73 47.7	45 29.4	48 31.4	24 15.7	86 56.2	73 47.7	3 2.0	2 1.3	3 2.0

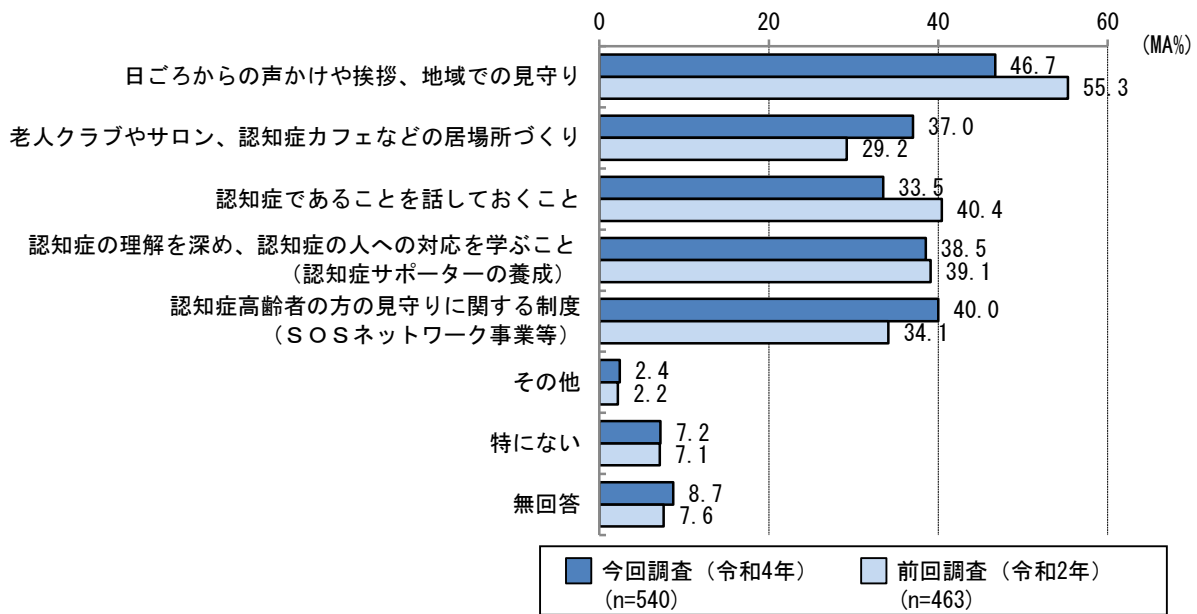
[11] 認知症について

A票 問11 認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活を続けるために、どのようなことが大切だと思いますか(いくつでも)

※ 認知症カフェ… 認知症の人や認知症の不安のある人、及びその家族が交流できる場。もの忘れや心配事について語りあったり、専門職と出会う機会が持てる。

認知症の人が地域での生活を継続するために大切なことについては、「日ごろからの声かけや挨拶、地域での見守り」が 46.7%と最も多く、次いで、「認知症高齢者の方の見守りに関する制度（SOS ネットワーク事業）」が 40.0%、「認知症の理解を深め、認知症の人への対応を学ぶこと（認知症サポーターの養成）」が 38.5%となっています。前回調査に比べて、「老人クラブやサロン、認知症カフェなどの居場所づくり」が 7.8 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護 1、2、要介護 3 以上ともに、「日ごろからの声かけや挨拶、地域での見守り」が最も多くなっています。また、「老人クラブやサロン、認知症カフェなどの居場所づくり」は要介護 1、2 で要介護 3 以上に比べて 4.1 ポイント多く、「認知症であることを話しておくこと」は要介護 3 以上で要介護 1、2 に比べて 6.7 ポイント多くなっています。



【認知症の人が地域での生活を継続するために大切なこと 要介護度別】

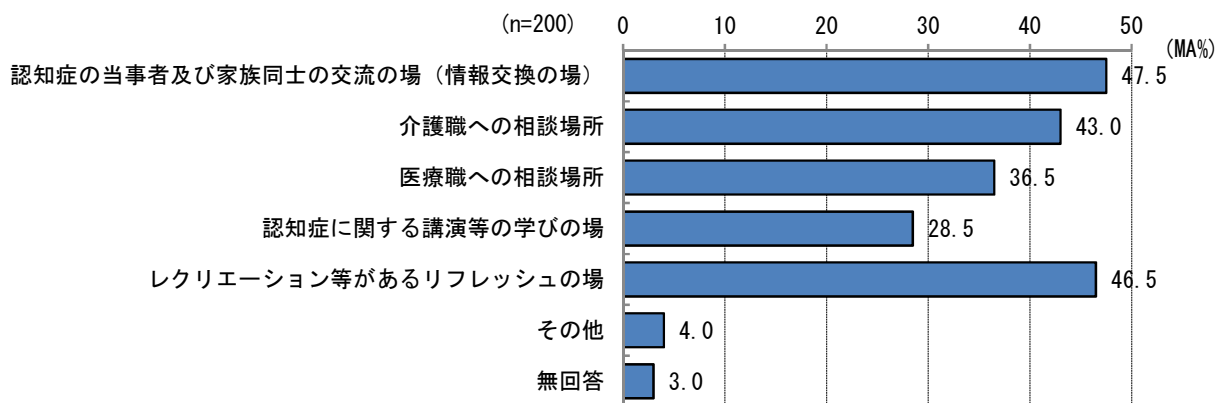
		n	日ごろからの声かけや挨拶、地域での見守り	老人クラブやサロン、居場所づくり	認知症であることを話しておくこと	認知症の理解を深め、認知症の人への対応を学ぶこと (認知症サポーターの養成)	認知症高齢者の方の見守りに関する制度 (SOSネットワーク事業等)	その他	特にない	無回答
全体		540	252	200	181	208	216	13	39	47
		100	46.7	37.0	33.5	38.5	40.0	2.4	7.2	8.7
要介護度別	要介護1、2	355	162	136	111	132	141	9	23	32
		100	45.6	38.3	31.3	37.2	39.7	2.5	6.5	9.0
要介護3以上		184	89	63	70	75	75	4	16	15
		100	48.4	34.2	38.0	40.8	40.8	2.2	8.7	8.2

【問11で「2. 老人クラブやサロン、認知症カフェなどの居場所づくり」と回答した方】

A票 問11-1 認知症カフェについて、どのような内容であれば利用したいと思えますか(いくつでも)

利用したい認知症カフェの内容は、「認知症の当事者及び家族同士の交流の場（情報交換の場）」が 47.5%と最も多く、次いで、「レクリエーション等があるリフレッシュの場」が 46.5%となっています。

性別にみると、男性は「介護職への相談場所」、女性は「認知症の当事者及び家族同士の交流の場（情報交換の場）」が最も多くなっています。要介護度別にみると、要介護1、2では「レクリエーション等があるリフレッシュの場」、要介護3以上では「認知症の当事者及び家族同士の交流の場（情報交換の場）」が最も多くなっています。



【利用したい認知症カフェの内容 要介護度別】

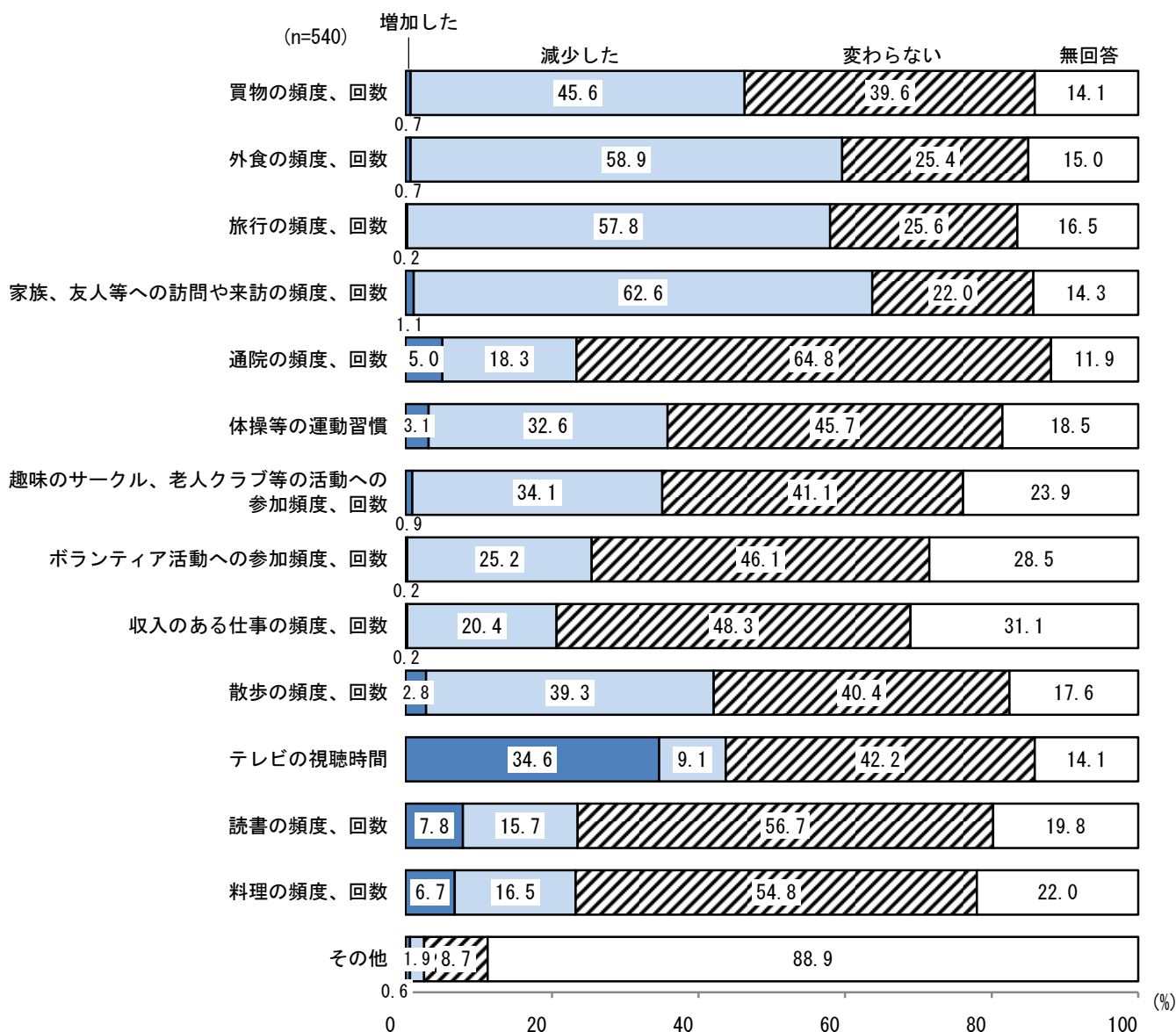
	調査数	(MA%)							
		認知症の当事者及び家族同士の交流の場（情報交換の場）	介護職への相談場所	医療職への相談場所	認知症に関する講演等の場	レクリエーション等があるリフレッシュの場	その他	無回答	
全体	200	47.5	43.0	36.5	28.5	46.5	4.0	3.0	
性別	男性	29	31	30	20	28	1	2	
	女性	132	66	55	43	37	64	7	4
年齢別	65～74歳	14	9	7	7	6	5	0	0
	75～84歳	66	28	21	22	14	29	5	2
	85歳以上	117	56	56	43	36	58	3	4
要介護度別	要介護1、2	136	53	57	45	38	65	5	5
	要介護3以上	63	42	29	28	19	27	3	1
居住地区別	木津東	46	27	18	20	10	20	2	3
	木津西	58	31	25	17	18	26	4	1
	加茂	64	27	28	22	23	26	2	1
	山城	31	10	15	14	6	20	0	1
	無回答	100	32.3	48.4	45.2	19.4	64.5	0	3.2

〔12〕新型コロナウイルス感染症の影響

※今回新設

A票 問12 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が社会に影響を与える前と現在を比較して、あなたの日常生活はどのように変化しましたか。以下のそれぞれの場面について、頻度や回数がどう変化したかをお答えください(それぞれ1つに○)

新型コロナウイルス感染症の影響で日常生活がどう変化したかについては、多くの項目で「変わらない」が最も多くなっていますが、「減少した」が最も多くなっているのは、「家族、友人等への訪問や来訪の頻度、回数」、「外食の頻度、回数」、「旅行の頻度、回数」、「買物の頻度、回数」で、5～6割の方が「減少した」と回答しています。一方、「テレビの視聴時間」では34.6%の方が「増加した」と回答しています。



【「その他」の回答内容】

内 容	件数
なし、外出していない	9件
人との交流が少なくなった	2件
デイサービスへの通所、家事、友人との電話、寝ることが増えた	各1件

〔13〕意見・要望

最後に、介護保険や高齢者施策の推進、暮らしやすい地域づくりなどについて、ご意見やご要望などがございましたら、ご記入ください

計 71 件（のべ 86 件）のご意見をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

ご意見内容	件数
■ 介護保険制度や介護サービスについて	30 件
・介護サービスの充実（在宅サービス、リハビリ、ショートステイの受け入れ など）	（9 件）
・入所施設の拡充、入所待ちの解消、介護施設の見学会の開催 など	（6 件）
・利用料金、介護保険料が高い	（5 件）
・介護職員の対応、人手不足	（2 件）
・その他（入所手続きの簡略化、夜間や緊急時の対応、送迎サービス、医療と介護の情報共有など）	（8 件）
■ 高齢者施策について	17 件
・見守り、日常生活支援の充実（配食、買い物、掃除、移動、紙おむつ助成など）	（6 件）
・高齢者が集える場づくり（高齢者向けの教養講座、若い人も興味を持つような企画のサロン）	（4 件）
・家族介護者のサポート、老々介護への理解	（3 件）
・その他（停電時の早期復旧や自家発電の助成、後見人制度の見直しなど）	（4 件）
■ 移動や外出について	15 件
・送迎バスや介護タクシーなど移動手段の充実	（7 件）
・移動手段がなく外出に困る など	（5 件）
・歩道や自転車の通行区分の整備	（3 件）
■ 行政へのご意見・ご要望	8 件
・大型ゴミが 1 人で出せない、古紙回収を増やしてほしい	（3 件）
・その他（行政サービスの充実、福祉医療と高齢者医療の手続き、目が悪いので細かい配慮を）	（5 件）
■ 地域活動、ご近所づきあいについて	7 件
■ 其他のご意見	9 件
・感謝の声、特にない など	（5 件）
・その他（最後は自宅で迎えたい、足が不自由なので郵便物を取りに来てほしい 他）	（4 件）

3 主な介護者について

【A票の問2で「2.」～「5.」(家族や親族の介護を受けている)と回答した方】

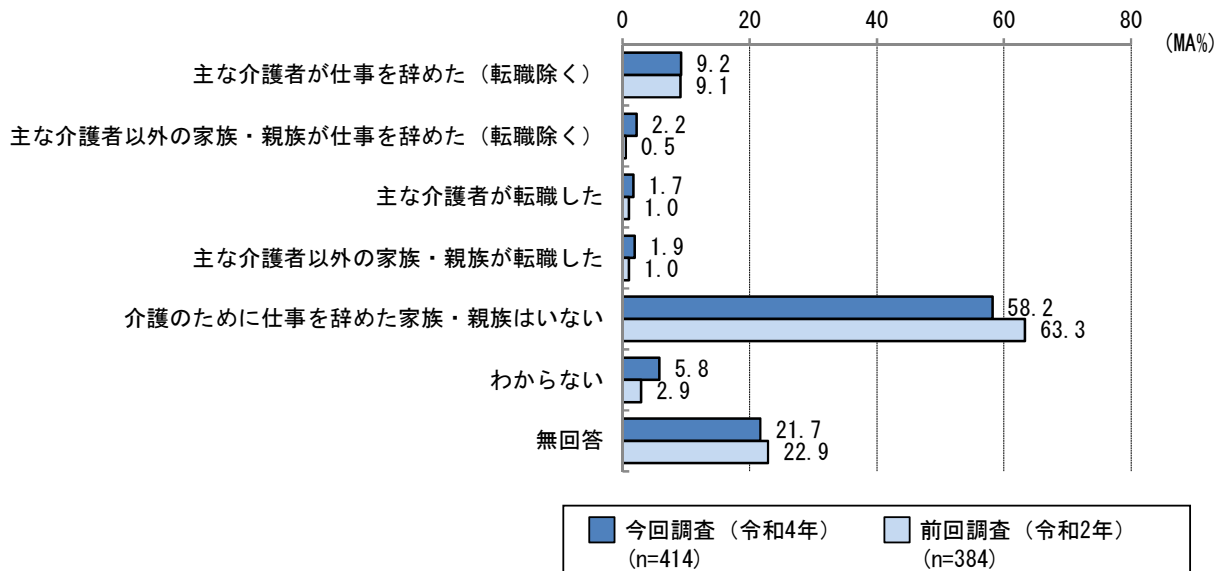
〔1〕介護のための離職の有無

B票 問1 ご家族やご親族の中で、ご本人(調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(いくつでも)

※ 自営業や農林水産業の仕事を辞めた方を含みます。

過去1年の間に介護のために仕事を辞めた方がいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が58.2%と最も多くなっています。

要介護度別にみると、要介護3以上では、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が13.6%と、要介護1、2に比べてやや多くみられます。



【介護のための離職の有無 要介護度別】

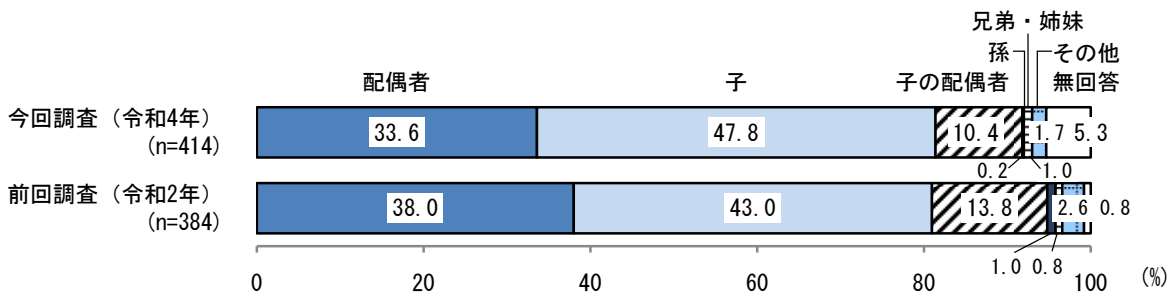
		調査数	主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全体		414	38	9	7	8	241	24	90
		100	9.2	2.2	1.7	1.9	58.2	5.8	21.7
要介護度別	要介護1、2	259	17	3	2	4	159	13	61
		100	6.6	1.2	0.8	1.5	61.4	5.0	23.6
	要介護3以上	154	21	6	5	4	81	11	29
		100	13.6	3.9	3.2	2.6	52.6	7.1	18.8

〔2〕主な介護者と本人の関係

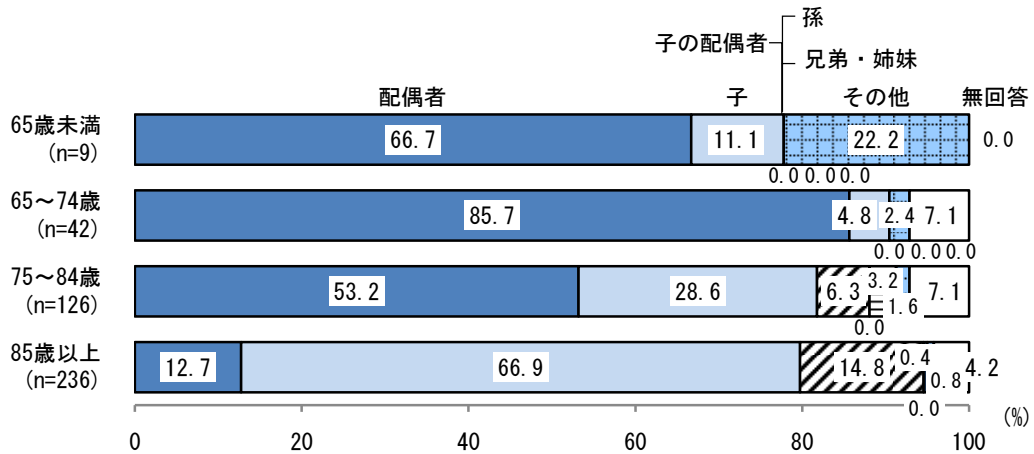
B票 問2 主な介護者の方は、どなたですか(○は1つ)

主な介護者は、「子」が 47.8%と最も多く、次いで、「配偶者」が 33.6%、「子の配偶者」が 10.4%となっています。「子」と「子の配偶者」を合わせて約 6 割が子世代からの介護を受けています。

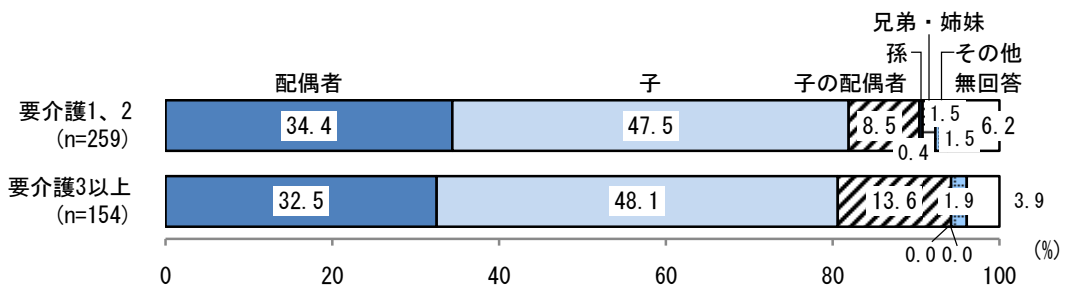
年齢別にみると、65～74 歳では「配偶者」が 85.7%と多く、75～84 歳では「配偶者」が 53.2%、「子」と「子の配偶者」が合計 34.9%、85 歳以上では「子」と「子の配偶者」が合計 81.7%と多くなっています。要介護度別にみると、要介護 1、2、要介護 3 以上ともに「子」と「子の配偶者」が多くを占めており、要介護 1、2 で 56.0%、要介護 3 以上で 61.7%となっています。



【主な介護者と本人の関係 年齢別】



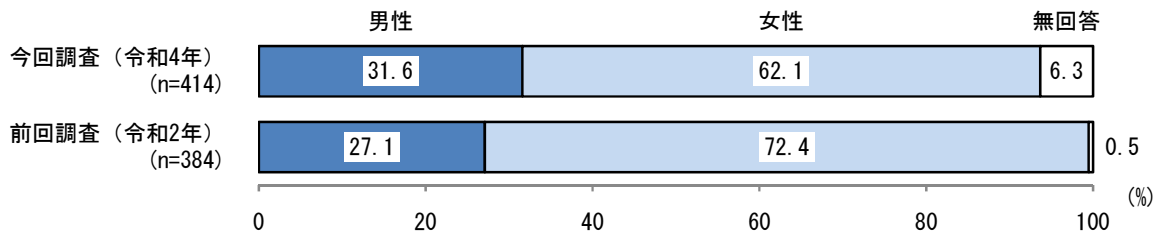
【主な介護者と本人の関係 要介護度別】



〔3〕主な介護者の性別

B票 問3 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(○は1つ)

主な介護者の性別は、「女性」が 62.1%と多くなっていますが、前回調査に比べて、「男性」が 4.5 ポイント増加しています。

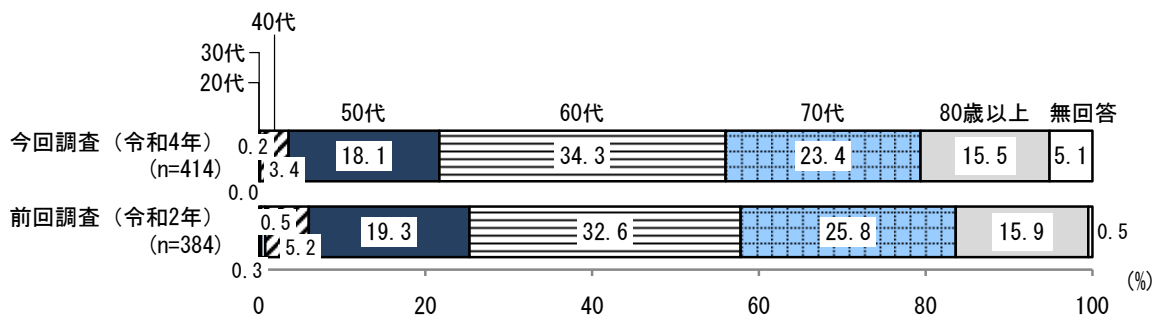


〔4〕主な介護者の年齢

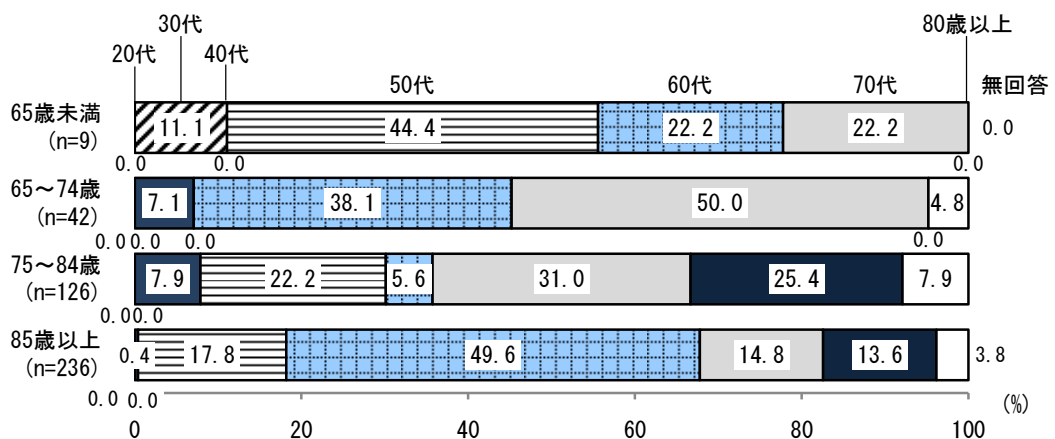
B票 問4 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(○は1つ)

主な介護者の年齢は、60代が 34.3%と最も多く、次いで、70代が 23.4%となっています。70代以上による介護が約 4 割を占め、80歳以上も 15.5%みられます。

調査対象者の年齢別にみると、75～84歳で 70代以上による介護の割合は 56.4%と、他の年齢層に比べて多くなっています。



【主な介護者の年齢 年齢別】

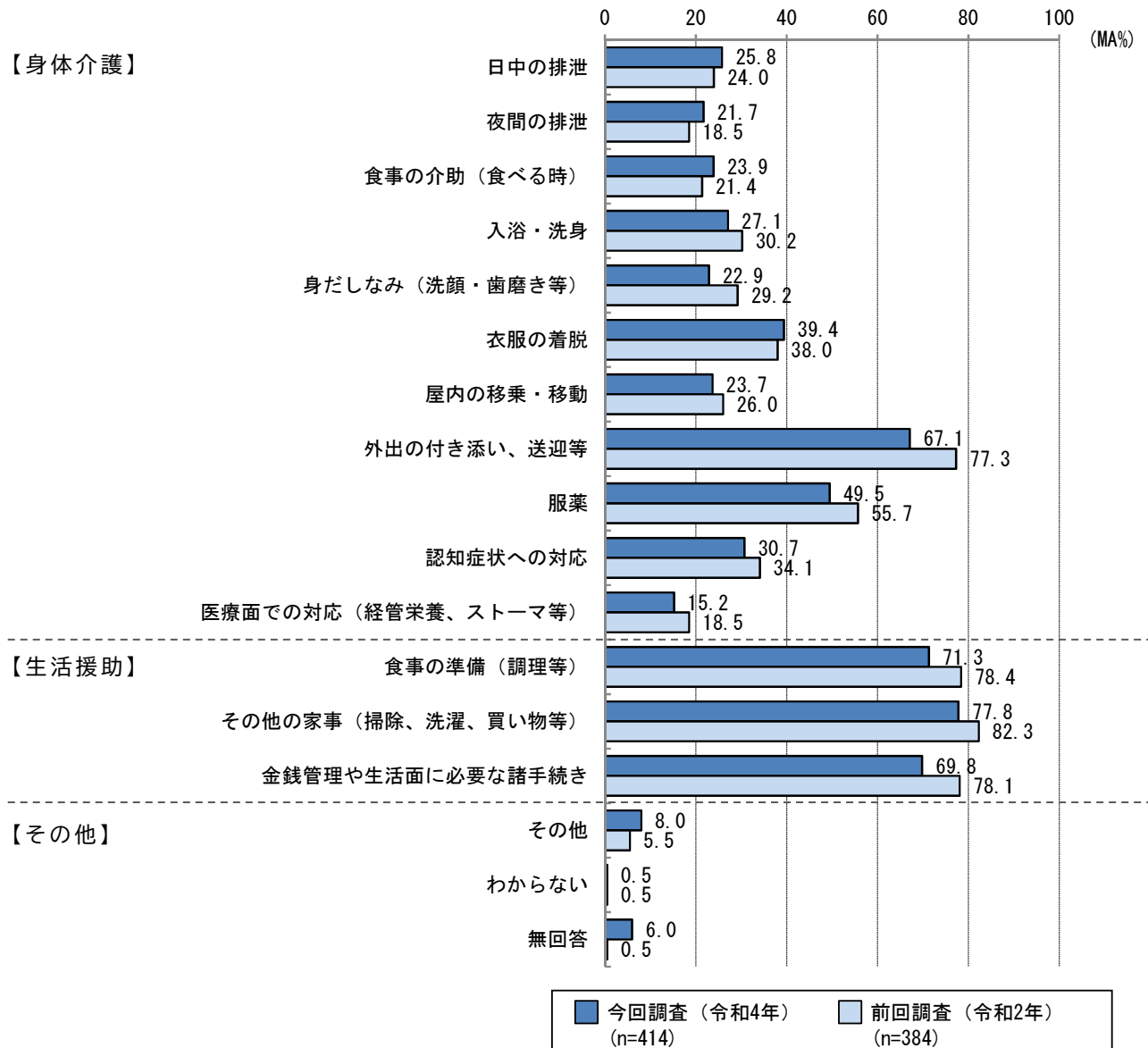


※ 「20歳未満」「わからない」は回答0件のためグラフから割愛しています。

〔5〕主な介護者が行っている介護

B票 問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください
(いくつでも)

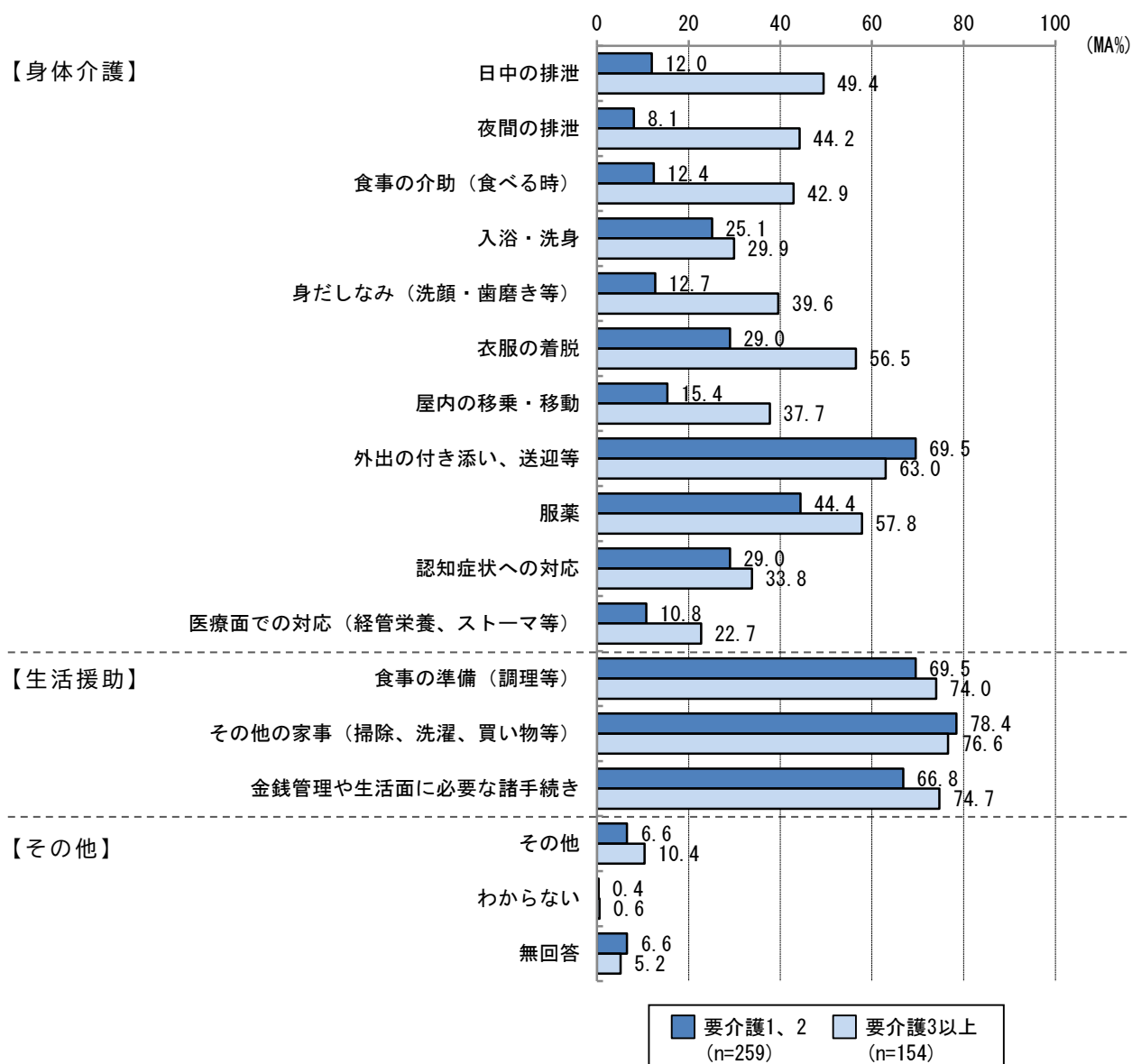
主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 77.8%と最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」が 71.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 69.8%と、生活援助が多くなっています。身体介護では、「外出の付き添い、送迎等」が 67.1%と多くなっています。前回調査に比べて、「外出の付き添い、送迎等」の 10.2ポイント減少をはじめ、減少している項目が多くなっています。



II. 市民向け調査結果 2. 在宅介護実態調査

要介護度別にみると、「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」以外のすべての項目で、要介護3以上が要介護1、2に比べて多くなっており、とくに、身体介護において大きな差がみられます。

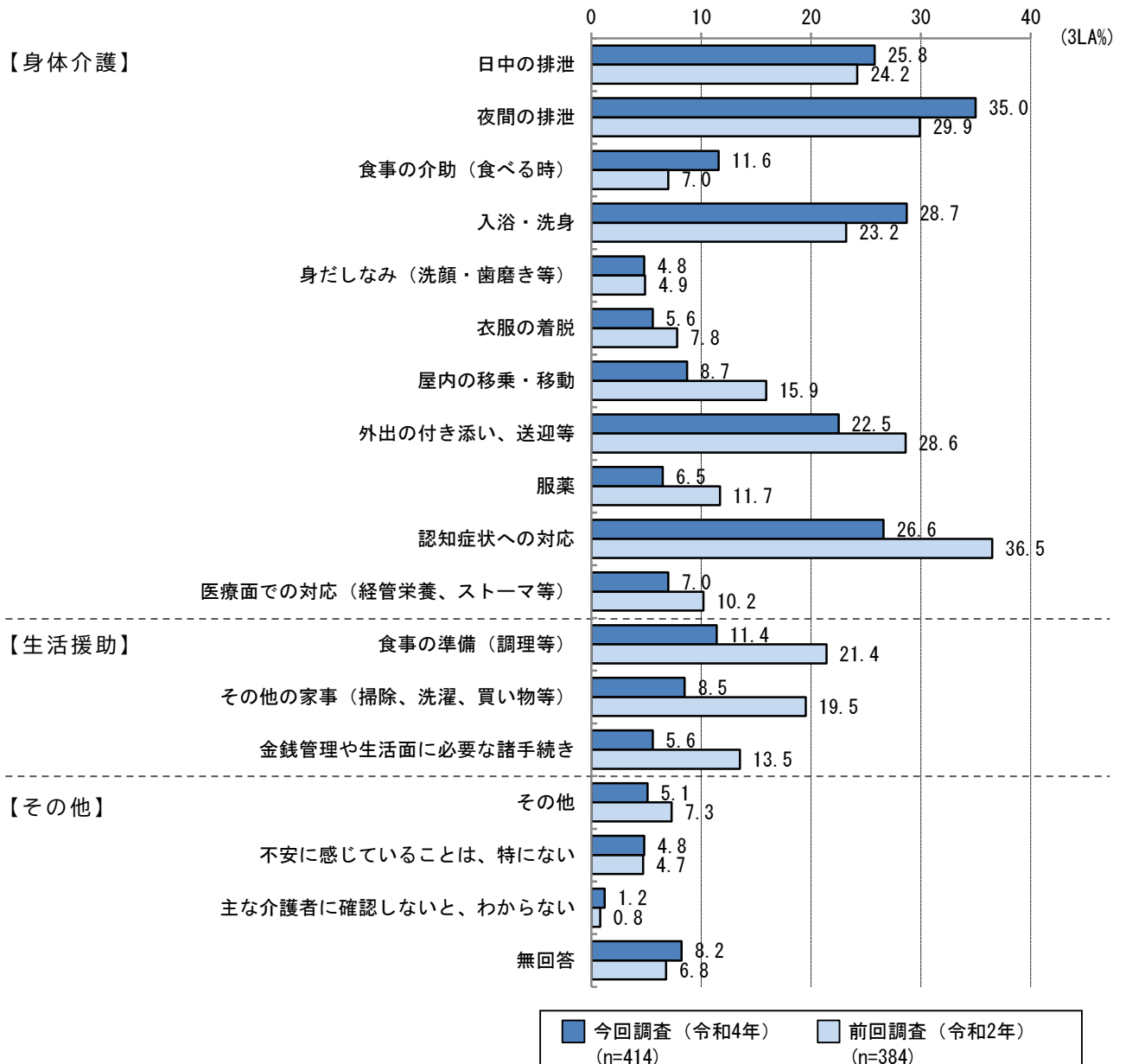
【主な介護者が行っている介護 要介護度別】



〔6〕主な介護者が不安に感じる介護

B票 問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(〇は3つまで)

在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「夜間の排泄」が35.0%と最も多く、次いで、「入浴・洗身」が28.7%、「認知症状への対応」が26.6%、「外出の付き添い、送迎等」が22.5%と、身体介護で多くなっています。

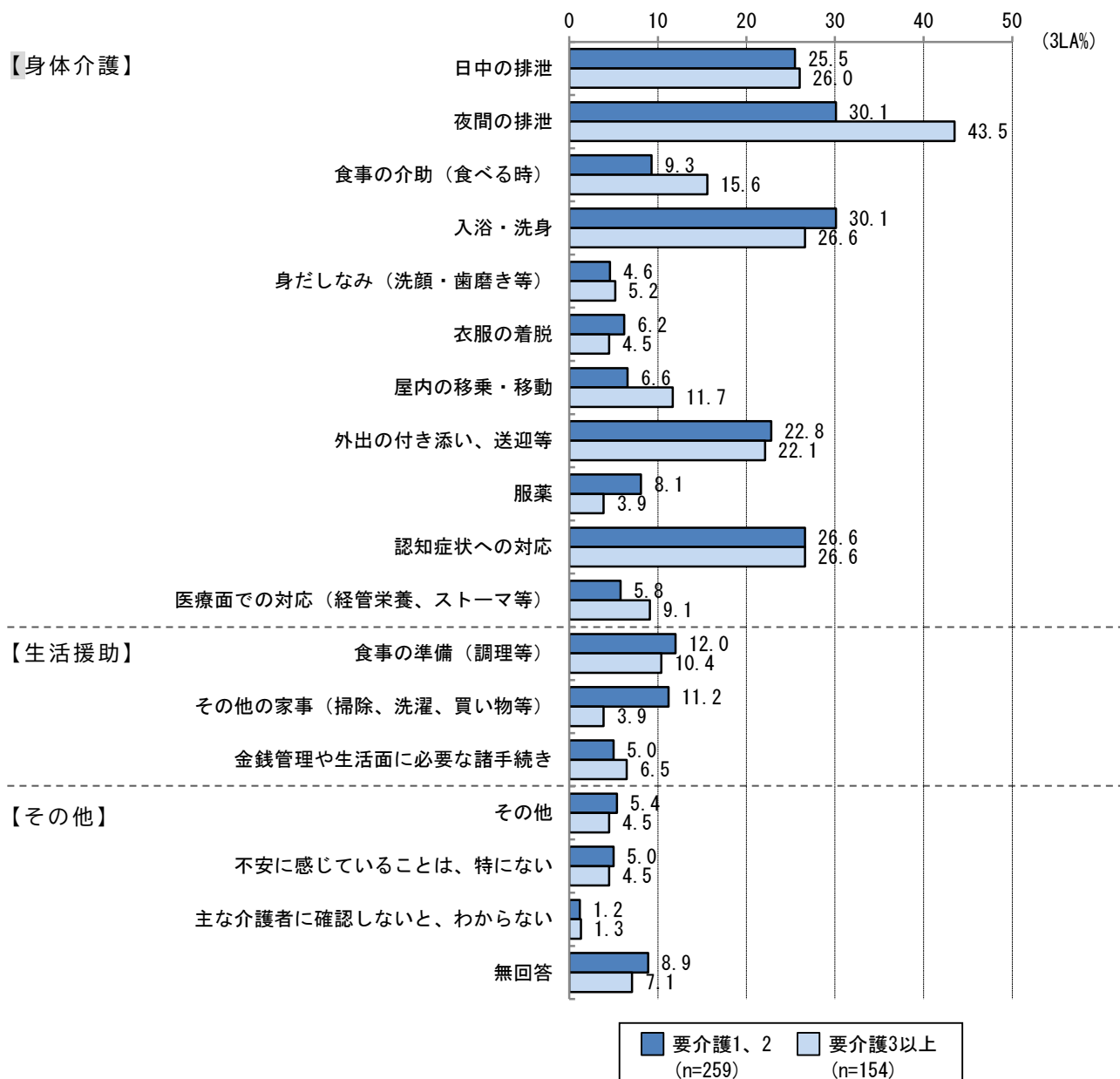


※前回調査とは集計方法が異なるため、集計結果には差がみられます。

Ⅱ. 市民向け調査結果 2. 在宅介護実態調査

要介護度別にみると、要介護3以上では「夜間の排泄」が43.5%と多く、要介護1、2に比べて13.4ポイント多くなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護 要介護度別】



4 介護者の就労について

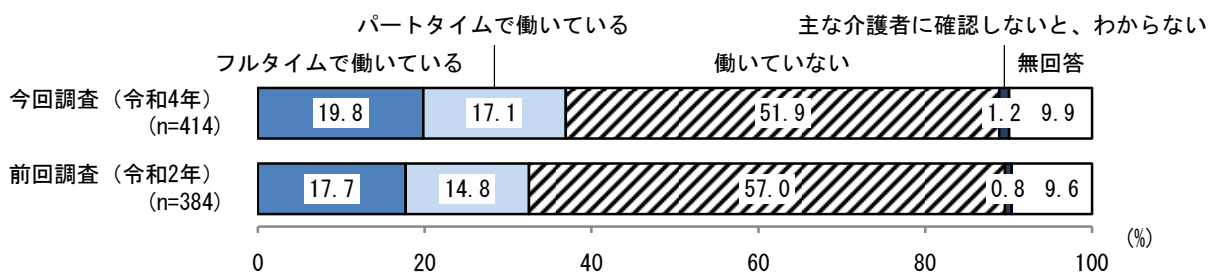
〔1〕主な介護者の勤務形態

B票 問7 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください
(○は1つ)

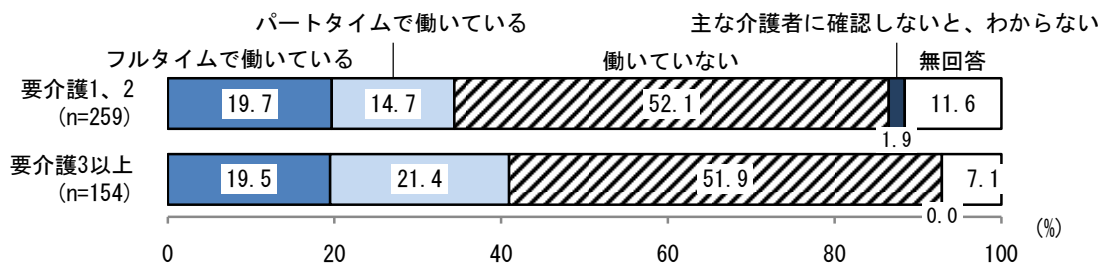
※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択しています。

主な介護者の勤務形態は、「フルタイム」が19.8%、「パートタイム」が17.1%で、就労している人は合計36.9%となっており、前回調査に比べて4.4ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護1、2で34.4%、要介護3以上で40.9%の介護者が就労していると回答しています。



【主な介護者の勤務形態 要介護度別】



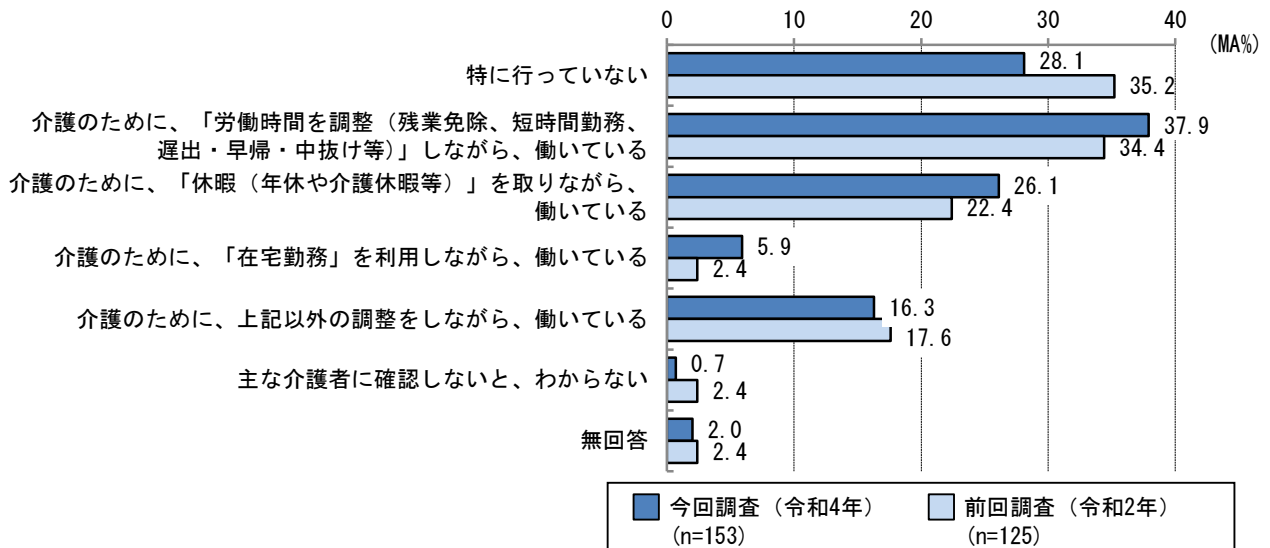
〔2〕主な介護者の働き方の調整

【問7で「1.」「2.」(働いている)と回答した方】

B票 問8 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(いくつでも)

主な介護者の方の働き方の調整について、介護のために何らかの働き方の調整を行っている人(「特に行っていない」と「主な介護者に確認しないと、わからない」と無回答者以外)は約7割となっており、なかでも、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている」が37.9%と最も多くなっています。前回調査に比べて、介護のために何らかの働き方の調整を行っている人の割合は増加しています。

要介護度別にみると、要介護3以上では約8割の介護者が、介護のために何らかの働き方の調整を行っていると回答しています。



【主な介護者の働き方の調整 要介護度別】

		n	特に行っていない	労働時間の調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている	介護のために「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている	介護のために「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体		153	43	58	40	9	25	1	3
		100	28.1	37.9	26.1	5.9	16.3	0.7	2.0
要介護度別	要介護1,2	89	31	33	26	3	10	0	2
		100	34.8	37.1	29.2	3.4	11.2	0	2.2
要介護3以上		63	12	25	13	6	15	1	1
		100	19.0	39.7	20.6	9.5	23.8	1.6	1.6

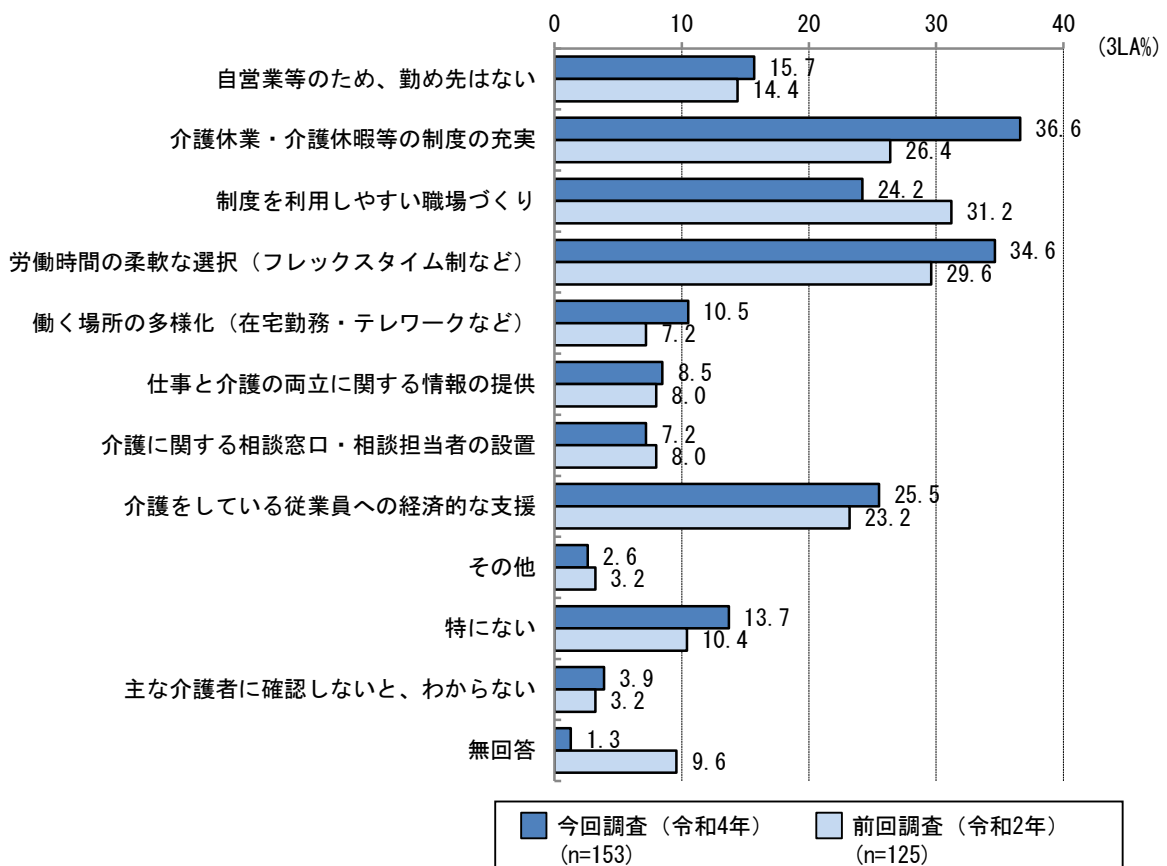
〔3〕仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援

【問7で「1.」「2.」(働いている)と回答した方】

B票 問9 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(○は3つまで)

仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援としては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が36.6%と最も多く、次いで、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が34.6%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が25.5%となっています。前回調査に比べて、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が10.2ポイント、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が5.0ポイント増加し、「制度を利用しやすい職場づくり」が7.0ポイント減少しています。

要介護度別にみると、要介護1、2は「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」、要介護3以上は「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も多く、とくに、要介護3以上は「介護休業・介護休暇の制度の充実」が42.9%と、要介護1、2に比べて11.4ポイント多くなっています。



Ⅱ. 市民向け調査結果 2. 在宅介護実態調査

【仕事と介護の両立に効果的な勤め先からの支援 要介護度別】

(3LA%)

	n	ない	自営業等のため、勤め先は	介護休業・介護休暇等の制度の充実	介護休業・介護休暇等の制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	勤務場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしていない従業員への経済的な支援	その他	特になし	主な介護者に確認しない	無回答
全体	153	24	56	37	53	16	13	11	39	4	21	6	2	
	100	15.7	36.6	24.2	34.6	10.5	8.5	7.2	25.5	2.6	13.7	3.9	1.3	
要介護度別	要介護1、2	89	11	28	24	31	7	10	6	24	1	14	5	1
		100	12.4	31.5	27.0	34.8	7.9	11.2	6.7	27.0	1.1	15.7	5.6	1.1
	要介護3以上	63	13	27	13	21	8	3	5	15	3	7	1	1
	100	20.6	42.9	20.6	33.3	12.7	4.8	7.9	23.8	4.8	11.1	1.6	1.6	

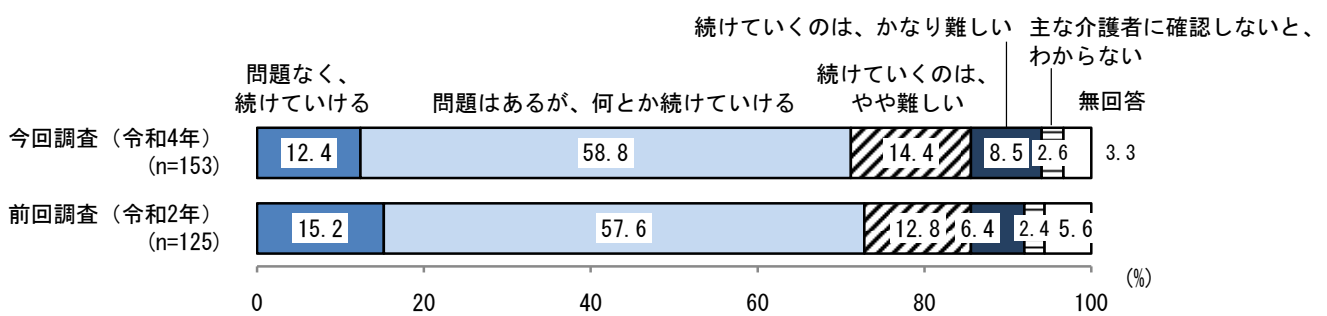
〔4〕主な介護者の就労継続の可否

【問7で「1.」「2.」(働いている)と回答した方】

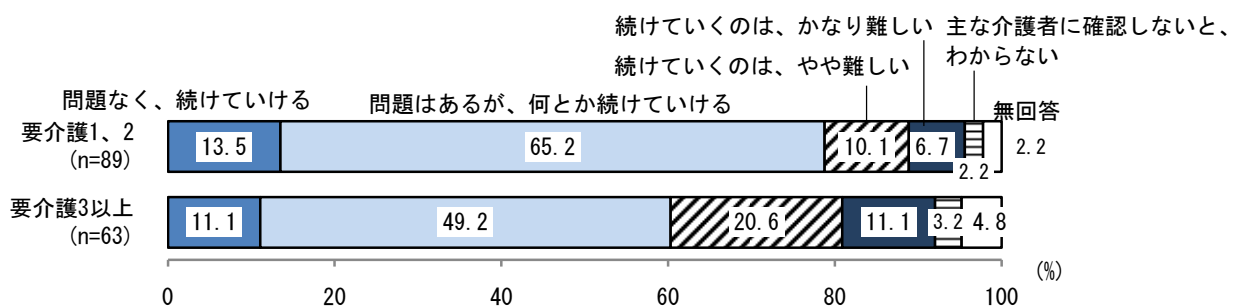
B票 問10 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか (○は1つ)

主な介護者の就労継続の可否については、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた『続けていける』が合計 71.2%となっています。ただし、「問題はある」と回答している人が 58.8%と、全体の半数以上みられます。また、前回調査に比べて、「続けていくのは、かなり難しい」と「続けていくのは、やや難しい」を合わせた『続けていくのは、難しい』が 3.7ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護3以上では、『続けていくのは、難しい』が 31.7%と多くなっています。



【主な介護者の就労継続の可否 要介護度別】



5 主な介護者以外の介護者について

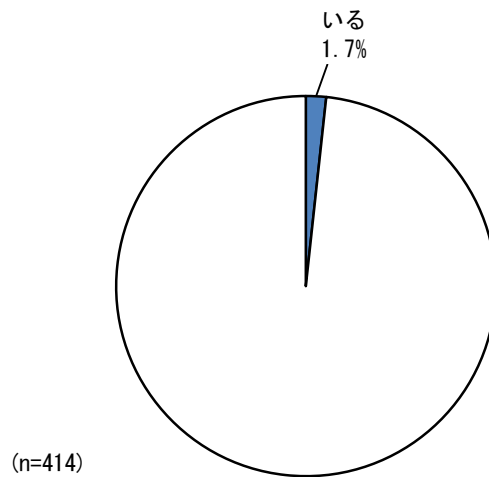
〔1〕18 歳未満の介護者について

※今回新設

問11 家族やご親族の方(同居していない場合を含む)で、「主な介護者」以外で、あて名の方の介護をされている方に「18歳未満」の方がいらっしゃいますか。いらっしゃる場合は、あて名の方との続柄にあてはまる令和4年12月1日現在の年齢をご回答ください。(〇はいくつでも)

主な介護者以外で、「18歳未満」の介護者が「いる」と回答した人は7人で、全体の1.7%となっています。またその内訳は、「子」が2件、「子の配偶者」が1件、「孫」が6件となっています。

【18歳未満の介護者の有無】



【18歳未満の介護者の続柄と年齢】

	回答数	(件)			
		12歳未満	13～15歳	16～18歳	無回答
子	2	2	1	0	0
子の配偶者	1	0	0	0	1
孫	6	1	2	4	0
孫の配偶者	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

※今回新設

【問11で「18歳未満」の方がいると回答した方】

問11-1 介護のために以下のような経験をしたことはありますか。(○はいくつでも)

「18歳未満」の介護者が介護のために経験したことについては、「自分の時間が取れない」との回答が2件みられました。

【18歳未満の介護者が経験したこと】

回答数	(件)										
	学校や職場を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	宿題など勉強する時間がない	眠る時間が足りない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間がとれない	その他	特にない	無回答	
7	0	0	0	0	0	0	2	1	1	3	

※今回新設

【問11で「18歳未満」の方がいると回答した方】

問11-2 介護をされている18歳未満の方は介護の悩みについて相談できる人はいますか。(○はいくつでも)

「18歳未満」の介護者が介護の悩みについて相談できる人は、「家族」が4件、「親戚」が1件となっています。

【18歳未満の介護者の相談相手】

回答数	(件)												
	家族(父母、祖父母、きょうだい)	親戚	友人	学校の先生、職場の上	医師や看護師、その他	福祉サービスの人	ヘルパーやケアマネ等	役所の人	近所の人	SNSでの知り合い	その他	特にない	無回答
7	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
100	57.1	14.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14.3	28.6

Ⅲ. 事業所向け調査結果

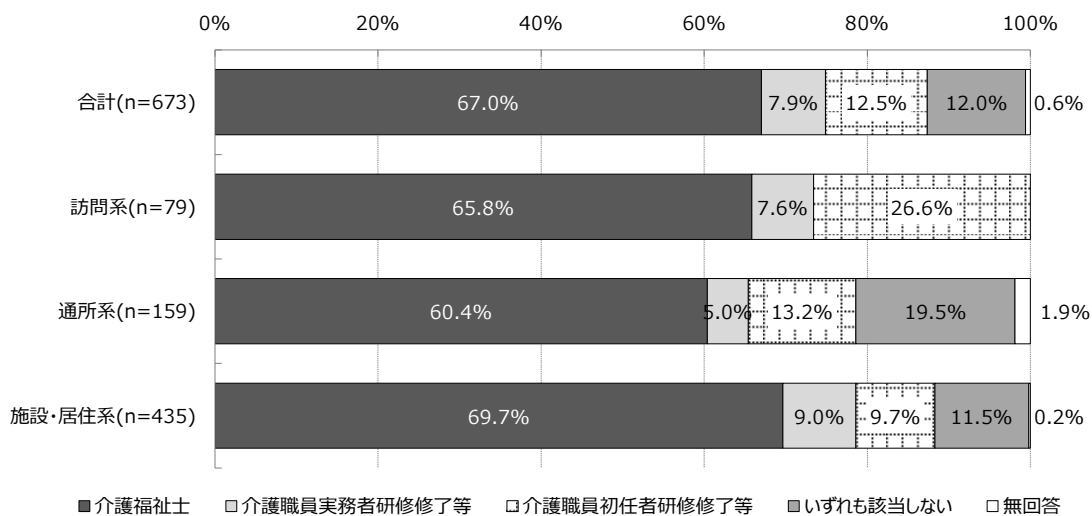
1. 介護人材実態調査

- ・介護人材実態調査では、介護人材の①性別・年齢構成、②資格保有状況、③過去1年間の採用・離職の状況、④訪問介護サービスにおけるサービス提供の実態などを把握し、地域内の介護人材の確保・サービス提供方法の改善などにつなげていくことを目的としています。
- ・調査の対象は、訪問系事業所（小規模多機能型居宅介護を含む）とその職員、通所系事業所、施設・居住系事業所です。
- ・回答のあった事業所のみを集計しています。

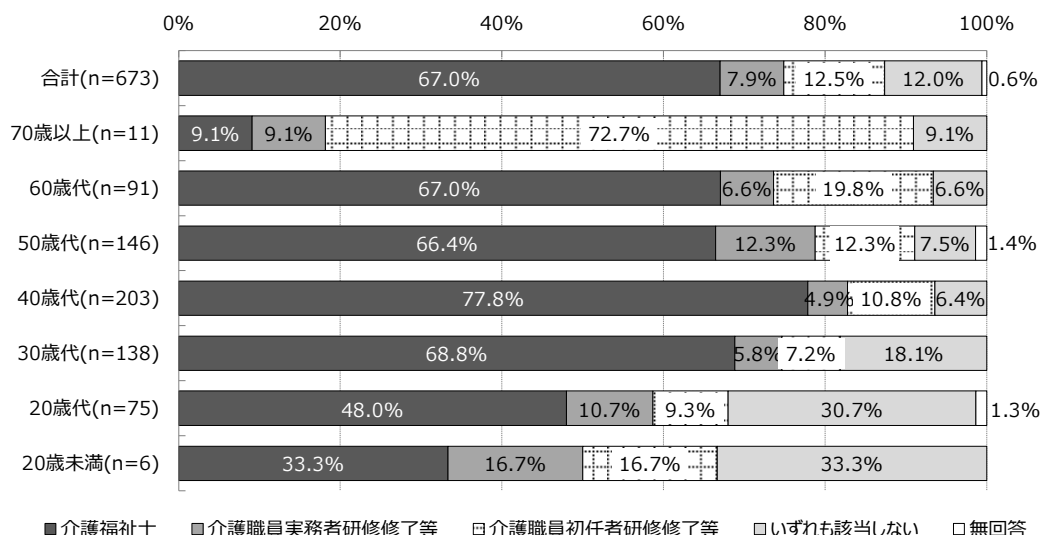
〔1〕資格の取得、研修の修了の状況

市内の訪問系事業所、通所系事業所、施設・居住系事業所で働く介護職員 673 人に、資格の取得、研修の修了状況についてたずねたところ、「介護福祉士」が 67.0%、「介護職員実務者研修修了等」が 7.9%、「介護職員初任者研修修了等」が 12.5%となっています。

【サービス系統別 資格保有の状況】



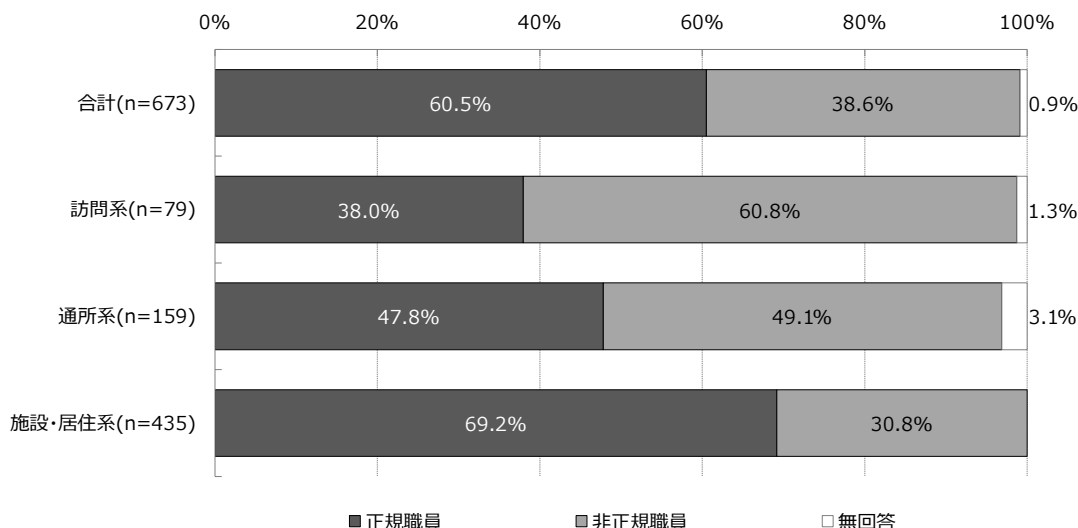
【年齢別 資格保有の状況】



〔2〕雇用形態

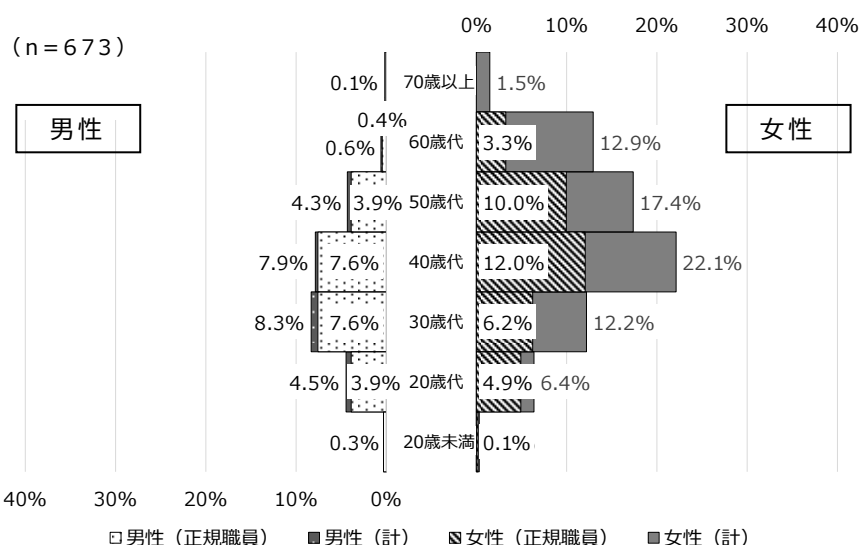
雇用形態についてたずねたところ、全体では正規職員が 60.5%、非正規職員が 38.6%と正規職員が多くなっていますが、訪問系では非正規職員が 60.8%と多く、施設・居住系では正規職員が 69.2%と多くなっています。

【サービス系統別 正規職員・非正規職員の割合】



性別・年齢別の構成比をみると、市内では女性 40 歳代の介護職員が全体の 22.1%と最も多く、次いで、女性 50 歳代が 17.4%となっています。男性は 30 歳代、40 歳代が多くなっていますが、全体に占める割合は 1 割程度となっています。また、男性では正規職員の比率が高いのに対し、女性 30~50 歳代では正規職員と非正規職員が同程度、女性 60 歳代では非正規職員の比率が高くなっています。

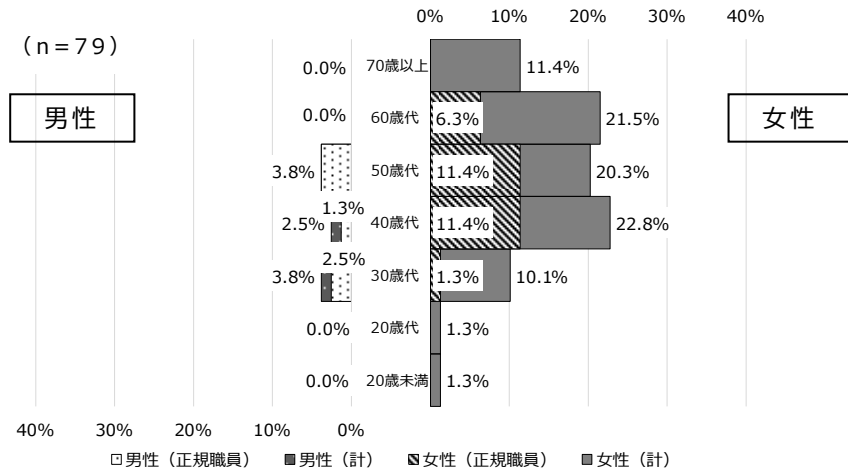
【性別・年齢別の雇用形態の構成比 全サービス系統合計】



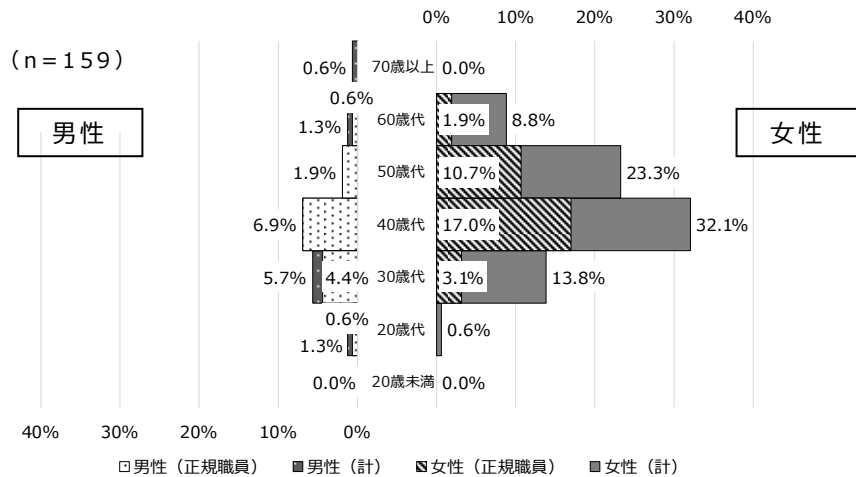
※分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

性別・年齢別の構成比をサービス別にみると、訪問系は女性が多く、年齢は 40 歳代から 60 歳代が中心となっています。通所系では女性 40 歳代の割合がとくに多く、施設・居住系では男性の割合が他のサービスに比べて多くなっています。

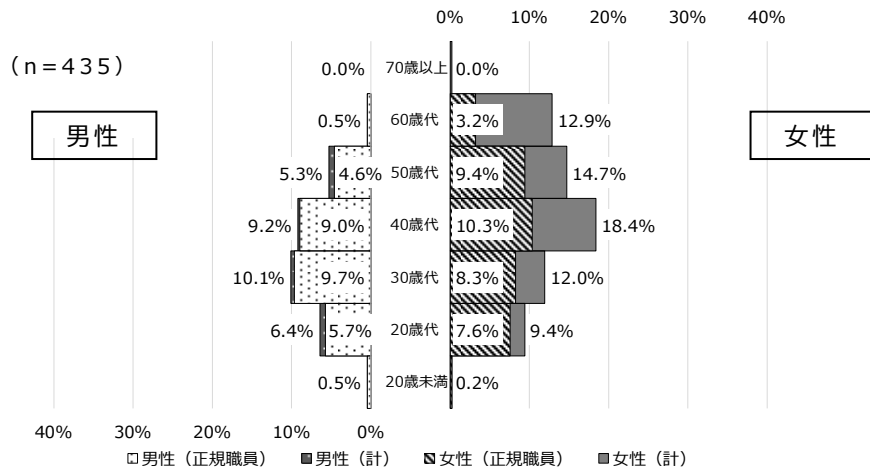
【性別・年齢別の雇用形態の構成比 訪問系】



【性別・年齢別の雇用形態の構成比 通所系】



【性別・年齢別の雇用形態の構成比 施設・居住系】

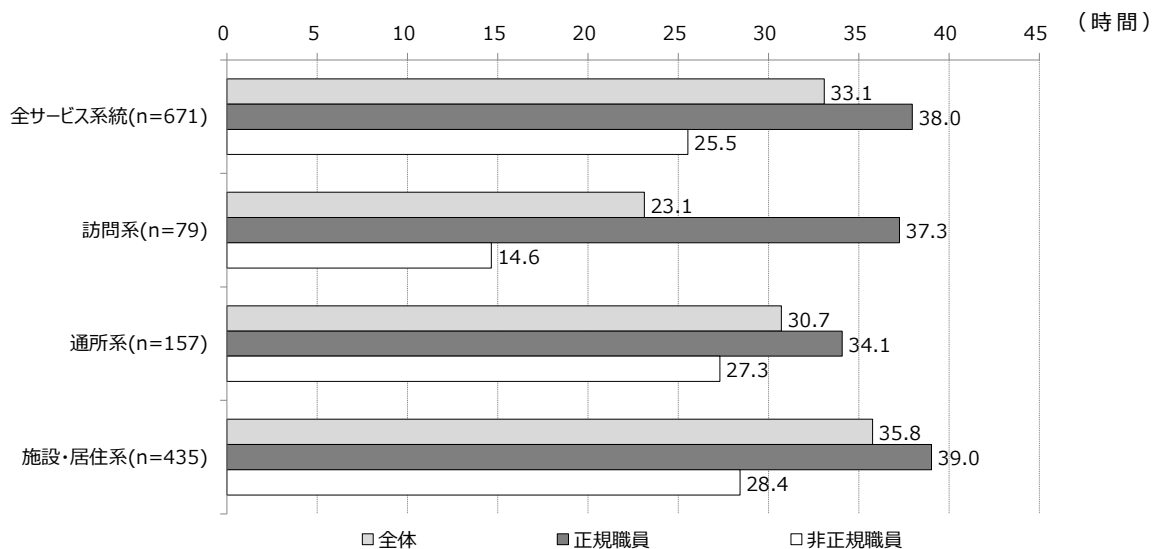


Ⅲ. 事業所向け調査結果 1. 介護人材実態調査

〔3〕職員 1 人あたりの 1 週間の勤務時間

職員 1 人あたりの 1 週間の勤務時間は全体で 33.1 時間、正規職員では 38.0 時間、非正規職員では 25.5 時間となっています。訪問系は正規職員と非正規職員で差が大きく、非正規職員では 14.6 時間となっています。

【サービス系統別 職員 1 人あたりの 1 週間の勤務時間】



〔4〕介護職員数の変化

市内の訪問系事業所、通所系事業所、施設・居住系事業所に、介護職員の総数と、過去 1 年間（令和 4 年 1 月 1 日～令和 4 年 12 月 31 日）の採用者数、離職者数をおたずねし、介護職員数の変化をみると、訪問系は前年比 109.2%、通所系は 105.1%と増加していますが、施設・居住系では 98.0%と減少しています。とくに、施設・居住系の非正規職員で 89.3%と減少しています。

サービス系統 (該当事業所数)	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全サービス系統(n=55)	527人	317人	844人	84人	70人	123人	49人	63人	106人	107.1%	102.3%	102.1%
訪問系(n=20)	101人	89人	190人	17人	26人	43人	10人	17人	27人	107.4%	111.3%	109.2%
通所系(n=17)	113人	95人	208人	13人	18人	22人	8人	4人	12人	104.6%	117.3%	105.1%
施設・居住系(n=18)	313人	133人	446人	54人	26人	58人	31人	42人	67人	107.9%	89.3%	98.0%

〔5〕過去1年間の介護職員の職場の変化

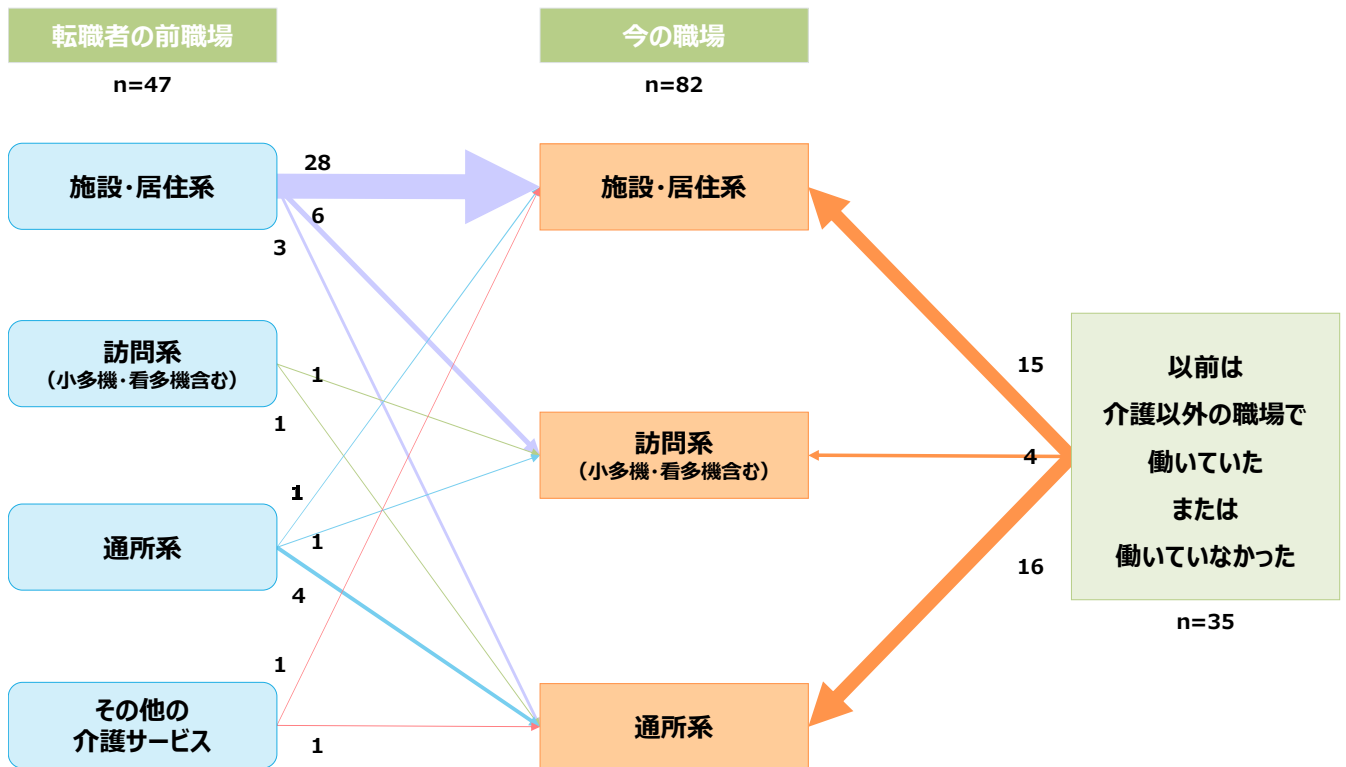
現在の事業所等での勤務年数が1年未満で、前職も介護職であると回答のあった職員は、回答のあった673人中54人でした。その方たちの直前の職場については、「同一市区町村」が33.3%、「他の市区町村」が66.7%と、「他の市区町村」から転職してきた人が多くなっています。とくに、通所系、施設・居住系で、「他の市区町村」から来た人の割合が多くなっています。

【前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所】

前の職場の場所	現在の職場							
	全サービス系統		訪問系		通所系		施設・居住系	
合計	54人	100.0%	9人	100.0%	13人	100.0%	32人	100.0%
同一市区町村	18人	33.3%	5人	55.6%	4人	30.8%	9人	28.1%
他の市区町村	36人	66.7%	4人	44.4%	9人	69.2%	23人	71.9%

前職も介護職であった54人のうち、前の職場についての設問に回答のあった47人の方の職場の変化をみると、施設・居住系から同じ施設・居住系への転職が28人と最も多くなっています。また、前職が介護職以外、または現在の職場が初めての勤務先と回答した35人では、通所系に勤務している人が16人、施設・居住系が15人、訪問系は4人となっています。

【過去1年間の介護職員の職場の変化(同一法人・グループ内での異動は除く)】



※上記の分類が可能となる全ての設問に回答のあった方のみを集計対象としています。

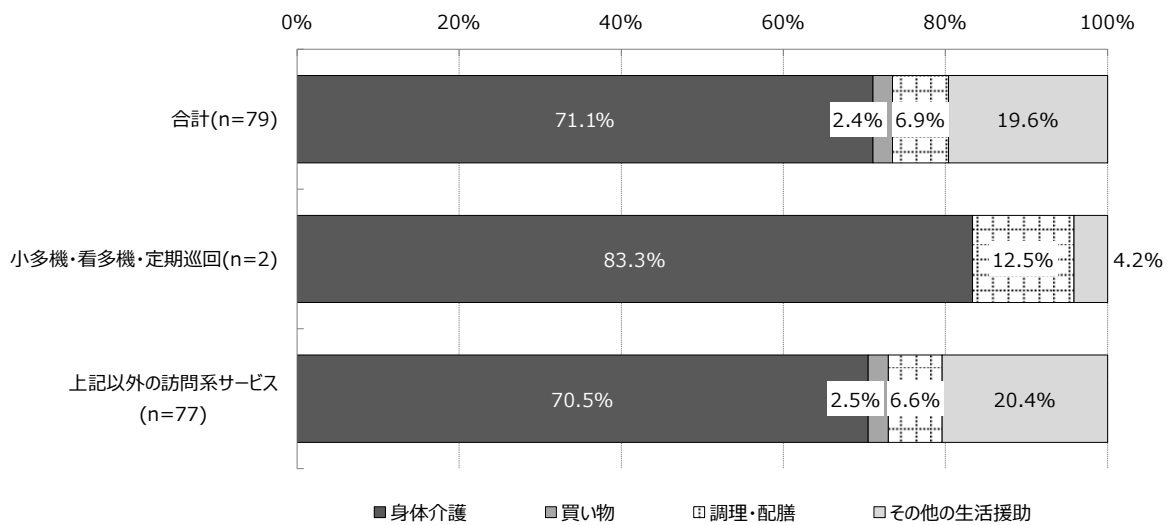
Ⅲ. 事業所向け調査結果 1. 介護人材実態調査

〔6〕訪問介護のサービス提供時間（訪問系事業所の職員の方にご回答いただいています）

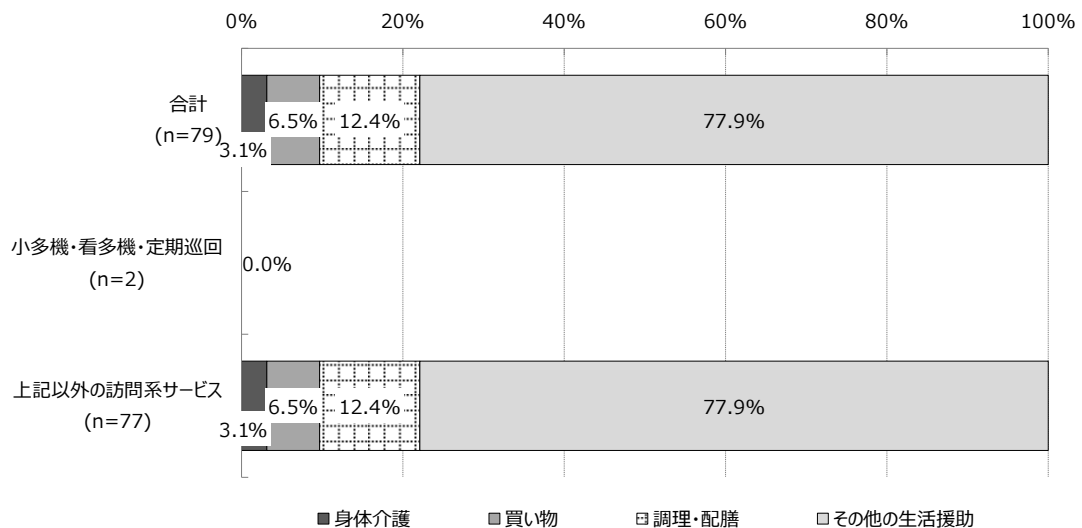
訪問介護等のサービスに従事している職員の方※に、1週間の勤務時間のうち身体介護・生活援助を提供した時間をたずねたところ、介護給付では「身体介護」が71.1%と多く、予防給付では「その他の生活援助」が77.9%と多くなっています。

※「訪問介護」、「訪問入浴介護」、「夜間対応型訪問介護」、「訪問型サービス（総合事業）」、「小規模多機能型居宅介護」、「看護・小規模多機能型居宅介護」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」に従事している方が対象です。

【訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳(介護給付)】



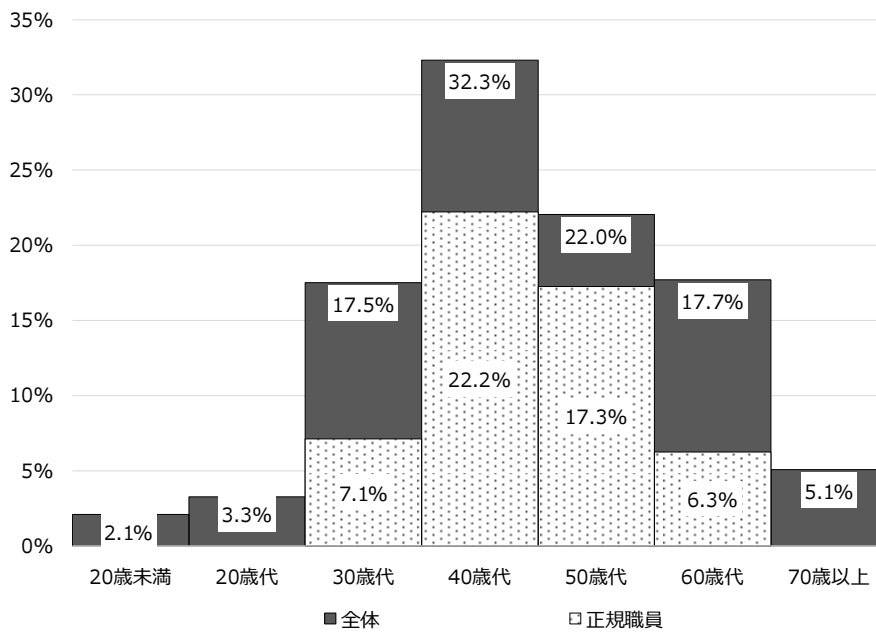
【訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳(予防給付・総合事業)】



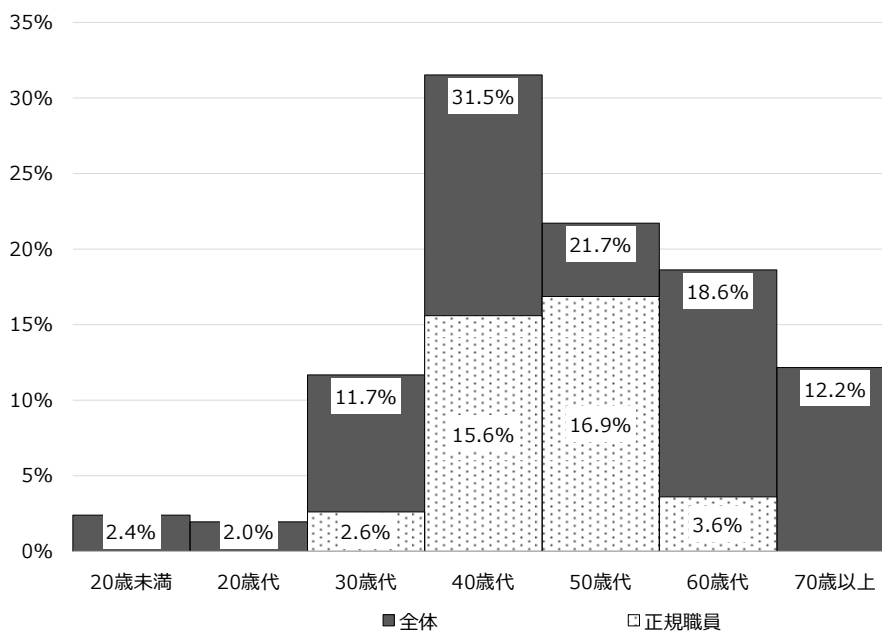
※総提供時間に占める各サービス提供時間の構成比を示しています。

職員の年齢別に、訪問介護の提供時間の割合をみると、身体介護、生活援助ともに 40 歳代の割合が最も多く、身体介護で 32.3%、生活援助で 31.5%となっています。30 歳代以下の提供時間の割合をみると、身体介護では合計 22.9%、生活援助では 16.1%と、身体介護で若い世代の提供時間が多くなっています。また、正規職員の提供時間の割合は、身体介護で合計 52.9%、生活援助では 38.7%と、身体介護で多くなっています。

【身体介護提供時間の構成比 職員の年齢別】



【生活援助提供時間の構成比 職員の年齢別】



※総提供時間に占める各サービス提供時間の構成比を示しています。

2. 居所変更実態調査

- ・居所変更実態調査では、①過去1年間で施設・居住系サービスから居所を変更した方の人数、②その理由等を把握し、施設・居住系サービスでの生活の継続性を高めるために必要な機能や、外部サービス資源との連携等を検討することを目的としています。
- ・調査の対象は、施設・居住系事業所です。
- ・回答のあった事業所のみを集計しています。

〔1〕過去1年間の退居・退所者数と内訳

施設ごとに、過去1年間（令和4年1月1日～令和4年12月31日）の退居・退所者と退居・退所後の居場所についてたずねたところ、住宅型有料老人ホームでは退居・退所者の86.7%、軽費老人ホームでは90.9%の人が居所変更しているのに対し、特定施設では86.2%、特別養護老人ホームでは77.1%が「死亡」となっており、これらの施設が看取りまで対応する役割を持っていることがわかります。

サービス種別	居所変更	死亡	合計
住宅型有料老人ホーム (n=1)	13人 86.7%	2人 13.3%	15人 100.0%
軽費老人ホーム (n=1)	10人 90.9%	1人 9.1%	11人 100.0%
サービス付き高齢者向け住宅 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
グループホーム (n=5)	13人 65.0%	7人 35.0%	20人 100.0%
特定施設 (n=3)	9人 13.8%	56人 86.2%	65人 100.0%
介護老人保健施設 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特別養護老人ホーム (n=4)	8人 22.9%	27人 77.1%	35人 100.0%
合計 (n=14)	53人 36.3%	93人 63.7%	146人 100.0%

※地域密着型特定施設、介護療養型医療施設・介護医療院、地域密着型特別養護老人ホームは、調査日現在、市内にありません。

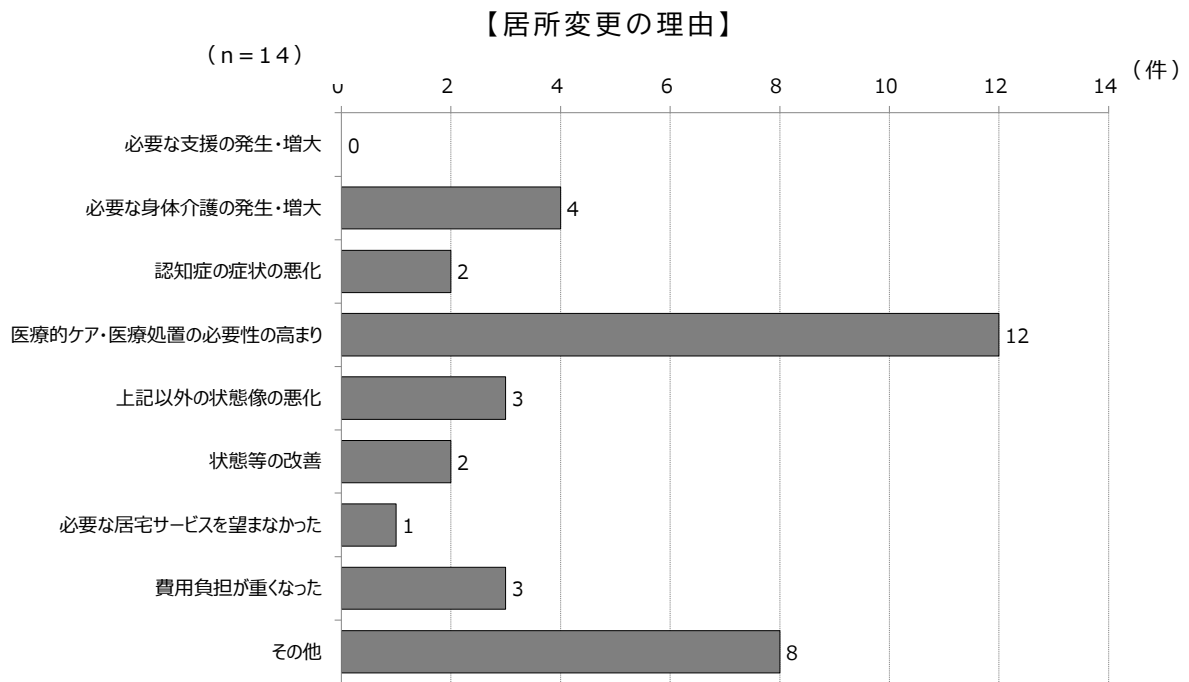
【過去1年間の施設等の入居・入所及び退居・退所の流れ】



Ⅲ. 事業所向け調査結果 2. 居所変更実態調査

〔2〕居所変更の理由

施設等の入居・入所者が居所を変更する理由についてたずねたところ、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が12件と最も多くなっています。



※ 「上位3つ」について回答したものの集計です。(複数回答)

3. 在宅生活改善調査

- ・在宅生活改善調査では、現在自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、①人数、②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握し、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討することを目的としています。
- ・調査対象は、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所と、そこに所属するケアマネジャーです。
- ・回答のあった事業所のみを集計しています。

〔1〕過去 1 年間に、自宅等から居場所を変更した人

居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所に、過去 1 年間（令和 4 年 1 月 1 日～令和 4 年 12 月 31 日）に、自宅等から居場所を変更した人の人数をたずねたところ、市内で変更した人が 64 人、市外へ変更した人が 31 人の合計 95 人でした。またその行先は、市内の「特別養護老人ホーム」が 23.2%と最も多く、次いで、市内の「サービス付き高齢者向け住宅」が 17.9%となっています。

【過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した人の行先別の人数】

行先	市内	市外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料老人ホーム	6人 6.3%	3人 3.2%	9人 9.5%
軽費老人ホーム	3人 3.2%	1人 1.1%	4人 4.2%
サービス付き高齢者向け住宅	17人 17.9%	8人 8.4%	25人 26.3%
グループホーム	5人 5.3%	0人 0.0%	5人 5.3%
特定施設	3人 3.2%	0人 0.0%	3人 3.2%
地域密着型特定施設	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護老人保健施設	8人 8.4%	9人 9.5%	17人 17.9%
療養型・介護医療院	0人 0.0%	4人 4.2%	4人 4.2%
特別養護老人ホーム	22人 23.2%	3人 3.2%	25人 26.3%
地域密着型特別養護老人ホーム	0人 0.0%	1人 1.1%	1人 1.1%
その他	0人 0.0%	2人 2.1%	2人 2.1%
行先を把握していない			0人 0.0%
合計	64人 67.4%	31人 32.6%	95人 100.0%

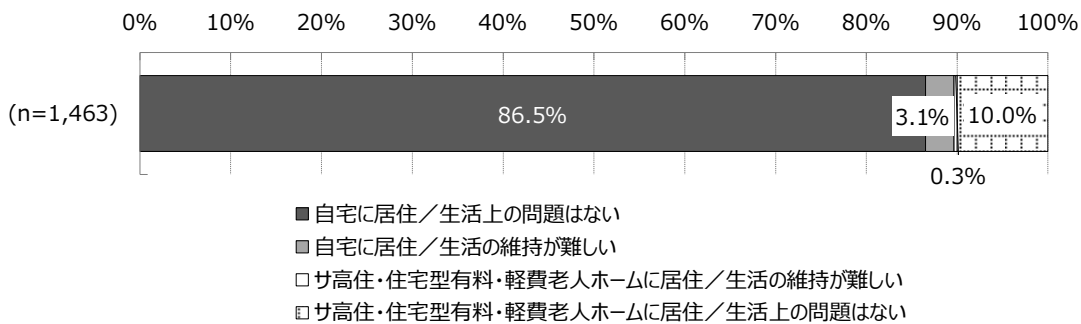
※「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めません。

〔2〕在宅生活の維持が難しくなっている人

居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所に、利用者数についてたずねたところ、「自宅」にお住まいの利用者は合計 1,312 人、「サービス付き高齢者向け住宅」、「住宅型有料老人ホーム」、「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者は合計 151 人で、自宅等にお住まいの利用者は合わせて 1,463 人となっています。

また、所属するケアマネジャーに、「自宅等にお住まいで、現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている利用者」についてたずねたところ、合計 51 人の方が該当するとの回答がありました。このことから、回答のあった事業所の利用者のうち、現在、自宅等にお住まいで、生活の維持が難しくなっている利用者の割合は 3.5%となります。

【在宅生活の維持が難しくなっている利用者】



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに
居住する利用者のうち、生活の維持が難しくなっている割合



3.5%

※回答のあった事業所について集計しています。

「自宅等にお住まいで、現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている利用者」の属性については、「その他の同居で、自宅（持ち家）に住む、要介護3以上の方」が17.6%と最も多く、次いで、「独居で、自宅（持ち家）に住む、要介護2以下の方」と「独居で、自宅（持ち家）に住む、要介護3以上の方」がそれぞれ15.7%となっています。

【在宅生活の維持が難しくなっている利用者の属性】

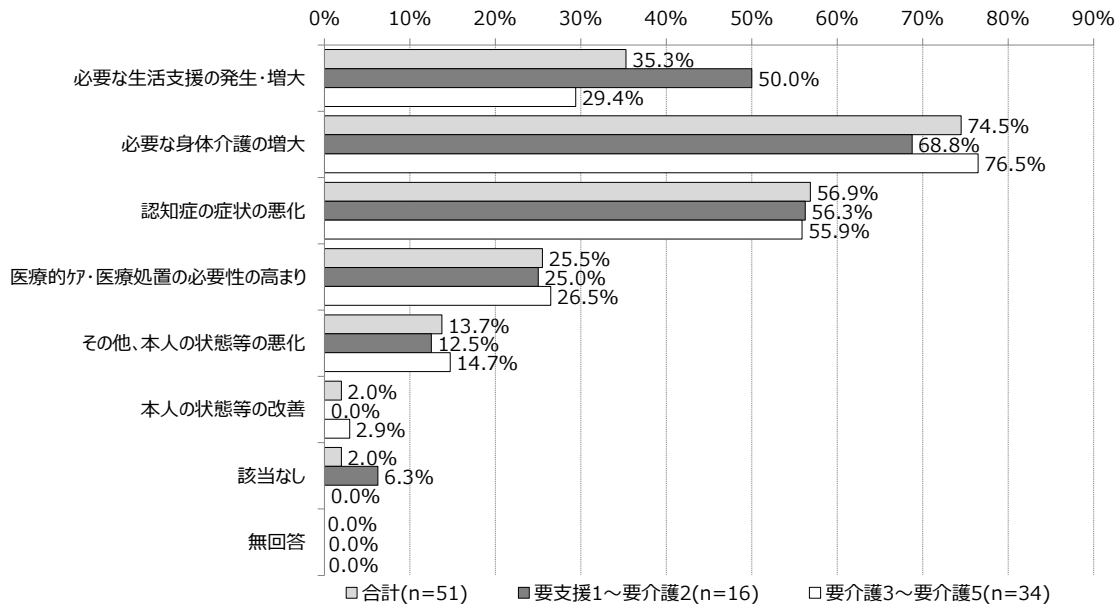
順位	回答数	割合	世帯類型				居所			要介護度	
			独居	夫婦のみ	単身の子ども同居	その他の同居	自宅（持ち家）	自宅（借家）	サ高住・住宅型有料・軽費	要介護2以下	要介護3以上
1	9人	17.6%				★	★			★	
2	8人	15.7%	★				★		★		
3	8人	15.7%	★				★			★	
4	6人	11.8%		★			★			★	
5	5人	9.8%			★		★			★	
6	2人	3.9%	★					★		★	
7	2人	3.9%	★					★	★		
8	2人	3.9%	★					★		★	
9	2人	3.9%		★			★		★		
10	2人	3.9%				★	★		★		
上記以外	5人	10.0%									
合計	51人	100.0%									

※「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。

〔3〕在宅生活の維持が難しくなっている理由

居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所に所属するケアマネジャーに、「現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている理由」についてたずねたところ、本人の状態等に属する理由は、「必要な身体介護の増大」が74.5%と最も多く、次いで、「認知症の症状の悪化」が56.9%となっています。

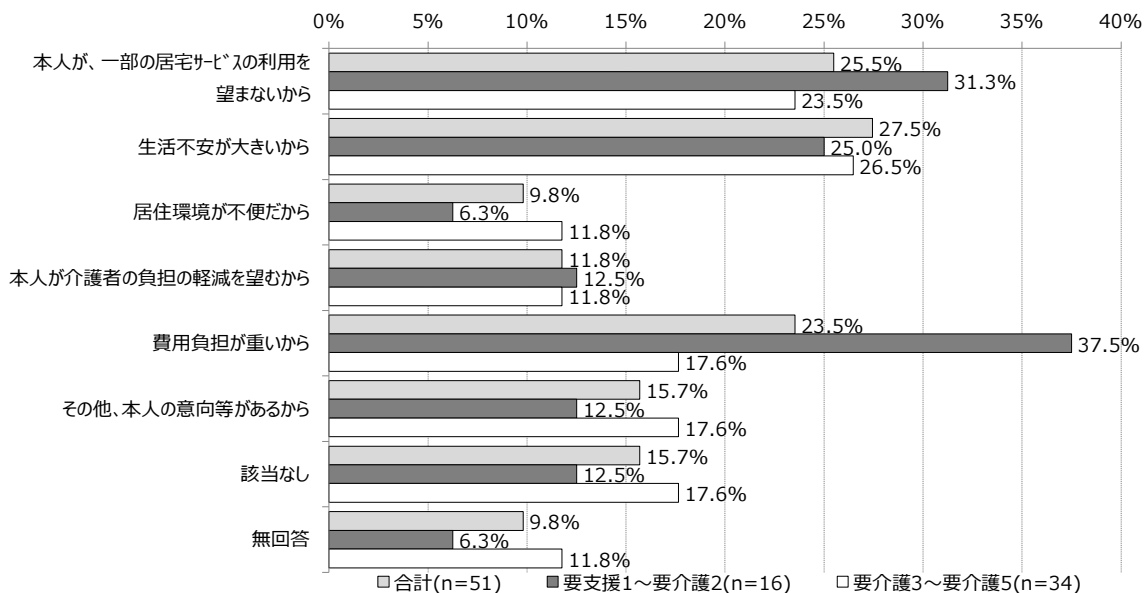
【在宅生活の維持が難しくなっている理由(本人の状態等、複数回答)】



※回答のあった事業所について集計しています。

また、本人の意向等に属する理由では、「生活不安が大きいから」が27.5%と最も多く、次いで、「本人が一部の居宅サービスの利用を望まないから」が25.5%となっています。要支援1~要介護2では、「費用負担が重いから」が37.5%と最も多くなっています。

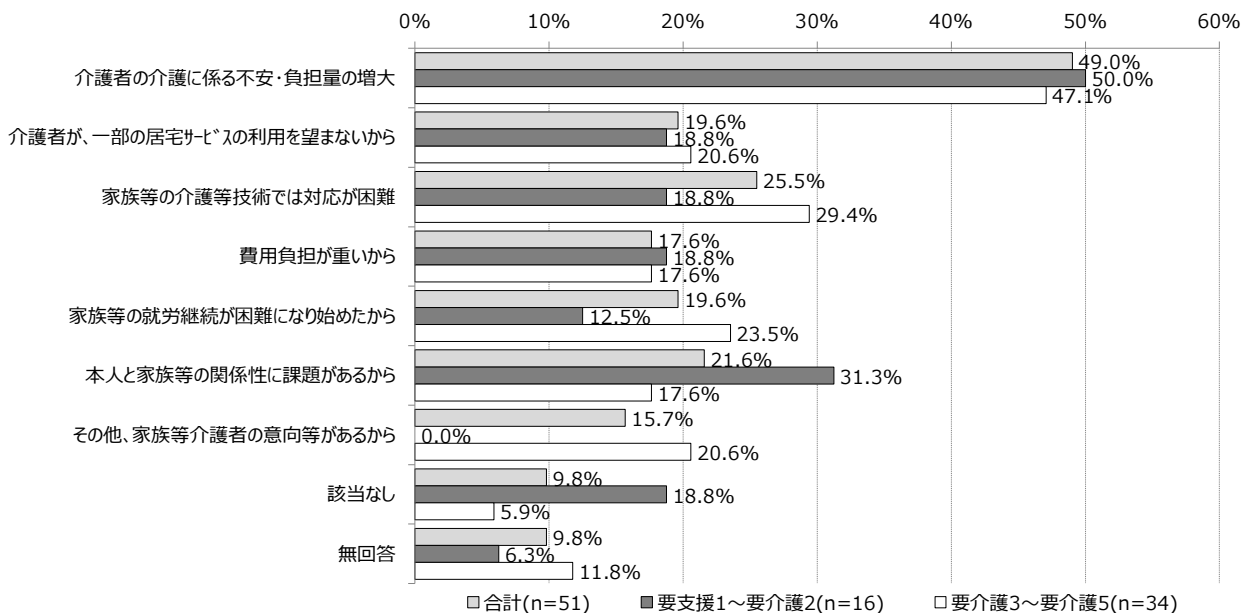
【在宅生活の維持が難しくなっている理由(本人の意向等、複数回答)】



Ⅲ. 事業所向け調査結果 3. 在宅生活改善調査

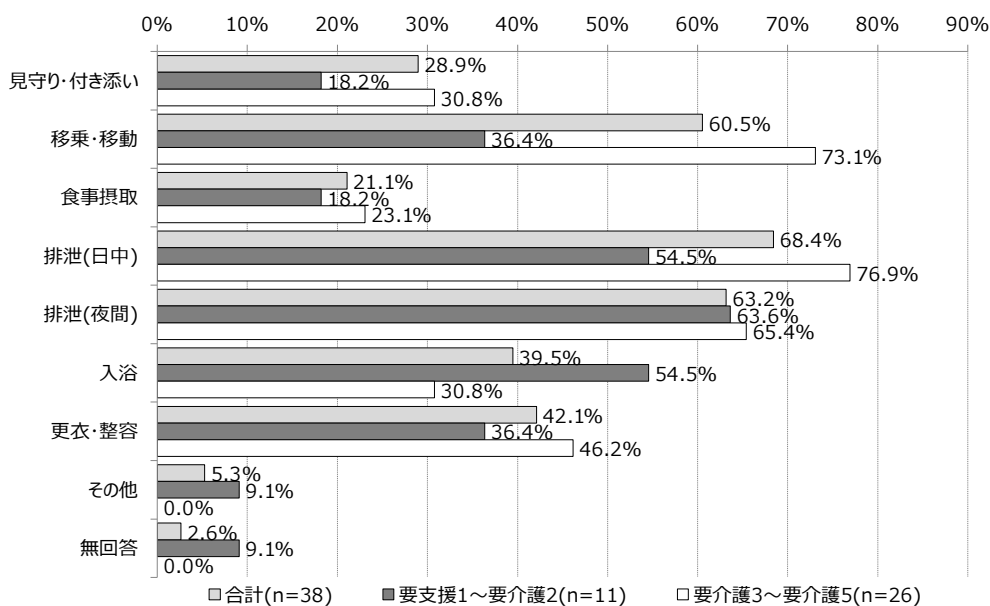
家族等介護者の意向・負担等に属する理由では、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が49.0%と最も多くなっています。

【在宅生活の維持が難しくなっている理由(家族等介護者の意向・負担等、複数回答)】



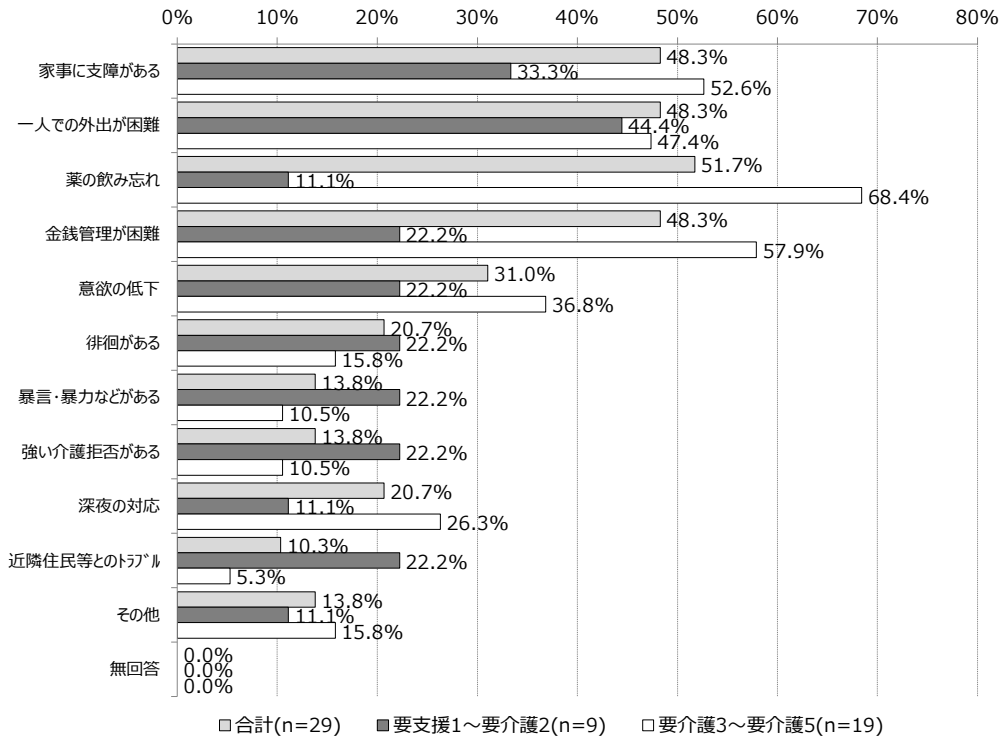
本人の状態等に属する理由で「必要な身体介護の増大」と回答した人に、その具体的な内容をたずねたところ、「排泄（日中）」が68.4%と最も多く、次いで、「排泄（夜間）」が63.2%、「移乗・移動」が60.5%となっています。

【「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容(複数回答)】



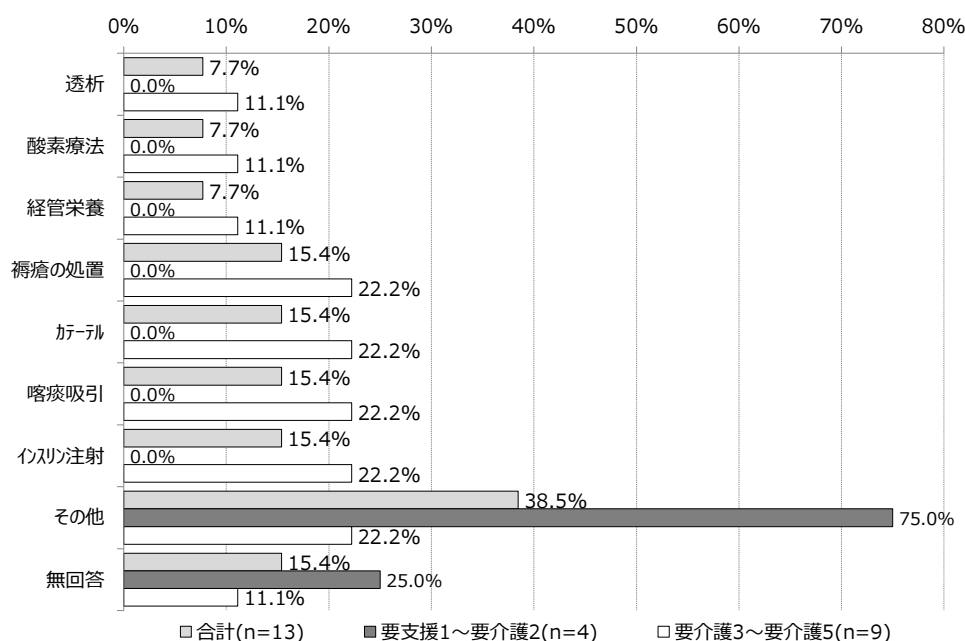
本人の状態等に属する理由で「認知症の症状の悪化」と回答した人に、その具体的な内容をたずねたところ、「薬の飲み忘れ」が 51.7%と最も多く、次いで、「家事に支障がある」、「一人での外出が困難」、「金銭管理が困難」がそれぞれ 48.3%となっています。

【「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容(複数回答)】



本人の状態等に属する理由で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」と回答した人に、その具体的な内容をたずねたところ、要介護3～要介護5で「褥瘡の処置」、「カテーテル」、「喀痰吸引」、「インスリン注射」がそれぞれ 2割台となっています。

【「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容(複数回答)】



※ 「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「ストーマの処置」、「レスピレーター」、「気管切開の処置」、「疼痛の看護」、「モニター測定」についてはいずれも回答0件だったため、グラフから割愛しています。

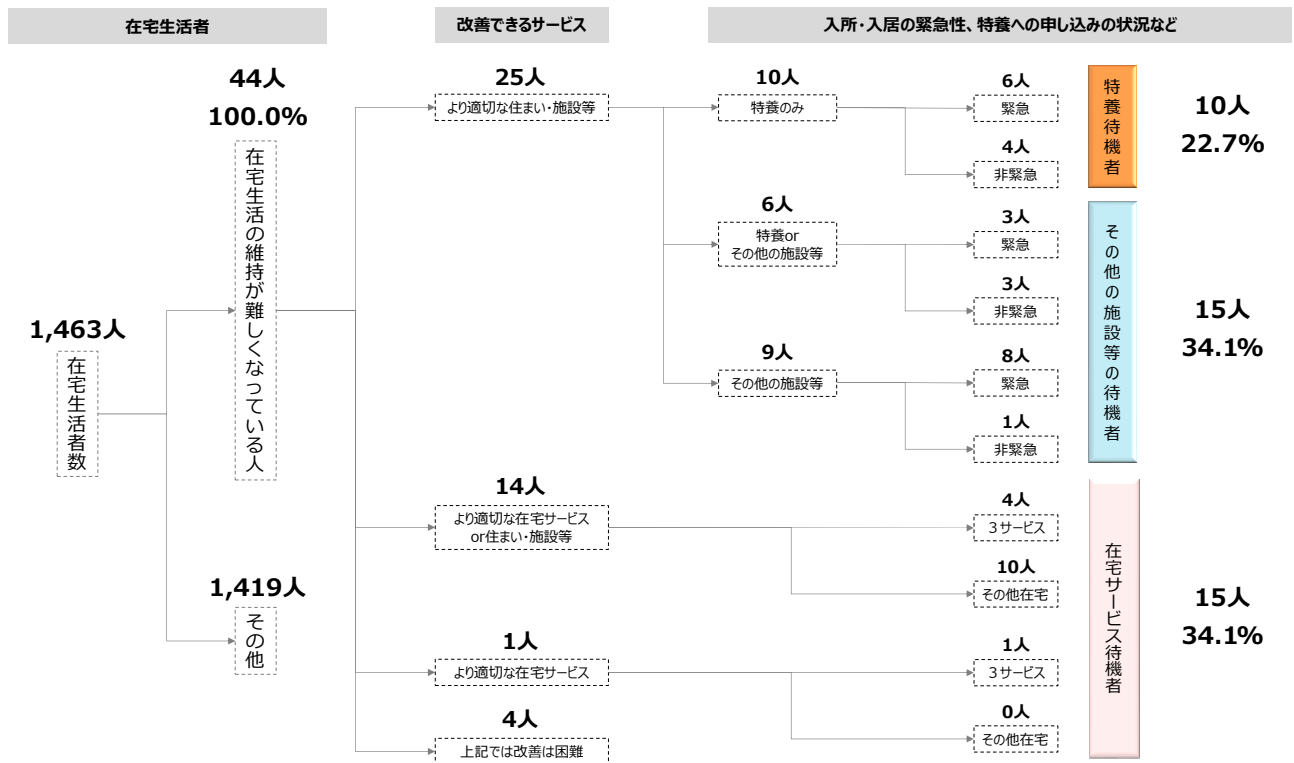
〔4〕在宅生活の維持が難しくなっている状況を改善するためのサービス変更

居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所に所属するケアマネジャーに、「在宅生活の維持が難しくなっている状況に対し、どのようなサービスに変更することで改善できるか」についてたずねたところ、「より適切な住まい・施設等」への変更で生活の維持が可能な人が 25 人、「より適切な在宅サービスまたは住まい・施設等」への変更で生活の維持が可能な人が 14 人との回答がありました。

「より適切な住まい・施設等」への変更で生活の維持が可能な場合について、住まい・施設等の種類についてたずねたところ、「特別養護老人ホーム」への変更で生活の維持が可能と考えられる「特養待機者」は 22.7%、特別養護老人ホームもしくはその他の施設等への変更で生活の維持が可能と考えられる「その他の施設等の待機者」は 34.1%となっています。

また、「より適切な在宅サービス」への変更で生活の維持が可能と考えられる「在宅サービス待機者」は 34.7%となっています。

【「在宅生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更】

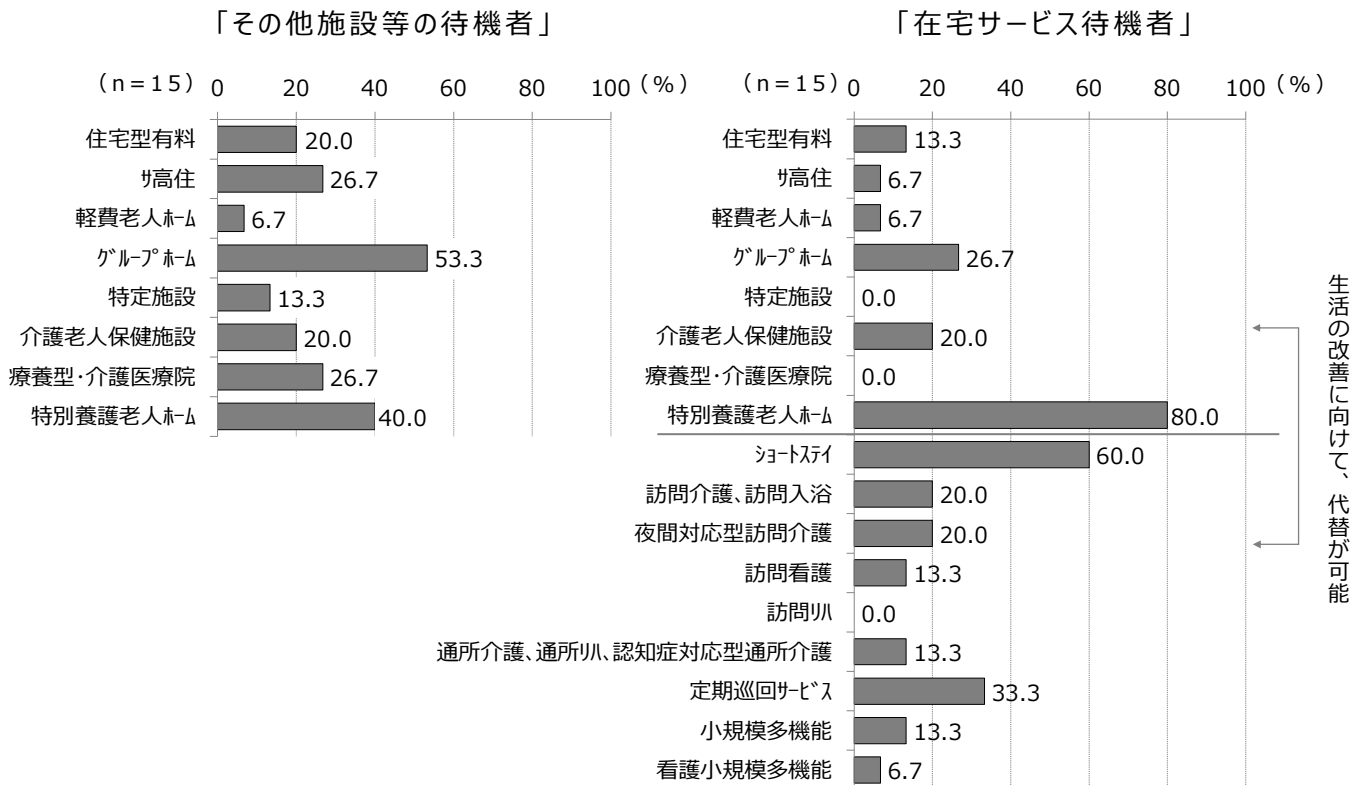


- ※1 「より適切な在宅サービス or 住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
- ※2 p.156〔2〕で回答のあった「現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている利用者」の合計 51 人のうち、上記の「生活の改善に必要なサービス変更」の分類が可能な方（44 人）について分類しています（分類不能な方（7 人）は「その他」に算入しています）。割合は、44 人を分母として算出したものです。
- ※3 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
- ※4 上の図において、「在宅サービス待機者」の「3 サービス」とは、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を指し、それ以外の在宅サービスを「その他在宅」とします。

また、「その他の施設等の待機者（34.1%）」において、より適切と思われる具体的なサービスについてたずねたところ、「グループホーム」が53.3%と最も多くなっています。

「在宅サービス待機者（34.7%）」においては、「ショートステイ」が60.0%となっています。（※複数回答となっているため、住まい・施設等のサービスにおいては、「特別養護老人ホーム」が80.0%となっています。）

【生活の改善に適切なサービス(複数回答)】



※1 割合は、それぞれ、その他施設等の待機者15人、在宅サービス待機者15人を分母として算出したものです。

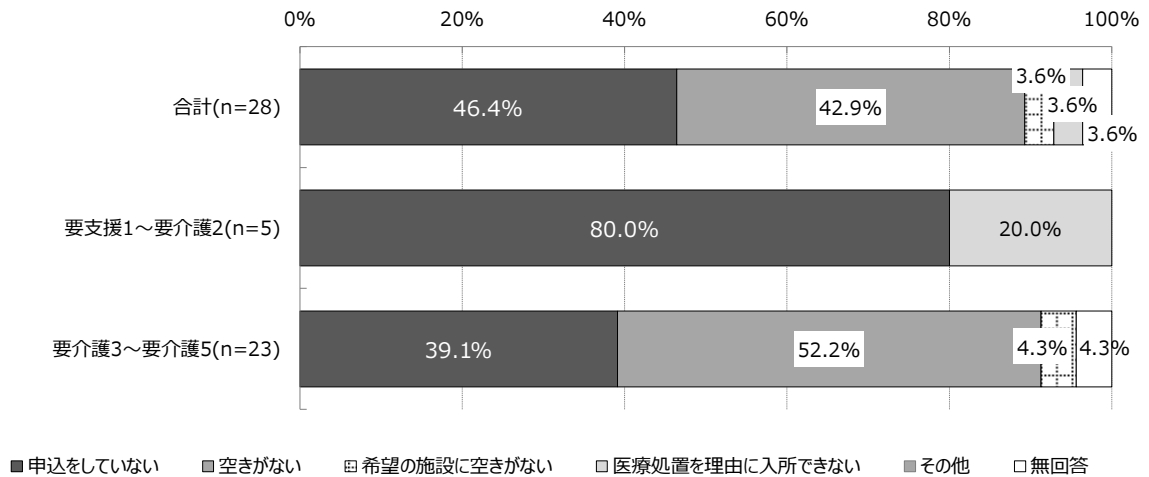
※2 「在宅サービス待機者」について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」と「在宅サービス」の両方を回答している場合は、代替が可能としています。

〔5〕特養または特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由

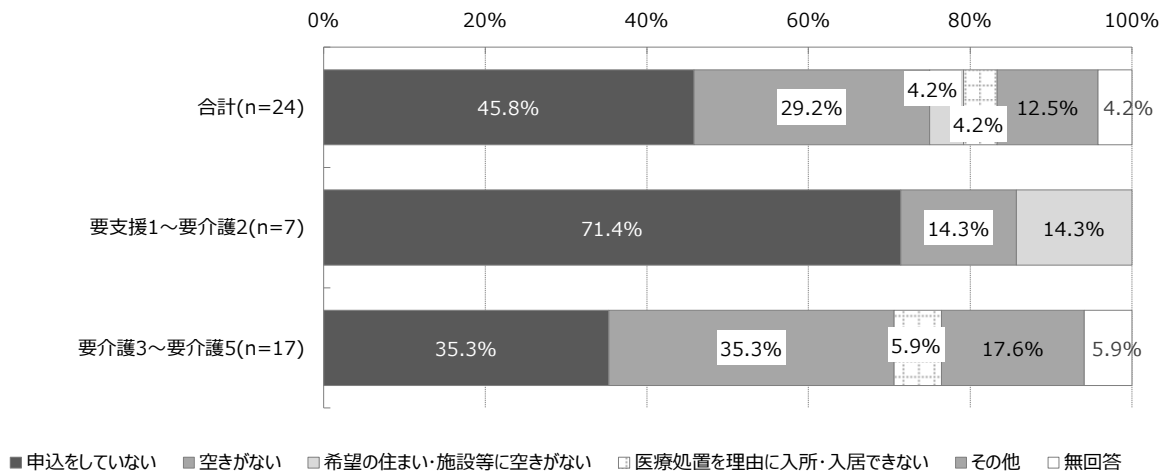
特別養護老人ホームに入所できていない理由について、回答のあったケアマネジャーにたずねたところ、「申込をしていない」が46.4%、「空きがない」が42.9%となっており、要介護3～5でも「申込をしていない」が4割ほどみられます。

特別養護老人ホーム以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由でも、「空きがない」以上に「申込をしていない」人が多いことがわかります。

【特養に入所できていない理由(改善に適切なサービスで、特養を選択した人)】



【特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由(改善に適切なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人)】



4. 介護サービス事業所調査

介護サービス事業所調査は、「介護人材実態調査【訪問系】（調査票①）」、「介護人材実態調査【施設系・通所系】（調査票③）」、「在宅生活改善調査（調査票⑤）」に共通の内容となっています。そのため、それぞれの問番号が異なる場合があります。

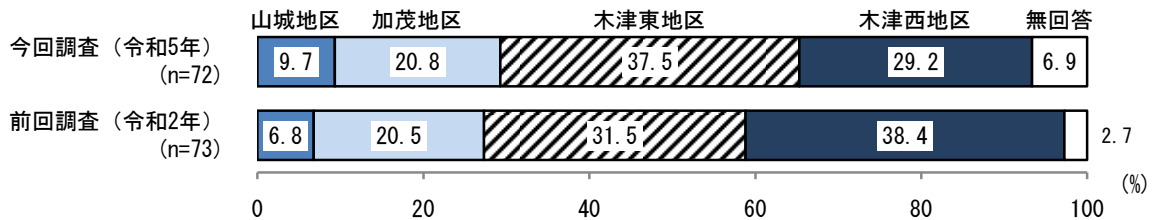
1 事業所について

〔1〕事業所の所在地

【①：問3、③⑤：問4】

■ 貴事業所の所在地はどこですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

事業所の所在地は、「木津東地区」が 37.5%と最も多く、次いで、「木津西地区」が 29.2%、「加茂地区」が 20.8%、「山城地区」が 9.7%となっています。

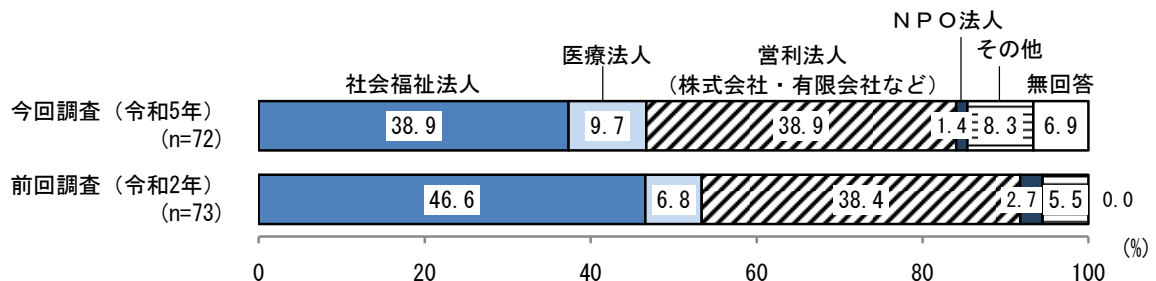


〔2〕事業所の運営主体

【①：問4、③⑤：問5】

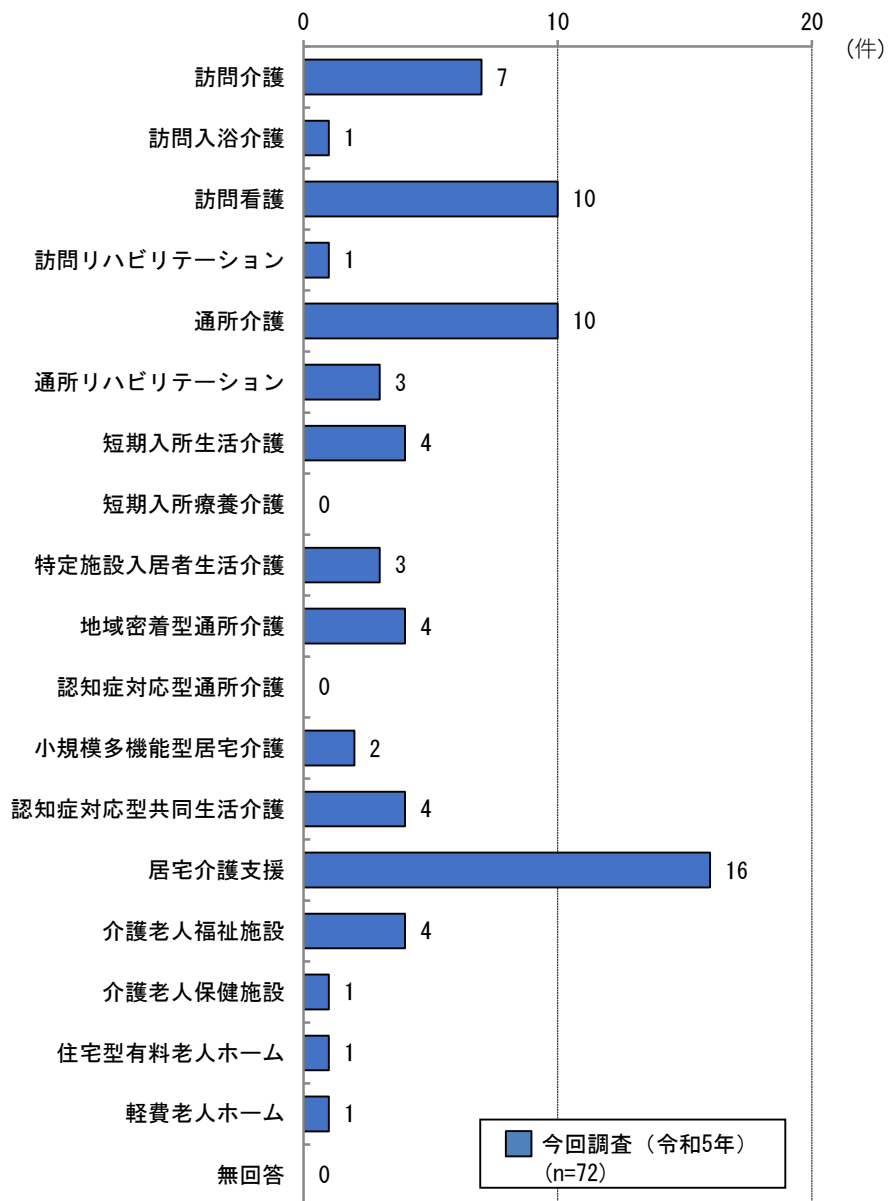
■ 貴事業所の運営主体について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

事業所の運営主体は、「社会福祉法人」、「営利法人（株式会社・有限会社など）」がそれぞれ 38.9%と最も多く、次いで、「医療法人」が 9.7%、「NPO法人」が 1.4%となっています。



〔3〕提供しているサービス

提供しているサービスは、「居宅介護支援」が 16 事業所と最も多く、次いで、「通所介護」、「訪問看護」がそれぞれ 10 事業所となっています。

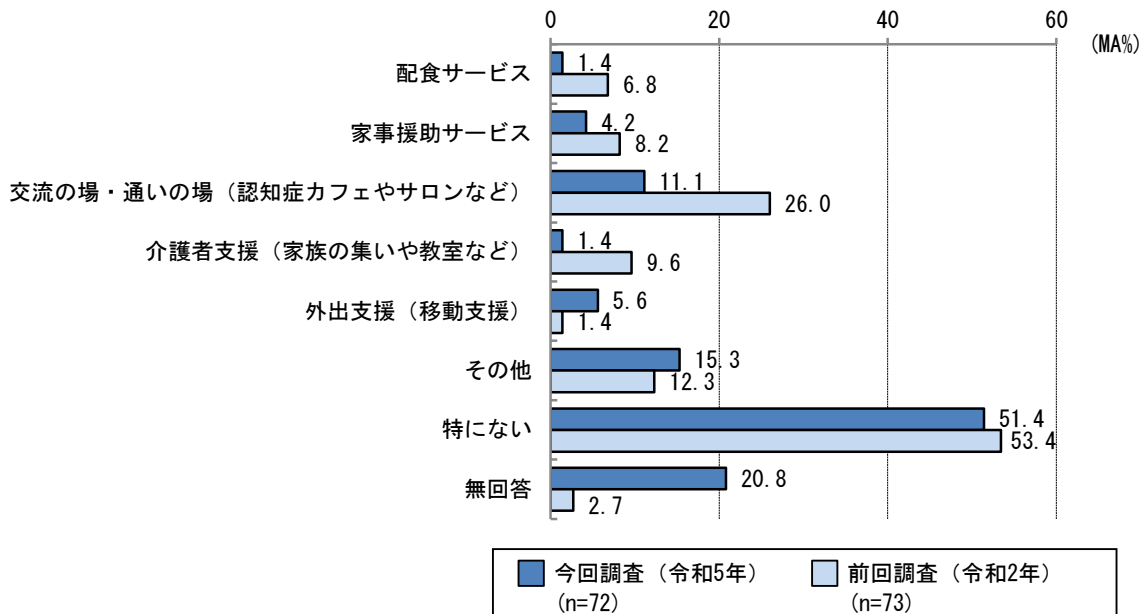


[4]介護保険以外で提供しているサービス

【①:問5、③⑤:問6】

■ 貴事業所では、介護保険以外で提供しているサービスはありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

介護保険以外で提供しているサービスは、「交流の場・通いの場（認知症カフェやサロンなど）」が 11.1%と最も多く、次いで、「外出支援（移動支援）」が 5.6%、「家事援助サービス」が 4.2%となっています。



【「その他」の回答内容】

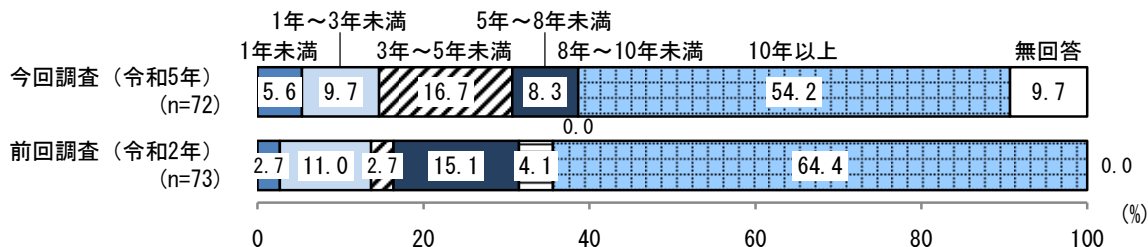
内 容	件数
訪問看護サービス (医療保険)	2件
食事、送迎、健康相談、運動、行事、リハビリパンツ貸出	2件
障害福祉サービス (障害者総合支援、居宅介護、重度訪問介護)	1件
介護予防事業	1件
子ども食堂	1件

〔5〕事業所の開始経過年数

【①③：問2-2、⑤：問7】

■ 貴事業所の開設時期について、ご記入ください。(数値を記入)

事業所の開始経過年数は、「10年以上」が54.2%と最も多く、次いで、「3年～5年未満」が16.7%、「1年～3年未満」が9.7%となっています。



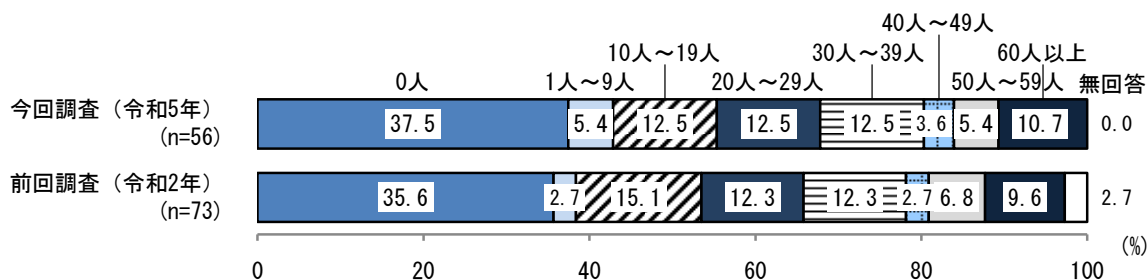
〔6〕利用定員数

【①：問6、③：問7、⑤：設問なし】

■ 貴事業所の利用定員数をご記入ください。

- ※訪問系サービスは「0」を記入。
- ※小規模多機能型居宅介護については、登録定員を記入。
- ※通所系サービスは、1日の定員数を記入。
- ※短期入所生活介護の空床利用型分は除く。

利用定員数は、「0人」が37.5%と最も多く、次いで、「10人～19人」、「20人～29人」、「30人～39人」がそれぞれ12.5%、「60人以上」が10.7%となっています。



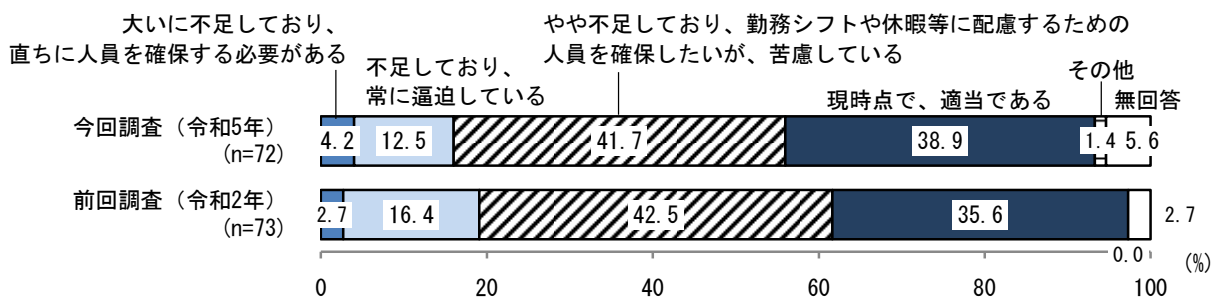
2 職員の確保について

〔1〕職員の配置状況

【①：問7、③⑤：問8】

■ 貴事業所の職員の配置状況について、現在どのような状況ですか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

職員の配置状況は、「やや不足しており、勤務シフトや休暇等に配慮するための人員を確保したいが、苦慮している」が 41.7%と最も多く、次いで、「現時点で、適当である」が 38.9%、「不足しており、常に逼迫している」が 12.5%となっています。『不足している』と回答している事業所は合計 58.4%で、前回調査に比べて 3.2 ポイント減少しています。

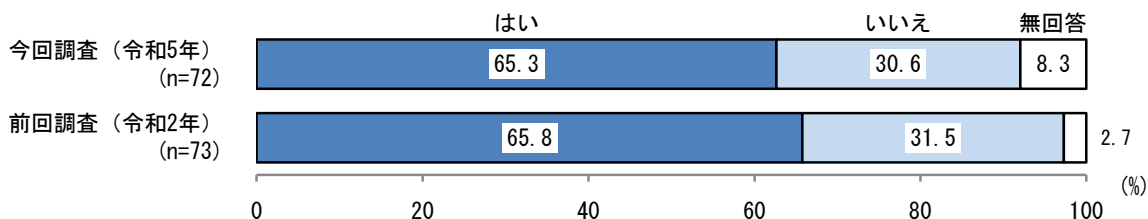


〔2〕職員を確保するために苦慮していること

【①：問8、③⑤：問9】

■ 貴事業所で職員を確保するにあたって、苦慮していることはありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

職員を確保するために苦慮していることがあるかについては、「はい」が 65.3%、「いいえ」が 30.6%となっています。

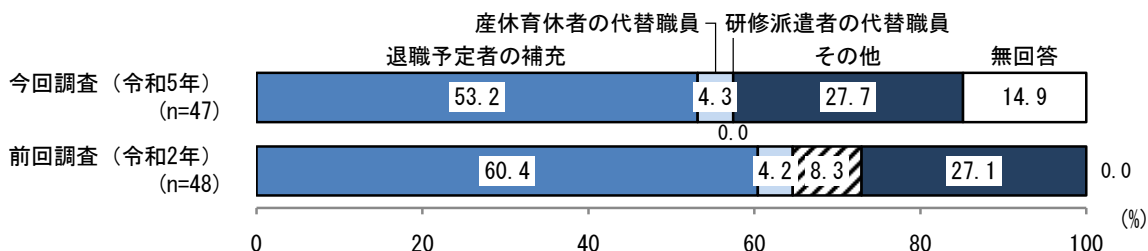


【「1 はい」と回答した事業所】

【①：問9、③⑤：問10】

■ どのようなことに苦慮されていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

職員を確保するために苦慮していることは、「退職予定者の補充」が 53.2%と最も多く、次いで、「産休育休者の代替職員」が 4.3%となっています。



【「その他」の回答内容】

内 容	件数
人員の確保	5件
有給取得が困難	2件
自由な採用ができない	2件
賃金の確保	2件
コロナ関連による突然の休み	1件
サービスの需要と供給の不一致	1件

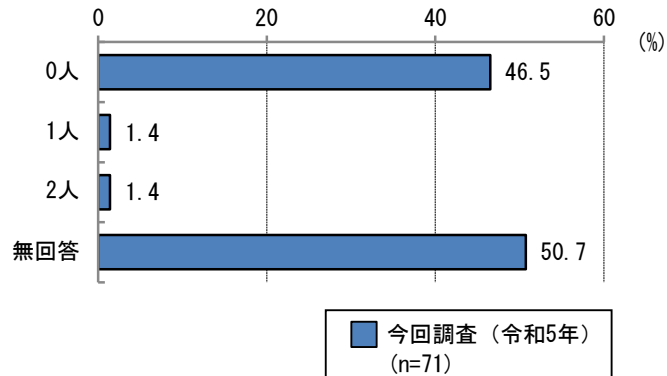
〔3〕離職者数について

【①③：問2-5、⑤：問11】

■ 過去1年間の介護職員の離職者数についてご記入ください。(数値を記入)

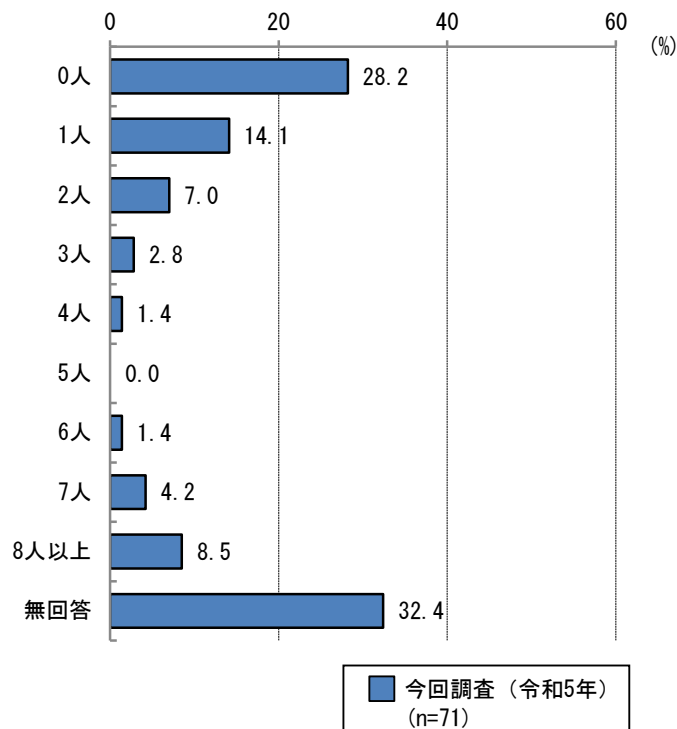
定年による離職者数

定年による離職者数は、「0人」が46.5%と最も多く、次いで、「1人」、「2人」がそれぞれ1.4%となっています。



定年以外の理由による離職者数

定年以外の理由による離職は、「0人」が28.2%と最も多く、次いで、「1人」が14.1%、「8人以上」が8.5%となっています。



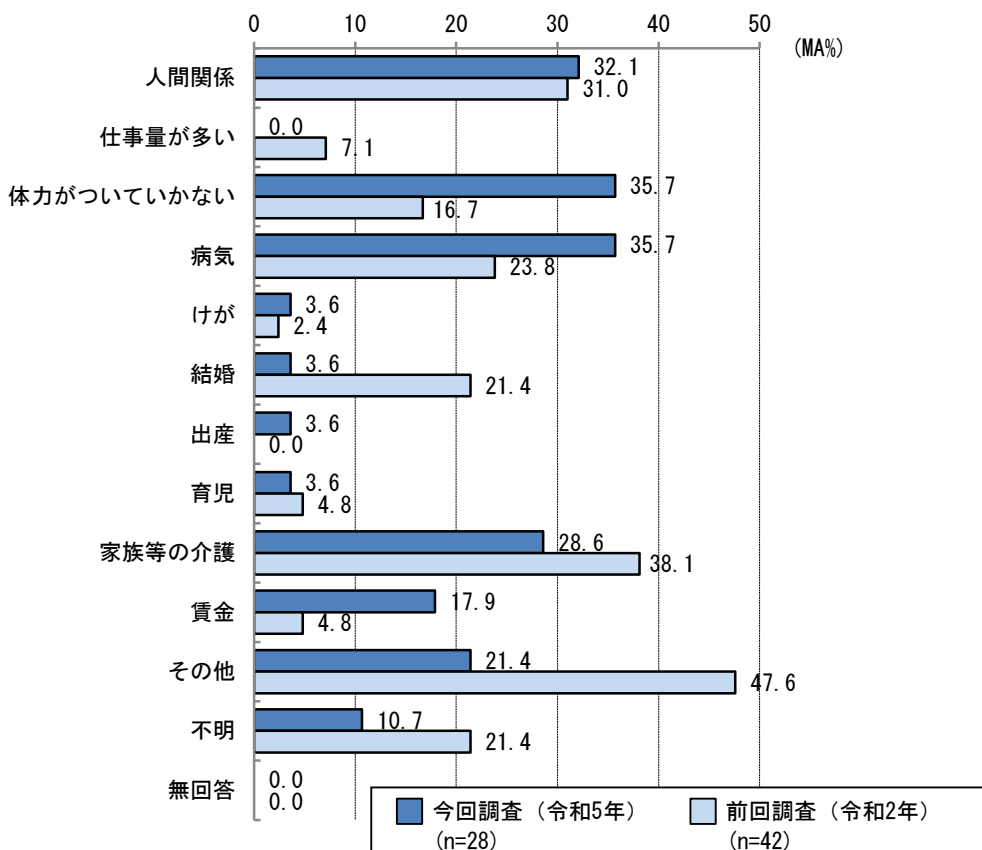
〔4〕定年以外で離職した理由

【「2 定年以外の理由による離職」と回答した事業所】

【①③：問2-6、⑤：問12】

■ 定年以外で離職された理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

定年以外で離職した理由は、「体力がついていかない」、「病気」がそれぞれ 35.7%と最も多く、次いで、「人間関係」が 32.1%、「家族等の介護」が 28.6%となっています。前回調査に比べて、「体力がついていかない」は 19.0 ポイント、「病気」は 11.9 ポイント増加しています。



【「その他」の回答内容】

内 容	件数
派遣契約終了	2件
他の仕事をしたい	2件
常勤希望	1件
介護方針の方向性の違い	1件
一身上の都合	1件

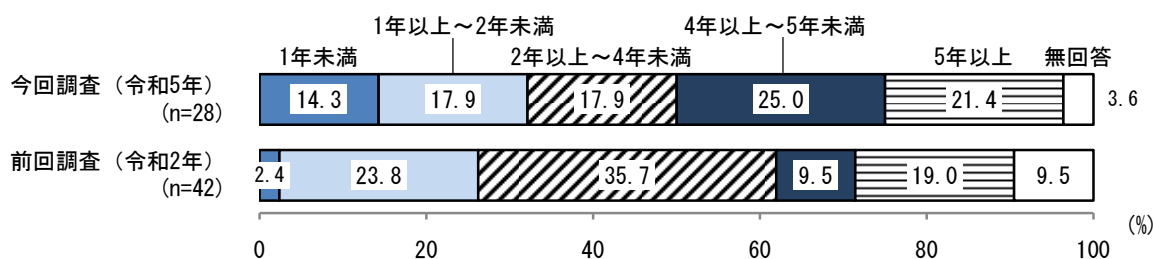
〔5〕離職者の入職後の平均経験年数

【「2 定年以外の理由による離職」と回答した事業所】

【①③：問2-7、⑤：問13】

■ 定年以外で離職された方の貴事業所での入職後の平均経験年数をご記入ください。
 （人事異動等で職場を異動した場合、前の職場の年数は含めないでください）

離職者の入職後の平均経験年数は、「4年以上～5年未満」が25.0%と最も多く、次いで、「5年以上」が21.4%、「1年以上～2年未満」、「2年以上～4年未満」がそれぞれ17.9%となっています。

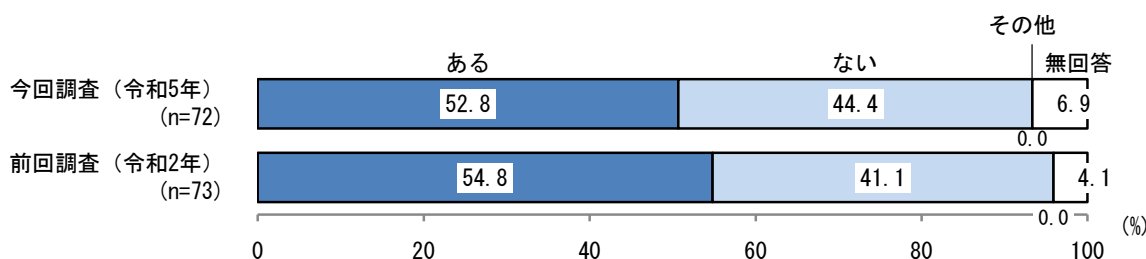


〔6〕他の法人の事業所との連携

【①：問10、③：問11、⑤：問14】

■ 貴事業所では、他の法人の事業所との連携はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

他の法人の事業所との連携は、「ある」が52.8%、「ない」が44.4%となっています。



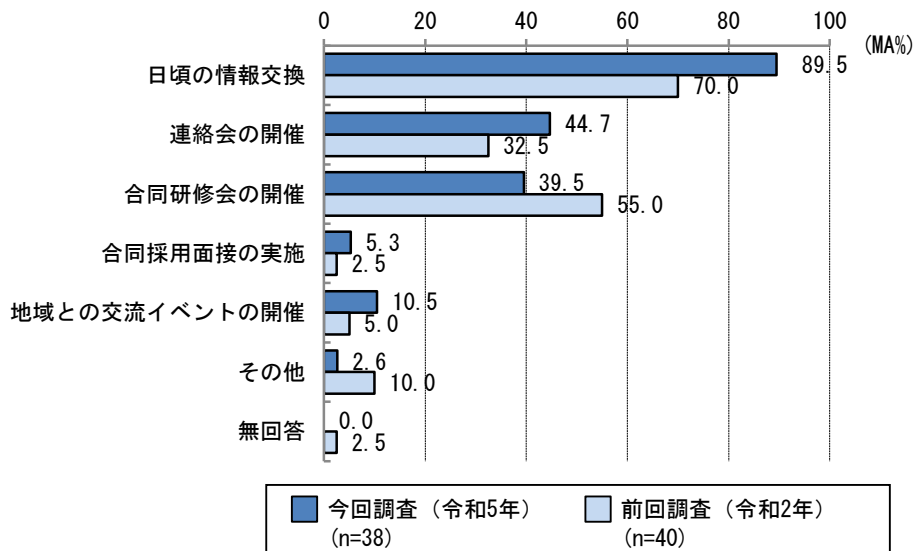
Ⅲ. 事業所向け調査結果 4. 介護サービス事業所調査

【「1 ある」と回答した事業所】

【①：問11、③：問12、⑤：問15】

■ どのようなことを連携していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

他の法人の事業所と連携している内容は、「日頃の情報交換」が 89.5%と最も多く、次いで、「連絡会の開催」が 44.7%、「合同研修会の開催」が 39.5%となっています。



【「その他」の回答内容】

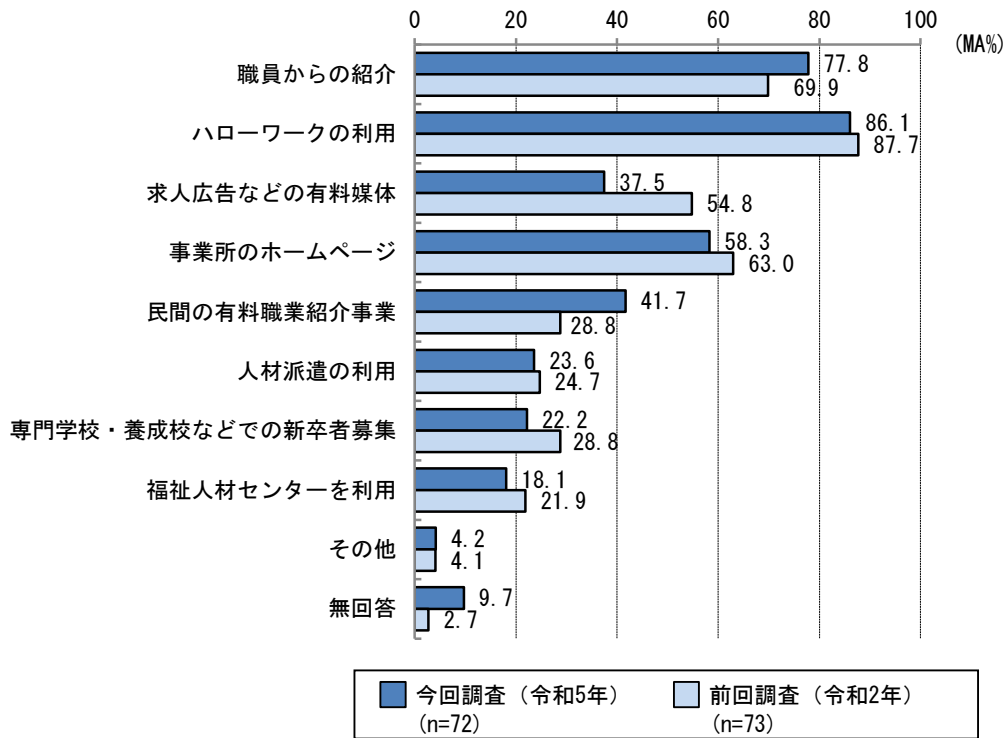
内 容	件数
職員採用時等の研修を依頼	1件

[7]職員募集の方法

【①:問12、③:問13、⑤:問16】

■ 貴事業所における職員募集の方法はどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員募集の方法は、「ハローワークの利用」が 86.1%と最も多く、次いで、「職員からの紹介」が 77.8%、「事業所のホームページ」が 58.3%となっています。

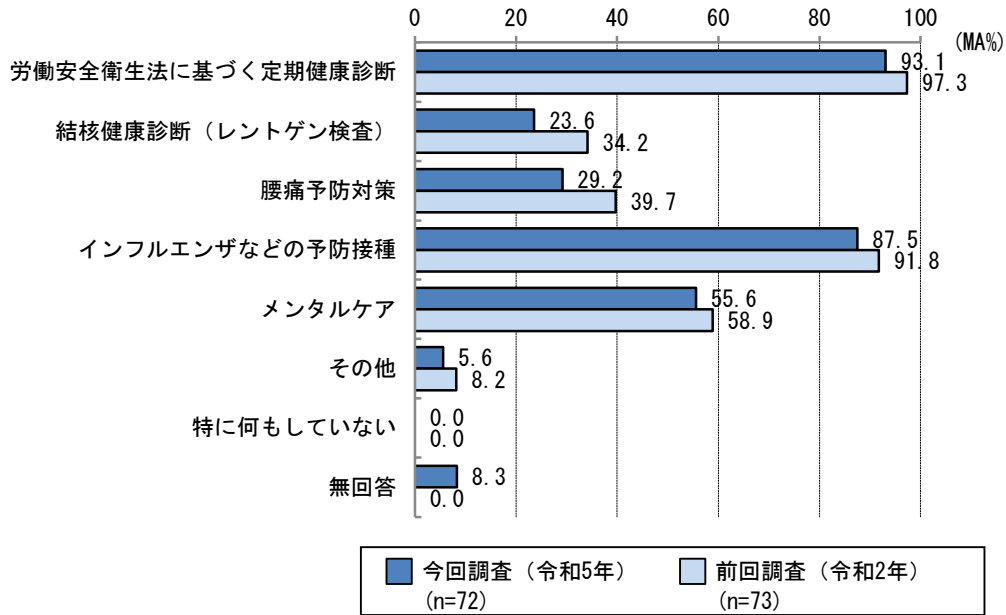


〔8〕職員の健康管理

【①：問13、③：問14、⑤：問17】

■ 貴事業所において、職員の健康管理として実施しているものは何ですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員の健康管理として実施しているものは、「労働安全衛生法に基づく定期健康診断」が93.1%と最も多く、次いで、「インフルエンザなどの予防接種」が87.5%、「メンタルケア」が55.6%となっています。

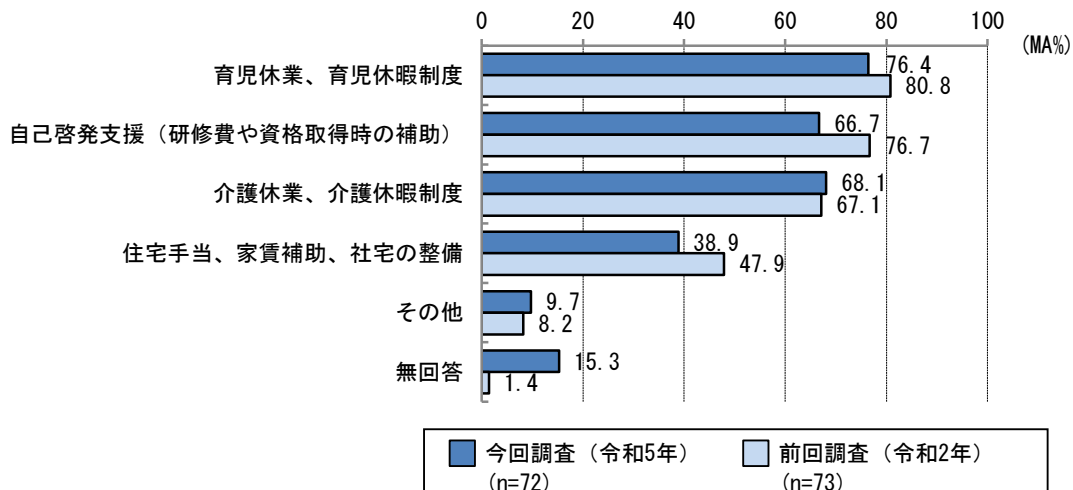


〔9〕福利厚生について

【①：問14、③：問15、⑤：問18】

■ 貴事業所では、福利厚生として、現在どのようなものを導入されていますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

福利厚生で導入しているものは、「育児休業、育児休暇制度」が76.4%と最も多く、次いで、「介護休業、介護休暇制度」が68.1%、「自己啓発支援（研修費や資格取得時の補助）」が66.7%となっています。



3 研修や資格に関することについて

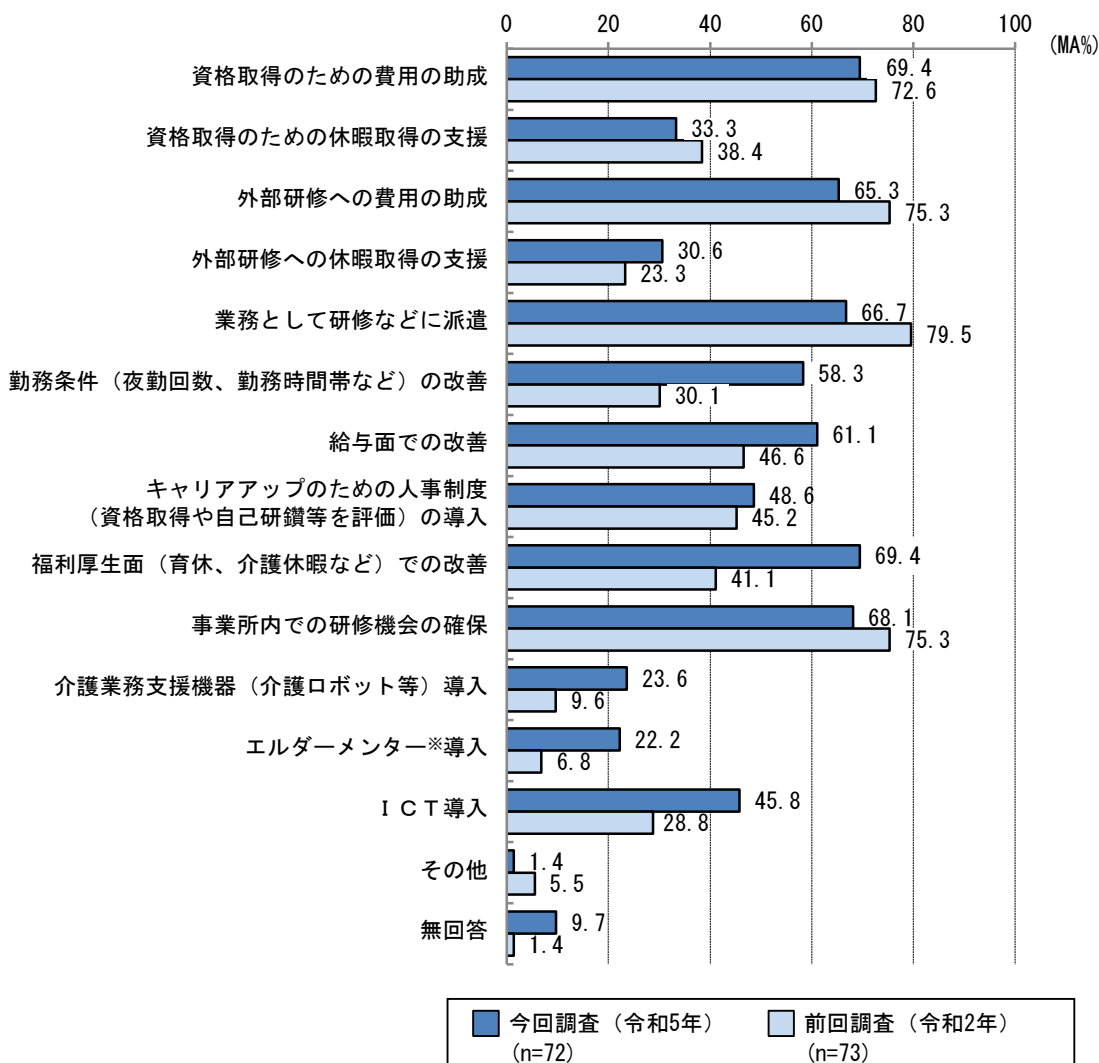
〔1〕職員確保のための取組み

【①：問15、③：問16、⑤：問19】

■ 貴事業所で、職員定着のために行っている取組み、また、現在行ってはいるが、職員定着のために必要と思われる取組みにはどのようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員定着のために行っている取組みは、「資格取得のための費用の助成」、「福利厚生面（育休、介護休暇など）での改善」がそれぞれ 69.4%と最も多く、次いで、「事業所内での研修機会の確保」が 68.1%、「業務として研修などに派遣」が 66.7%となっています。前回調査に比べて、「勤務条件（夜勤回数、勤務時間帯など）の改善」が 28.2 ポイント、「福利厚生面（育休、介護休暇など）での改善」が 28.3 ポイント増加しています。

【現在行っている取組み】

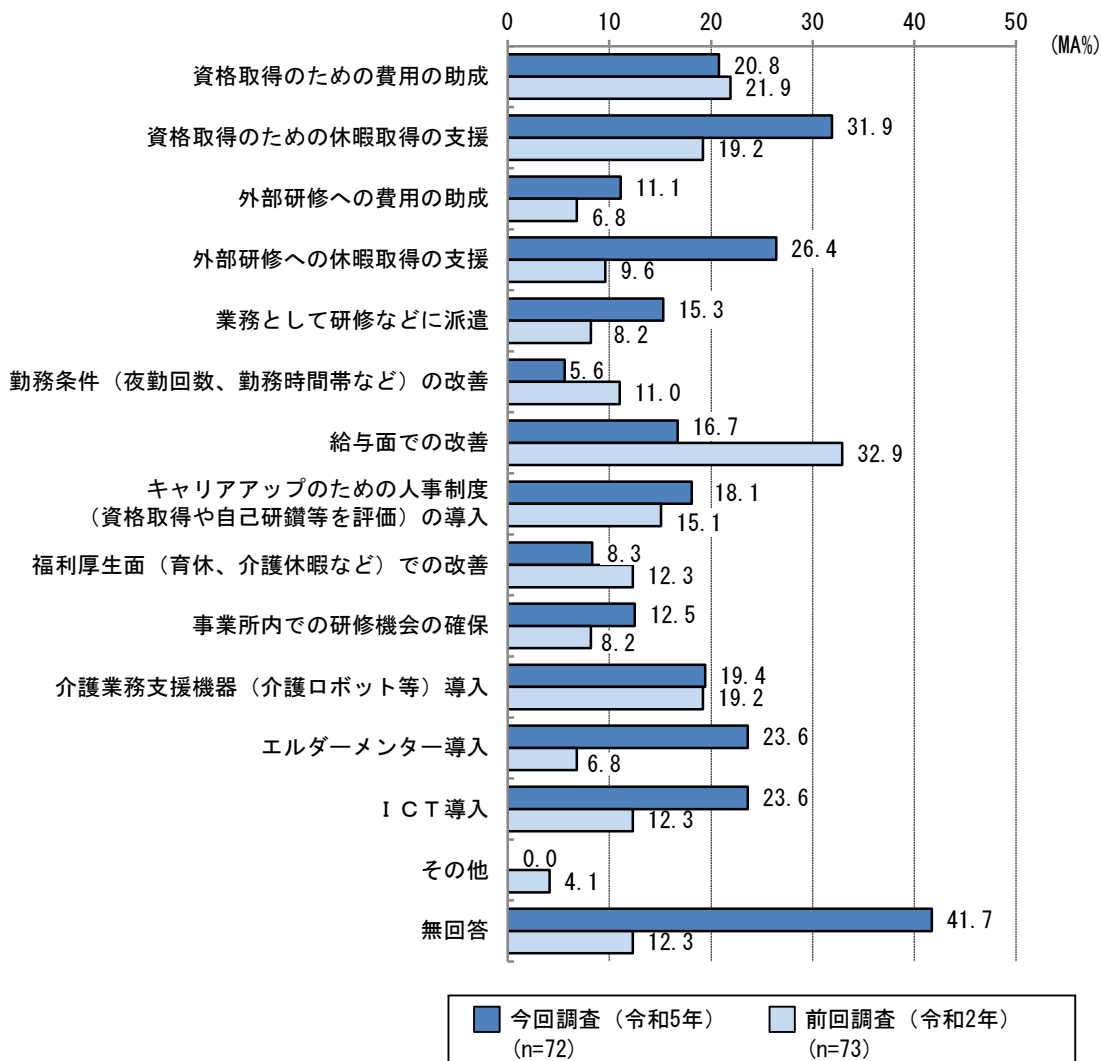


※エルダーメンター…上司ではなく、経験を積み、業務の知識を持った先輩職員が、身近な立場で新人職員の仕事面でのサポートを行うとともに、精神的な仕事の悩みや人間関係、キャリア形成のサポートを行うこと。

Ⅲ. 事業所向け調査結果 4. 介護サービス事業所調査

職員定着のために必要と思われる取組みは、「資格取得のための休暇取得の支援」が31.9%と最も多く、次いで、「外部研修への休暇取得の支援」が26.4%、「エルダーメンター導入」、「ICT導入」がそれぞれ23.6%となっています。前回調査に比べて、「エルダーメンター導入」と「外部研修への休暇取得の支援」が16.8ポイント増加しています。

【必要と思われる取組み】

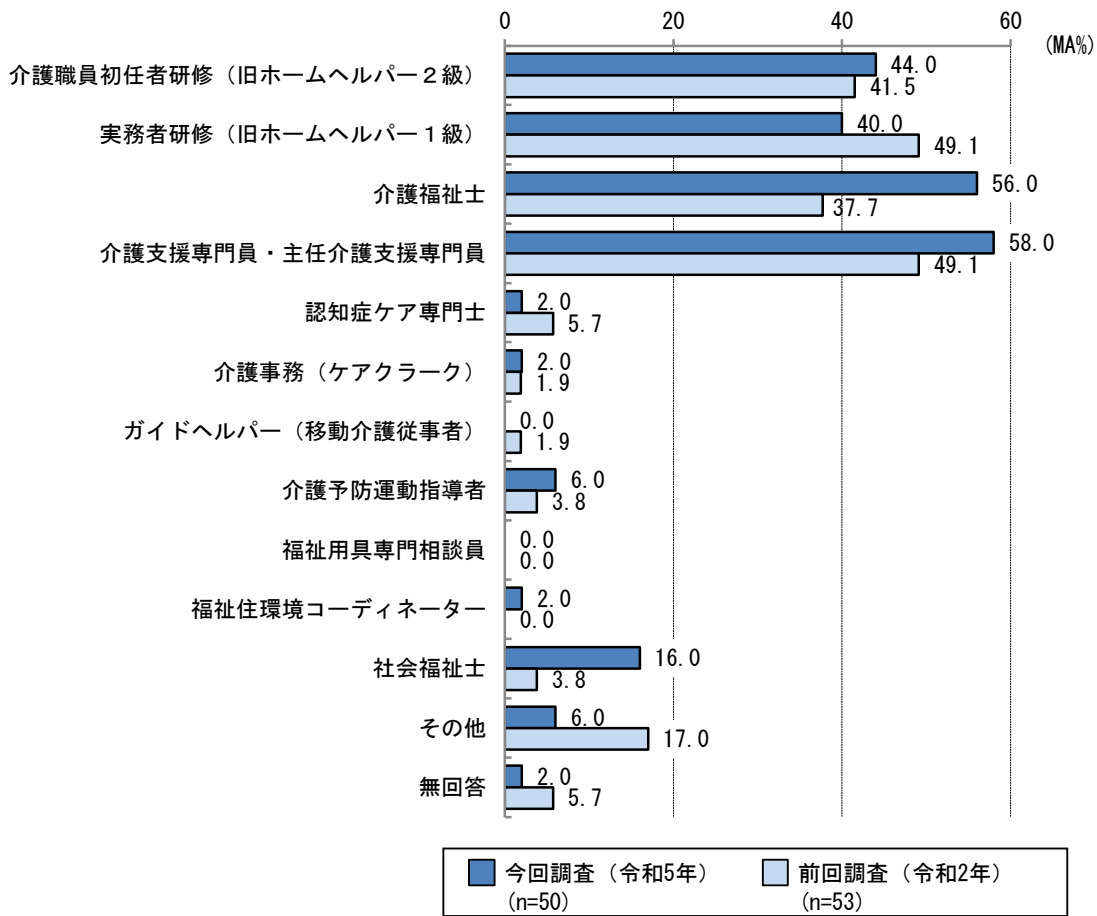


【「1 資格取得のための費用の助成」と回答した事業所】

【①:問16、③:問17、⑤:問20】

■ 次の研修や資格のうち、費用面で職員を支援しているものがあれば、あてはまるものすべてに○をつけてください。

費用面で職員を支援している研修や資格は、「介護支援専門員・主任介護支援専門員」が58.0%と最も多く、次いで、「介護福祉士」が56.0%、「介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）」が44.0%となっています。

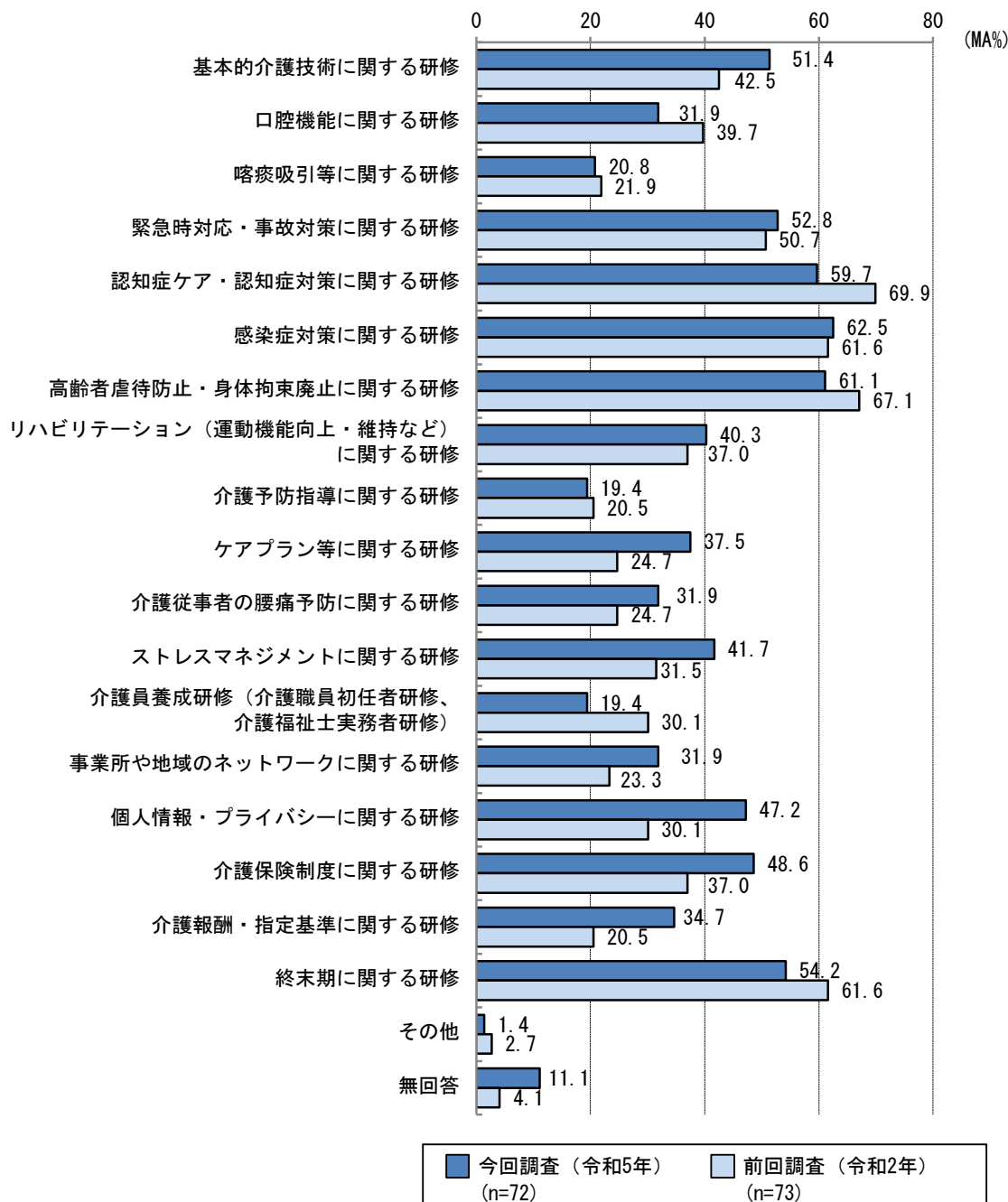


〔2〕職員に受けさせたい研修

【①：問17、③：問18、⑤：問21】

■ 貴事業所の職員に受けさせたい研修はどのようなものがありますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。

職員に受けさせたい研修は、「感染症対策に関する研修」が 62.5%と最も多く、次いで、「高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修」が 61.1%、「認知症ケア・認知症対策に関する研修」が 59.7%となっています。



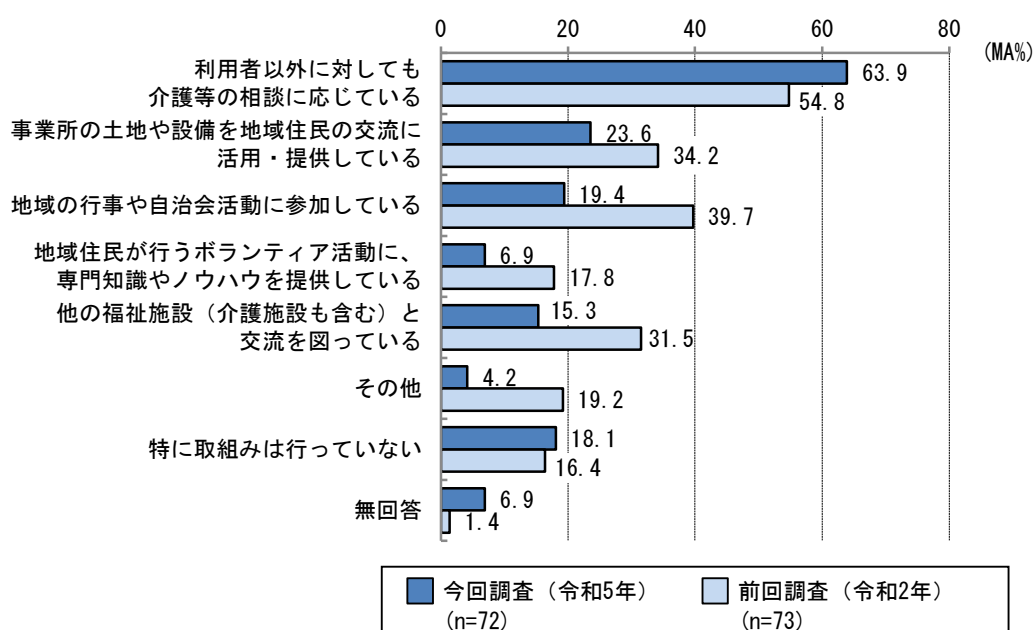
4 事業所等の運営に関することについて

〔1〕地域との交流・連携のための取組み

【①：問18、③：問19、⑤：問22】

■ 貴事業所では、地域との交流・連携のために行っている取組みはありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

地域との交流・連携のために行っている取組みは、「利用者以外に対しても介護等の相談に応じている」が 63.9%と最も多く、次いで、「事業所の土地や設備を地域住民の交流に活用・提供している」が 23.6%、「地域の行事や自治会活動に参加している」が 19.4%となっています。

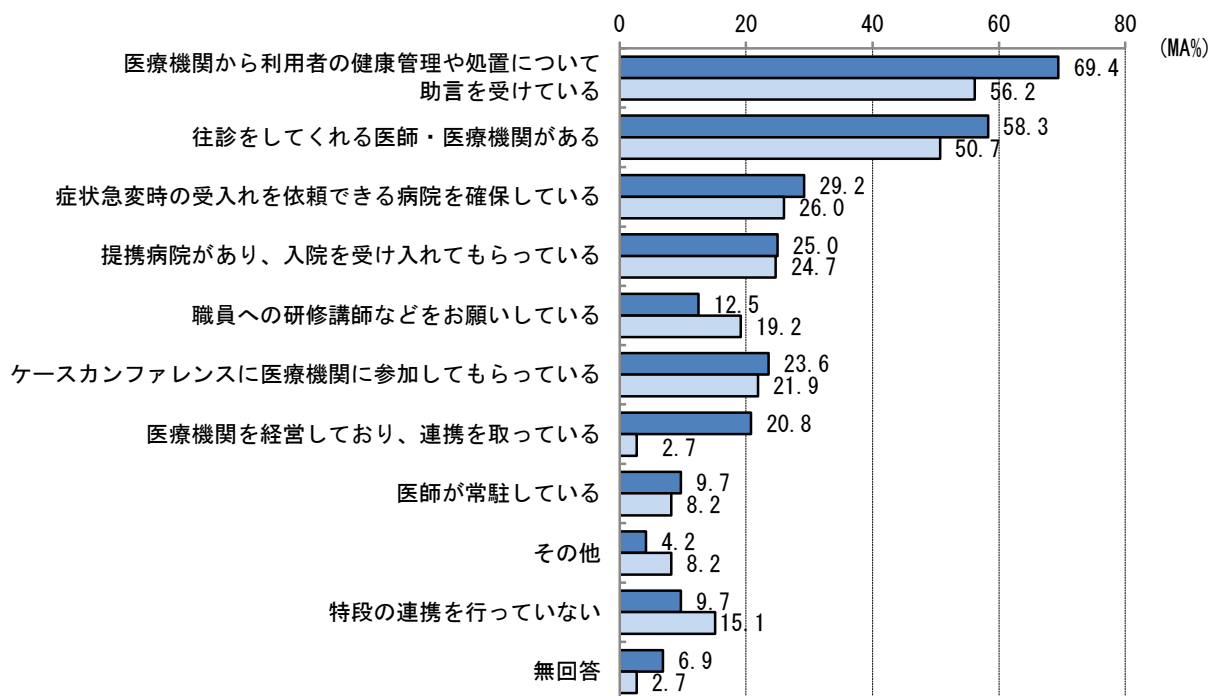


〔2〕医療機関との連携

【①：問19、③：問20、⑤：問23】

■ 貴事業所では、医療機関とはどのような連携をとっていますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。

医療機関との連携内容は、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」が 69.4%と最も多く、次いで、「往診をしてくれる医師・医療機関がある」が 58.3%、「症状急変時の受入れを依頼できる病院を確保している」が 29.2%となっています。



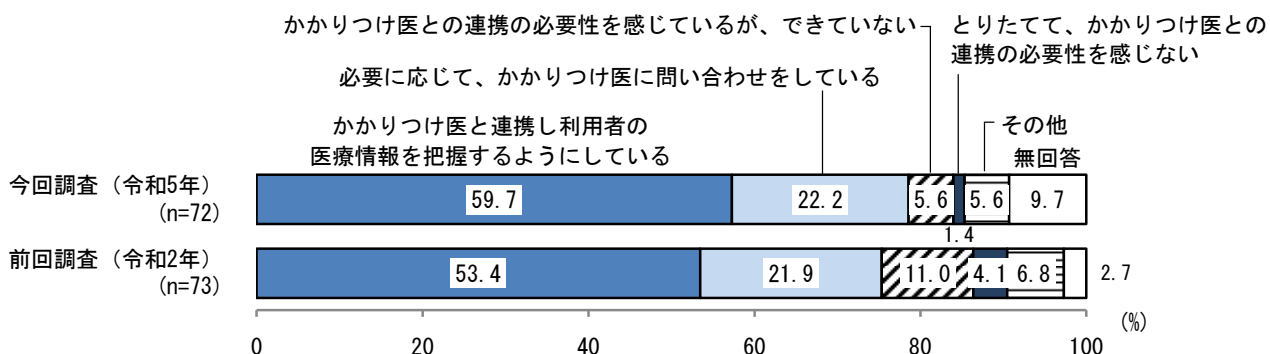
■ 今回調査 (令和5年) (n=72) □ 前回調査 (令和2年) (n=73)

〔3〕かかりつけ医との連携・情報交換

【①：問20、③：問21、⑤：問24】

■ 貴事業所では、利用者のかかりつけ医との連携や情報交換を行っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

かかりつけ医との連携・情報交換は、「かかりつけ医と連携し利用者の医療情報を把握するようにしている」が 59.7%と最も多く、次いで、「必要に応じて、かかりつけ医に問い合わせをしている」が 22.2%、「かかりつけ医との連携の必要性を感じているが、できていない」が 5.6%となっています。

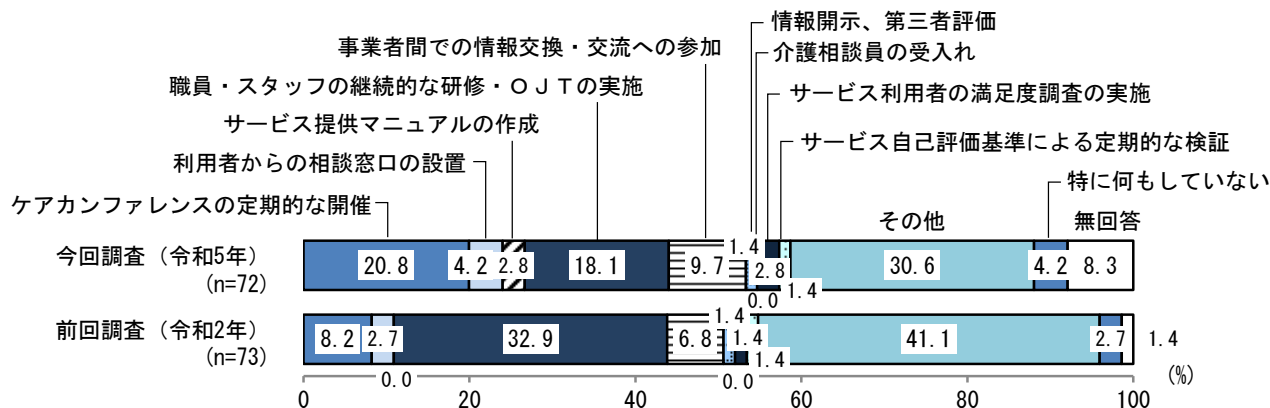


〔4〕サービスの質の向上のために取り組んでいること

【①：問21、③：問22、⑤：問25】

■ 貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取組みに最も力を入れていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

サービスの質の向上のために取り組んでいることは、「ケアカンファレンスの定期的な開催」が 20.8%と最も多く、次いで、「職員・スタッフの継続的な研修・OJTの実施」が 18.1%、「事業者間での情報交換・交流への参加」が 9.7%となっています。前回調査に比べて、「ケアカンファレンスの定期的な開催」が 12.6ポイント増加しています。

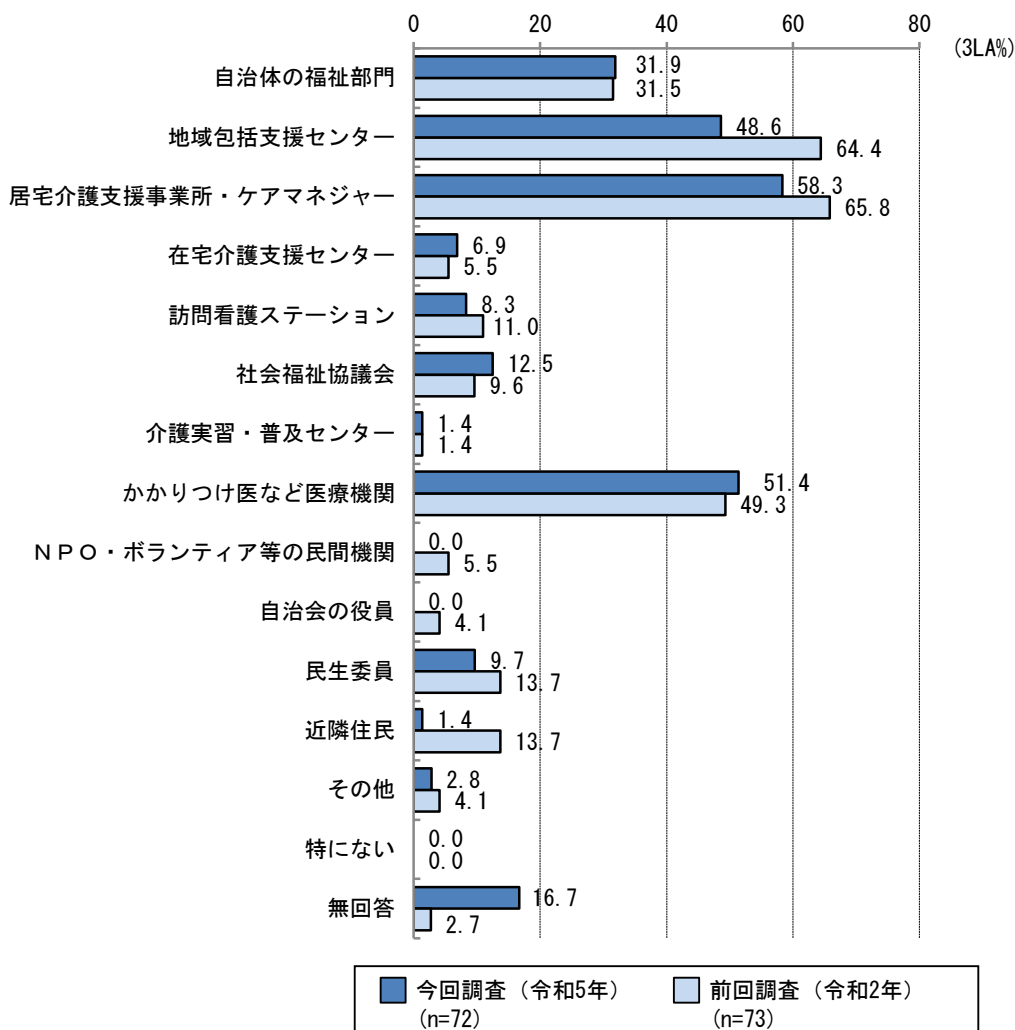


〔5〕連携を強めたい機関・窓口

【①：問22、③：問23、⑤：問26】

■ 貴事業所の運営をする上で、最も連携を強めたい機関・窓口はどこですか。
 主なものを3つまでに○をつけてください。

連携を強めたい機関・窓口は、「居宅介護支援事業所・ケアマネジャー」が 58.3%と最も多く、次いで、「かかりつけ医など医療機関」が 51.4%、「地域包括支援センター」が 48.6% となっています。

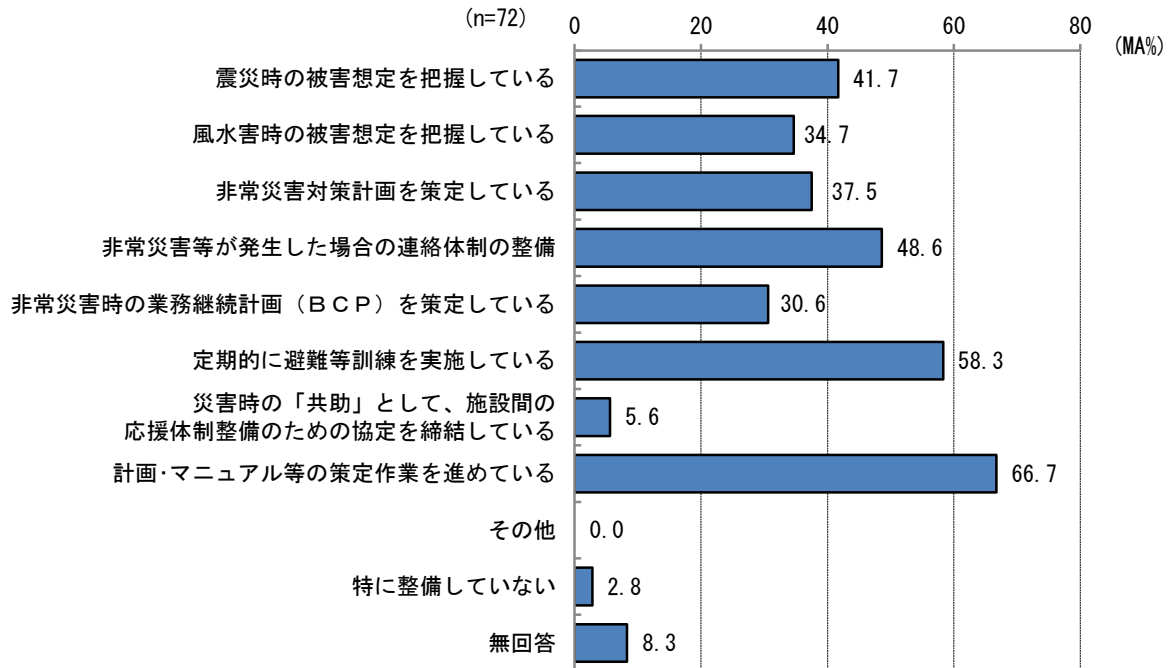


〔6〕災害時の対策について

【①：問23、③：問24、⑤：問27】

■ 貴事業所では、災害発生時から業務復旧までの計画等、災害時の対策をされていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

災害時の対策については、「計画・マニュアル等の策定作業を進めている」が66.7%と最も多く、次いで、「定期的に避難等訓練を実施している」が58.3%、「非常災害等が発生した場合の連絡体制の整備」が48.6%となっています。

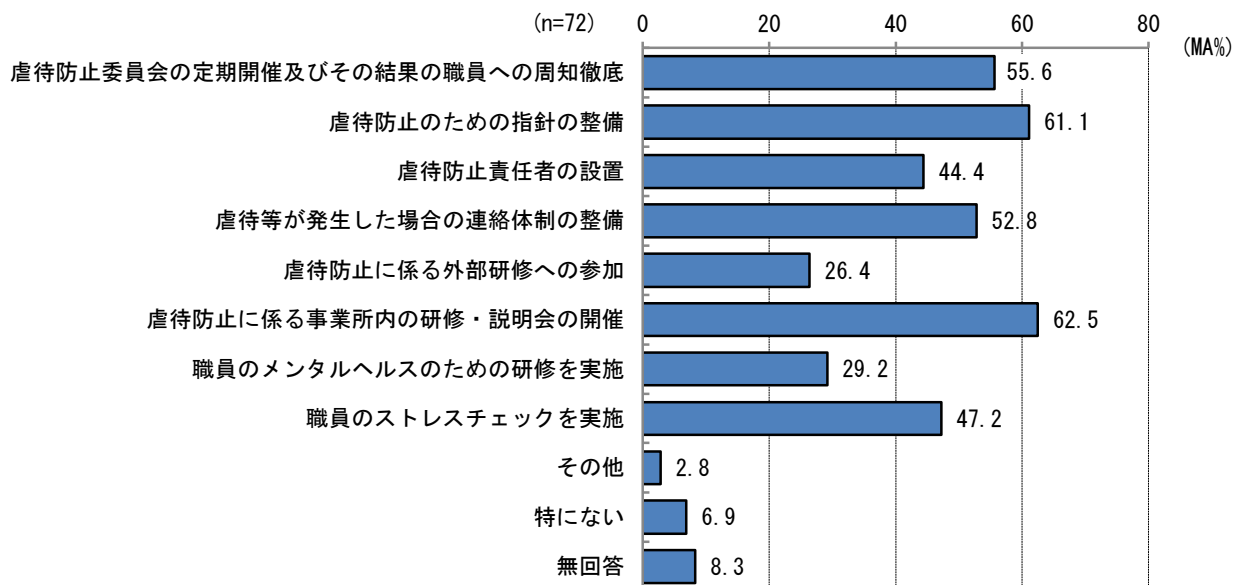


[7] 虐待防止対策について

【①:問24、③:問25、⑤:問28】

■ 貴事業所では、虐待防止対策についてどのような取組みをしていますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。

虐待防止対策については、「虐待防止に係る事業所内の研修・説明会の開催」が 62.5%と最も多く、次いで、「虐待防止のための指針の整備」が 61.1%、「虐待防止委員会の定期開催及びその結果の職員への周知徹底」が 55.6%となっています。

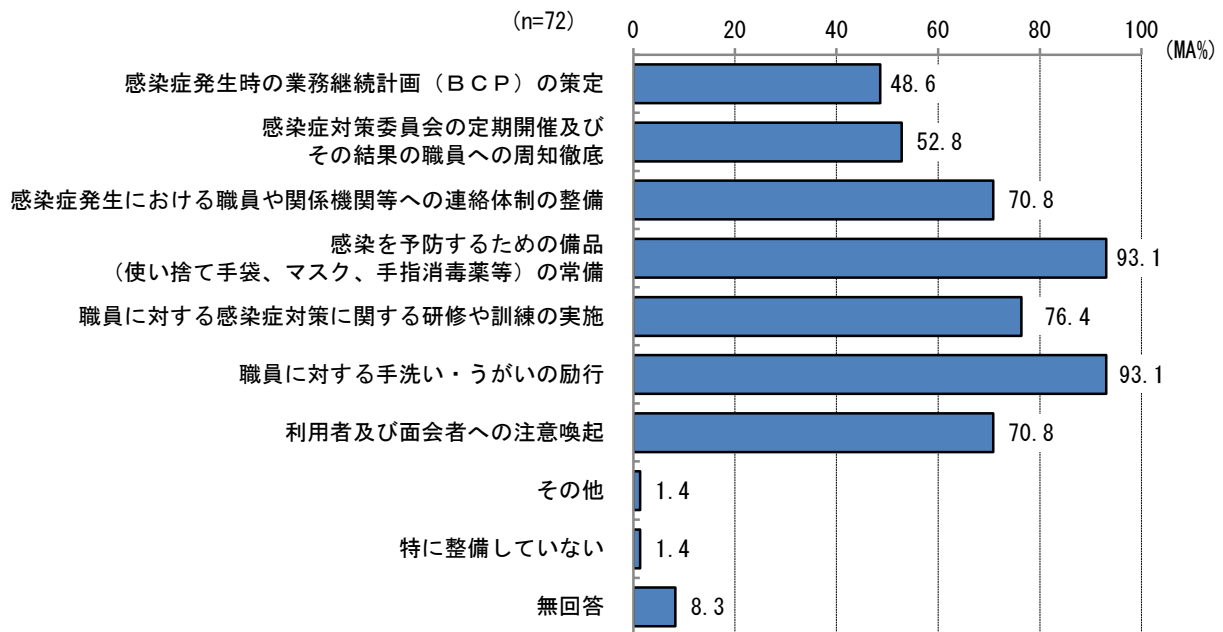


[8]感染症対策について

【①:問25、③:問26、⑤:問29】

■ 貴事業所では、感染症対策についてどのような取組みをしていますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。

感染症対策については、「感染を予防するための備品（使い捨て手袋、マスク、手指消毒薬等）の常備」、「職員に対する手洗い・うがいの励行」がそれぞれ 93.1%と最も多く、次いで、「職員に対する感染症対策に関する研修や訓練の実施」が 76.4%、「感染症発生における職員や関係機関等への連絡体制の整備」、「利用者及び面会者への注意喚起」がそれぞれ 70.8%となっています。



[9] コロナウイルス感染症の影響により変化したこと、対策、苦労したこと等

【①：問26、③：問27、⑤：問30】

■ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響についておうかがいします。コロナ禍において、事業所の運営やサービスの提供に何か変化したことや対策されたこと、ご苦労されたこと等、また、サービス利用者から聞いている困りごと等がありましたら、ご自由にお書きください。

計 52 件（のべ 76 件）のご意見をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

ご意見内容	件数
■ サービス提供の制限や減収による経営への圧迫、職員の確保や連携について	43 件
・送迎や外出、家族との面会の制限	(24 件)
・感染による人員不足	(14 件)
・利用者の減少、サービス提供中止による減収	(4 件)
・他事業所との連携	(1 件)
■ 精神的、身体的負担について	15 件
■ 備品購入による費用増加	7 件
■ 感染症対策について	5 件
・感染症対策の情報共有を徹底	(3 件)
・利用者のマスク拒否、着用困難	(2 件)
■ 助成金、休業補償について	4 件
・費やした費用に比べて、助成金が少なかった	(3 件)
・保健所の指示で休業したが休業補償がなかった	(1 件)
■ 外部（地域）との関わりがなくなった	1 件
■ コロナ感染はなかった	1 件

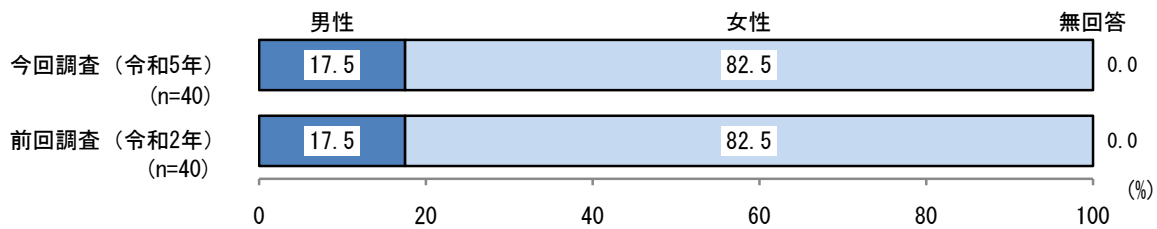
5. 介護支援専門員調査

1 回答者属性

〔1〕性別

問1 あなたの性別について、あてはまるものに○印をつけてください。

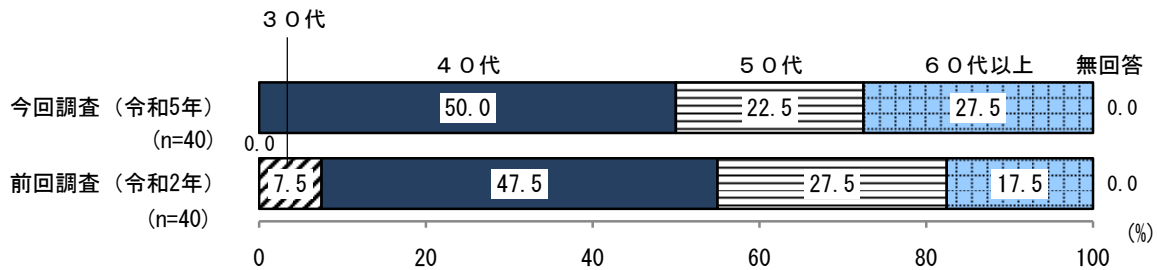
回答者の性別は、「男性」が 17.5%、「女性」が 82.5%で、前回調査と同じになっています。



〔2〕年齢

問2 あなたの年齢について、あてはまるものに○印をつけてください。

回答者の年齢は、「40代」が 50.0%と最も多く、次いで、「60代以上」が 27.5%、「50代」が 22.5%となっています。前回調査に比べて、「60代以上」が 10.0ポイント増加しています。

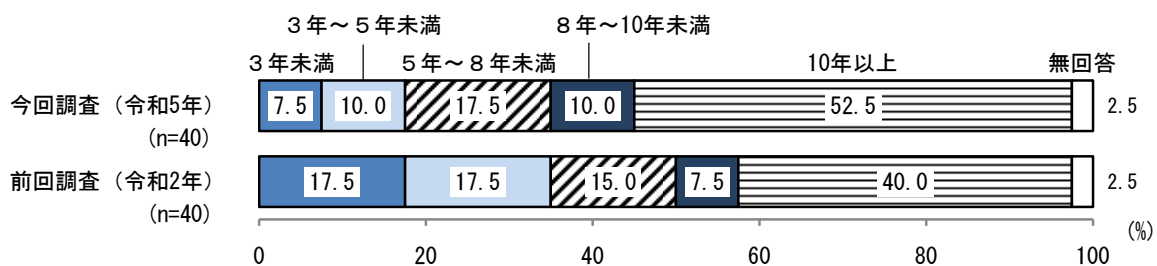


※「30歳未満」は回答0件のためグラフから割愛しています。

〔3〕実務経験年数

問3 あなたの介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

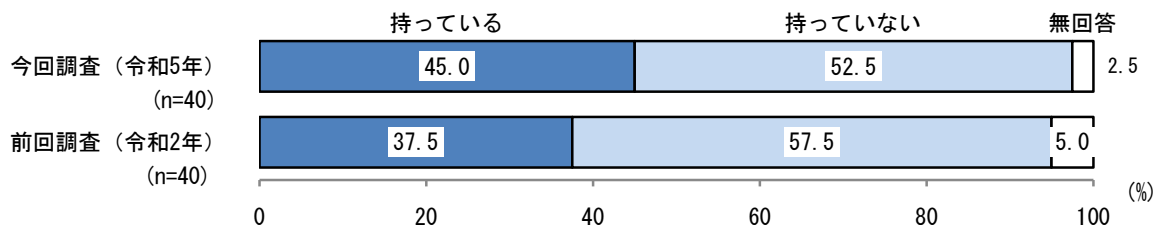
介護支援専門員としての実務経験年数は、「10年以上」が 52.5%と半数強を占めており、前回調査に比べて、12.5ポイント増加しています。



〔4〕主任介護支援専門員の資格、経験年数

問3-1 あなたは、主任介護支援専門員の資格を持っていますか。

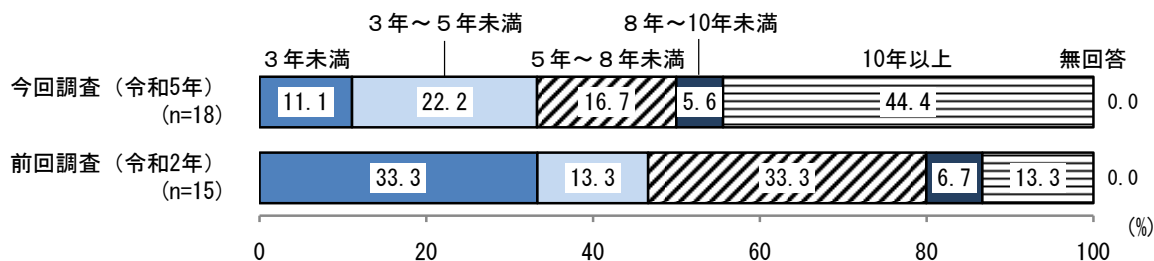
主任介護支援専門員の資格を「持っている」人は、45.0%と半数近くを占めており、前回調査に比べて、7.5ポイント増加しています。



【問3-1で「1 持っている」と回答した方】

問3-2 あなたの主任介護支援専門員としての実務経験年数を記入してください。

主任介護支援専門員としての実務経験年数は、「10年以上」が44.4%と最も多く、次いで、「3年～5年未満」が22.2%となっています。前回調査に比べて、「10年以上」は31.1ポイント増加しており、主任介護支援専門員としての実務経験が長い人が多くなっています。

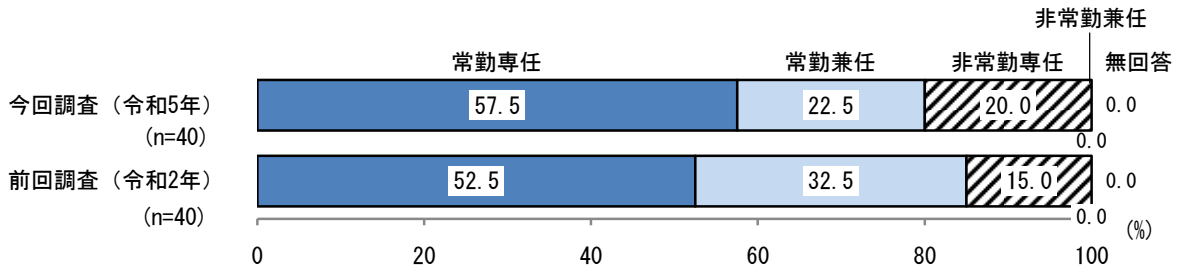


2 勤務状況について

〔1〕勤務形態

問4 あなたの勤務形態について、あてはまるものに○印をつけてください。

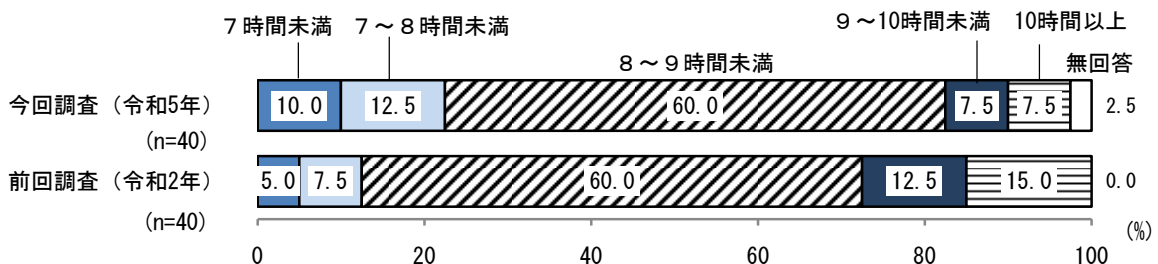
勤務形態については、「常勤専任」が 57.5%と最も多く、前回調査に比べて 5.0 ポイント増加しています。



〔2〕一日当たりの平均勤務時間数

問5 あなたの一日当たりの平均勤務時間数(介護支援専門員の業務を含めたすべての業務)を記入してください。

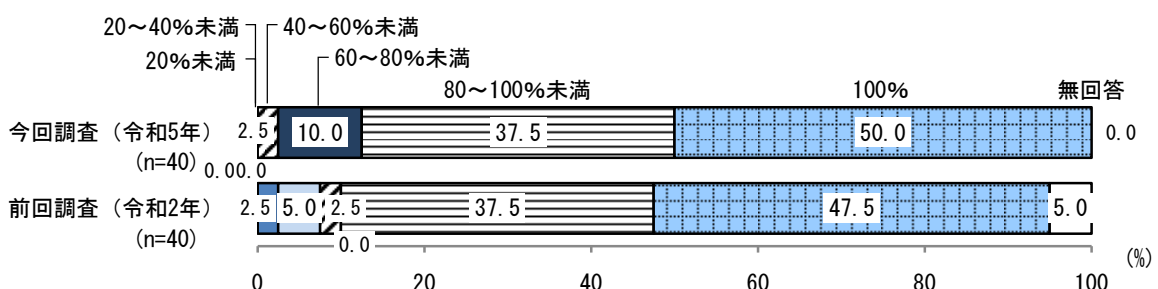
一日当たりの平均勤務時間数は、「8～9時間未満」が 60.0%と最も多く、平均 7.79 時間となっています。勤務時間が9時間以上の人の割合は合計 15.0%と、前回調査に比べて 12.5 ポイント減少しています。



〔3〕介護支援専門員としての業務の割合

問6 あなたの介護支援専門員としての業務の割合は全体のおよそ何%程度ですか。あてはまるものに○印をつけてください。

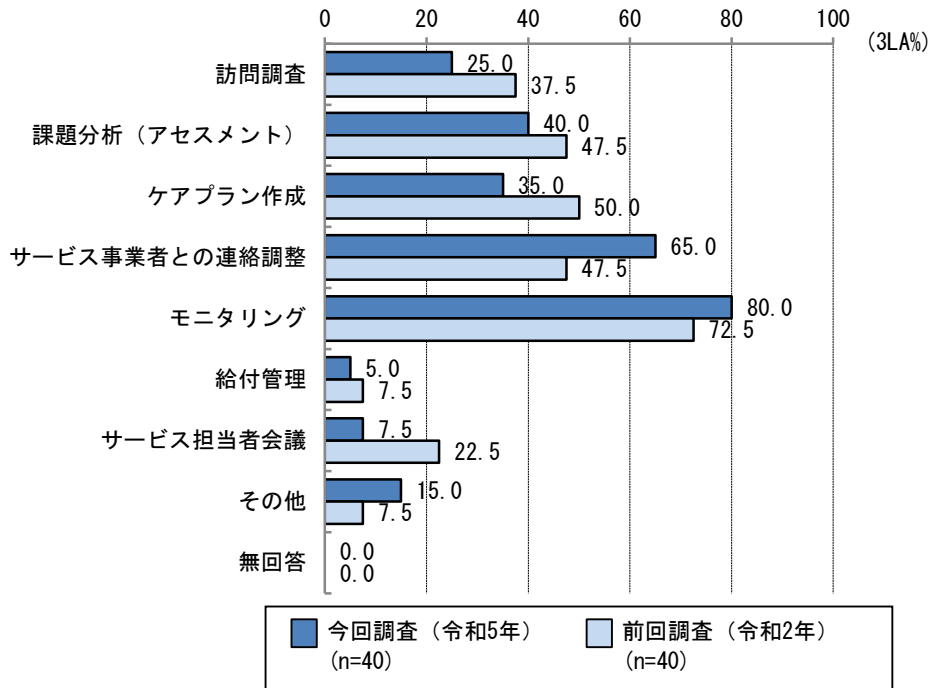
介護支援専門員としての業務の割合は、「100%」が 50.0%と最も多く、次いで、「80～100%未満」が 37.5%で、介護支援専門員としての業務が 80%以上と回答している人が 9 割近くとなっています。



〔4〕介護支援専門員としての業務の中で特に時間を費やす業務

問7 あなたは、介護支援専門員としての業務の中で特に時間を費やす業務はどれですか。あてはまるものを3つまで選び○印をつけてください。

介護支援専門員としての業務の中で特に時間を費やす業務は、「モニタリング」が 80.0%と最も多く、次いで、「サービス事業者との連絡調整」が 65.0%となっています。前回調査に比べて、「サービス事業者との連絡調整」が 17.5 ポイント増加し、「ケアプラン作成」と「サービス担当者会議」が 15.0 ポイント減少しています。



【「その他」の回答内容】

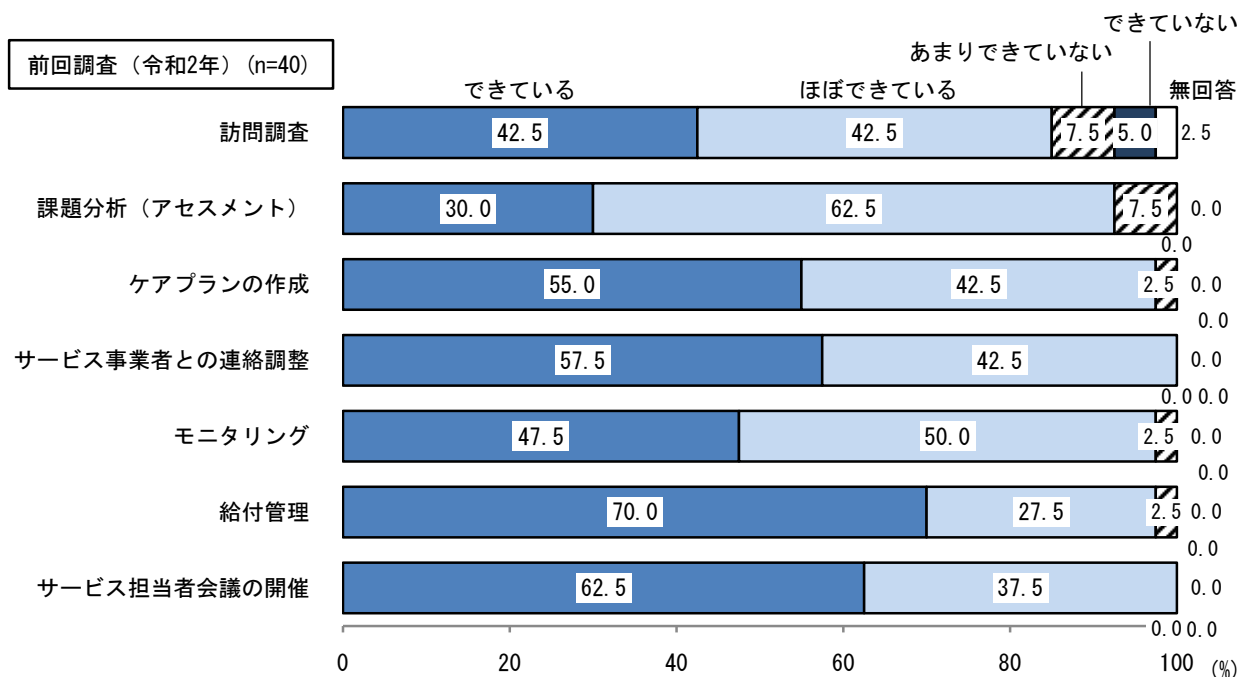
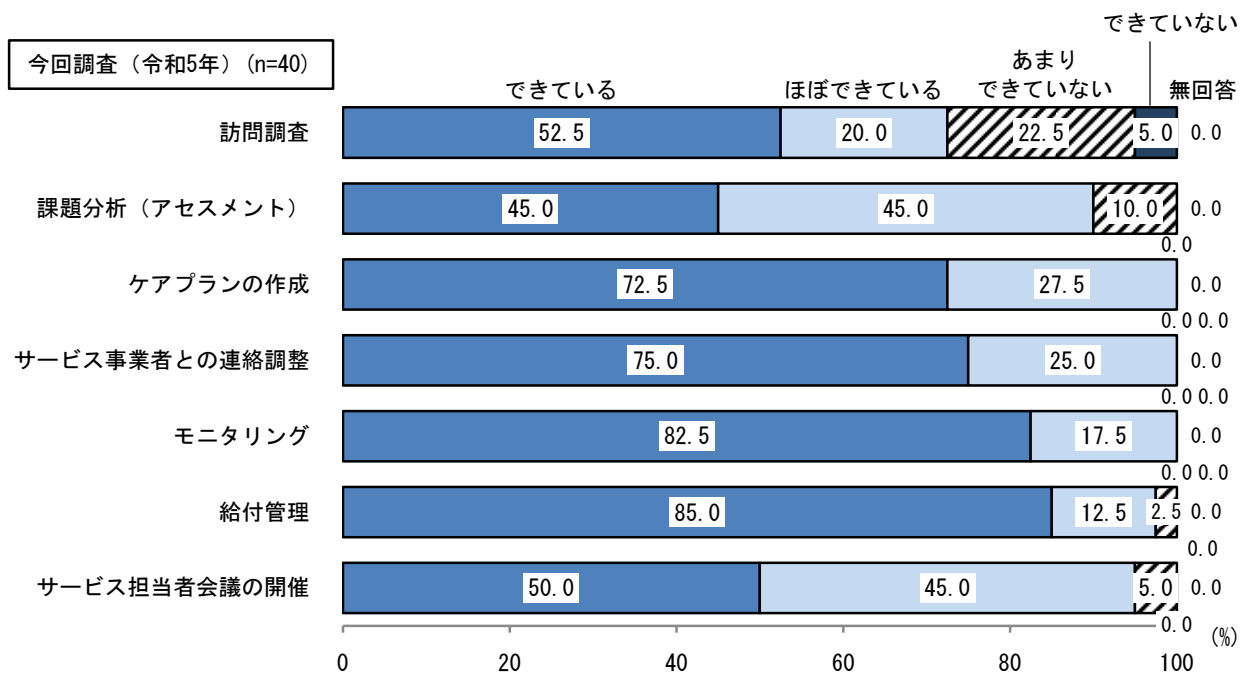
内 容	件数
記録業務	5件
業務に準じる事務	1件

3 介護支援専門員としての業務について

〔1〕介護支援専門員としての業務の実施状況

問8 介護支援専門員としての業務の実施状況についておたずねします。下記の各項目について4つの選択肢の中から該当する番号を選び、記入してください。

介護支援専門員としての業務の実施状況については、「できている」と「ほぼできている」を合わせた『できている』が、「ケアプランの作成」、「サービス事業者との連絡調整」、「モニタリング」でそれぞれ 100.0%となっています。一方、「訪問調査」では、「あまりできていない」と「できていない」を合わせた『できていない』が 27.5%みられます。前回調査に比べて、『できている』は「訪問調査」で 12.5 ポイント、「サービス担当者会議の開催」で 5.0 ポイント減少しています。

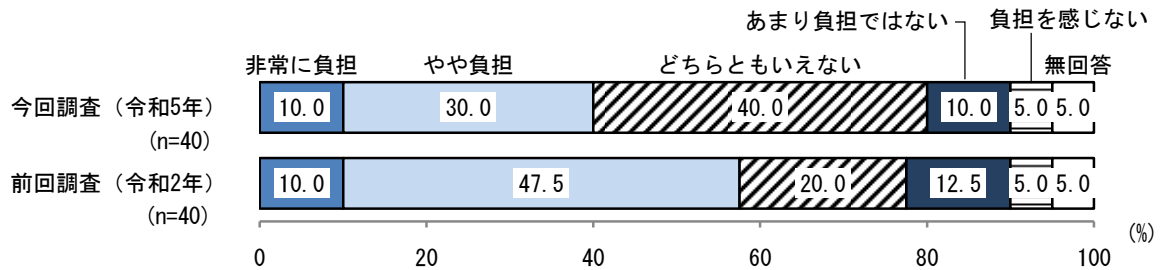


Ⅲ. 事業所向け調査結果 5. 介護支援専門員調査

〔2〕介護支援専門員としての業務の負担感

問9 現在担当している介護支援専門員としての業務の負担感はどの程度ですか。
あてはまるものに○印をつけてください。

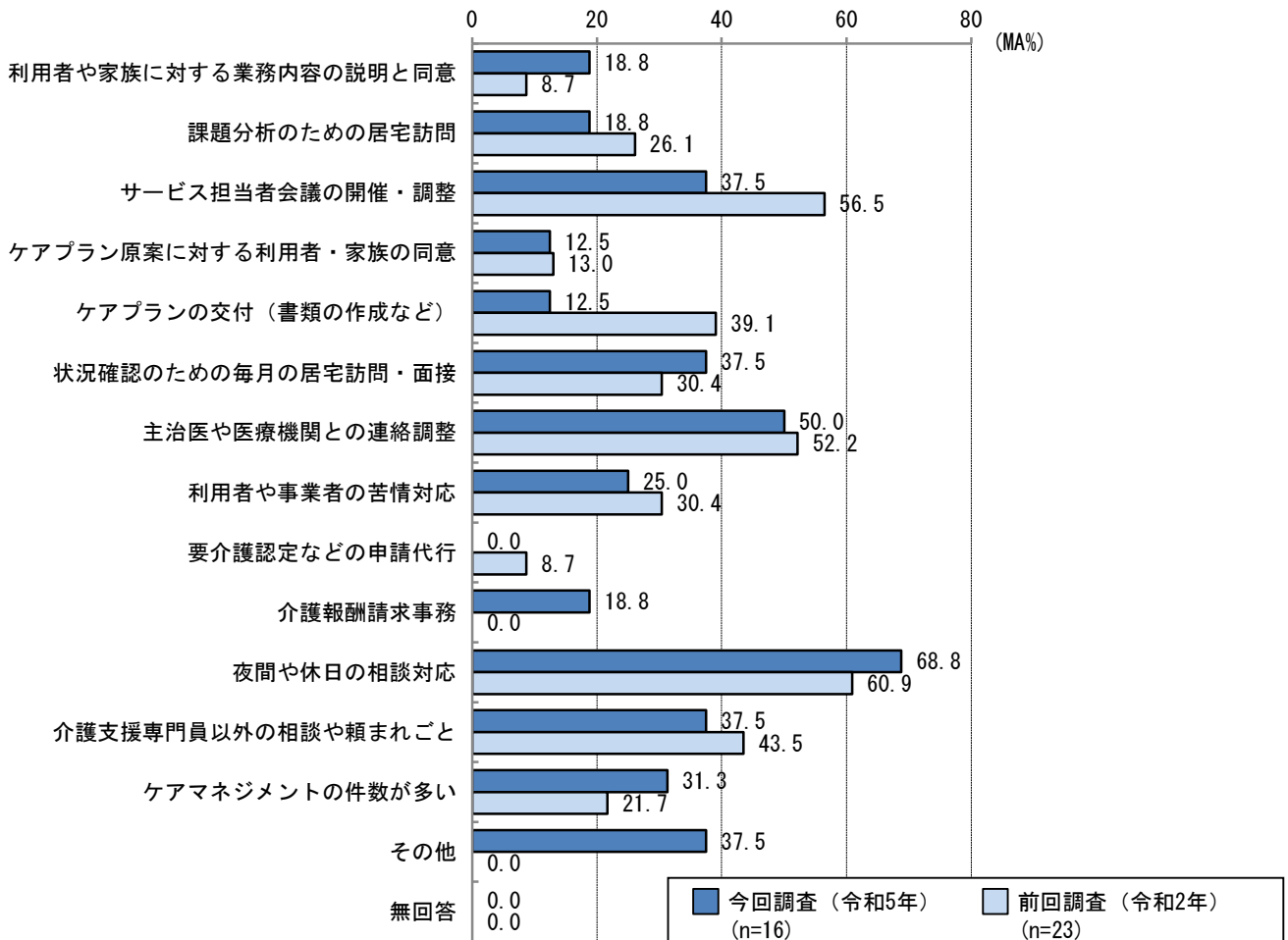
介護支援専門員としての業務の負担感については、「非常に負担」と「やや負担」を合わせた『負担』は合計 40.0%で、前回調査に比べて 17.5 ポイント減少しています。



【問9で「1 非常に負担」または「2 やや負担」と回答した方】

問9-1 介護支援専門員の業務の中で、どのようなことに負担を感じていますか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。

介護支援専門員の業務の中で負担を感じることは、「夜間や休日の相談対応」が68.8%と最も多く、次いで、「主治医や医療機関との連絡調整」が50.0%となっています。



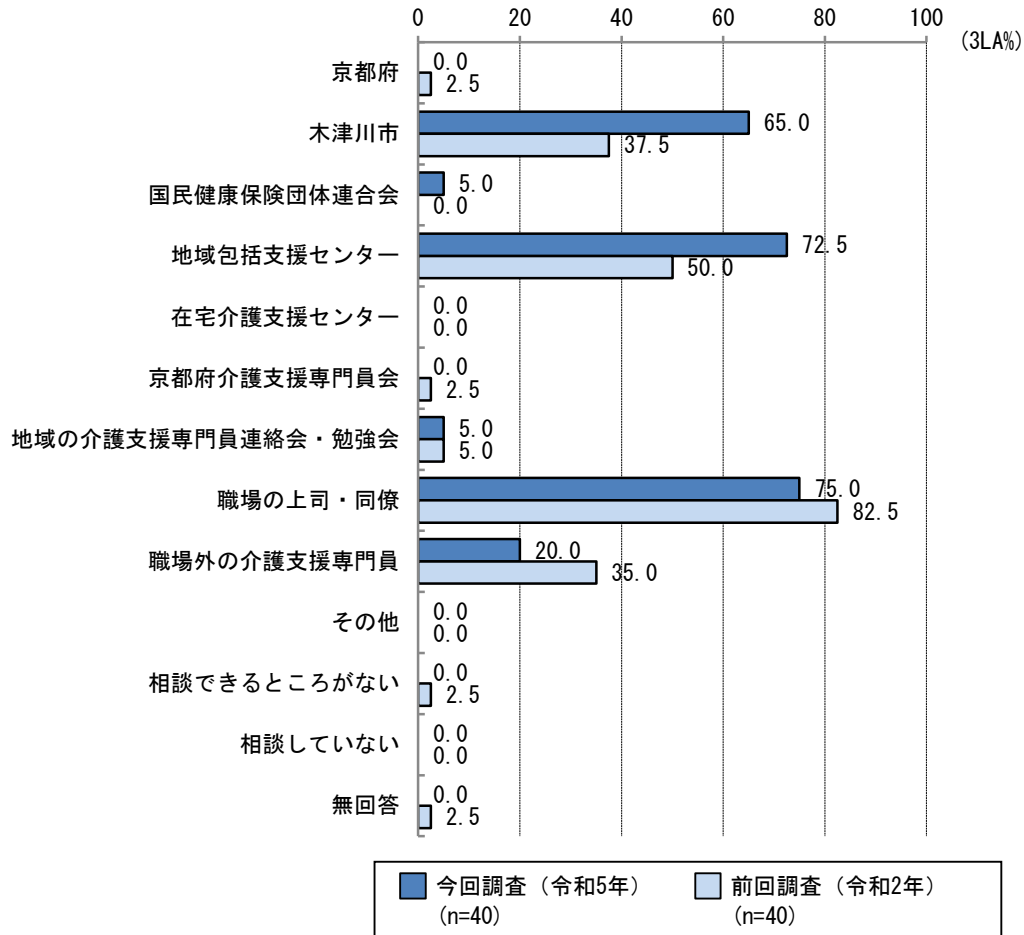
【「その他」の回答内容】

内 容	件数
記録、書類管理	3件
利用者や家族、事業者への対応	2件
プランの変更、重篤利用者への対応	1件

〔3〕困ったときの相談先

問10 現在、あなたが事務を進めるうえで困った時、主にどこに(だれに)相談していますか。該当するものを3つまで選び○印をつけてください。

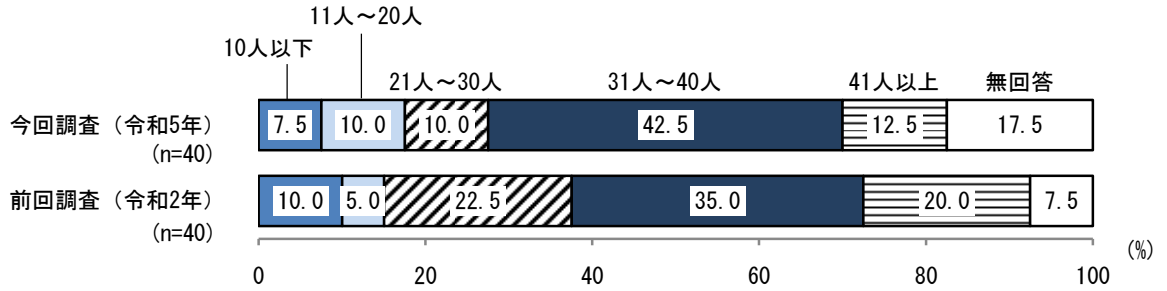
困ったときの相談先は、「職場の上司・同僚」が 75.0%と最も多く、次いで、「地域包括支援センター」が 72.5%、「木津川市」が 65.0%となっています。



〔4〕担当利用者数

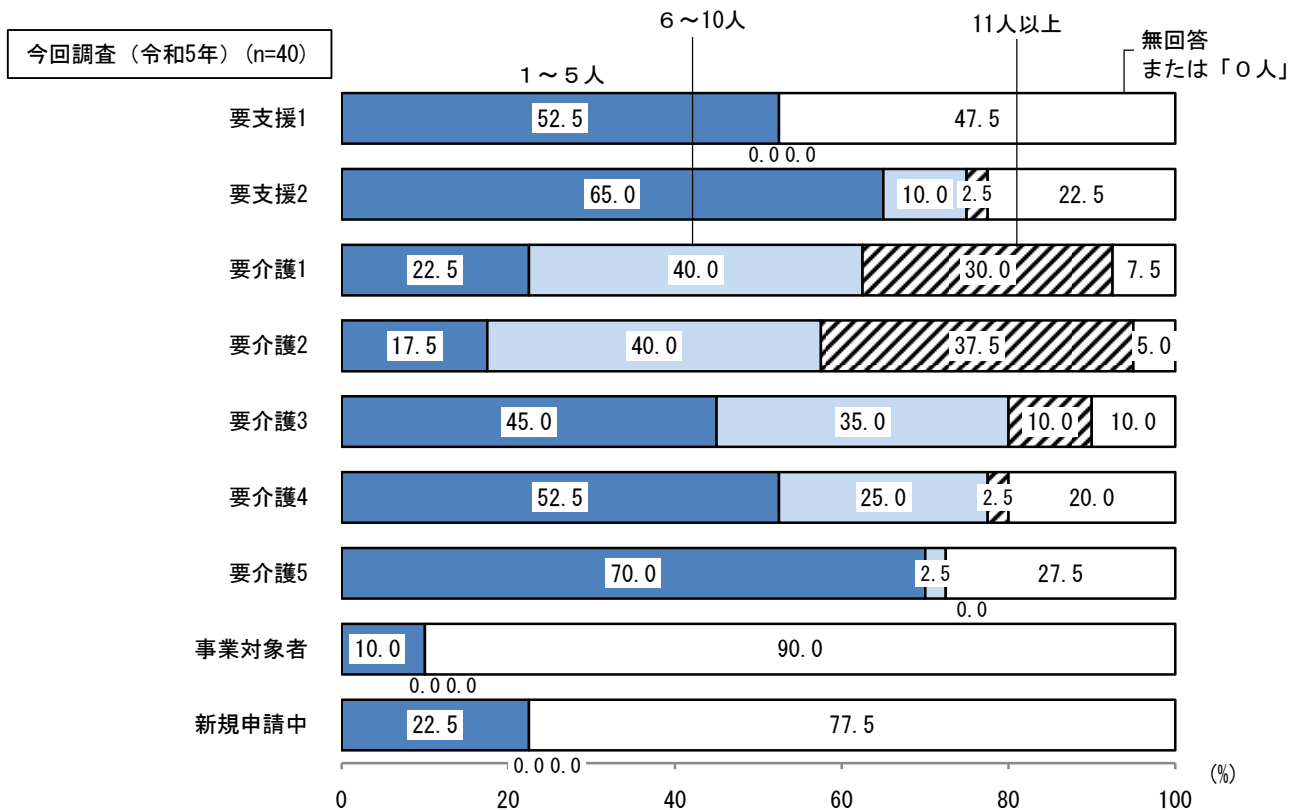
問11 あなたが現在(令和5年1月現在)担当している利用者数についておうかがいします。何人を担当されていますか。

令和5年1月現在の担当利用者数は、「31人～40人」が最も多くなっています。平均は32.0人で、前回調査と変わっていません。



※上記の「担当利用者数」について、要支援・要介護度別の内訳を記入してください。

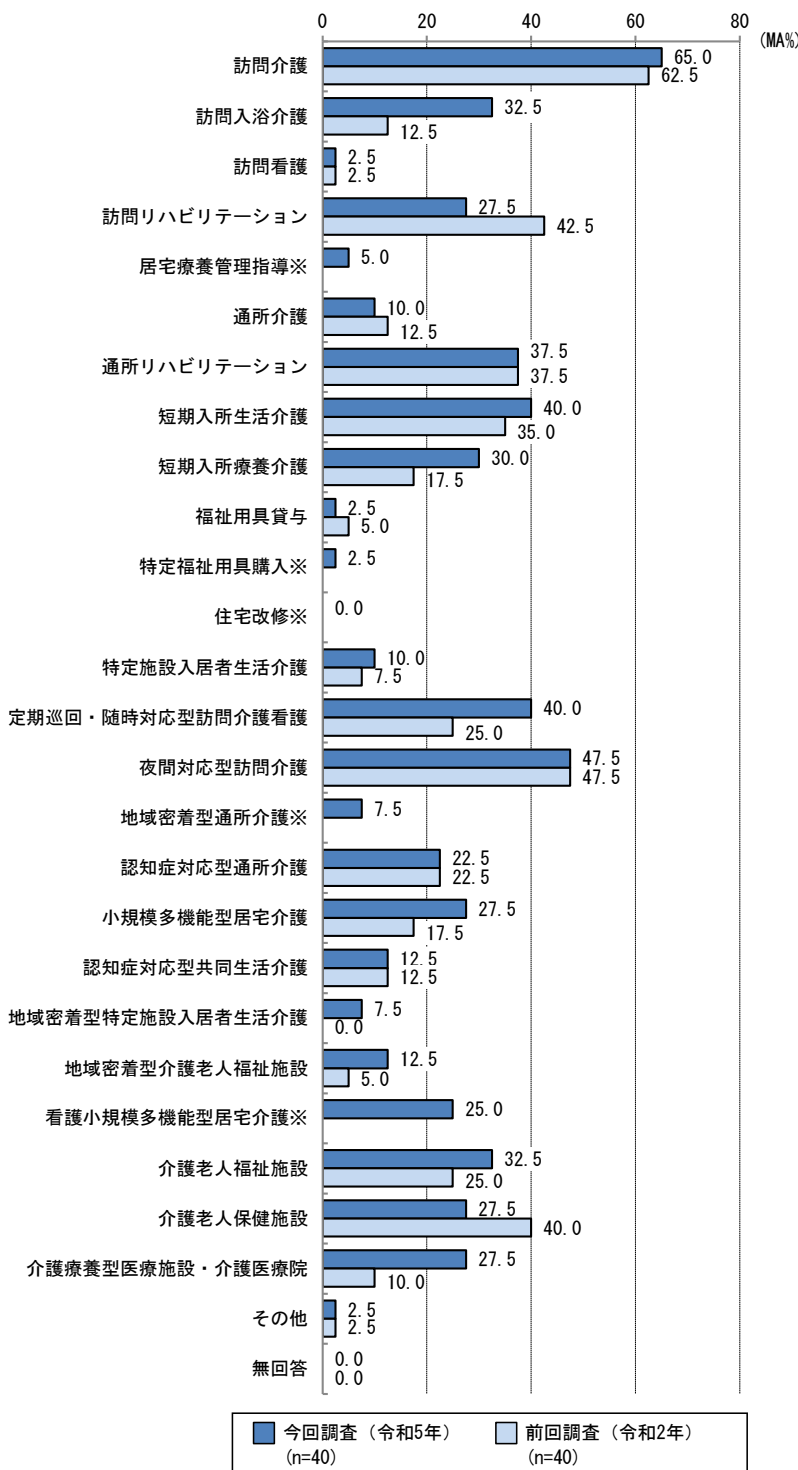
「担当利用者数」の要支援・要介護度別の内訳をみると、「要介護1」、「要介護2」の人数が多く、「6～10人」が4割、「11人以上」が3～4割となっています。



〔5〕不足していると思うサービスについて

問12 あなたは、介護サービス計画(ケアプラン)を作成するに当たり、市内の事業所数もしくは定員など、量的に不足していると思われるサービスはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

市内で不足していると思われるサービスは、「訪問介護」が65.0%と最も多く、次いで、「夜間対応型訪問介護」が47.5%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「短期入所生活介護」がそれぞれ40.0%となっています。前回調査に比べて、「訪問入浴介護」が20.0ポイント、「介護療養型医療施設・介護医療院」が17.5ポイント、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が15.0ポイント増加しています。



【「その他」の回答内容】

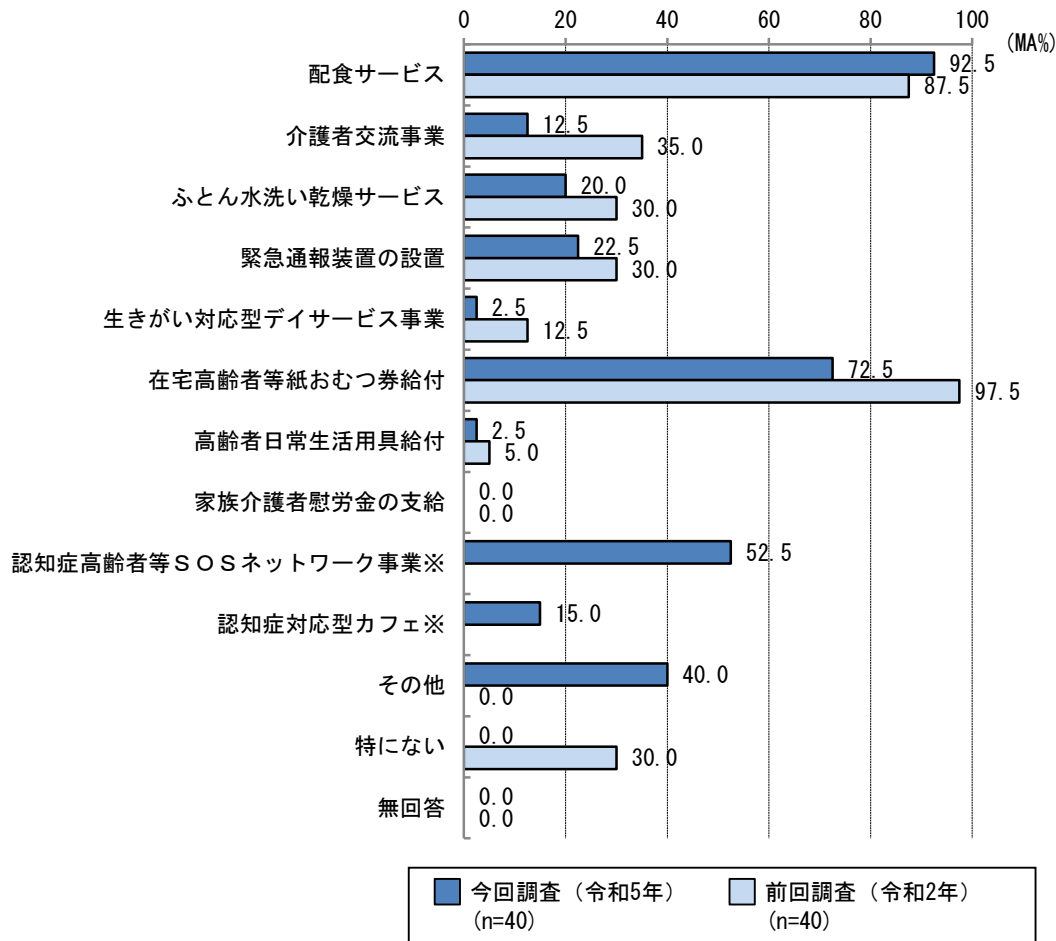
内 容	件数
短時間通所介護	1件

※前回調査では、選択肢なし

〔6〕介護保険以外で活用するサービス

問13 介護保険のサービス以外の主な高齢者福祉サービスでよく活用したり、利用者に紹介したりしているサービスはありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

介護保険以外で活用するサービスは、「配食サービス」が 92.5%と最も多く、次いで、「在宅高齢者等紙おむつ券給付」が 72.5%となっています。前回調査に比べて、「在宅高齢者等紙おむつ券給付」が 25.0 ポイント、「介護者交流事業」が 22.5 ポイント減少しています。



※前回調査では、選択肢なし

【「その他」の回答内容】

内 容	件数
介護タクシー、助け合いサービス、訪問介護自費サービス	5件
ふれあい収集、京都おもいやり駐車場利用証制度	2件

[7] 今後充実が必要だと思う介護保険外サービス

問14 今後充実が必要だと思う介護保険外サービスについて、ご自由にご記入ください。

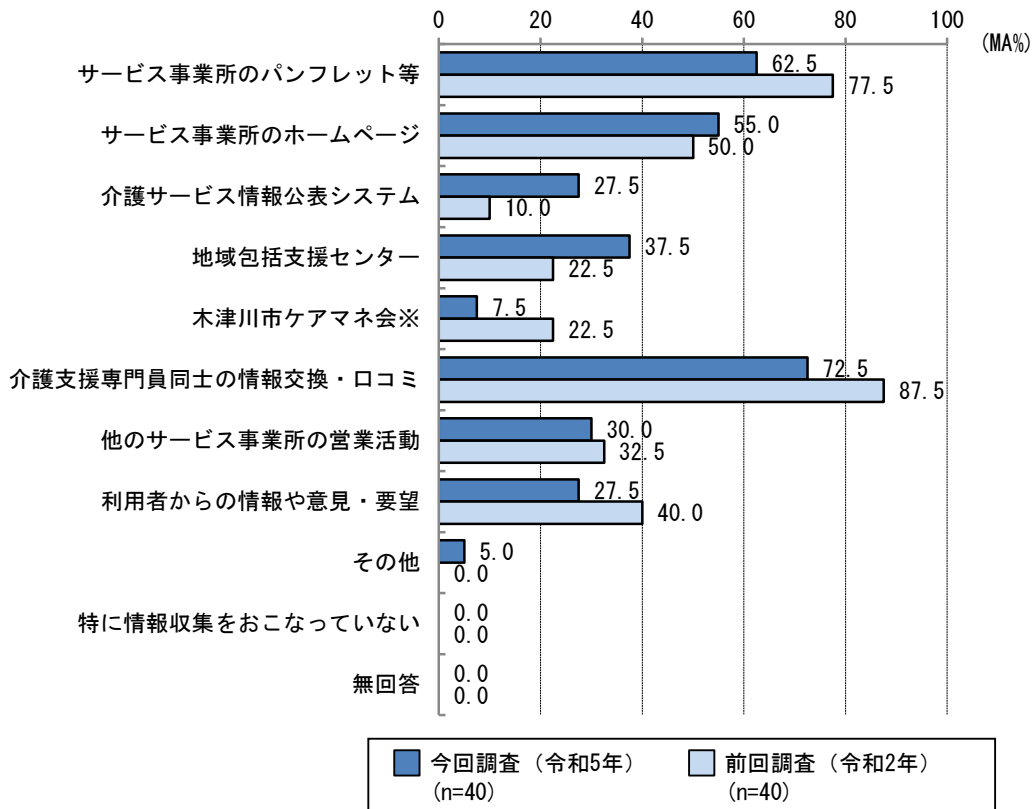
計 21 件（のべ 35 件）のご意見をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

ご意見内容	件数
■ 送迎サービス、外出支援、移動手段の充実	16 件
・通院やサロンなどに出かける為の送迎サービス、介護タクシー	(13 件)
・移送サービス。紹介を求められる事が多いので情報がほしい。	(1 件)
・歩道や横断歩道の整備（屋外押し車で歩道にあがるとき、前車輪が上がらず困る）	(1 件)
・循環バスが終日動いているとスーパー、銀行、役所、病院に行ける。	(1 件)
■ 訪問サービス	5 件
・夜間、早朝対応な訪問介護	(2 件)
・実費サービス（ヘルパー）、安価な自費の訪問介護	(2 件)
・軽度～中度認知症の方のかかわりの支援(介護保険サービスだけでは補えない)	(1 件)
■ 買い物	3 件
・買い物代行、出張販売	(2 件)
・ヘルパー対応のできない買物（食材、日用品以外）	(1 件)
■ 自宅での見守り、夜間の見守り、見守りシステムの貸出し、話し相手	3 件
■ 配食サービス	2 件
・週 1 回では利用者のニーズに応えられない。	(1 件)
・受けられる地域が限られるのもっと充実してほしい。	(1 件)
■ その他	6 件
・家族の家事支援、家政婦紹介	(2 件)
・入浴のみ出来る施設等	(1 件)
・入院中の買い物、金銭管理等	(1 件)
・若年認知症の方の居場所	(1 件)
・部屋に居ながら玄関の鍵の開閉が出来るシステム。玄関まで行けなくてもサービスが受けられる。	(1 件)

〔8〕サービス事業所に関する情報

問15 サービス事業所に関する情報はどこから得ていますか。
 あてはまるものすべてに○印をつけてください。

サービス事業所に関する情報源は、「介護支援専門員同士の情報交換・口コミ」が72.5%と最も多く、次いで、「サービス事業所のパンフレット等」が62.5%となっています。前回調査に比べて、「介護サービス情報公表システム」が17.5ポイント、「地域包括支援センター」が15.0ポイント増加しています。



※前回調査では、「居宅介護支援事業者連絡会」

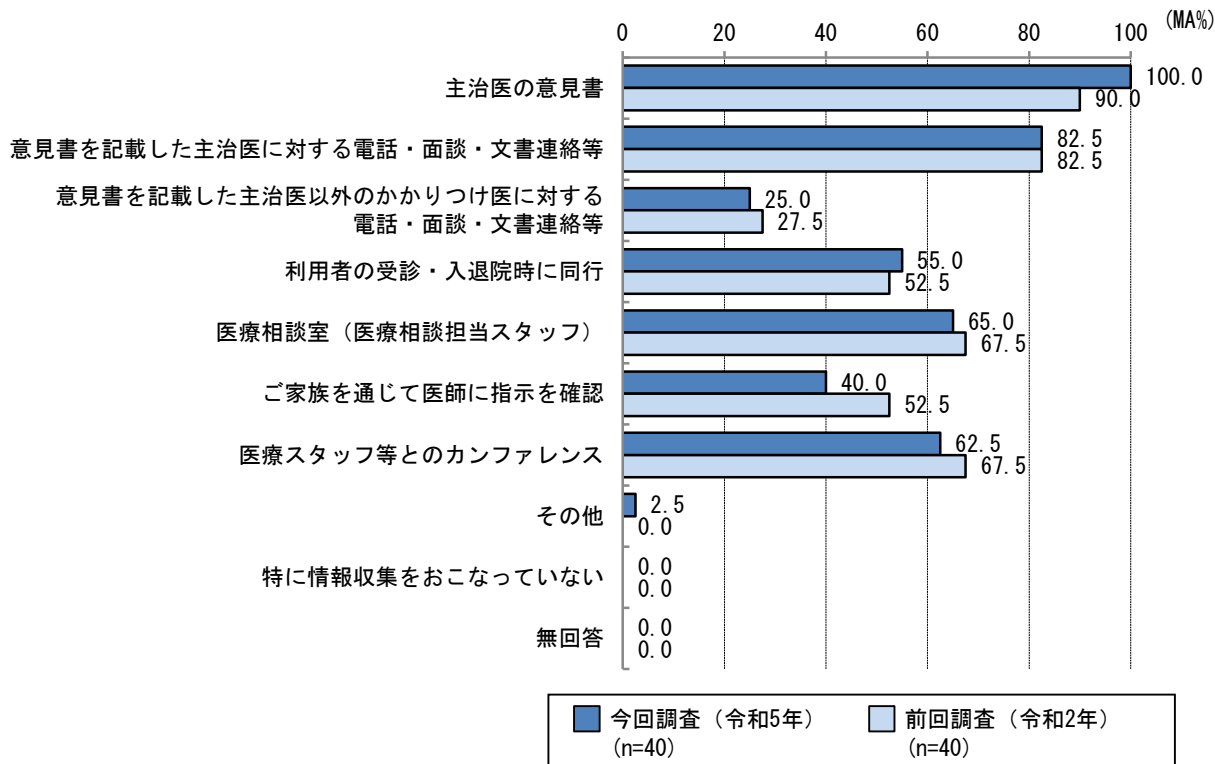
【「その他」の回答内容】

内 容	件数
直接、事業所に聞く（上司など）	2件

〔9〕医療に関する情報

問16 ケアプランの作成にあたって、医療に関する情報収集をどのようにおこなっていますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

医療に関する情報収集方法は、「主治医の意見書」が 100.0%と最も多く、次いで、「意見書を記載した主治医に対する電話・面談・文書連絡等」が 82.5%となっています。前回調査に比べて、「主治医の意見書」が 10.0 ポイント増加しています。



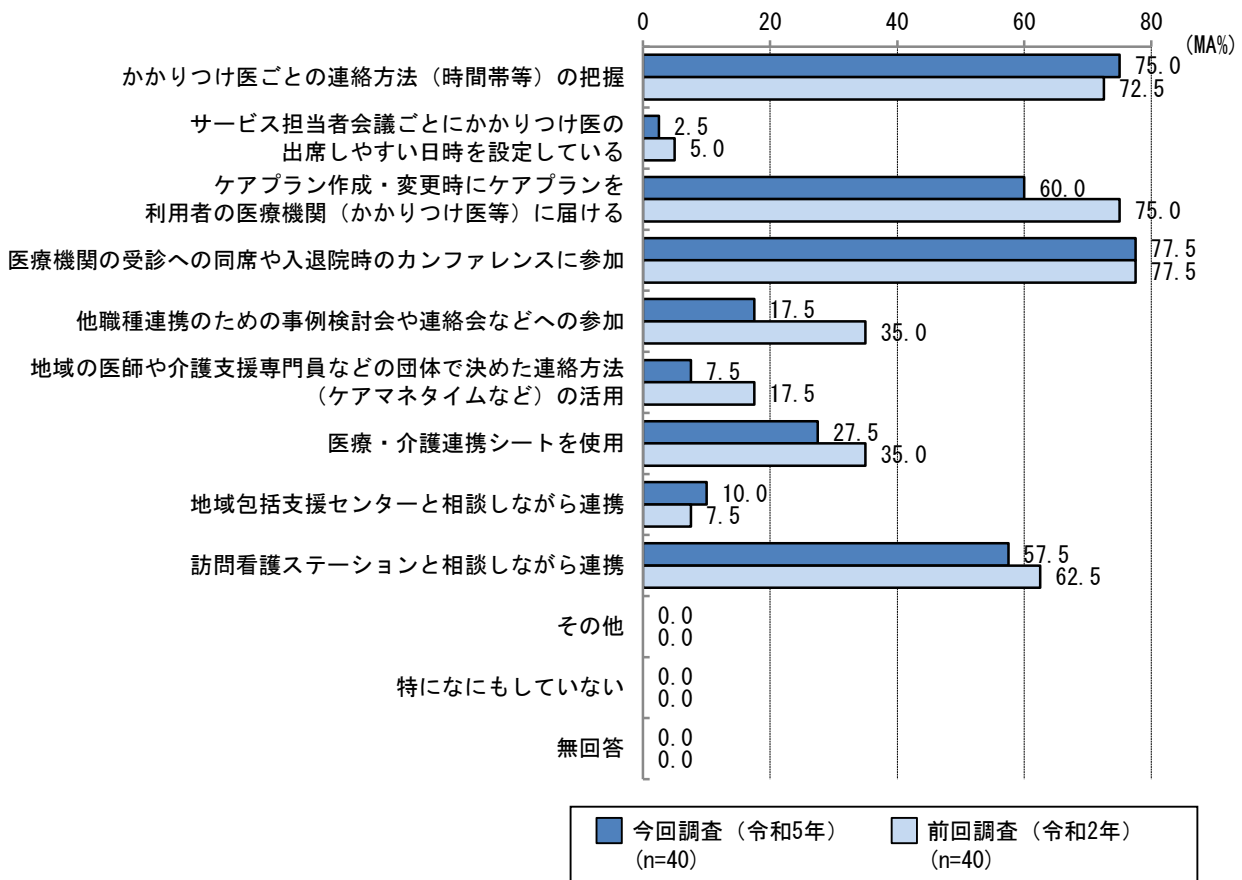
【「その他」の回答内容】

内 容	件数
訪問看護を通じて	1件

〔10〕医療機関と連携する工夫

問17 医療機関(かかりつけ医等)と連携するうえでどのような工夫をおこなっていますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

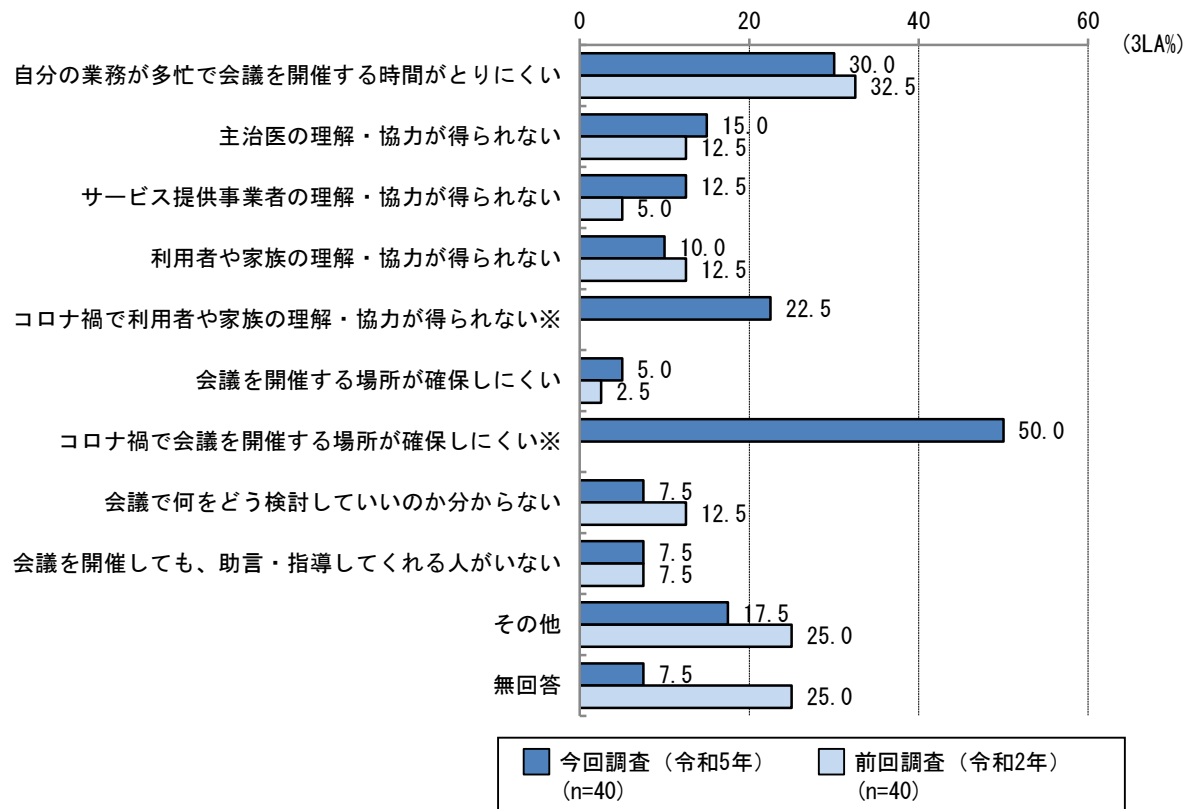
医療機関（かかりつけ医等）と連携するうえでおこなっている工夫は、「医療機関の受診への同席や入退院時のカンファレンスに参加」が 77.5%と最も多く、次いで、「かかりつけ医ごとの連絡方法（時間帯等）の把握」が 75.0%となっています。前回調査に比べて、「他職種連携のための事例検討会や連絡会などへの参加」が 17.5 ポイント、「ケアプラン作成・変更時にケアプランを利用者の医療機関（かかりつけ医等）に届ける」が 15.0 ポイント減少しています。



〔11〕サービス担当者会議開催にかかる困りごと

問18 サービス担当者会議を開催するにあたって困っていることは何ですか。
該当するものを3つまで選び○印をつけてください。

サービス担当者会議を開催するにあたって困っていることは、「コロナ禍で会議を開催する場所が確保しにくい」が 50.0%と最も多く、次いで、「自分の業務が多忙で会議を開催する時間がとりにくい」が 30.0%となっています。前回調査に比べて、コロナ禍の影響についての回答が多くなっていますが、そのほかでは、「サービス提供事業者の理解・協力が得られない」が 7.5ポイント増加しています。



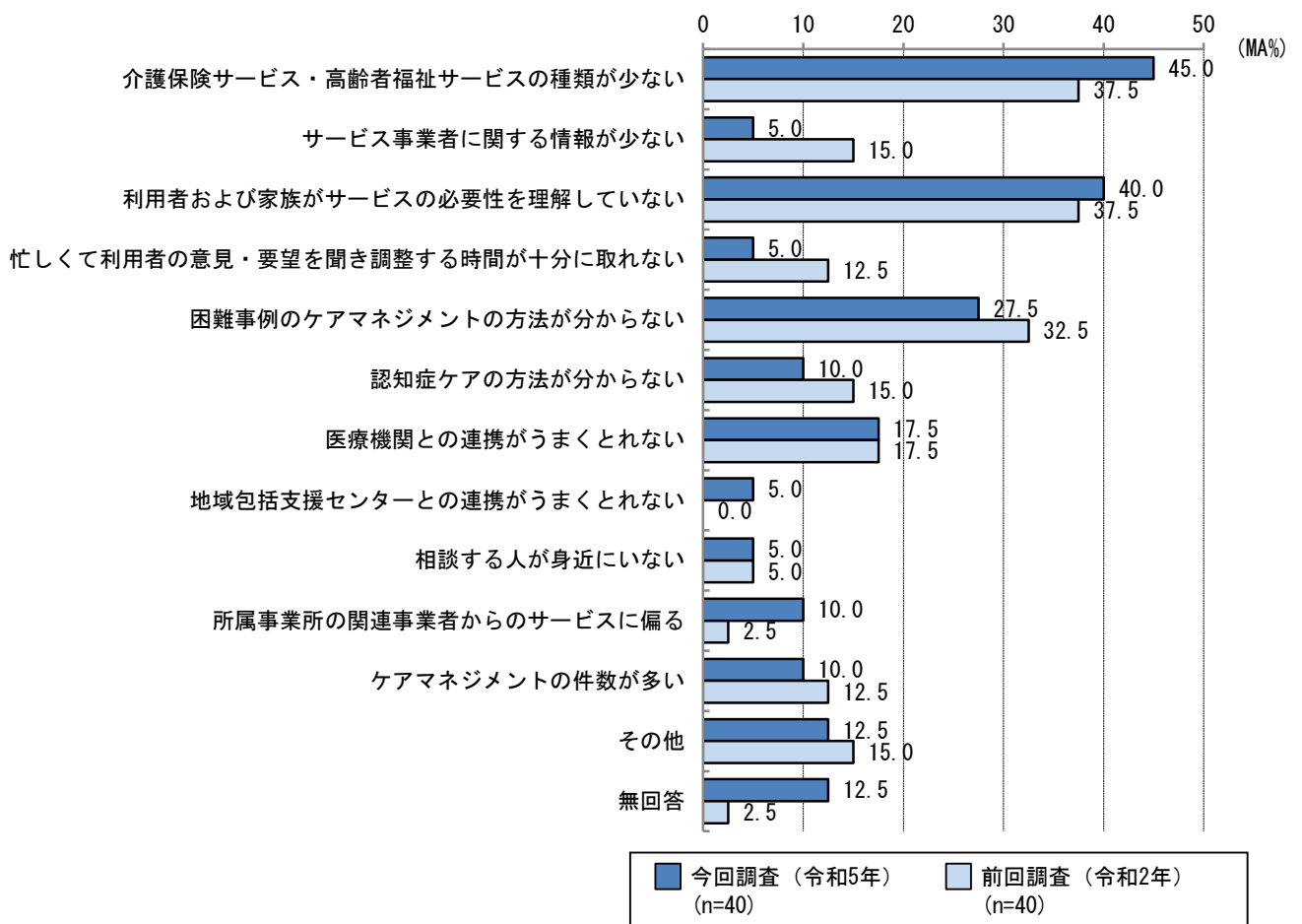
【「その他」の回答内容】

内 容	件数
日程調節が困難	2件
オンライン会議ができない (オンライン未対応など)	1件
出席の依頼ができない (多忙のため)	1件
特になし	3件

〔12〕介護支援専門員の業務の課題

問19 介護支援専門員の業務を行う上で課題として考えているのはどのようなことですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

介護支援専門員の業務の課題としては、「介護保険サービス・高齢者福祉サービスの種類が少ない」が45.0%と最も多く、次いで、「利用者および家族がサービスの必要性を理解していない」が40.0%となっています。前回調査に比べて、「介護保険サービス・高齢者福祉サービスの種類が少ない」と「所属事業所の関連事業者からのサービスに偏る」が7.5ポイント増加しています。



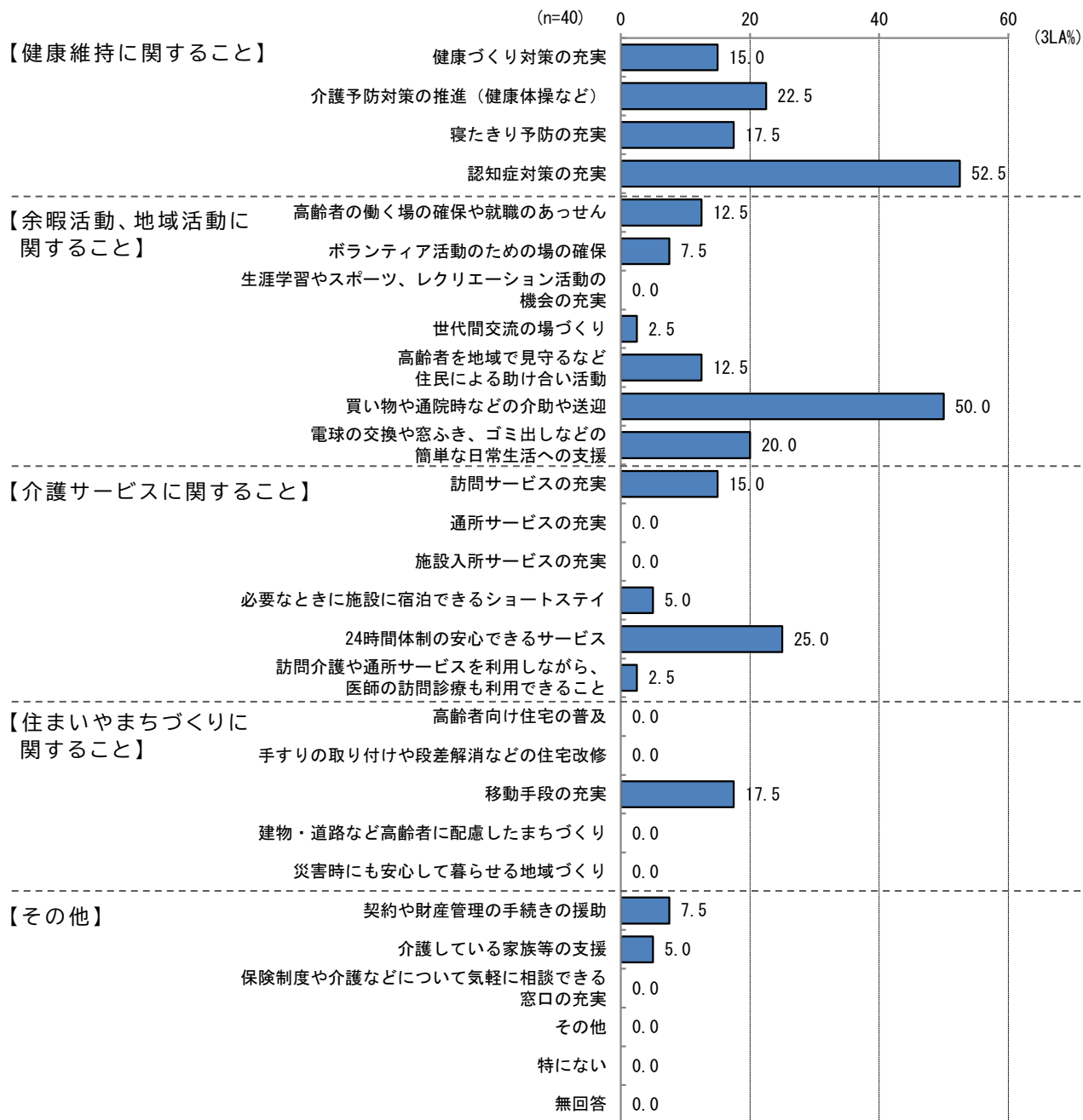
【「その他」の回答内容】

内 容	件数
業務量の見直し、事務処理の簡素化	3件
単体で事業運営できる報酬体系ではなく、相談援助技術の質の確保が難しい	1件

〔13〕高齢者福祉について、今後拡充すべき施策

問20 高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか。
重要と思われるものを3つまで選び○印をつけてください。

今後拡充すべき施策としては、「認知症対策の充実」が 52.5%と最も多く、次いで、「買い物や通院時などの介助や送迎」が 50.0%となっています。



【「その他」の回答内容】

内 容	件数
事務処理の簡素化	1件

4 意見・要望

〔1〕介護保険制度についてのご意見・ご要望

介護保険制度について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

計 16 件（のべ 24 件）のご意見をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

ご意見内容	件数
■ ケアマネジャーの業務や待遇について	9 件
・報酬の見直し、ケアマネジャーにも処遇改善加算を	(3 件)
・雑務、事務作業が多すぎる	(2 件)
・その他（ケアマネジャーに裁量権を、実態に合わせた運営基準の見直し など）	(4 件)
■ 施設やサービス、利用者負担について	8 件
・施設の選択肢が少ない、お泊まり施設の必要性、希望するサービスが偏り対応できない など	(6 件)
・負担割合 2 割、3 割の方が増え続けることにならないか心配 など	(2 件)
■ 独居、日中独居、低所得者等の支援の拡充	3 件
■ 医療と介護について（医療処置も含めた多様なサービスの必要 など）	2 件
■ 特になし	2 件

〔2〕コロナ禍による変化とその対策、利用者の困りごと

コロナ禍において何か変化したことや対策されたこと、ご苦労されたこと等、また、利用者から聞いている困りごと等がありましたら、ご自由にお書きください。

計 23 件（のべ 40 件）のご意見をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

ご意見内容	件数
■ サービス停止や隔離生活の影響	23 件
・訪問やサービス提供ができなかった、またそれにより家族の負担が増大した	(8 件)
・利用者に ADL の低下、認知機能の低下、気分の落ち込みなどがみられた	(6 件)
・入所や入退院時の面会ができない、事業所の休業によるサービス調整が大変だった	(4 件)
・その他（対応してくれた訪看や訪問サービスに感謝、サービスの質が落ちた など）	(5 件)
■ 関係機関との連携（担当者会議の開催方法、保健所と保険者の情報共有等）	7 件
■ 健康管理やサービス調整などにかかる時間や労力、精神的負担	2 件
■ その他（BCP など日頃からの準備が大切、サービス停止は初めてのことで戸惑った等）	7 件
■ 特になし	1 件

**木津川市
高齢者実態調査等
結果報告書**

令和5年3月

発行 木津川市 健康福祉部 高齢介護課

〒619-0286 京都府木津川市木津南垣外110番地9

TEL 0774-75-1213

FAX 0774-72-0553